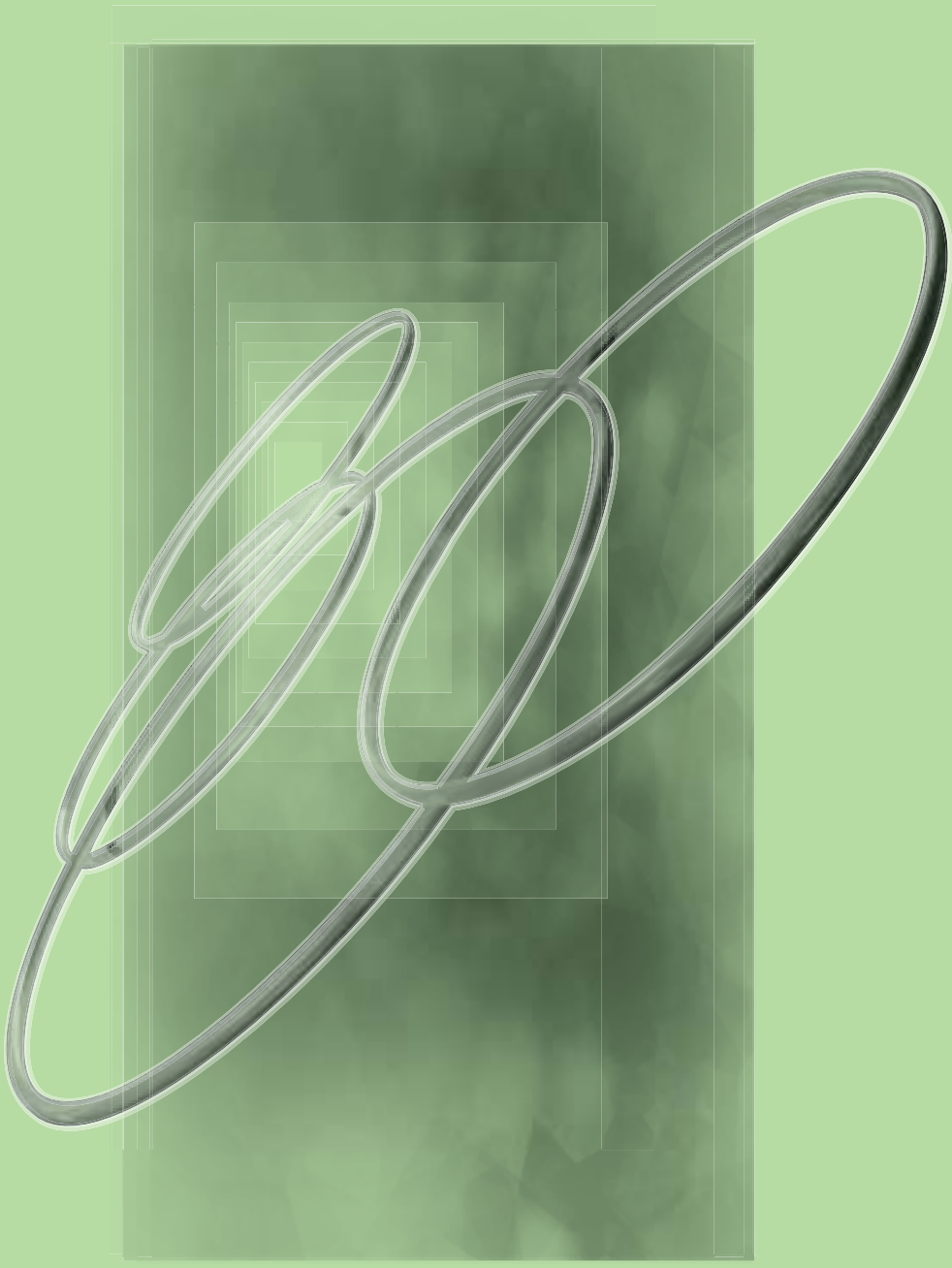
2007年度

シラバス
経済学部



獨協大学

経　済　学　部
シ　ラ　バ　ス
【　総　合　目　次　一　覧　】

◇【2003～2007 年度入学者】

経済学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・ P.　2
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・ P.　3
経営学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・ P. 12
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・ P. 13

◇【2001～2002 年度入学者】

経済学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・ P. 22
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・ P. 24
経営学科　学則別表・・・・・・・・・・・・・・・ P. 32
　　開設科目・・・・・・・・・・・・・・・ P. 34

◇【2000 年度以前入学者】

◎開設科目とシラバスの対照表を配付します。
　教務課経済学部担当係に受け取りに来てください。

※体育について

2002 年度以前に入学した学生対象の「体育」は、2003 年度以降入学者対象の全学共通授業科目カテゴリーⅤ「スポーツ・レクリエーション」と合併授業です。
シラバスは「全学共通授業科目」のカテゴリーⅤを参照してください。

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

学生諸君は、シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

Ⅰ　目次について

1　検索方法

①　【総合目次一覧】で各自の入学年度・学科に該当する目次ページを確認してください。

②　目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。

2　「履修不可」について

①　目次には「履修不可」学科が記載されています。他学部・他学科の履修をする際に参照してください。
「履修不可」欄に自身の所属学部･学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

②　表記方法

外：	外国語学部	養：	国際教養学部言語文化学科	経：	経済学部
独：	ドイツ語学科			済：	経済学科
英：	英語学科			営：	経営学科
仏：	フランス語学科				
言：	言語文化学科				

法：	法学部		
律：	法律学科		
国：	国際関係法学科		

Ⅱ　シラバスについて

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要		**授業計画**	
④		⑤ 第１週 第２週 第３週 第４週 第５週 第６週 第７週 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週	
テキスト、参考文献		**評価方法**	
⑥		⑦	

春学期

①	②	担当者	③
講義目的、講義概要		**授業計画**	
④		⑤ 第１週 第２週 第３週 第４週 第５週 第６週 第７週 第８週 第９週 第１０週 第１１週 第１２週	
テキスト、参考文献		**評価方法**	
⑥		⑦	

秋学期

★　上段＝春学期科目
★　下段＝秋学期科目

①②　入学年度により科目名が異なります。
07年度　　・・・2007年度入学
03年度以降・・・2003年度～2007年度入学
01年度以降・・・2001年度～2007年度入学
02年度以前・・・1999年度～2002年度入学
00年度以前・・・1999年度～2000年度入学

③　担当教員氏名

④　授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載されています。

⑤　学期の授業計画についての欄です。
各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑥　授業で使用するテキストや参考となる文献が記載されています。

⑦　評価方法について記載されています。
成績の通知・・・成績通知表を郵送しま
春学期科目：　9月中旬
秋学期科目：　3月末
通年科目：　3月末

【注意】

1．　履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ずシラバス本文で確認してから登録してください。

2．　定員

経済学部の科目は、すべて定員が設けられています。
詳細は「授業時間割表」を参照してください。

学則別表

【2003～2007年度入学生用】

別表Ⅱ－１　経済学科

群	部門	授業科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	インターナショナルコミュニケーションⅠa	1	4		12
		インターナショナルコミュニケーションⅠb	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡa	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡb	1			
	経済・経営入門	基礎演習	2			
		経済学a	2	4		
		経済学b	2			
		統計学a	2	4		
		統計学b	2			
		コンピュータ入門a	2			
		コンピュータ入門b	2			
		プレゼンテーション技法	2			
		経営学a	2			
		経営学b	2			
		簿記原理a	2			
		簿記原理b	2			
	関連科目	数学a	2			
		数学b	2			
		高齢化社会論a	2			
		高齢化社会論b	2			
		精神衛生論a	2			
		精神衛生論b	2			
		医療・福祉概論a	2			
		医療・福祉概論b	2			
		現代文化論a	2			
		現代文化論b	2			
学科専門科目	演習・経済外国語	演習Ⅰa	2	4		
		演習Ⅰb	2			
		演習Ⅱa	2			
		演習Ⅱb	2			
		経済外国語Ⅰa	2	4		
		経済外国語Ⅰb	2			
		経済外国語Ⅱa	2			
		経済外国語Ⅱb	2			
		卒業研究	4			
	経済理論・経済学史	マクロ経済学a	2	4		
		マクロ経済学b	2			
		ミクロ経済学a	2	4		
		ミクロ経済学b	2			
		経済学史a	2			
		経済学史b	2			
		経済変動論a	2			
		経済変動論b	2			
		経済社会学a	2			
		経済社会学b	2			
		経済哲学a	2			
		経済哲学b	2			
	経済統計・計量経済	経済統計論a	2			
		経済統計論b	2			
		計量経済学a	2			
		計量経済学b	2			
	経済政策	経済政策論a	2			
		経済政策論b	2			
		経済開発論a	2			
		経済開発論b	2			
		環境政策論a	2			
		環境政策論b	2			
	経済史	日本経済史a	2			
		日本経済史b	2			
		日本社会史a	2			
		日本社会史b	2			
		東洋経済史a	2			
		東洋経済史b	2			
		西洋経済史a	2			
		西洋経済史b	2			
	国際経済	国際経済論a	2			
		国際経済論b	2			
		国際金融論a	2			
		国際金融論b	2			
	地域経済	日本経済論a	2			
		日本経済論b	2			
		アメリカ経済論a	2			
		アメリカ経済論b	2			
		ラテンアメリカ経済論a	2			
		ラテンアメリカ経済論b	2			
		西ヨーロッパ経済論a	2			
		西ヨーロッパ経済論b	2			
		東ヨーロッパ経済論a	2			
		東ヨーロッパ経済論b	2			
		東アジア・中国経済論a	2			
		東アジア・中国経済論b	2			
		オセアニア経済論a	2			
		オセアニア経済論b	2			
		アフリカ経済論a	2			
		アフリカ経済論b	2			
		東南アジア経済論a	2			
		東南アジア経済論b	2			
		中東経済論a	2			
		中東経済論b	2			
	金融経済	金融経済論a	2			
		金融経済論b	2			
		金融システム論a	2			
		金融システム論b	2			
	財政	財政学a	2			
		財政学b	2			
		公共経済学a	2			
		公共経済学b	2			
		日本財政論a	2			
		日本財政論b	2			
		地方財政論a	2			
		地方財政論b	2			
	環境・都市・経済地理	環境経済学a	2			
		環境経済学b	2			
		都市経済学a	2			
		都市経済学b	2			
		経済地理学a	2			
		経済地理学b	2			
		交通経済論a	2			
		交通経済論b	2			
	産業経済	産業政策論a	2			
		産業政策論b	2			
		産業組織論a	2			
		産業組織論b	2			
		産業構造論a	2			
		産業構造論b	2			
	労働・社会政策	社会政策a	2			
		社会政策b	2			
		労働経済学a	2			
		労働経済学b	2			
関連専門科目	経営・会計	経営学原理a	2			60
		経営学原理b	2			
		企業論a	2			
		企業論b	2			
		会計学a	2			
		会計学b	2			
	統計・情報科学	応用統計学a	2			
		応用統計学b	2			
		標本調査論a	2			
		標本調査論b	2			
		データベース論a	2			
		データベース論b	2			
		コンピュータシミュレーション論a	2			
		コンピュータシミュレーション論b	2			
		マルチメディア論a	2			
		マルチメディア論b	2			
		プログラミング論a	2			
		プログラミング論b	2			
	政治・法律	法学a	2			
		法学b	2			
		政治学総論a	2			
		政治学総論b	2			
		民法a	2			
		民法b	2			
		商法a	2			
		商法b	2			
	総合講座・特殊講義	*総合講座a	2			
		*総合講座b	2			
		*特殊講義a	2			
		*特殊講義b	2			

経済学科カリキュラム合計	28	0	72
全学共通授業科目（別表Ⅳ）	8	6	14
卒業に必要な単位数合計	36	6	86
	128		

備考（1）　卒業単位数は必修３６単位、選択必修６単位、選択８６単位で合計して最低１２８単位以上修得するものとする。１２８単位の内訳は、学科基礎科目２４単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから７６単位以上、全学共通授業科目28単位以上である。

（2）　学科専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、２８単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
他学部ならびに教職課程授業科目は１２単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（3）　*の講義科目は年度ごとに定める。　　（4）省略

（5）　2004年度まで　　2005年度以降
部門名　労働・社会政策　⇒　労働・社会保障
科目名　社会政策a　⇒　社会保障論a
社会政策b　⇒　社会保障論b

○本表は、２００３年度入学者から適用する。

2003～2007年度入学生用

経　済　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　外国語　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
	インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	各担当教員		外　養　法	1
	インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	各担当教員		外　養　法	1
	インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外　養　法	2
	インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外　養　法	2

◇　経済・経営入門　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
11933	基礎演習（春）	春	有吉　秀樹	水2	外　養　法	3
02724	基礎演習（春）	春	岡部　康弘	木3	外　養　法	4
02606	基礎演習（春）	春	岡村　国和	木2	外　養　法	5
02483	基礎演習（春）	春	上坂　卓郎	水2	外　養　法	6
02822	基礎演習（春）	春	日下　泰夫	水2	外　養　法	7
10516	基礎演習（春）	春	倉橋　透	月4	外　養　法	8
10656	基礎演習（春）	春	小林　哲也	水2	外　養　法	9
02582	基礎演習（春）	春	立田　ルミ	火1	外　養　法	10
11992	基礎演習（春）	春	千代浦　昌道	火1	外　養　法	11
11774	基礎演習（春）	春	全　載旭	木3	外　養　法	12
02610	基礎演習（春）	春	中野　隆史	水2	外　養　法	14
02393	基礎演習（春）	春	波形　昭一	月1	外　養　法	15
02592	基礎演習（春）	春	野村　容康	木2	外　養　法	16
02585	基礎演習（春）	春	浜本　光紹	火1	外　養　法	17
10226	基礎演習（春）	春	平井　岳哉	火4	外　養　法	18
02578	基礎演習（春）	春	藤山　英樹	月3	外　養　法	19
12108	基礎演習（春）	春	細田　哲	火1	外　養　法	20
02684	基礎演習（春）	春	本田　浩邦	火1	外　養　法	21
02665	基礎演習（春）	春	益山　光央	木2	外　養　法	22
02590	基礎演習（春）	春	御園生　眞	火2	外　養　法	23
02726	基礎演習（春）	春	森　健	水2	外　養　法	24
02830	基礎演習（春）	春	森永　卓郎	火2	外　養　法	25
09185	基礎演習（春）	春	山越　德	火1	外　養　法	26
02715	基礎演習（春）	春	山下　裕歩	金4	外　養　法	27
02594	基礎演習（春）	春	湯田　雅夫	水2	外　養　法	28
11888	基礎演習（春）	春	米山　昌幸	火2	外　養　法	29
11889	基礎演習（春）	春	米山　昌幸	木2	外　養　法	29
11934	基礎演習（秋）	秋	有吉　秀樹	水2	外　養　法	3
02725	基礎演習（秋）	秋	岡部　康弘	木3	外　養　法	4
02607	基礎演習（秋）	秋	岡村　国和	木2	外　養　法	5
02484	基礎演習（秋）	秋	上坂　卓郎	水2	外　養　法	6
10527	基礎演習（秋）	秋	倉橋　透	月4	外　養　法	8
02583	基礎演習（秋）	秋	立田　ルミ	火1	外　養　法	10
11993	基礎演習（秋）	秋	千代浦　昌道	火1	外　養　法	11
02584	基礎演習（秋）	秋	全　載旭	木3	外　養　法	12
02388	基礎演習（秋）	秋	冨田　幸弘	水2	外　養　法	13
02394	基礎演習（秋）	秋	波形　昭一	月1	外　養　法	15
11787	基礎演習（秋）	秋	野村　容康	木2	外　養　法	16
02586	基礎演習（秋）	秋	浜本　光紹	火1	外　養　法	17
10227	基礎演習（秋）	秋	平井　岳哉	火4	外　養　法	18

02579	基礎演習（秋）	秋	藤山　英樹	月3		外	養	法	19
12109	基礎演習（秋）	秋	細田　哲	火1		外	養	法	20
02685	基礎演習（秋）	秋	本田　浩邦	火1		外	養	法	21
02666	基礎演習（秋）	秋	益山　光央	木2		外	養	法	22
02591	基礎演習（秋）	秋	御園生　眞	火2		外	養	法	23
02727	基礎演習（秋）	秋	森　健	水2		外	養	法	24
02831	基礎演習（秋）	秋	森永　卓郎	火2		外	養	法	25
09186	基礎演習（秋）	秋	山越　徳	火1		外	養	法	26
02716	基礎演習（秋）	秋	山下　裕歩	金4		外	養	法	27
10528	経済学a	春	倉橋　透	火4	営	外	養	法	30
10529	経済学b	秋	倉橋　透	火4	営	外	養	法	30
03108	経済学b	春	小林　進	火2	営	外	養	法	31
03107	経済学a	秋	小林　進	火2	営	外	養	法	31
09299	経済学a	春	野村　容康	火1	営	外	養	法	32
09300	経済学b	秋	野村　容康	火1	営	外	養	法	32
03169	経済学a	春	浜本　光紹	水2	営	外	養	法	33
03170	経済学b	秋	浜本　光紹	水2	営	外	養	法	33
03196	経済学a	春	森永　卓郎	火3	営	外	養	法	34
03197	経済学b	秋	森永　卓郎	火3	営	外	養	法	34
02514	統計学a	春	冨田　幸弘	月2				法	35
02515	統計学b	秋	冨田　幸弘	月2				法	35
02541	統計学a	春	冨田　幸弘	月3				法	35
09229	統計学b	秋	冨田　幸弘	月3				法	35
02553	統計学a	春	本田　勝	火3				法	36
02554	統計学b	秋	本田　勝	火3				法	36
02550	統計学a	春	本田　勝	火4				法	36
02551	統計学b	秋	本田　勝	火4				法	36
02520	統計学a	春	松井　敬	火2				法	37
02521	統計学b	秋	松井　敬	火2				法	37
02517	統計学a	春	松井　敬	火3				法	37
02518	統計学b	秋	松井　敬	火3				法	37
	コンピュータ入門a	春	各担当教員			外	養	法	38
	コンピュータ入門b	秋	各担当教員			外	養	法	38
02608	プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3					39
03157	経営学a	春	冨田　忠義	月3	営				40
03158	経営学b	秋	冨田　忠義	月3	営				40
02449	簿記原理a	春	井出　健二郎	火4					41
02450	簿記原理b	秋	井出　健二郎	火4					41
02459	簿記原理b	春	井出　健二郎	火5					42
02458	簿記原理a	秋	井出　健二郎	火5					42
02452	簿記原理a	春	内倉　滋	月2					43
02453	簿記原理b	秋	内倉　滋	月2					43
12051	簿記原理a	春	香取　徹	水2					44
12052	簿記原理b	秋	香取　徹	水2					44
02455	簿記原理a	春	金井　繁雅	月4					45
02456	簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4					45
02588	簿記原理a	春	細田　哲	金4					46
02589	簿記原理b	秋	細田　哲	金4					46
02495	簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1					47
02496	簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1					47
02693	簿記原理a	春	山内　暁	火4					48
02694	簿記原理b	秋	山内　暁	火4					48
02417	簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1					49
02418	簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1					49

◇ 関連科目 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02680	数学a	春	高木　悟	土1	外 養 法	50
02681	数学b	秋	高木　悟	土1	外 養 法	50
02532	数学a	春	高木　悟	土2	外 養 法	50
02533	数学b	秋	高木　悟	土2	外 養 法	50
02486	高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		51
02487	高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		51
02545	精神衛生論a	春	中野　隆史	火4	法	52
02546	精神衛生論b	秋	中野　隆史	火4	法	52
02762	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		53
02763	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		53
02773	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		53
02774	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		53
02624	現代文化論a	春	柴崎　信三	水2	外 養 法	54
02625	現代文化論b	秋	柴崎　信三	水2	外 養 法	54

≪ 学科専門科目 ≫

◇ 経済外国語 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03041	経済外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	営 外 養 法	55
03042	経済外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	営 外 養 法	55
10945	経済外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	営 外 養 法	56
10946	経済外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	営 外 養 法	56
12806	経済外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木5	営 外 養 法	57
12807	経済外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木5	営 外 養 法	57
11940	経済外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木2	営 外 養 法	58
11941	経済外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木2	営 外 養 法	58
06302	経済外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	営 外 養 法	59
06303	経済外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	営 外 養 法	59
03205	経済外国語Ⅰa	春	香取　徹	水1	営 外 養 法	60
03206	経済外国語Ⅰb	秋	香取　徹	水1	営 外 養 法	60
03072	経済外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	営 外 養 法	61
03073	経済外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	営 外 養 法	61
03296	経済外国語Ⅰa	春	上坂　卓郎	火1	営 外 養 法	62
03297	経済外国語Ⅰb	秋	上坂　卓郎	火1	営 外 養 法	62
03055	経済外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	営 外 養 法	63
10519	経済外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	営 外 養 法	63
10652	経済外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	営 外 養 法	64
03056	経済外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	営 外 養 法	64
03254	経済外国語Ⅰa	春	小林　進	金3	営 外 養 法	65
03255	経済外国語Ⅰb	秋	小林　進	金3	営 外 養 法	65
03276	経済外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	営 外 養 法	66
03277	経済外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	営 外 養 法	66
03075	経済外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	営 外 養 法	67
03076	経済外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	営 外 養 法	67
03086	経済外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	営 外 養 法	68
03087	経済外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	営 外 養 法	68
12812	経済外国語Ⅰa	春	藤山　英樹	木1	営 外 養 法	69
12813	経済外国語Ⅰb	秋	藤山　英樹	木1	営 外 養 法	69
13113	経済外国語Ⅰa	春	堀江　郁美	水1	営 外 養 法	70
13114	経済外国語Ⅰb	秋	堀江　郁美	水1	営 外 養 法	70
09459	経済外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	木5	営 外 養 法	71
09458	経済外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	木5	営 外 養 法	71
03083	経済外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	営 外 養 法	72
03084	経済外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	営 外 養 法	72

03101	経済外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	営 外 養 法	73
03102	経済外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	営 外 養 法	73
03293	経済外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	営 外 養 法	74
03294	経済外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	営 外 養 法	74
03199	経済外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	営 外 養 法	75
03200	経済外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	営 外 養 法	75
03154	経済外国語Ⅰa	春	森　健	水1	営 外 養 法	76
03155	経済外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	営 外 養 法	76
03122	経済外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	営 外 養 法	77
03123	経済外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	営 外 養 法	77
03240	経済外国語Ⅰa	春	山内　暁	火5	営 外 養 法	78
03241	経済外国語Ⅰb	秋	山内　暁	火5	営 外 養 法	78
03175	経済外国語Ⅰa	春	山越　徳	水1	営 外 養 法	79
03176	経済外国語Ⅰb	秋	山越　徳	水1	営 外 養 法	79
11948	経済外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	営 外 養 法	80
11945	経済外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	営 外 養 法	80
12802	経済外国語Ⅰa	秋	山本　美樹子	水2	営 外 養 法	81
03078	経済外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	営 外 養 法	82
03079	経済外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	営 外 養 法	82
03181	経済外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水2	営 外 養 法	83
03182	経済外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水2	営 外 養 法	83
11766	経済外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	営 外 養 法	84
11767	経済外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	営 外 養 法	84
09369	経済外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	金1	営 外 養 法	85
09370	経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	金1	営 外 養 法	85
03033	経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月4	営 外 養 法	86
10887	経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月4	営 外 養 法	86
03058	経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月5	営 外 養 法	86
03059	経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月5	営 外 養 法	86
07685	経済外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	営 外 養 法	87
07686	経済外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	営 外 養 法	87
09282	経済外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	営 外 養 法	88
09283	経済外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	営 外 養 法	88
03035	経済外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	水2	営 外 養 法	89
09381	経済外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	水2	営 外 養 法	89

◇　経済理論・経済学史　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03149	マクロ経済学a	春	黒木　亮	月1	営	90
03150	マクロ経済学b	秋	黒木　亮	月1	営	90
09222	マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	営	91
09223	マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	営	91
03172	ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	営	92
03268	ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	営	92
12327	ミクロ経済学a	春	藤山　英樹	月4	営	93
03173	ミクロ経済学b	秋	藤山　英樹	月4	営	93
03030	経済学史a	春	黒木　亮	木3		94
03031	経済学史b	秋	黒木　亮	木3		94
03128	経済変動論a	春	山下　裕歩	月1		95
03129	経済変動論b	秋	山下　裕歩	月1		95
	経済社会学a		本年度休講			
	経済社会学b		本年度休講			
	経済哲学a		本年度休講			
	経済哲学b		本年度休講			

◇ 経済統計・計量経済 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
	経済統計論a		本年度休講			
	経済統計論b		本年度休講			
03251	計量経済学a	春	藤山　英樹	木2		96
03252	計量経済学b	秋	藤山　英樹	木2		96

◇ 経済政策 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03202	経済政策論a	春	阿部　正浩	木2	営	97
03203	経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2	営	97
03248	経済開発論a	春	千代浦　昌道	金2	言	98
03249	経済開発論b	秋	千代浦　昌道	金2	言	98
03080	環境政策論a	春	塩田　尚樹	火1		99
03081	環境政策論b	春	塩田　尚樹	水1		99

◇ 経済史 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03213	日本経済史a	春	奈倉　文二	水1	営	100
03214	日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1	営	100
03262	日本社会史a	春	新井　孝重	火2		101
03243	日本社会史b	秋	新井　孝重	火2		101
	東洋経済史a		本年度休講			
	東洋経済史b		本年度休講			
03119	西洋経済史a	春	御園生　眞	火4		102
03120	西洋経済史b	秋	御園生　眞	火4		102

◇ 国際経済 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03137	国際経済論a	春	益山　光央	火3	営 外 養 法	103
03138	国際経済論b	秋	益山　光央	火3	営 外 養 法	103
03178	国際金融論a	秋	山本　美樹子	月2	法	104
03179	国際金融論b	秋	山本　美樹子	月3	法	104

◇ 地域経済 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03066	日本経済論a	春	波形　昭一	火5	営 言 養 法	105
03067	日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	営 言 養 法	105
03216	アメリカ経済論a	春	本田　浩邦	木3		106
03217	アメリカ経済論b	秋	本田　浩邦	木3		106
03052	ラテンアメリカ経済論a	春	松本　栄次	月2		107
03053	ラテンアメリカ経済論b	秋	松本　栄次	月2		107
03264	西ヨーロッパ経済論a	春	大西　健夫	火1		108
03265	西ヨーロッパ経済論b	秋	大西　健夫	火1		108
	東ヨーロッパ経済論a		本年度休講			
	東ヨーロッパ経済論b		本年度休講			
03113	東アジア・中国経済論a	春	全　載旭	木2	言 養	109
03114	東アジア・中国経済論b	秋	全　載旭	木2	言 養	109
03260	オセアニア経済論a	春	森　健	金3	言 養	110
03261	オセアニア経済論b	秋	森　健	金3	言 養	110
03273	アフリカ経済論a	春	原口　武彦	金2		111
03274	アフリカ経済論b	秋	原口　武彦	金2		111
	東南アジア経済論a		本年度休講			
	東南アジア経済論b		本年度休講			
03400	中東経済論a	春	平井　文子	金2		112
03401	中東経済論b	秋	平井　文子	金2		112

◇ 金融経済 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03160	金融経済論a	春	須藤　時仁	火1	営	113
03161	金融経済論b	秋	須藤　時仁	火1	営	113
03208	金融システム論a	春	須藤　時仁	火2		114
03209	金融システム論b	秋	須藤　時仁	火2		114

◇ 財政 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03146	財政学a	春	野村　容康	木3	営	115
03147	財政学b	秋	野村　容康	木3	営	115
03044	公共経済学a	春	伊藤　為一郎	月2		116
03045	公共経済学b	秋	伊藤　為一郎	月2		116
	日本財政論a		本年度休講			
	日本財政論b		本年度休講			
03237	地方財政論a	春	伊藤　為一郎	木4		117
03238	地方財政論b	秋	伊藤　為一郎	木4		117

◇ 環境・都市・経済地理 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03125	環境経済学a	春	浜本　光紹	火3		118
03126	環境経済学b	秋	浜本　光紹	火3		118
10523	都市経済学a	春	倉橋　透	金1		119
10524	都市経済学b	秋	倉橋　透	金1		119
03092	経済地理学a	春	犬井　正	火2		120
03093	経済地理学b	秋	犬井　正	火2		120
	交通経済論a		本年度休講			
	交通経済論b		本年度休講			

◇ 産業経済 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
	産業政策論a		本年度休講			
	産業政策論b		本年度休講			
03027	産業組織論a	春	青木　雅明	月1		121
03028	産業組織論b	秋	青木　雅明	月1		121
03231	産業構造論a	春	山越　徳	木2		122
03232	産業構造論b	秋	山越　徳	木2		122

◇ 労働・社会保障 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
12398	社会保障論a	春	酒井　正	木5		123
12399	社会保障論b	秋	酒井　正	木5		123
12396	社会政策a	春	酒井　正	木5		123
12397	社会政策b	秋	酒井　正	木5		123
03219	労働経済学a	春	森永　卓郎	木2		124
03220	労働経済学b	秋	森永　卓郎	木2		124

≪ 関連専門科目 ≫

◇ 経営・会計 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03225	経営学原理a	春	高松　和幸	火2	営	133
03226	経営学原理b	秋	高松　和幸	火2	営	133
03131	経営学原理a	春	西本　直人	火4	営	134
03132	経営学原理b	秋	西本　直人	火4	営	134
03116	企業論a	春	平井　岳哉	木4	営	147
03117	企業論b	秋	平井　岳哉	木4	営	147
03095	会計学a	春	内倉　滋	火2	法	125

03096	会計学b	秋	内倉　滋	火2	法	125

◇　統計・情報科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
09874	応用統計学a	春	本田　勝	水2	営	164
09875	応用統計学b	秋	本田　勝	水2	営	164
03257	標本調査論a	春	松井　敬	金3	営	165
03258	標本調査論b	秋	松井　敬	金3	営	165
03038	データベース論a	春	堀江　郁美	月1	営	166
03039	データベース論b	秋	堀江　郁美	月1	営	166
03270	データベース論a	春	堀江　郁美	金4	営	166
03271	データベース論b	秋	堀江　郁美	金4	営	166
03290	コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	営	167
03291	コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	営	167
03110	マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	営	168
03111	マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	営	168
03190	マルチメディア論a	春	森　園子	水4	営	169
03191	マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	営	169
03187	プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	営 言 養	172
03188	プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	営 言 養	172
03163	プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	営 言 養	173
03164	プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	営 言 養	173
03245	プログラミング論a	春	堀江　郁美	金2	営 言 養	174
03246	プログラミング論b	秋	堀江　郁美	金2	営 言 養	174
03184	プログラミング論a	春	森　園子	水3	営 言 養	175
03185	プログラミング論b	秋	森　園子	水3	営 言 養	175

◇　政治・法律　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02741	法学a	春	内山　良雄	木3	外 養 法	185
02742	法学b	秋	内山　良雄	木3	外 養 法	185
03008	政治学総論a	春	杉田　孝夫	木1	外 養 法	186
03009	政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木1	外 養 法	186
03012	民法a（春学期 週2回授業）	春	常岡　史子	火1	法	187
03013	民法b（春学期 週2回授業）	春	常岡　史子	木2	法	187
03014	民法a（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	水1	法	188
03015	民法b（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	木4	法	188
03010	商法a	春	藩　阿憲	水3	法	189
03011	商法b	秋	藩　阿憲	水3	法	189

◇　総合講座・特殊講義　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
07786	総合講座a	春	経済学部	水3		191
07787	総合講座b	秋	経済学部	水3		191
02638	特殊講義a（経済学入門）	春	阿部　正浩	火1	法	192
02639	特殊講義b（経済学入門）	秋	阿部　正浩	火1	法	192
02636	特殊講義a（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		193
13615	特殊講義a（新聞の読み方テレビの見方）	春	江川　紹子	木3		194
13619	特殊講義a（新聞の読み方テレビの見方）	秋	江川　紹子	木3		194
13616	特殊講義a（インタビュー入門）	春	江川　紹子	木4		195
13620	特殊講義a（インタビュー入門）	秋	江川　紹子	木4		195
13679	特殊講義a（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	春	松下　信武	土2		196
13680	特殊講義a（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	秋	松下　信武	土2		196
13681	特殊講義a（幸福に生きるための対話）	春	松下　信武	土4		197
13682	特殊講義a（幸福に生きるための対話）	秋	松下　信武	土4		197
08094	特殊講義b（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4		198

◇　留学生　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
04335	日本事情a	春	守田　逸人	月5		199
04336	日本事情b	秋	守田　逸人	月5		199
04207	日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月2	言　養	200
04238	日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月2	言　養	200
04253	日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月3	言　養	200
04268	日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月3	言　養	200
05060	日本語Ⅱa	春	岩沢　正子	水3	言　養	201
05099	日本語Ⅱb	秋	岩沢　正子	水3	言　養	201
08144	日本語Ⅱa	春	生田　守	木3	言　養	202
04654	日本語Ⅱb	秋	生田　守	木3	言　養	202

【このページは白紙です。メモ欄に活用してください。】

別表Ⅱ－２　経営学科

群	部門	授業科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	インターナショナルコミュニケーションⅠa	1	4		12
		インターナショナルコミュニケーションⅠb	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡa	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡb	1			
	経営・経済入門	基礎演習	2			
		経営学a	2	4		
		経営学b	2			
		簿記原理a	2	4		
		簿記原理b	2			
		コンピュータ入門a	2			
		コンピュータ入門b	2			
		プレゼンテーション技法	2			
		経済学a	2			
		経済学b	2			
		統計学a	2			
		統計学b	2			
	関連科目	数学a	2			
		数学b	2			
		高齢化社会論a	2			
		高齢化社会論b	2			
		精神衛生論a	2			
		精神衛生論b	2			
		医療・福祉概論a	2			
		医療・福祉概論b	2			
		現代文化論a	2			
		現代文化論b	2			
学科専門科目	演習・経営外国語	演習Ⅰa	2	4		64
		演習Ⅰb	2			
		演習Ⅱa	2			
		演習Ⅱb	2			
		経営外国語Ⅰa	2	4		
		経営外国語Ⅰb	2			
		経営外国語Ⅱa	2			
		経営外国語Ⅱb	2			
		卒業研究	4			
	経営	経営学原理a	2	4		
		経営学原理b	2			
		経営戦略論a	2			
		経営戦略論b	2			
		経営管理論a	2			
		経営管理論b	2			
		経営組織論a	2			
		経営組織論b	2			
		経営財務論a	2			
		経営財務論b	2			
		人的資源管理論a	2			
		人的資源管理論b	2			
		国際経営論a	2			
		国際経営論b	2			
	経営史	経営史a	2			
		経営史b	2			
		日本経営史a	2			
		日本経営史b	2			
	商業	マーケティング論a	2			
		マーケティング論b	2			
		広告論a	2			
		広告論b	2			
		行動科学論a	2			
		行動科学論b	2			
		保険論a	2			
		保険論b	2			
		貿易論a	2			
		貿易論b	2			
		証券市場論a	2			
		証券市場論b	2			
	企業	企業論a	2			
		企業論b	2			
		企業形態論a	2			
		企業形態論b	2			
		ベンチャービジネス論a	2			
		ベンチャービジネス論b	2			
		非営利組織マネジメント論a	2			
		非営利組織マネジメント論b	2			
		企業文化論a	2			
		企業文化論b	2			
		研究・開発マネジメントa	2			
		研究・開発マネジメントb	2			
	会計	会計学原理a	2			
		会計学原理b	2			
		財務会計論a	2			
		財務会計論b	2			
		管理会計論a	2			
		管理会計論b	2			
		社会会計論a	2			
		社会会計論b	2			
		原価計算論a	2			
		原価計算論b	2			
		会計監査論a	2			
		会計監査論b	2			
		税務会計論a	2			
		税務会計論b	2			
		経営分析論a	2			
		経営分析論b	2			
		上級簿記a	2			
		上級簿記b	2			
		国際会計論a	2			
		国際会計論b	2			
	情報科学	経営数学a	2			
		経営数学b	2			
		応用統計学a	2			
		応用統計学b	2			
		標本調査論a	2			
		標本調査論b	2			
		データベース論a	2			
		データベース論b	2			
		コンピュータシミュレーション論a	2			
		コンピュータシミュレーション論b	2			
		マルチメディア論a	2			
		マルチメディア論b	2			
		情報検索論a	2			
		情報検索論b	2			
		情報システム論a	2			
		情報システム論b	2			
		プログラミング論a	2			
		プログラミング論b	2			
		情報社会論a	2			
		情報社会論b	2			
		情報通信ネットワークa	2			
		情報通信ネットワークb	2			
		コンピュータネットワーク	2			
		コンピュータアーキテクチャ	2			
		情報と職業a	2			
		情報と職業b	2			
		アルゴリズム論a	2			
		アルゴリズム論b	2			
	経営システム工学	オペレーションズ・リサーチa	2			
		オペレーションズ・リサーチb	2			
		システムズエンジニアリングa	2			
		システムズエンジニアリングb	2			
		経営システム工学a	2			
		経営システム工学b	2			
関連専門科目	経済理論・経済政策	マクロ経済学a	2			
		マクロ経済学b	2			
		ミクロ経済学a	2			
		ミクロ経済学b	2			
		経済政策論a	2			
		経済政策論b	2			
	日本経済・国際経済	日本経済論a	2			
		日本経済論b	2			
		日本経済史a	2			
		日本経済史b	2			
		国際経済論a	2			
		国際経済論b	2			
	金融・財政	金融経済論a	2			
		金融経済論b	2			
		財政学a	2			
		財政学b	2			
	政治・法律	法学a	2			
		法学b	2			
		政治学総論a	2			
		政治学総論b	2			
		民法a	2			
		民法b	2			
		商法a	2			
		商法b	2			
		著作権法a	2			
		著作権法b	2			
	総合講座・特殊講義	*総合講座a	2			
		*総合講座b	2			
		*特殊講義a	2			
		*特殊講義b	2			

経営学科カリキュラム合計	24	0	76
全学共通授業科目（別表Ⅳ）	8	6	14
卒業に必要な単位数合計	32	6	90
	128		

備考　（１）　卒業単位数は必修３２単位、選択必修６単位、選択９０単位で合計して最低１２８単位以上修得するものとする。１２８単位の内訳は、学科基礎科目２４単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから７６単位以上、全学共通授業科目28単位以上である。

（２）　学科専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、２８単位までは経済学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
他学部ならびに教職課程授業科目は１２単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３）　*の講義科目は年度ごとに定める。　　（４）省略

（５）　2004年度まで　　2005年度以降
科目名　企業形態論a　⇒　企業経済論a
企業形態論b　⇒　企業経済論b

○本表は、２００３年度入学者から適用する。

2003～2007年度入学生用

経　営　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　外国語　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
	インターナショナルコミュニケーションⅠa	春	各担当教員		外　養　法	1
	インターナショナルコミュニケーションⅠb	秋	各担当教員		外　養　法	1
	インターナショナルコミュニケーションⅡa	春	各担当教員		外　養　法	2
	インターナショナルコミュニケーションⅡb	秋	各担当教員		外　養　法	2

◇　経営・経済入門　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
11933	基礎演習（春）	春	有吉　秀樹	水2	外　養　法	3
02724	基礎演習（春）	春	岡部　康弘	木3	外　養　法	4
02606	基礎演習（春）	春	岡村　国和	木2	外　養　法	5
02483	基礎演習（春）	春	上坂　卓郎	水2	外　養　法	6
02822	基礎演習（春）	春	日下　泰夫	水2	外　養　法	7
10516	基礎演習（春）	春	倉橋　透	月4	外　養　法	8
10656	基礎演習（春）	春	小林　哲也	水2	外　養　法	9
02582	基礎演習（春）	春	立田　ルミ	火1	外　養　法	10
11992	基礎演習（春）	春	千代浦　昌道	火1	外　養　法	11
11774	基礎演習（春）	春	全　載旭	木3	外　養　法	12
02610	基礎演習（春）	春	中野　隆史	水2	外　養　法	14
02393	基礎演習（春）	春	波形　昭一	月1	外　養　法	15
02592	基礎演習（春）	春	野村　容康	木2	外　養　法	16
02585	基礎演習（春）	春	浜本　光紹	火1	外　養　法	17
10226	基礎演習（春）	春	平井　岳哉	火4	外　養　法	18
02578	基礎演習（春）	春	藤山　英樹	月3	外　養　法	19
12108	基礎演習（春）	春	細田　哲	火1	外　養　法	20
02684	基礎演習（春）	春	本田　浩邦	火1	外　養　法	21
02665	基礎演習（春）	春	益山　光央	木2	外　養　法	22
02590	基礎演習（春）	春	御園生　眞	火2	外　養　法	23
02726	基礎演習（春）	春	森　健	水2	外　養　法	24
02830	基礎演習（春）	春	森永　卓郎	火2	外　養　法	25
09185	基礎演習（春）	春	山越　德	火1	外　養　法	26
02715	基礎演習（春）	春	山下　裕歩	金4	外　養　法	27
02594	基礎演習（春）	春	湯田　雅夫	水2	外　養　法	28
11888	基礎演習（春）	春	米山　昌幸	火2	外　養　法	29
11889	基礎演習（春）	春	米山　昌幸	木2	外　養　法	29
11934	基礎演習（秋）	秋	有吉　秀樹	水2	外　養　法	3
02725	基礎演習（秋）	秋	岡部　康弘	木3	外　養　法	4
02607	基礎演習（秋）	秋	岡村　国和	木2	外　養　法	5
02484	基礎演習（秋）	秋	上坂　卓郎	水2	外　養　法	6
10527	基礎演習（秋）	秋	倉橋　透	月4	外　養　法	8
02583	基礎演習（秋）	秋	立田　ルミ	火1	外　養　法	10
11993	基礎演習（秋）	秋	千代浦　昌道	火1	外　養　法	11
02584	基礎演習（秋）	秋	全　載旭	木3	外　養　法	12
02388	基礎演習（秋）	秋	冨田　幸弘	水2	外　養　法	13
02394	基礎演習（秋）	秋	波形　昭一	月1	外　養　法	15
11787	基礎演習（秋）	秋	野村　容康	木2	外　養　法	16
02586	基礎演習（秋）	秋	浜本　光紹	火1	外　養　法	17
10227	基礎演習（秋）	秋	平井　岳哉	火4	外　養　法	18

02579	基礎演習（秋）	秋	藤山　英樹	月3		外	養	法	19
12109	基礎演習（秋）	秋	細田　哲	火1		外	養	法	20
02685	基礎演習（秋）	秋	本田　浩邦	火1		外	養	法	21
02666	基礎演習（秋）	秋	益山　光央	木2		外	養	法	22
02591	基礎演習（秋）	秋	御園生　眞	火2		外	養	法	23
02727	基礎演習（秋）	秋	森　健	水2		外	養	法	24
02831	基礎演習（秋）	秋	森永　卓郎	火2		外	養	法	25
09186	基礎演習（秋）	秋	山越　徳	火1		外	養	法	26
02716	基礎演習（秋）	秋	山下　裕歩	金4		外	養	法	27
03480	経営学a	春	有吉　秀樹	水1	済	外	養	法	126
03508	経営学b	秋	有吉　秀樹	水1	済	外	養	法	126
03491	経営学a	春	岡部　康弘	水1	済	外	養	法	127
03499	経営学b	秋	岡部　康弘	水1	済	外	養	法	127
03520	経営学a	春	上坂　卓郎	水1	済	外	養	法	128
03489	経営学b	秋	上坂　卓郎	水1	済	外	養	法	128
03488	経営学a	春	日下　泰夫	水1	済	外	養	法	129
03521	経営学b	秋	日下　泰夫	水1	済	外	養	法	129
03507	経営学a	春	小林　哲也	水1	済	外	養	法	130
03481	経営学b	秋	小林　哲也	水1	済	外	養	法	130
10508	経営学a	春	平井　岳哉	水1	済	外	養	法	131
10509	経営学b	秋	平井　岳哉	水1	済	外	養	法	131
02449	簿記原理a	春	井出　健二郎	火4					41
02450	簿記原理b	秋	井出　健二郎	火4					41
02459	簿記原理b	春	井出　健二郎	火5					42
02458	簿記原理a	秋	井出　健二郎	火5					42
02452	簿記原理a	春	内倉　滋	月2					43
02453	簿記原理b	秋	内倉　滋	月2					43
12051	簿記原理a	春	香取　徹	火2					44
12052	簿記原理b	秋	香取　徹	火2					44
02455	簿記原理a	春	金井　繁雅	月4					45
02456	簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4					45
02588	簿記原理a	春	細田　哲	金4					46
02589	簿記原理b	秋	細田　哲	金4					46
02495	簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1					47
02496	簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1					47
02693	簿記原理a	春	山内　暁	木4					48
02694	簿記原理b	秋	山内　暁	木4					48
02417	簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1					49
02418	簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1					49
	コンピュータ入門a	春	各担当教員			外	養	法	38
	コンピュータ入門b	秋	各担当教員			外	養	法	38
02608	プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3					39
03467	経済学a	春	米山　昌幸	木1	済	外	養	法	132
03468	経済学b	秋	米山　昌幸	木1	済	外	養	法	132
02514	統計学a	春	冨田　幸弘	月2				法	35
02515	統計学b	秋	冨田　幸弘	月2				法	35
02541	統計学a	春	冨田　幸弘	月3				法	35
09229	統計学b	秋	冨田　幸弘	月3				法	35
02553	統計学a	春	本田　勝	火3				法	36
02554	統計学b	秋	本田　勝	火3				法	36
02550	統計学a	春	本田　勝	火4				法	36
02551	統計学b	秋	本田　勝	火4				法	36
02520	統計学a	春	松井　敬	火2				法	37
02521	統計学b	秋	松井　敬	火2				法	37
02517	統計学a	春	松井　敬	火3				法	37
02518	統計学b	秋	松井　敬	火3				法	37

◇ 関連科目 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02680	数学a	春	高木　悟	土1	外 養 法	50
02681	数学b	秋	高木　悟	土1	外 養 法	50
02532	数学a	春	高木　悟	土2	外 養 法	50
02533	数学b	秋	高木　悟	土2	外 養 法	50
02486	高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		51
02487	高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		51
02545	精神衛生論a	春	中野　隆史	火4	法	52
02546	精神衛生論b	秋	中野　隆史	火4	法	52
02762	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		53
02763	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		53
02773	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		53
02774	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		53
02624	現代文化論a	春	柴崎　信三	水2	外 養 法	54
02625	現代文化論b	秋	柴崎　信三	水2	外 養 法	54

≪ 学科専門科目 ≫

◇ 経営外国語 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03304	経営外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	済 外 養 法	55
03305	経営外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	済 外 養 法	55
10942	経営外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	済 外 養 法	56
10943	経営外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	済 外 養 法	56
12808	経営外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木5	済 外 養 法	57
12809	経営外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木5	済 外 養 法	57
11942	経営外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木2	済 外 養 法	58
11943	経営外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木2	済 外 養 法	58
06299	経営外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	済 外 養 法	59
06300	経営外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	済 外 養 法	59
03373	経営外国語Ⅰa	春	香取　徹	水1	済 外 養 法	60
03374	経営外国語Ⅰb	秋	香取　徹	水1	済 外 養 法	60
03326	経営外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	済 外 養 法	61
03327	経営外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	済 外 養 法	61
03398	経営外国語Ⅰa	春	上坂　卓郎	火1	済 外 養 法	62
03399	経営外国語Ⅰb	秋	上坂　卓郎	火1	済 外 養 法	62
10521	経営外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	済 外 養 法	63
10522	経営外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	済 外 養 法	63
03312	経営外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	済 外 養 法	64
03313	経営外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	済 外 養 法	64
03384	経営外国語Ⅰa	春	小林　進	金3	済 外 養 法	65
03385	経営外国語Ⅰb	秋	小林　進	金3	済 外 養 法	65
03387	経営外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	済 外 養 法	66
03388	経営外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	済 外 養 法	66
03329	経営外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	済 外 養 法	67
03330	経営外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	済 外 養 法	67
03338	経営外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	済 外 養 法	68
03339	経営外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	済 外 養 法	68
12814	経営外国語Ⅰa	春	藤山　英樹	木1	済 外 養 法	69
12815	経営外国語Ⅰb	秋	藤山　英樹	木1	済 外 養 法	69
13115	経営外国語Ⅰa	春	堀江　郁美	水1	済 外 養 法	70
13116	経営外国語Ⅰb	秋	堀江　郁美	水1	済 外 養 法	70
10653	経営外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	木5	済 外 養 法	71
10654	経営外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	木5	済 外 養 法	71
03335	経営外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	済 外 養 法	72
03336	経営外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	済 外 養 法	72

03344	経営外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	済	外	養	法	73
03345	経営外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	済	外	養	法	73
03395	経営外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	済	外	養	法	74
03396	経営外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	済	外	養	法	74
03370	経営外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	済	外	養	法	75
03371	経営外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	済	外	養	法	75
03355	経営外国語Ⅰa	春	森　健	水1	済	外	養	法	76
03356	経営外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	済	外	養	法	76
03347	経営外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	済	外	養	法	77
03348	経営外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	済	外	養	法	77
03381	経営外国語Ⅰa	春	山内　暁	火5	済	外	養	法	78
03382	経営外国語Ⅰb	秋	山内　暁	火5	済	外	養	法	78
03361	経営外国語Ⅰa	春	山越　徳	水1	済	外	養	法	79
03362	経営外国語Ⅰb	秋	山越　徳	水1	済	外	養	法	79
11950	経営外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	済	外	養	法	80
11952	経営外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	済	外	養	法	80
12803	経営外国語Ⅰa	秋	山本　美樹子	水2	済	外	養	法	81
03332	経営外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	済	外	養	法	82
03333	経営外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	済	外	養	法	82
03364	経営外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水2	済	外	養	法	83
03365	経営外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水2	済	外	養	法	83
11770	経営外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	済	外	養	法	84
11771	経営外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	済	外	養	法	84
10621	経営外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	金1	済	外	養	法	85
10622	経営外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	金1	済	外	養	法	85
03299	経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月4	済	外	養	法	86
03300	経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月4	済	外	養	法	86
03315	経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月5	済	外	養	法	86
03316	経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月5	済	外	養	法	86
07687	経営外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	済	外	養	法	87
07688	経営外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	済	外	養	法	87
09284	経営外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	済	外	養	法	88
09285	経営外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	済	外	養	法	88
09376	経営外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	水2	済	外	養	法	89
10623	経営外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	水2	済	外	養	法	89

◇　経営　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可				ページ
03561	経営学原理a	春	高松　和幸	火2	済				133
03562	経営学原理b	秋	高松　和幸	火2	済				133
03447	経営学原理a	春	西本　直人	火4	済				134
12599	経営学原理b	秋	西本　直人	火4	済				134
03544	経営戦略論a	春	冨田　忠義	木2					135
03545	経営戦略論b	秋	冨田　忠義	木2					135
03555	経営管理論a	春	西本　直人	火5					136
03556	経営管理論b	秋	西本　直人	火5					136
	経営組織論a		本年度休講						
	経営組織論b		本年度休講						
03549	経営財務論a	春	細田　哲	金3					137
03550	経営財務論b	秋	細田　哲	金3					137
03526	人的資源管理論a	春	岡部　康弘	金2					138
03527	人的資源管理論b	秋	岡部　康弘	金2					138
03558	国際経営論a	春	小林　哲也	木3				法	139
03559	国際経営論b	秋	小林　哲也	木3				法	139

◇ 経営史 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03584	経営史a	春	柳　敦	金3		140
03585	経営史b	秋	柳　敦	金3		140
03504	日本経営史a	春	奈倉　文二	水2		141
03505	日本経営史b	秋	奈倉　文二	水2		141

◇ 商業 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03570	マーケティング論a	春	有吉　秀樹	金3		142
03571	マーケティング論b	秋	有吉　秀樹	金3		142
10818	広告論a	春	市川　嘉彦	月2	外 養 法	143
03475	広告論b	秋	市川　嘉彦	月2	外 養 法	143
	行動科学論a		本年度休講			
	行動科学論b		本年度休講			
03414	保険論a	春	岡村　国和	月3		144
03415	保険論b	秋	岡村　国和	月3		144
03432	貿易論a	春	米山　昌幸	火1		145
03433	貿易論b	秋	米山　昌幸	火1		145
03552	証券市場論a	春	高橋　元	木2		146
03553	証券市場論b	秋	高橋　元	木2		146

◇ 企業 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03441	企業論a	春	平井　岳哉	木4	済	147
03442	企業論b	秋	平井　岳哉	木4	済	147
	企業経済論a		本年度休講			
	企業経済論b		本年度休講			
03406	ベンチャービジネス論a	春	上坂　卓郎	金2		148
03407	ベンチャービジネス論b	秋	上坂　卓郎	金2		148
03435	非営利組織マネジメント論a	春	高松　和幸	月4		149
03436	非営利組織マネジメント論b	秋	高松　和幸	月4		149
03606	企業文化論a	春	斉藤　善久	水4		150
09748	企業文化論b	秋	斉藤　善久	水4		150
03607	研究・開発マネジメントa	春	日下　泰夫	金2		151
03608	研究・開発マネジメントb	秋	日下　泰夫	金2		151

◇ 会計 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03457	会計学原理a	春	内倉　滋	水1		152
03458	会計学原理b	秋	内倉　滋	水1		152
03581	財務会計論a	春	高松　正昭	金1		153
03582	財務会計論b	秋	高松　正昭	金1		153
03444	管理会計論a	春	香取　徹	月3		154
03445	管理会計論b	秋	香取　徹	月3		154
03423	社会会計論a	春	湯田　雅夫	月4		155
03424	社会会計論b	秋	湯田　雅夫	月4		155
03419	原価計算論a	春	齋藤　正章	月4		156
03420	原価計算論b	秋	齋藤　正章	月4		156
03538	会計監査論a	春	赤岩　茂	土1		157
03539	会計監査論b	秋	赤岩　茂	土1		157
03604	税務会計論a	春	平　仁	土2		158
03605	税務会計論b	秋	平　仁	土2		158
03567	経営分析論a	春	百瀬　房徳	火2		159
03568	経営分析論b	秋	百瀬　房徳	火2		159
03409	上級簿記（商業）a	春	細田　哲	金5		160
03410	上級簿記（商業）b	秋	細田　哲	金5		160

03477	上級簿記（工業）a	春	香取　徹	月4		161
03478	上級簿記（工業）b	秋	香取　徹	月4		161
03575	国際会計論a	春	小林　公司	木4		162
03576	国際会計論b	秋	小林　公司	木4		162

◇　情報科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03517	経営数学a	春	本田　勝	木2		163
03518	経営数学b	秋	本田　勝	木2		163
03450	応用統計学a	春	本田　勝	水2	済	164
03451	応用統計学b	秋	本田　勝	水2	済	164
03590	標本調査論a	春	松井　敬	金3	済	165
03591	標本調査論b	秋	松井　敬	金3	済	165
03403	データベース論a	春	堀江　郁美	月1	済	166
03404	データベース論b	秋	堀江　郁美	月1	済	166
03598	データベース論a	春	堀江　郁美	金4	済	166
03599	データベース論b	秋	堀江　郁美	金4	済	166
09196	コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	済	167
09198	コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	済	167
03438	マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	済	168
03439	マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	済	168
03535	マルチメディア論a	春	森　園子	水4	済	169
03536	マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	済	169
03464	情報検索論a	春	小畑　信夫	火2		170
03465	情報検索論b	秋	福田　求	水1		170
03510	情報検索論a	春	小畑　信夫	火5		170
03511	情報検索論b	秋	福田　求	水2		170
03470	情報システム論a	春	今福　啓	火4		171
03471	情報システム論b	秋	今福　啓	火4		171
03529	プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	済 言 養	172
03530	プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	済 言 養	172
03494	プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	済 言 養	173
03495	プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	済 言 養	173
03578	プログラミング論a	春	堀江　郁美	金2	済 言 養	174
03579	プログラミング論b	秋	堀江　郁美	金2	済 言 養	174
03523	プログラミング論a	春	森　園子	水3	済 言 養	175
03524	プログラミング論b	秋	森　園子	水3	済 言 養	175
03485	情報社会論a	春	柴崎　信三	水3		176
03486	情報社会論b	秋	柴崎　信三	水3		176
03595	情報通信ネットワークb	春	三宅　真	金4		177
03596	情報通信ネットワークa	秋	今福　啓	金2		177
03496	コンピュータネットワーク	春	冨澤　義一	水3		178
03602	コンピユータアーキテクチャ	春	今福　啓	金2		179
09189	情報と職業a	春	冨田　幸弘	水2		180
09190	情報と職業b	秋	小林　哲也	水2		180
03411	アルゴリズム論a	春	木村　昌史	月2		181
03412	アルゴリズム論b	秋	木村　昌史	月2		181

◇　経営システム工学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03429	オペレーションズ・リサーチa	春	正道寺　勉	火2		182
03430	オペレーションズ・リサーチb	秋	正道寺　勉	月2		182
03532	システムズエンジニアリングa	春	天笠　美知夫	水4		183
03533	システムズエンジニアリングb	秋	天笠　美知夫	水4		183
03587	経営システム工学a	春	日下　泰夫	火2		184
03588	経営システム工学b	秋	日下　泰夫	火2		184

≪　関連専門科目　≫

◇　経済理論・経済政策　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03461	マクロ経済学a	春	黒木　亮	月1	済	90
03462	マクロ経済学b	秋	黒木　亮	月1	済	90
03564	マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	済	91
03565	マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	済	91
03593	ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	済	92
03594	ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	済	92
03513	ミクロ経済学a	春	藤山　英樹	月4	済	93
03514	ミクロ経済学b	秋	藤山　英樹	月4	済	93
03541	経済政策論a	春	阿部　正浩	木2	済	97
03542	経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2	済	97

◇　日本経済・国際経済　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03426	日本経済論a	春	波形　昭一	火5	済 言 養 法	105
03427	日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	済 言 養 法	105
03546	日本経済史a	春	奈倉　文二	水1	済	100
03547	日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1	済	100
03453	国際経済論a	春	益山　光央	火3	済 外 養 法	103
03454	国際経済論b	秋	益山　光央	火3	済 外 養 法	103

◇　金融・財政　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03483	金融経済論a	春	須藤　時仁	火1	済	113
03484	金融経済論b	秋	須藤　時仁	火1	済	113
07784	財政学a	春	野村　容康	木3	済	115
07785	財政学b	秋	野村　容康	木3	済	115

◇　政治・法律　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02741	法学a	春	内山　良雄	木3	外 養 法	185
02742	法学b	秋	内山　良雄	木3	外 養 法	185
03008	政治学総論a	春	杉田　孝夫	木1	外 養 法	186
03009	政治学総論b	秋	杉田　孝夫	木1	外 養 法	186
03012	民法a（春学期 週2回授業）	春	常岡　史子	火1	法	187
03013	民法b（春学期 週2回授業）	春	常岡　史子	木2	法	187
03014	民法a（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	水1	法	188
03015	民法b（春学期 週2回授業）	春	藤田　貴宏	木4	法	188
03010	商法a	春	藩　阿憲	水3	法	189
03011	商法b	秋	藩　阿憲	水3	法	189
09877	著作権法a	春	長塚　真琴	水1	法	190
09878	著作権法b	秋	長塚　真琴	水1	法	190

◇　総合講座・特殊講義　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
07786	総合講座a	春	経済学部	水3		191
07787	総合講座b	秋	経済学部	水3		191
02638	特殊講義a（経済学入門）	春	阿部　正浩	火1	法	192
02639	特殊講義b（経済学入門）	秋	阿部　正浩	火1	法	192
02636	特殊講義a（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		193
13615	特殊講義a（新聞の読み方テレビの見方）	春	江川　紹子	木3		194
13619	特殊講義a（新聞の読み方テレビの見方）	秋	江川　紹子	木3		194
13616	特殊講義a（インタビュー入門）	春	江川　紹子	木4		195
13620	特殊講義a（インタビュー入門）	秋	江川　紹子	木4		195

13679	特殊講義a（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	春	松下　信武	土2	196
13680	特殊講義a（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	秋	松下　信武	土2	196
13681	特殊講義a（幸福に生きるための対話）	春	松下　信武	土4	197
13682	特殊講義a（幸福に生きるための対話）	秋	松下　信武	土4	197
08094	特殊講義b（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4	198

◇　留学生　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
04335	日本事情a	春	守田　逸人	月5		199
04336	日本事情b	秋	守田　逸人	月5		199
04207	日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月2	言　養	200
04238	日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月2	言　養	200
04253	日本語Ⅱa	春	斉藤　明	月3	言　養	200
04268	日本語Ⅱb	秋	斉藤　明	月3	言　養	200
05060	日本語Ⅱa	春	岩沢　正子	水3	言　養	201
05099	日本語Ⅱb	秋	岩沢　正子	水3	言　養	201
08144	日本語Ⅱa	春	生田　守	木3	言　養	202
04654	日本語Ⅱb	秋	生田　守	木3	言　養	202

【このページは白紙です。メモ欄に活用してください。】

学則別表

別表Ⅱ　経済学部授業科目
別表Ⅱ－１　経済学科
別表Ⅱ－１－（１）　学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科基礎科目	経済・経営入門	経済学ａ	2	4	24
		経済学ｂ	2		
		統計学ａ	2	4	
		統計学ｂ	2		
		コンピュータ入門ａ	2		
		コンピュータ入門ｂ	2		
		プレゼンテーション技法	2		
		経営学ａ	2		
		経営学ｂ	2		
		簿記原理ａ	2		
		簿記原理ｂ	2		
	外国語	第一外国語	2	8	
		第二外国語	2		
	社会科学	高齢化社会論ａ	2		
		高齢化社会論ｂ	2		
		社会学	4		
		法学	4		
		日本国憲法	4		
	人文科学	現代文化論ａ	2		
		現代文化論ｂ	2		
		文化人類学	4		
		心理学	4		
		歴史学（日本史･東洋史･西洋史）	4		
		哲学	4		
		文学（日本文学･世界文学）	4		
		国語	4		
	自然科学	地球環境論	4		
		数学ａ	2		
		数学ｂ	2		
		地理学	4		
	スポーツ・健康	精神衛生論	4		
		医療・福祉概論ａ	2		
		医療・福祉概論ｂ	2		
		スポーツ・健康論ａ	2		
		スポーツ・健康論ｂ	2		
		体育	2		
合計				16	24
				40	

別表Ⅱ－１－（2）　学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科専門科目	演習・経済外国語	基礎演習	2		
		演習Ⅰ	4	4	
		演習Ⅱ	4		
		経済外国語Ⅰａ	2	4	
		経済外国語Ⅰｂ	2		
		経済外国語Ⅱａ	2		
		経済外国語Ⅱｂ	2		
		卒業研究	4		
	経済理論・経済学史	マクロ経済学ａ	2	4	
		マクロ経済学ｂ	2		
		ミクロ経済学ａ	2	4	
		ミクロ経済学ｂ	2		
		経済学史ａ	2		
		経済学史ｂ	2		
		経済変動論ａ	2		
		経済変動論ｂ	2		
		経済社会学ａ	2		
		経済社会学ｂ	2		
		経済哲学ａ	2		
		経済哲学ｂ	2		
	経済統計・計量経済	経済統計論ａ	2		
		経済統計論ｂ	2		
		計量経済学ａ	2		
		計量経済学ｂ	2		
	経済政策	経済政策論ａ	2		
		経済政策論ｂ	2		
		経済開発論ａ	2		
		経済開発論ｂ	2		
		環境政策論ａ	2		
		環境政策論ｂ	2		
	経済史	日本経済史ａ	2		
		日本経済史ｂ	2		
		日本社会史ａ	2		
		日本社会史ｂ	2		
		東洋経済史ａ	2		
		東洋経済史ｂ	2		
		西洋経済史ａ	2		
		西洋経済史ｂ	2		
	国際経済	国際経済論ａ	2		
		国際経済論ｂ	2		
		国際金融論ａ	2		
		国際金融論ｂ	2		

別表Ⅱ－１－（３） 関連専門科目群

	地域経済	日本経済論ａ	2
		日本経済論ｂ	2
		アメリカ経済論ａ	2
		アメリカ経済論ｂ	2
		ラテンアメリカ経済論ａ	2
		ラテンアメリカ経済論ｂ	2
		西ヨーロッパ経済論ａ	2
		西ヨーロッパ経済論ｂ	2
		東ヨーロッパ経済論ａ	2
		東ヨーロッパ経済論ｂ	2
		東アジア・中国経済論ａ	2
		東アジア・中国経済論ｂ	2
		オセアニア経済論ａ	2
		オセアニア経済論ｂ	2
		アフリカ経済論ａ	2
		アフリカ経済論ｂ	2
		東南アジア経済論ａ	2
		東南アジア経済論ｂ	2
		中東経済論ａ	2
		中東経済論ｂ	2
	金融経済	金融経済論ａ	2
		金融経済論ｂ	2
		金融システム論ａ	2
		金融システム論ｂ	2
	財政	財政学ａ	2
		財政学ｂ	2
		公共経済学ａ	2
		公共経済学ｂ	2
		日本財政論ａ	2
		日本財政論ｂ	2
		地方財政論ａ	2
		地方財政論ｂ	2
	環境・都市・経済地理	環境経済学ａ	2
		環境経済学ｂ	2
		都市経済学ａ	2
		都市経済学ｂ	2
		経済地理学ａ	2
		経済地理学ｂ	2
		交通経済論ａ	2
		交通経済論ｂ	2
	産業経済	産業政策論ａ	2
		産業政策論ｂ	2
		産業組織論ａ	2
		産業組織論ｂ	2
		産業構造論ａ	2
		産業構造論ｂ	2
	労働・社会政策	社会政策ａ	2
		社会政策ｂ	2
		労働経済学ａ	2
		労働経済学ｂ	2

76

関連専門科目	経営・会計	経営学原理ａ	2		
		経営学原理ｂ	2		
		企業論ａ	2		
		企業論ｂ	2		
		会計学ａ	2		
		会計学ｂ	2		
	統計・情報科学	応用統計学ａ	2		
		応用統計学ｂ	2		
		標本調査論ａ	2		
		標本調査論ｂ	2		
		データベース論ａ	2		
		データベース論ｂ	2		
		コンピュータシミュレーション論ａ	2		
		コンピュータシミュレーション論ｂ	2		
		マルチメディア論ａ	2		
		マルチメディア論ｂ	2		
		プログラミング論ａ	2		
		プログラミング論ｂ	2		
	政治・法律	政治学総論	4		
		民法	4		
		商法	4		
	総合講座	*総合講座（１） ａ	2		
		*総合講座（１） ｂ	2		
		*総合講座（２） ａ	2		
		*総合講座（２） ｂ	2		
	特殊講義	特殊講義Ａ	4		
		特殊講義Ｂ	2		
合計				16	76
				92	

備 考

（１） 卒業単位数は必修３２単位、選択１００単位、合計して最低１３２単位以上修得するものとする。
１３２単位の内訳は、学科基礎科目４０単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから９２単位以上である。

（２） 学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）のうち、２８単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は１２単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３） 第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一カ国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一カ国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。
第一外国語は一学年に４単位、二学年に４単位、合計８単位を修得するものとする。

（４） *の講義科目は年度ごとに定める。

（５） ａ・ｂおよびｂ科目は半年で完結する。

本表は、２００１年度入学者より適用する。

2001～2002年度入学生用

経　済　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　経済・経営入門　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
10528	経済学a	春	倉橋　透	火4	営　外　法	30
10529	経済学b	秋	倉橋　透	火4	営　外　法	30
03108	経済学b	春	小林　進	火2	営　外　法	31
03107	経済学a	秋	小林　進	火2	営　外　法	31
09299	経済学a	春	野村　容康	火1	営　外　法	32
09300	経済学b	秋	野村　容康	火1	営　外　法	32
03169	経済学a	春	浜本　光紹	水2	営　外　法	33
03170	経済学b	秋	浜本　光紹	水2	営　外　法	33
03196	経済学a	春	森永　卓郎	火3	営　外　法	34
03197	経済学b	秋	森永　卓郎	火3	営　外　法	34
02514	統計学a	春	冨田　幸弘	月2	法	35
02515	統計学b	秋	冨田　幸弘	月2	法	35
02541	統計学a	春	冨田　幸弘	月3	法	35
09229	統計学b	秋	冨田　幸弘	月3	法	35
02553	統計学a	春	本田　勝	火3	法	36
02554	統計学b	秋	本田　勝	火3	法	36
02550	統計学a	春	本田　勝	火4	法	36
02551	統計学b	秋	本田　勝	火4	法	36
02520	統計学a	春	松井　敬	火2	法	37
02521	統計学b	秋	松井　敬	火2	法	37
02517	統計学a	春	松井　敬	火3	法	37
02518	統計学b	秋	松井　敬	火3	法	37
	コンピュータ入門a	春	各担当教員		外　法	38
	コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外　法	38
02608	プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3		39
03157	経営学a	春	冨田　忠義	月3	営	40
03158	経営学b	秋	冨田　忠義	月3	営	40
02449	簿記原理a	春	井出　健二郎	火4		41
02450	簿記原理b	秋	井出　健二郎	火4		41
02459	簿記原理b	春	井出　健二郎	火5		42
02458	簿記原理a	秋	井出　健二郎	火5		42
02452	簿記原理a	春	内倉　滋	月2		43
02453	簿記原理b	秋	内倉　滋	月2		43
12051	簿記原理a	春	香取　徹	水2		44
12052	簿記原理b	秋	香取　徹	水2		44
02455	簿記原理a	春	金井　繁雅	月4		45
02456	簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4		45
02588	簿記原理a	春	細田　哲	金4		46
02589	簿記原理b	秋	細田　哲	金4		46
02495	簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1		47
02496	簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1		47
02693	簿記原理a	春	山内　暁	火4		48
02694	簿記原理b	秋	山内　暁	火4		48
02417	簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1		49
02418	簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1		49

◇　社会科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02486	高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		51
02487	高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		51
03021	法学	通年	内山　良雄	木3	外　法	185

◇　人文科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02624	現代文化論a	春	柴崎　信三	木3	外　法	54
02625	現代文化論b	秋	柴崎　信三	木3	外　法	54

◇　自然科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02680	数学a	春	高木　悟	土1	外　法	50
02681	数学b	秋	高木　悟	土1	外　法	50
02532	数学a	春	高木　悟	土2	外　法	50
02533	数学b	秋	高木　悟	土2	外　法	50

◇　スポーツ・健康　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02544	精神衛生論	通年	中野　隆史	火4	法	52
02762	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		53
02763	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		53
02773	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		53
02774	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		53

※上記以外の「学科基礎科目」(外国語科目含)については、全学共通授業科目との合併授業です。
履修を希望する場合は、教務課経済学部担当係で合併一覧表を受け取ってください。

≪　学科専門科目　≫

◇　経済外国語　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03041	経済外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	営　外　法	55
03042	経済外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	営　外　法	55
10945	経済外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	営　外　法	56
10946	経済外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	営　外　法	56
12806	経済外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木5	営　外　法	57
12807	経済外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木5	営　外　法	57
11940	経済外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木2	営　外　法	58
11941	経済外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木2	営　外　法	58
06302	経済外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	営　外　法	59
06303	経済外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	営　外　法	59
03205	経済外国語Ⅰa	春	香取　徹	水1	営　外　法	60
03206	経済外国語Ⅰb	秋	香取　徹	水1	営　外　法	60
03072	経済外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	営　外　法	61
03073	経済外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	営　外　法	61
03296	経済外国語Ⅰa	春	上坂　卓郎	火1	営　外　法	62
03297	経済外国語Ⅰb	秋	上坂　卓郎	火1	営　外　法	62
03055	経済外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	営　外　法	63
10519	経済外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	営　外　法	63
10652	経済外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	営　外　法	64
03056	経済外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	営　外　法	64
03254	経済外国語Ⅰa	春	小林　進	金3	営　外　法	65
03255	経済外国語Ⅰb	秋	小林　進	金3	営　外　法	65
03276	経済外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	営　外　法	66
03277	経済外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	営　外　法	66

03075	経済外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	営	外	法	67
03076	経済外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	営	外	法	67
03086	経済外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	営	外	法	68
03087	経済外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	営	外	法	68
12812	経済外国語Ⅰa	春	藤山　英樹	木1	営	外	法	69
12813	経済外国語Ⅰb	秋	藤山　英樹	木1	営	外	法	69
13113	経済外国語Ⅰa	春	堀江　郁美	水1	営	外	法	70
13114	経済外国語Ⅰb	秋	堀江　郁美	水1	営	外	法	70
09459	経済外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	木5	営	外	法	71
09458	経済外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	木5	営	外	法	71
03083	経済外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	営	外	法	72
03084	経済外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	営	外	法	72
03101	経済外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	営	外	法	73
03102	経済外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	営	外	法	73
03293	経済外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	営	外	法	74
03294	経済外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	営	外	法	74
03199	経済外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	営	外	法	75
03200	経済外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	営	外	法	75
03154	経済外国語Ⅰa	春	森　健	水1	営	外	法	76
03155	経済外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	営	外	法	76
03122	経済外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	営	外	法	77
03123	経済外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	営	外	法	77
03240	経済外国語Ⅰa	春	山内　暁	火5	営	外	法	78
03241	経済外国語Ⅰb	秋	山内　暁	火5	営	外	法	78
03175	経済外国語Ⅰa	春	山越　徳	水1	営	外	法	79
03176	経済外国語Ⅰb	秋	山越　徳	水1	営	外	法	79
11948	経済外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	営	外	法	80
11945	経済外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	営	外	法	80
12802	経済外国語Ⅰa	秋	山本　美樹子	水2	営	外	法	81
03078	経済外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	営	外	法	82
03079	経済外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	営	外	法	82
03181	経済外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水2	営	外	法	83
03182	経済外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水2	営	外	法	83
11766	経済外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	営	外	法	84
11767	経済外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	営	外	法	84
09369	経済外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	金1	営	外	法	85
09370	経済外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	金1	営	外	法	85
03033	経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J. ブローガン	月4	営	外	法	86
10887	経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J. ブローガン	月4	営	外	法	86
03058	経済外国語Ⅰa（留学生用）	春	J. ブローガン	月5	営	外	法	86
03059	経済外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J. ブローガン	月5	営	外	法	86
07685	経済外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	営	外	法	87
07686	経済外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	営	外	法	87
09282	経済外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	営	外	法	88
09283	経済外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	営	外	法	88
03035	経済外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	水2	営	外	法	89
09381	経済外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	水2	営	外	法	89

◇　経済理論・経済学史　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03149	マクロ経済学a	春	黒木　亮	月1	営	90
03150	マクロ経済学b	秋	黒木　亮	月1	営	90
09222	マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	営	91
09223	マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	営	91
03172	ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	営	92
03268	ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	営	92

12327	ミクロ経済学a	春	藤山　英樹	月4	営	93
03173	ミクロ経済学b	秋	藤山　英樹	月4	営	93
03030	経済学史a	春	黒木　亮	木3		94
03031	経済学史b	秋	黒木　亮	木3		94
03128	経済変動論a	春	山下　裕歩	月1		95
03129	経済変動論b	秋	山下　裕歩	月1		95
	経済社会学a		本年度休講			
	経済社会学b		本年度休講			
	経済哲学a		本年度休講			
	経済哲学b		本年度休講			

◇　経済統計・計量経済　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
	経済統計論a		本年度休講			
	経済統計論b		本年度休講			
03251	計量経済学a	春	藤山　英樹	木2		96
03252	計量経済学b	秋	藤山　英樹	木2		96

◇　経済政策　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03202	経済政策論a	春	阿部　正浩	木2	営	97
03203	経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2	営	97
03248	経済開発論a	春	千代浦　昌道	金2	言	98
03249	経済開発論b	秋	千代浦　昌道	金2	言	98
03080	環境政策論a	春	塩田　尚樹	火1		99
03081	環境政策論b	春	塩田　尚樹	水1		99

◇　経済史　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03213	日本経済史a	春	奈倉　文二	水1	営	100
03214	日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1	営	100
03262	日本社会史a	春	新井　孝重	火2		101
03243	日本社会史b	秋	新井　孝重	火2		101
	東洋経済史a		本年度休講			
	東洋経済史b		本年度休講			
03119	西洋経済史a	春	御園生　眞	火4		102
03120	西洋経済史b	秋	御園生　眞	火4		102

◇　国際経済　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03137	国際経済論a	春	益山　光央	火3	営　外　法	103
03138	国際経済論b	秋	益山　光央	火3	営　外　法	103
03178	国際金融論a	秋	山本　美樹子	月2	法	104
03179	国際金融論b	秋	山本　美樹子	月3	法	104

◇　地域経済　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03066	日本経済論a	春	波形　昭一	火5	営　言　法	105
03067	日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	営　言　法	105
03216	アメリカ経済論a	春	本田　浩邦	木3		106
03217	アメリカ経済論b	秋	本田　浩邦	木3		106
03052	ラテンアメリカ経済論a	春	松本　栄次	月2		107
03053	ラテンアメリカ経済論b	秋	松本　栄次	月2		107
03264	西ヨーロッパ経済論a	春	大西　健夫	火1		108
03265	西ヨーロッパ経済論b	秋	大西　健夫	火1		108
	東ヨーロッパ経済論a		本年度休講			
	東ヨーロッパ経済論b		本年度休講			

03113	東アジア・中国経済論a	春	全　載旭	木2	言	109
03114	東アジア・中国経済論b	秋	全　載旭	木2	言	109
03260	オセアニア経済論a	春	森　健	金3	言	110
03261	オセアニア経済論b	秋	森　健	金3	言	110
03273	アフリカ経済論a	春	原口　武彦	金2		111
03274	アフリカ経済論b	秋	原口　武彦	金2		111
	東南アジア経済論a		本年度休講			
	東南アジア経済論b		本年度休講			
03400	中東経済論a	春	平井　文子	金2		112
03401	中東経済論b	秋	平井　文子	金2		112

◇　金融経済　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03160	金融経済論a	春	須藤　時仁	火1	営	113
03161	金融経済論b	秋	須藤　時仁	火1	営	113
03208	金融システム論a	春	須藤　時仁	火2		114
03209	金融システム論b	秋	須藤　時仁	火2		114

◇　財政　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03146	財政学a	春	野村　容康	木3	営	115
03147	財政学b	秋	野村　容康	木3	営	115
03044	公共経済学a	春	伊藤　為一郎	月2		116
03045	公共経済学b	秋	伊藤　為一郎	月2		116
	日本財政論a		本年度休講			
	日本財政論b		本年度休講			
03237	地方財政論a	春	伊藤　為一郎	木4		117
03238	地方財政論b	秋	伊藤　為一郎	木4		117

◇　環境・都市・経済地理　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03125	環境経済学a	春	浜本　光紹	火3		118
03126	環境経済学b	秋	浜本　光紹	火3		118
10523	都市経済学a	春	倉橋　透	金1		119
10524	都市経済学b	秋	倉橋　透	金1		119
03092	経済地理学a	春	犬井　正	火2		120
03093	経済地理学b	秋	犬井　正	火2		120
	交通経済論a		本年度休講			
	交通経済論b		本年度休講			

◇　産業経済　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
	産業政策論a		本年度休講			
	産業政策論b		本年度休講			
03027	産業組織論a	春	青木　雅明	月1		121
03028	産業組織論b	秋	青木　雅明	月1		121
03231	産業構造論a	春	山越　徳	木2		122
03232	産業構造論b	秋	山越　徳	木2		122

◇　労働・社会政策　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
12396	社会政策a	春	酒井　正	木5		123
12397	社会政策b	秋	酒井　正	木5		123
03219	労働経済学a	春	森永　卓郎	木2		124
03220	労働経済学b	秋	森永　卓郎	木2		124

≪ 関連専門科目 ≫

◇ 経営・会計 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03225	経営学原理a	春	高松　和幸	火2	営	133
03226	経営学原理b	秋	高松　和幸	火2	営	133
03131	経営学原理a	春	西本　直人	火4	営	134
03132	経営学原理b	秋	西本　直人	火4	営	134
03116	企業論a	春	平井　岳哉	木4	営	147
03117	企業論b	秋	平井　岳哉	木4	営	147
03095	会計学a	春	内倉　滋	火2	法	125
03096	会計学b	秋	内倉　滋	火2	法	125

◇ 統計・情報科学 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
09874	応用統計学a	春	本田　勝	水2	営	164
09875	応用統計学b	秋	本田　勝	水2	営	164
03257	標本調査論a	春	松井　敬	金3	営	165
03258	標本調査論b	秋	松井　敬	金3	営	165
03038	データベース論a	春	堀江　郁美	月1	営	166
03039	データベース論b	秋	堀江　郁美	月1	営	166
03270	データベース論a	春	堀江　郁美	金4	営	166
03271	データベース論b	秋	堀江　郁美	金4	営	166
03290	コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	営	167
03291	コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	営	167
03110	マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	営	168
03111	マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	営	168
03190	マルチメディア論a	春	森　園子	水4	営	169
03191	マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	営	169
03187	プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	営　言	172
03188	プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	営　言	172
03163	プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	営　言	173
03164	プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	営　言	173
03245	プログラミング論a	春	堀江　郁美	金2	営　言	174
03246	プログラミング論b	秋	堀江　郁美	金2	営　言	174
03184	プログラミング論a	春	森　園子	水3	営　言	175
03185	プログラミング論b	秋	森　園子	水3	営　言	175

◇ 政治・法律 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02647	政治学総論	通年	杉田　孝夫	木1	外　法	186
03017	民法（春学期週2回）	春	常岡　史子	火1/木2	法	187
02707	民法（春学期週2回）	春	藤田　貴宏	水1/木4	法	188
02662	商法	通年	藩　阿憲	水3	法	189

◇ 総合講座 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02632	総合講座(1)a	春	経済学部	水3		191
02633	総合講座(1)b	秋	経済学部	水3		191

◇ 特殊講義 ◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02635	特殊講義A（経済学入門）	通年	阿部　正浩	火1	法	192
02640	特殊講義B（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		193
13617	特殊講義B（新聞の読み方テレビの見方）	春	江川　紹子	木3		194
13621	特殊講義B（新聞の読み方テレビの見方）	秋	江川　紹子	木3		194
13618	特殊講義B（インタビュー入門）	春	江川　紹子	木4		195
13623	特殊講義B（インタビュー入門）	秋	江川　紹子	木4		195

13683	特殊講義B（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	春	松下　信武	土2	196
13684	特殊講義B（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	秋	松下　信武	土2	196
13685	特殊講義B（幸福に生きるための対話）	春	松下　信武	土4	197
13686	特殊講義B（幸福に生きるための対話）	秋	松下　信武	土4	197
07993	特殊講義B（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4	198

◇　留学生　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
04335	日本事情a	春	守田　逸人	月5		199
04336	日本事情b	秋	守田　逸人	月5		199
04237	日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月2	言	200
04268	日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月3	言	200

【このページは白紙です。メモ欄に活用してください。】

学則別表

別表Ⅱ－２　経営学科

別表Ⅱ－２－（１）　学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科基礎科目	経済・経営入門	経営学ａ	2	4	24
		経営学ｂ	2		
		簿記原理ａ	2	4	
		簿記原理ｂ	2		
		コンピュータ入門ａ	2		
		コンピュータ入門ｂ	2		
		プレゼンテーション技法	2		
		経済学ａ	2		
		経済学ｂ	2		
		統計学ａ	2		
		統計学ｂ	2		
	外国語	第一外国語	2	8	
		第二外国語	2		
	社会科学	高齢化社会論ａ	2		
		高齢化社会論ｂ	2		
		社会学	4		
		法学	4		
		日本国憲法	4		
	人文科学	現代文化論ａ	2		
		現代文化論ｂ	2		
		文化人類学	4		
		心理学	4		
		歴史学（日本史･東洋史･西洋史）	4		
		哲学	4		
		文学（日本文学･世界文学）	4		
		国語	4		
	自然科学	地球環境論	4		
		数学ａ	2		
		数学ｂ	2		
		地理学	4		
	スポーツ・健康	精神衛生論	4		
		医療・福祉概論ａ	2		
		医療・福祉概論ｂ	2		
		スポーツ・健康論ａ	2		
		スポーツ・健康論ｂ	2		
		体育	2		
合計				16	24
				40	

別表Ⅱ－２－（2）　学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科専門科目	演習・経営外国語	基礎演習	2		
		演習Ⅰ	4	4	
		演習Ⅱ	4		
		経営外国語Ⅰａ	2	4	
		経営外国語Ⅰｂ	2		
		経営外国語Ⅱａ	2		
		経営外国語Ⅱｂ	2		
		卒業研究	4		
	経営	経営学原理ａ	2	4	
		経営学原理ｂ	2		
		経営戦略論ａ	2		
		経営戦略論ｂ	2		
		経営管理論ａ	2		
		経営管理論ｂ	2		
		経営組織論ａ	2		
		経営組織論ｂ	2		
		経営財務論ａ	2		
		経営財務論ｂ	2		
		人的資源管理論ａ	2		
		人的資源管理論ｂ	2		
		国際経営論ａ	2		
		国際経営論ｂ	2		
	経営史	経営史ａ	2		
		経営史ｂ	2		
		日本経営史ａ	2		
		日本経営史ｂ	2		
	商業	マーケティング論ａ	2		
		マーケティング論ｂ	2		
		広告論ａ	2		
		広告論ｂ	2		
		行動科学論ａ	2		
		行動科学論ｂ	2		
		保険論ａ	2		
		保険論ｂ	2		
		貿易論ａ	2		
		貿易論ｂ	2		
		証券市場論ａ	2		
		証券市場論ｂ	2		
	企業	企業論ａ	2		
		企業論ｂ	2		
		企業形態論ａ	2		
		企業形態論ｂ	2		
		ベンチャービジネス論ａ	2		
		ベンチャービジネス論ｂ	2		
		非営利組織マネジメント論ａ	2		
		非営利組織マネジメント論ｂ	2		
		企業文化論ａ	2		
		企業文化論ｂ	2		
		研究・開発マネジメントａ	2		
		研究・開発マネジメントｂ	2		

別表Ⅱ－２－（３） 関連専門科目群

	会計	会計学原理ａ	2	80
		会計学原理ｂ	2	
		財務会計論ａ	2	
		財務会計論ｂ	2	
		管理会計論ａ	2	
		管理会計論ｂ	2	
		社会会計論ａ	2	
		社会会計論ｂ	2	
		原価計算論ａ	2	
		原価計算論ｂ	2	
		会計監査論ａ	2	
		会計監査論ｂ	2	
		税務会計論ａ	2	
		税務会計論ｂ	2	
		経営分析論ａ	2	
		経営分析論ｂ	2	
		上級簿記ａ	2	
		上級簿記ｂ	2	
		国際会計論ａ	2	
		国際会計論ｂ	2	
	情報科学	経営数学ａ	2	
		経営数学ｂ	2	
		応用統計学ａ	2	
		応用統計学ｂ	2	
		標本調査論ａ	2	
		標本調査論ｂ	2	
		データベース論ａ	2	
		データベース論ｂ	2	
		コンピュータシミュレーション論ａ	2	
		コンピュータシミュレーション論ｂ	2	
		マルチメディア論ａ	2	
		マルチメディア論ｂ	2	
		情報検索論ａ	2	
		情報検索論ｂ	2	
		情報システム論ａ	2	
		情報システム論ｂ	2	
		プログラミング論ａ	2	
		プログラミング論ｂ	2	
		情報社会論ａ	2	
		情報社会論ｂ	2	
		情報通信ネットワークａ	2	
		情報通信ネットワークｂ	2	
		コンピュータネットワーク	2	
		コンピュータアーキテクチャ	2	
		情報と職業ａ	2	
		情報と職業ｂ	2	
		アルゴリズム論ａ	2	
		アルゴリズム論ｂ	2	
	経営システム	オペレーションズ･リサーチａ	2	
		オペレーションズ･リサーチｂ	2	
		システムズエンジニアリングａ	2	
		システムズエンジニアリングｂ	2	
		経営システム工学ａ	2	
		経営システム工学ｂ	2	

関連専門科目	経済理論・経済政策	マクロ経済学ａ	2		
		マクロ経済学ｂ	2		
		ミクロ経済学ａ	2		
		ミクロ経済学ｂ	2		
		経済政策論ａ	2		
		経済政策論ｂ	2		
	日本経済・国際経済	日本経済論ａ	2		
		日本経済論ｂ	2		
		日本経済史ａ	2		
		日本経済史ｂ	2		
		国際経済論ａ	2		
		国際経済論ｂ	2		
	金融･財政	金融経済論ａ	2		
		金融経済論ｂ	2		
		財政学ａ	2		
		財政学ｂ	2		
	政治･法律	政治学総論	4		
		民法	4		
		商法	4		
		著作権法	4		
	総合講座	*総合講座（１） ａ	2		
		*総合講座（１） ｂ	2		
		*総合講座（２） ａ	2		
		*総合講座（２） ｂ	2		
	特殊講義	特殊講義Ａ	4		
		特殊講義Ｂ	2		
合計				12	80
				92	

備 考

（１）卒業単位数は必修２８単位、選択１０４単位、合計して最低１３２単位以上修得するものとする。
１３２単位の内訳は、学科基礎科目４０単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから９２単位以上である 。

（２）学科専門科目と関連専門科目（必修科目は除く）のうち、２８単位までは経済学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は１２単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

（３）第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一カ国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一カ国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。
第一外国語は一学年に４単位、二学年に４単位、合計８単位を修得するものとする。

（４）*の講義科目は年度ごとに定める。

（５）ａ・ｂおよびｂ科目は半年で完結する。

本表は、２００１年度入学者より適用する。

ただし、２０００年度入学者は、高等学校１種免許状（情報）を取得する場合に限り、上記科目を履修することができる。

2001～2002年度入学生用

経　営　学　科

≪　学科基礎科目　≫

◇　経営・経済入門　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03480	経営学a	春	有吉　秀樹	水1	済　外　法	126
03508	経営学b	秋	有吉　秀樹	水1	済　外　法	126
03491	経営学a	春	岡部　康弘	水1	済　外　法	127
03499	経営学b	秋	岡部　康弘	水1	済　外　法	127
03520	経営学a	春	上坂　卓郎	水1	済　外　法	128
03489	経営学b	秋	上坂　卓郎	水1	済　外　法	128
03488	経営学a	春	日下　泰夫	水1	済　外　法	129
03521	経営学b	秋	日下　泰夫	水1	済　外　法	129
03507	経営学a	春	小林　哲也	水1	済　外　法	130
03481	経営学b	秋	小林　哲也	水1	済　外　法	130
10508	経営学a	春	平井　岳哉	水1	済　外　法	131
10509	経営学b	秋	平井　岳哉	水1	済　外　法	131
02449	簿記原理a	春	井出　健二郎	火4		41
02450	簿記原理b	秋	井出　健二郎	火4		41
02459	簿記原理b	春	井出　健二郎	火5		42
02458	簿記原理a	秋	井出　健二郎	火5		42
02452	簿記原理a	春	内倉　滋	月2		43
02453	簿記原理b	秋	内倉　滋	月2		43
12051	簿記原理a	春	香取　徹	火2		44
12052	簿記原理b	秋	香取　徹	火2		44
02455	簿記原理a	春	金井　繁雅	月4		45
02456	簿記原理b	秋	金井　繁雅	月4		45
02588	簿記原理a	春	細田　哲	金4		46
02589	簿記原理b	秋	細田　哲	金4		46
02495	簿記原理a	春	百瀬　房徳	木1		47
02496	簿記原理b	秋	百瀬　房徳	木1		47
02693	簿記原理a	春	山内　暁	木4		48
02694	簿記原理b	秋	山内　暁	木4		48
02417	簿記原理a	春	湯田　雅夫	火1		49
02418	簿記原理b	秋	湯田　雅夫	火1		49
	コンピュータ入門a	春	各担当教員		外　法	38
	コンピュータ入門b	秋	各担当教員		外　法	38
02608	プレゼンテーション技法	秋	富澤　儀一	水3		39
03467	経済学a	春	米山　昌幸	木1	済　外　法	132
03468	経済学b	秋	米山　昌幸	木1	済　外　法	132
02514	統計学a	春	冨田　幸弘	月2	法	35
02515	統計学b	秋	冨田　幸弘	月2	法	35
02541	統計学a	春	冨田　幸弘	月3	法	35
09229	統計学b	秋	冨田　幸弘	月3	法	35
02553	統計学a	春	本田　勝	火3	法	36
02554	統計学b	秋	本田　勝	火3	法	36
02550	統計学a	春	本田　勝	火4	法	36
02551	統計学b	秋	本田　勝	火4	法	36
02520	統計学a	春	松井　敬	火2	法	37
02521	統計学b	秋	松井　敬	火2	法	37
02517	統計学a	春	松井　敬	火3	法	37
02518	統計学b	秋	松井　敬	火3	法	37

◇　社会科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02486	高齢化社会論a	春	奥山　正司	月1		51
02487	高齢化社会論b	秋	奥山　正司	月1		51
03021	法学	通年	内山　良雄	木3	外　法	185

◇　人文科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02624	現代文化論a	春	柴崎　信三	木3	外　法	54
02625	現代文化論b	秋	柴崎　信三	木3	外　法	54

◇　自然科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02680	数学a	春	高木　悟	土1	外　法	50
02681	数学b	秋	高木　悟	土1	外　法	50
02532	数学a	春	高木　悟	土2	外　法	50
02533	数学b	秋	高木　悟	土2	外　法	50

◇　スポーツ・健康　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02544	精神衛生論	通年	中野　隆史	火4	法	52
02762	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土1		53
02763	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土1		53
02773	医療・福祉概論a	春	藤井　賢一郎	土2		53
02774	医療・福祉概論b	秋	藤井　賢一郎	土2		53

※上記以外の「学科基礎科目」(外国語科目含)については、全学共通授業科目との合併授業です。
履修を希望する場合は、教務課経済学部担当係で合併一覧表を受け取ってください。

≪　学科専門科目　≫

◇　経営外国語　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03304	経営外国語Ⅰa	春	青木　雅明	月2	済　外　法	55
03305	経営外国語Ⅰb	秋	青木　雅明	月2	済　外　法	55
10942	経営外国語Ⅰa	春	有吉　秀樹	木2	済　外　法	56
10943	経営外国語Ⅰb	秋	有吉　秀樹	木2	済　外　法	56
12808	経営外国語Ⅰa	春	伊藤　為一郎	木5	済　外　法	57
12809	経営外国語Ⅰb	秋	伊藤　為一郎	木5	済　外　法	57
11942	経営外国語Ⅰa	春	岡部　康弘	木2	済　外　法	58
11943	経営外国語Ⅰb	秋	岡部　康弘	木2	済　外　法	58
06299	経営外国語Ⅰa	春	奥山　正司	月2	済　外　法	59
06300	経営外国語Ⅰb	秋	奥山　正司	月2	済　外　法	59
03373	経営外国語Ⅰa	春	香取　徹	水1	済　外　法	60
03374	経営外国語Ⅰb	秋	香取　徹	水1	済　外　法	60
03326	経営外国語Ⅰa	春	金井　繁雅	月5	済　外　法	61
03327	経営外国語Ⅰb	秋	金井　繁雅	月5	済　外　法	61
03398	経営外国語Ⅰa	春	上坂　卓郎	火1	済　外　法	62
03399	経営外国語Ⅰb	秋	上坂　卓郎	火1	済　外　法	62
10521	経営外国語Ⅰa	春	倉橋　透	水2	済　外　法	63
10522	経営外国語Ⅰb	秋	倉橋　透	水2	済　外　法	63
03312	経営外国語Ⅰa	春	黒木　亮	木2	済　外　法	64
03313	経営外国語Ⅰb	秋	黒木　亮	木2	済　外　法	64
03384	経営外国語Ⅰa	春	小林　進	金3	済　外　法	65
03385	経営外国語Ⅰb	秋	小林　進	金3	済　外　法	65
03387	経営外国語Ⅰa	春	小林　哲也	金3	済　外　法	66
03388	経営外国語Ⅰb	秋	小林　哲也	金3	済　外　法	66

03329	経営外国語Ⅰa	春	齋藤　正章	月5	済	外	法	67
03330	経営外国語Ⅰb	秋	齋藤　正章	月5	済	外	法	67
03338	経営外国語Ⅰa	春	波形　昭一	火2	済	外	法	68
03339	経営外国語Ⅰb	秋	波形　昭一	火2	済	外	法	68
12814	経営外国語Ⅰa	春	藤山　英樹	木1	済	外	法	69
12815	経営外国語Ⅰb	秋	藤山　英樹	木1	済	外	法	69
13115	経営外国語Ⅰa	春	堀江　郁美	水1	済	外	法	70
13116	経営外国語Ⅰb	秋	堀江　郁美	水1	済	外	法	70
10653	経営外国語Ⅰa	春	本田　浩邦	木5	済	外	法	71
10654	経営外国語Ⅰb	秋	本田　浩邦	木5	済	外	法	71
03335	経営外国語Ⅰa	春	益山　光央	火1	済	外	法	72
03336	経営外国語Ⅰb	秋	益山　光央	火1	済	外	法	72
03344	経営外国語Ⅰa	春	松本　栄次	火2	済	外	法	73
03345	経営外国語Ⅰb	秋	松本　栄次	火2	済	外	法	73
03395	経営外国語Ⅰa	春	御園生　眞	水1	済	外	法	74
03396	経営外国語Ⅰb	秋	御園生　眞	水1	済	外	法	74
03370	経営外国語Ⅰa	春	百瀬　房徳	火1	済	外	法	75
03371	経営外国語Ⅰb	秋	百瀬　房徳	火1	済	外	法	75
03355	経営外国語Ⅰa	春	森　健	水1	済	外	法	76
03356	経営外国語Ⅰb	秋	森　健	水1	済	外	法	76
03347	経営外国語Ⅰa	春	森永　卓郎	木4	済	外	法	77
03348	経営外国語Ⅰb	秋	森永　卓郎	木4	済	外	法	77
03381	経営外国語Ⅰa	春	山内　暁	火5	済	外	法	78
03382	経営外国語Ⅰb	秋	山内　暁	火5	済	外	法	78
03361	経営外国語Ⅰa	春	山越　德	水1	済	外	法	79
03362	経営外国語Ⅰb	秋	山越　德	水1	済	外	法	79
11950	経営外国語Ⅰa	春	山下　裕歩	火3	済	外	法	80
11952	経営外国語Ⅰb	秋	山下　裕歩	火3	済	外	法	80
12803	経営外国語Ⅰa	秋	山本　美樹子	水2	済	外	法	81
03332	経営外国語Ⅰa	春	湯田　雅夫	水1	済	外	法	82
03333	経営外国語Ⅰb	秋	湯田　雅夫	水1	済	外	法	82
03364	経営外国語Ⅰa	春	米山　昌幸	水2	済	外	法	83
03365	経営外国語Ⅰb	秋	米山　昌幸	水2	済	外	法	83
11770	経営外国語Ⅰa（フランス語）	春	千代浦　昌道	水2	済	外	法	84
11771	経営外国語Ⅰb（フランス語）	秋	千代浦　昌道	水2	済	外	法	84
10621	経営外国語Ⅰa（中国語）	春	全　載旭	金1	済	外	法	85
10622	経営外国語Ⅰb（中国語）	秋	全　載旭	金1	済	外	法	85
03299	経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月4	済	外	法	86
03300	経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月4	済	外	法	86
03315	経営外国語Ⅰa（留学生用）	春	J．ブローガン	月5	済	外	法	86
03316	経営外国語Ⅰb（留学生用）	秋	J．ブローガン	月5	済	外	法	86
07687	経営外国語Ⅱa	春	岡村　国和	木3	済	外	法	87
07688	経営外国語Ⅱb	秋	岡村　国和	木3	済	外	法	87
09284	経営外国語Ⅱa	春	野村　容康	火2	済	外	法	88
09285	経営外国語Ⅱb	秋	野村　容康	火2	済	外	法	88
09376	経営外国語Ⅱa（中国語）	春	全　載旭	水2	済	外	法	89
10623	経営外国語Ⅱb（中国語）	秋	全　載旭	水2	済	外	法	89

◇　経営　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03561	経営学原理a	春	高松　和幸	火2	済	133
03562	経営学原理b	秋	高松　和幸	火2	済	133
03447	経営学原理a	春	西本　直人	火4	済	134
12599	経営学原理b	秋	西本　直人	火4	済	134
03544	経営戦略論a	春	冨田　忠義	木2		135
03545	経営戦略論b	秋	冨田　忠義	木2		135

03555	経営管理論a	春	西本　直人	火5		136
03556	経営管理論b	秋	西本　直人	火5		136
	経営組織論a		本年度休講			
	経営組織論b		本年度休講			
03549	経営財務論a	春	細田　哲	金3		137
03550	経営財務論b	秋	細田　哲	金3		137
03526	人的資源管理論a	春	岡部　康弘	金2		138
03527	人的資源管理論b	秋	岡部　康弘	金2		138
03558	国際経営論a	春	小林　哲也	木3	法	139
03559	国際経営論b	秋	小林　哲也	木3	法	139

◇　経営史　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03584	経営史a	春	柳　敦	金3		140
03585	経営史b	秋	柳　敦	金3		140
03504	日本経営史a	春	奈倉　文二	水2		141
03505	日本経営史b	秋	奈倉　文二	水2		141

◇　商業　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03570	マーケティング論a	春	有吉　秀樹	金3		142
03571	マーケティング論b	秋	有吉　秀樹	金3		142
10818	広告論a	春	市川　嘉彦	月2	外　法	143
03475	広告論b	秋	市川　嘉彦	月2	外　法	143
	行動科学論a		本年度休講			
	行動科学論b		本年度休講			
03414	保険論a	春	岡村　国和	月3		144
03415	保険論b	秋	岡村　国和	月3		144
03432	貿易論a	春	米山　昌幸	火1		145
03433	貿易論b	秋	米山　昌幸	火1		145
03552	証券市場論a	春	高橋　元	木2		146
03553	証券市場論b	秋	高橋　元	木2		146

◇　企業　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03441	企業論a	春	平井　岳哉	木4	済	147
03442	企業論b	秋	平井　岳哉	木4	済	147
	企業形態論a		本年度休講			
	企業形態論b		本年度休講			
03406	ベンチャービジネス論a	春	上坂　卓郎	金2		148
03407	ベンチャービジネス論b	秋	上坂　卓郎	金2		148
03435	非営利組織マネジメント論a	春	高松　和幸	月4		149
03436	非営利組織マネジメント論b	秋	高松　和幸	月4		149
03606	企業文化論a	春	斉藤　善久	水4		150
09748	企業文化論b	秋	斉藤　善久	水4		150
03607	研究・開発マネジメントa	春	日下　泰夫	金2		151
03608	研究・開発マネジメントb	秋	日下　泰夫	金2		151

◇　会計　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03457	会計学原理a	春	内倉　滋	水1		152
03458	会計学原理b	秋	内倉　滋	水1		152
03581	財務会計論a	春	高松　正昭	金1		153
03582	財務会計論b	秋	高松　正昭	金1		153
03444	管理会計論a	春	香取　徹	月3		154
03445	管理会計論b	秋	香取　徹	月3		154
03423	社会会計論a	春	湯田　雅夫	月4		155
03424	社会会計論b	秋	湯田　雅夫	月4		155

03419	原価計算論a	春	齋藤　正章	月4		156
03420	原価計算論b	秋	齋藤　正章	月4		156
03538	会計監査論a	春	赤岩　茂	土1		157
03539	会計監査論b	秋	赤岩　茂	土1		157
03604	税務会計論a	春	平　仁	土2		158
03605	税務会計論b	秋	平　仁	土2		158
03567	経営分析論a	春	百瀬　房徳	火2		159
03568	経営分析論b	秋	百瀬　房徳	火2		159
03409	上級簿記（商業）a	春	細田　哲	金5		160
03410	上級簿記（商業）b	秋	細田　哲	金5		160
03477	上級簿記（工業）a	春	香取　徹	月4		161
03478	上級簿記（工業）b	秋	香取　徹	月4		161
03575	国際会計論a	春	小林　公司	木4		162
03576	国際会計論b	秋	小林　公司	木4		162

◇　情報科学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03517	経営数学a	春	本田　勝	木2		163
03518	経営数学b	秋	本田　勝	木2		163
03450	応用統計学a	春	本田　勝	水2	済	164
03451	応用統計学b	秋	本田　勝	水2	済	164
03590	標本調査論a	春	松井　敬	金3	済	165
03591	標本調査論b	秋	松井　敬	金3	済	165
03403	データベース論a	春	堀江　郁美	月1	済	166
03404	データベース論b	秋	堀江　郁美	月1	済	166
03598	データベース論a	春	堀江　郁美	金4	済	166
03599	データベース論b	秋	堀江　郁美	金4	済	166
09196	コンピュータシミュレーション論a	春	冨田　幸弘	火2	済	167
09198	コンピュータシミュレーション論b	秋	冨田　幸弘	火2	済	167
03438	マルチメディア論a	春	立田　ルミ	水2	済	168
03439	マルチメディア論b	秋	立田　ルミ	水2	済	168
03535	マルチメディア論a	春	森　園子	水4	済	169
03536	マルチメディア論b	秋	森　園子	水4	済	169
03464	情報検索論a	春	小畑　信夫	火2		170
03465	情報検索論b	秋	福田　求	水1		170
03510	情報検索論a	春	小畑　信夫	火5		170
03511	情報検索論b	秋	福田　求	水2		170
03470	情報システム論a	春	今福　啓	火4		171
03471	情報システム論b	秋	今福　啓	火4		171
03529	プログラミング論a	春	加藤　尚吾	月3	済　言	172
03530	プログラミング論b	秋	加藤　尚吾	月3	済　言	172
03494	プログラミング論a	春	立田　ルミ	火2	済　言	173
03495	プログラミング論b	秋	立田　ルミ	火2	済　言	173
03578	プログラミング論a	春	堀江　郁美	金2	済　言	174
03579	プログラミング論b	秋	堀江　郁美	金2	済　言	174
03523	プログラミング論a	春	森　園子	水3	済　言	175
03524	プログラミング論b	秋	森　園子	水3	済　言	175
03485	情報社会論a	春	柴崎　信三	水3		176
03486	情報社会論b	秋	柴崎　信三	水3		176
03595	情報通信ネットワークb	春	三宅　真	金4		177
03596	情報通信ネットワークa	秋	今福　啓	金2		177
03496	コンピュータネットワーク	春	冨澤　義一	水3		178
03602	コンピユータアーキテクチャ	春	今福　啓	金2		179
09189	情報と職業a	春	冨田　幸弘	水2		180
09190	情報と職業b	秋	小林　哲也	水2		180
03411	アルゴリズム論a	春	木村　昌史	月2		181
03412	アルゴリズム論b	秋	木村　昌史	月2		181

◇　経営システム工学　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03429	オペレーションズ・リサーチa	春	正道寺　勉	火2		182
03430	オペレーションズ・リサーチb	秋	正道寺　勉	月2		182
03532	システムズエンジニアリングa	春	天笠　美知夫	水4		183
03533	システムズエンジニアリングb	秋	天笠　美知夫	水4		183
03587	経営システム工学a	春	日下　泰夫	火2		184
03588	経営システム工学b	秋	日下　泰夫	火2		184

≪　関連専門科目　≫

◇　経済理論・経済政策　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03461	マクロ経済学a	春	黒木　亮	月1	済	90
03462	マクロ経済学b	秋	黒木　亮	月1	済	90
03564	マクロ経済学a	春	山下　裕歩	水1	済	91
03565	マクロ経済学b	秋	山下　裕歩	水1	済	91
03593	ミクロ経済学a	春	小林　進	金2	済	92
03594	ミクロ経済学b	秋	小林　進	金2	済	92
03513	ミクロ経済学a	春	藤山　英樹	月4	済	93
03514	ミクロ経済学b	秋	藤山　英樹	月4	済	93
03541	経済政策論a	春	阿部　正浩	木2	済	97
03542	経済政策論b	秋	阿部　正浩	木2	済	97

◇　日本経済・国際経済　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03426	日本経済論a	春	波形　昭一	火5	済　言　法	105
03427	日本経済論b	秋	波形　昭一	火5	済　言　法	105
03546	日本経済史a	春	奈倉　文二	水1	済	100
03547	日本経済史b	秋	奈倉　文二	水1	済	100
03453	国際経済論a	春	益山　光央	火3	済　外　法	103
03454	国際経済論b	秋	益山　光央	火3	済　外　法	103

◇　金融・財政　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
03483	金融経済論a	春	須藤　時仁	火1	済	113
03484	金融経済論b	秋	須藤　時仁	火1	済	113
07784	財政学a	春	野村　容康	木3	済	115
07785	財政学b	秋	野村　容康	木3	済	115

◇　政治・法律　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02647	政治学総論	通年	杉田　孝夫	木1	外　法	186
03017	民法（春学期週2回）	春	常岡　史子	火1/木2	法	187
02707	民法（春学期週2回）	春	藤田　貴宏	水1/木4	法	188
02662	商法	通年	藩　阿憲	水3	法	189
09876	著作権法	通年	長塚　真琴	水1	法	190

◇　総合講座　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02632	総合講座(1)a	春	経済学部	水3		191
02633	総合講座(1)b	秋	経済学部	水3		191

◇　特殊講義　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
02635	特殊講義A（経済学入門）	通年	阿部　正浩	火1	法	192
02640	特殊講義B（経営学科で何が学べるか）	春	経営学科	水3		193

13617	特殊講義B（新聞の読み方テレビの見方）	春	江川　紹子	木3	194
13621	特殊講義B（新聞の読み方テレビの見方）	秋	江川　紹子	木3	194
13618	特殊講義B（インタビュー入門）	春	江川　紹子	木4	195
13623	特殊講義B（インタビュー入門）	秋	江川　紹子	木4	195
13683	特殊講義B（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	春	松下　信武	土2	196
13684	特殊講義B（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	秋	松下　信武	土2	196
13685	特殊講義B（幸福に生きるための対話）	春	松下　信武	土4	197
13686	特殊講義B（幸福に生きるための対話）	秋	松下　信武	土4	197
07993	特殊講義B（資本市場の役割と証券投資）	秋	経済学部	水4	198

◇　留学生　◇

時間割ｺｰﾄﾞ	科目名	開講期	担当教員名	曜時	履修不可	ページ
04335	日本事情a	春	守田　逸人	月5		199
04336	日本事情b	秋	守田　逸人	月5		199
04237	日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月2	言	200
04268	日本語Ⅱ	通年	斉藤　明	月3	言	200

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅠa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当教員によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の１年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という４つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1　ガイダンス 2 ~ 4　Unit 1 and teachers own materials 5 ~ 8　Unit 2 and teachers own materials 9 ~ 12　Unit 3 and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I 必ず教科書を買うこと。 解答などの書き込みのある中古本を使用しないこと。	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅠb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当教員によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の１年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という４つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1 ~ 3　Unit 4 and teachers own materials 4 ~ 6　Unit 5and teachers own materials 7 ~ 9　Unit 6 and teachers own materials 10 ~ 12　Review and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅡa	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の 2 年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という 4 つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1　ガイダンス 2 ~ 4　Unit 7 and teachers own materials 5 ~ 8　Unit 8 and teachers own materials 9 ~ 12　Unit 9 and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

03 年度以降	インターナショナルコミュニケーションⅡb	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしたがってください。 この授業は、経済学部の 2 年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語で話せる（speaking)、書ける（writing)、読める（reading)、聞ける(listening)という 4 つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、かつ、話す訓練ができます。	1 ~3　Unit 10 and teachers own materials 4 ~ 6　Unit 11 and teachers own materials 7 ~ 9　Unit 12 and teachers own materials 10 ~ 12　Review and teachers own materials
テキスト、参考文献	**評価方法**
Business Venture I	各担当教員による。 4 回以上の欠席した場合は原則不可（F）となる。

07 年度	基礎演習	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、小論文作成を通じて、問題点整理能力・思考力･表現力を身につけることにある。これらの能力は、試験答案の作成、レポートや論文の執筆などで欠かすことはできない。また、後の社会人生活においても大いに役立つものと期待される。	① 3 週に 1 回のペースで小論文の課題を与え、それに各自解答を用意する。 ② 教員が解答のポイントを説明する。 ③ 各自の解答を発表し合い、良い点･改善すべき点を皆でディスカッションする。 現在用意している小論文のテーマは 「リストラに負けない転職の決め手」 「安心社会と信頼社会」 「プロ野球の活性化に必要なことは？」 など
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	ディスカッションの参加状況と期末レポートにより評価する

07 年度	基礎演習	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、小論文作成を通じて、問題点整理能力・思考力･表現力を身につけることにある。これらの能力は、試験答案の作成、レポートや論文の執筆などで欠かすことはできない。また、後の社会人生活においても大いに役立つものと期待される。	① 3 週に 1 回のペースで小論文の課題を与え、それに各自解答を用意する。 ② 教員が解答のポイントを説明する。 ③ 各自の解答を発表し合い、良い点･改善すべき点を皆でディスカッションする。 現在用意している小論文のテーマは 「リストラに負けない転職の決め手」 「安心社会と信頼社会」 「プロ野球の活性化に必要なことは？」 など
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	ディスカッションの参加状況と期末レポートにより評価する

07 年度	基礎演習	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
本講座の主たる目的は、レポートや試験の基礎となるアカデミックな文章を書く力を養うことと、プレゼンテーション能力を身に付けることである。上記の能力は実践を通して身に付けられるものであるから、やり方を説明した後、実際に文章を書いてもらう或いはプレゼンの練習を行う。	１．　講義の受け方 ２．　課題（レポート）の調べ方 ３．　課題の書き方（全体の構成） ４．　序論の書き方 ５．　本論の展開の仕方 ６．　結論の書き方 ７．　文書力を上げる（I） ８．　文章力を上げる（II） ９．　文章力を上げる（III） １０．　プレゼンテーション（I） １１．　プレゼンテーション（II）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席とレポートによる。

07 年度	基礎演習	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
本講座の主たる目的は、レポートや試験の基礎となるアカデミックな文章を書く力を養うことと、プレゼンテーション能力を身に付けることである。上記の能力は実践を通して身に付けられるものであるから、やり方を説明した後、実際に文章を書いてもらう或いはプレゼンの練習を行う。	１．　講義の受け方 ２．　課題（レポート）の調べ方 ３．　課題の書き方（全体の構成） ４．　序論の書き方 ５．　本論の展開の仕方 ６．　結論の書き方 ７．　文書力を上げる（I） ８．　文章力を上げる（II） ９．　文章力を上げる（III） １０．　プレゼンテーション（I） １１．　プレゼンテーション（II）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席とレポートによる。

07 年度	基礎演習	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、１年生が大学での専門的知識を修得できるようになるためにはどのような勉強方法が効果的であるかを理解し、それを身につけることにあります。経済学部の学生として何を学び、それをどのように現実社会で生かしていくかについてのビジョンを持ち、さらに将来、各専門コースに分かれてそれぞれの専門科目の講義を受ける際に、いま学んでいる講義がこれから専攻する他の専門科目にどのように関連しているのかを明確にイメージできるようにすることが重要だと思います。 第２学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学・経営学の基礎的な話が解るように工夫した講義を行います。	1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについて説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方など。 3 社会科学の勉強の仕方（方法論）の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 当面は関心のある新聞記事に基づいて各自コメントの提出をお願いします。 6 各自の自由テーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 7 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。	講義参加者の平常点により行いますので、特に期末試験などは予定していません。

07 年度	基礎演習	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、大学での講義を受ける際に必要な準備や組立てテーマの組立て方などを講義します。また、日頃あまり考えることがない時事問題などについても取り上げ、皆で考えていきます。 春学期と同様に、第２学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学や経営学の基礎的な話が分かるように工夫した講義を行います。 また、問題意識を培いながらテーマを発見し、次にそれをレポートにまとめる時の手順、議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーション技法などについて講義します。 なお、この科目は自分で考える習慣を付けることが大切な科目なので、日頃から新聞やニュース等にこまめに目を通しておくことが必要だと思います。	1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについて説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。 3 社会科学の勉強の仕方（方法論）の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 当面は関心のある新聞記事に基づいて各自コメントの提出をお願いします。 6 各自のテーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 7 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。	講義参加者の平常点により行いますので、特に期末試験などは予定していません。

07 年度	基礎演習	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
諸君はいま大学受験から開放されほっとしていることと思うが、就職活動までの時間は残念ながら多くない。就職環境は好転したものの、あくまで全体の傾向であり、個人間の差は拡大するばかりである。 自分の将来を見据えて、本学の学生としてなにを主に学ぶか、どのように効率よく学ぶか、その学問は自分の将来にどのように役に立つかなどを、自分で考えながら勉強をすすめていく必要がある。 この講義は大学で学び、企業人になるための基礎を学ぶ。毎回企業や経済を題材にして考えたり、議論していく。「自分」なりの意見を持ち、それを「他人」にぶつけて「新しい自分」を意識して形成してもらいたい。勤勉、向上心、積極性を求めます。 必ず第１回から参加してください	1　はじめに－自分を考える（現状認識）－ 2　大学での学習の進め方（ノートをとる。情報を整理する。自分の考えをまとめる） 3　読み方・レポートの書き方の基本（1） 4　読み方・レポートの書き方の基本（2） 5　経済の見方（1） 6　経済の見方（2） 7　経済の見方（3） 8　企業の見方（1） 9　企業の見方（2） 10　企業の見方（3） 11　レポートを作成する 12　まとめ－自分の未来戦略を構想する－ ※　進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に説明する	出席と課題レポート・発表などを総合勘案して行う。詳細は開講時に説明する。

07 年度	基礎演習	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
基礎演習春学期と同様。 履修する場合は第１回から参加してください。	基礎演習春学期と同様
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する	基礎演習春学期と同様

07 年度	基礎演習	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
大学に入学して環境変化にとまどっていませんか。 大学で学ぶとは？　大学ではどの様な能力を修得すべきでしょうか？　レポート・論文の作成方法は？　実社会で必要とされる問題解決能力とは？　この演習ではそのような疑問を皆さんと共に考えます。 今後の大学生活で重要と考えられるテーマを取り挙げ、教員からの課題提起、グループ討論、全体討議を通じて課題に対する認識を深めていきます。 自ら考え､自らの意見を表明し、他の人の考え方を知り、討議を通じて自らの考え方を明確にしていく学習の場を重視しています。 大学生活は社会人になるための準備期間です。プレ社会人として、自らのキャリア開発に向けて、今後の大学生活を主体的にデザインしていくことが重要となるでしょう。皆さんのこれからの大学生活を方向づけるうえで、何らかの指針となり得るような演習をめざしています。 グループ討議ではいくつかの問題解決技法を使用しますが、それらはその都度資料を配布して説明します。	1　ガイダンス、グループ編成、自由討議 2　レポート・論文の書き方１　プレゼン、グループ討議 3　レポート・論文の書き方２：全体討議とまとめ 4　大学で学ぶとは１：課題提起、グループ討議 5　大学で学ぶとは２：グループ討議とまとめ 6　大学で学ぶとは３：全体討議 7　変化の時代を生きる視点１：課題提起、グループ討議 8　変化の時代を生きる視点２：グループ討議とまとめ 9　変化の時代を生きる視点３：全体討議 10　実社会で必要な問題解決能力とは１:課題提起､グループ討議 11　実社会で必要な問題解決能力とは ２：グループ討議とまとめ 12　実社会で必要な問題解決能力とは３：全体討議
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布。	出席と複数のレポートによって評価。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

07 年度	基礎演習	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　大学で勉強するにあたり必要なことは、問題意識を持つことと、問題意識に沿ってさまざまな情報を収集・整理し自分なりの考えをまとめ他の人にわかりやすく伝える技術を得ることである。また、他の人の発表の問題点・論点を把握し討論する技術を得ることも必要である。 　しかし、問題意識や上に述べた技術は黙っていて得られるものではなく、それなりの努力が必要である。この講義では、問題意識を持つこと、上に述べた技術を得ることの練習をする。 【講義概要】 　この講義では、テキストを各自から順番に発表し、全員で議論する。テキストは今後の日本の経済社会に係るものなので、受講者はこのテーマについての問題意識を持つことができるであろう。 　最後に、今後の日本について自分なりの考えをまとめ、レポートとして提出してもらう。	１　講義の進め方についてガイダンス ２　教員から発表（発表の仕方をみていただきたい） ３～１１　受講生から発表 １２　今後の日本についての討論会（全員で） ちなみに取り扱うテーマは １　変わる日本社会のかたち ２　鍵をにぎる団塊世代 ３　ビジネスマンの新しい現実 ４　漂流する若者たち ５　世代が対立する高齢社会 ６　家族の絆と子どもの未来 ７　男と女の戦略 ８　地球環境の危機 ９　グローバル経済の奔流 １０　不安定化するアジア
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:『日本の論点』編集部編「１０年後の日本」（文春新書４７９）	出席（欠席１回につき４点減点)、授業態度及びレポートによる。分担しているのに欠席した場合は加えて５点減点。ただし病気等理由のある場合には減点しない。

07 年度	基礎演習	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　大学で勉強するにあたり必要なことは、問題意識を持つことと、問題意識に沿ってさまざまな情報を収集・整理し自分なりの考えをまとめ他の人にわかりやすく伝える技術を得ることである。また、他の人の発表の問題点・論点を把握し討論する技術を得ることも必要である。 　しかし、問題意識や上に述べた技術は黙っていて得られるものではなく、それなりの努力が必要である。この講義では、問題意識を持つこと、上に述べた技術を得ることの練習をする。 【講義概要】 　この講義では、テキストを各自から順番に発表し、全員で議論する。テキストは今後の日本の経済社会に係るものなので、受講者はこのテーマについての問題意識を持つことができるであろう。 　最後に、今後の日本について自分なりの考えをまとめ、レポートとして提出してもらう。	１　講義の進め方についてガイダンス ２　教員から発表（発表の仕方をみていただきたい） ３～１１　受講生から発表 １２　今後の日本についての討論会（全員で） ちなみに取り扱うテーマは １　変わる日本社会のかたち ２　鍵をにぎる団塊世代 ３　ビジネスマンの新しい現実 ４　漂流する若者たち ５　世代が対立する高齢社会 ６　家族の絆と子どもの未来 ７　男と女の戦略 ８　地球環境の危機 ９　グローバル経済の奔流 １０　不安定化するアジア
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト:『日本の論点』編集部編「１０年後の日本」（文春新書４７９）	出席（欠席１回につき４点減点)、授業態度及びレポートによる。分担しているのに欠席した場合は加えて５点減点。ただし病気等理由のある場合には減点しない。

07 年度	基礎演習	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
大学生活の目的は、自分の頭で考えることのできる自立した精神を養うことだと思います。 そのためのツールが、「教養」や「専門」などの学科目であり、図書館をはじめとする諸施設です。 基礎演習は、こうしたツールを使いこなすための準備と考えてください。 今年は、「グローバリゼーション」および「情報社会」のテーマを中心に、調べものをしたり、グループで議論をしていきます。文章の要約やレジュメ（報告要旨）の作り方、レポートのまとめ方などのトレーニングも、こなします。 これらのテーマに関心がある人の参加を歓迎します。	以下のような内容を、参加者の皆さんと勉強していきます。 １．大学・学問へのオリエンテーション ２．テキストの読み方・レジュメの作り方 ３．「グローバリゼーション」をめぐる議論 ４．「情報社会」をめぐる議論 ５．情報通信とインターネット仕組み ６．日本経済の現状と課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
参加者と相談して決めますが、当面はこちらから配布します。 スーザン・ジョージ『オルター・グローバリゼーション宣言』作品社	参加態度＋レポート

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

07 年度	基礎演習	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やレポートの書き方などを学び、これらに役立つコンピュータ技能などを身につけ、個人やグループで調査研究ができる基礎を見につけることを目標とする。基礎演習では、最近のニュースやコンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで作成する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。	1　基礎演習の概要 2　情報の集め方 3　情報の整理とワープロの利用方法 4　ワープロによる発表 5　統計データの集め方 6　データの整理と表計算ソフトの利用 7　表計算ソフトによる発表 8　プレゼンテーションツールの利用 9　プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 10　ホームページ作成 11　ホームページによる調査内容の発表 12　ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上から検索	出席 20%、授業内での発表 40%、リポート 40%

07 年度	基礎演習	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やレポートの書き方などを学び、これらに役立つコンピュータ技能などを身につけ、個人やグループで調査研究ができる基礎を見につけることを目標とする。基礎演習では、最近のニュースやコンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで作成する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。	1　基礎演習の概要 2　情報の集め方 3　情報の整理とワープロの利用方法 4　ワープロによる発表 5　統計データの集め方 6　データの整理と表計算ソフトの利用 7　表計算ソフトによる発表 8　プレゼンテーションツールの利用 9　プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 10　ホームページ作成 11　ホームページによる調査内容の発表 12　ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上から検索	出席 20%、授業内での発表 40%、リポート 40%

07 年度	基礎演習	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 充実した大学生活を送るためのあらゆる基礎的知識・情報・ノウハウの短期修得。 講義概要 毎回、最初にパソコンにスキャンした日本経済新聞などの重要記事をスクリーンに映写して解説を加える。その後で、右の授業計画にだいたい沿って授業を進める。ただし、授業内容の順序は前後することがある。	1．大学の授業について 2．経済学とはどんな学問か？ 3．経済と経済学の基礎知識とキーワード 4．新聞経済記事の読み方 5．専門書・文献の探し方、図書館の上手な利用法 6．統計資料の種類・特徴・見方・利用法など 7．経済学とパソコン・インターネットの利用法、簡単な統計処理法、グラフの描き方など 8．上手なノートやメモの取り方 9．レポート・論文の書き方・まとめ方 10．あるテーマについて討論してみる 11．経済・経営英語の基礎知識 12．外国語専門書・文献の読み方・利用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の進展に沿って、参考書などを指示する。	出席状況、授業への熱意・積極的参加度、提出レポートの内容などで総合的に評価する。

07 年度	基礎演習	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 充実した大学生活を送るためのあらゆる基礎的知識・情報・ノウハウの短期修得。 講義概要 毎回、最初にパソコンにスキャンした日本経済新聞などの重要記事をスクリーンに映写して解説を加える。その後で、右の授業計画にだいたい沿って授業を進める。ただし、授業内容の順序は前後することがある。	1．大学の授業について 2．経済学とはどんな学問か？ 3．経済と経済学の基礎知識とキーワード 4．新聞経済記事の読み方 5．専門書・文献の探し方、図書館の上手な利用法 6．統計資料の種類・特徴・見方・利用法など 7．経済学とパソコン・インターネットの利用法、簡単な統計処理法、グラフの描き方など 8．上手なノートやメモの取り方 9．レポート・論文の書き方・まとめ方 10．あるテーマについて討論してみる 11．経済・経営英語の基礎知識 12．外国語専門書・文献の読み方・利用法
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の進展に沿って、参考書などを指示する。	出席状況、授業への熱意・積極的参加度、提出レポートの内容などで総合的に評価する。

07 年度	基礎演習	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実に起こっている経済問題に応用している。 1．日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ。 2．与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。 （自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。）	1. 日本の長期不況 2. デフレ 3. ゼロ金利 4. 銀行の危機 5. 財政の危機 6. 日本経済の課題 7. 日本経済の展望 8. アジア経済の動向（Ⅰ） 9. アジア経済の動向（Ⅱ） 10. レジュメの作成 11. レジュメの作成及び発表の練習（Ⅰ） 12. レジュメの作成及び発表の練習（Ⅱ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	授業の平常の参加状況（出欠）、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを勘案して評価する。

07 年度	基礎演習	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実に起こっている経済問題に応用している。 1．日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ。 2．与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。 （自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。）	1. 日本の長期不況 2. デフレ 3. ゼロ金利 4. 銀行の危機 5. 財政の危機 6. 日本経済の課題 7. 日本経済の展望 8. アジア経済の動向（Ⅰ） 9. アジア経済の動向（Ⅱ） 10. レジュメの作成 11. レジュメの作成及び発表の練習（Ⅰ） 12. レジュメの作成及び発表の練習（Ⅱ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	授業の平常の参加状況（出欠）、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを勘案して評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

07 年度	基礎演習	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
大学生がどのように講義ノートをとるのか。同じ講義なのに、異なる形のノートをとり、データや資料の整理がずいぶん違う。いろいろな疑問は、講義だけではなく、学内活動全般にわたって起きてくる。この大学生活での各種の疑問やその時々の意思表示の仕方について、みんなで考えて、実際の形ある表現をしてみたい。こんなことを考えて、基礎演習を有効に活用できれば、大学生としての準備が徐々に整うのではと思っています。 この基礎演習では、時間を２つに分け、前半は、各種データの扱い方や、ニュースにおける問題点などについて考えます。後半は、ホームページ（ＨＰ）の作成を通して、自分自身を表現する力を養います。	１　基礎演習概説 ２　ＨＰの基本（ＨＴＭＬ）・統計学と経済学 ３　ＨＰ作成１（ページ構成）・平均は万能か ４　ＨＰ作成２（画像、背景）・偏差値とは ５　ＨＰ作成３（文書整形）・ベースの異なる比率 ６　ＨＰ作成４（文字飾り）・比率と指数 ７　ＨＰ作成５（リスト）・ニュースの話（１） ８　ＨＰ作成６（リンク）・ニュースの話（２） ９　ＨＰ作成７（フレーム）・ニュースの話（３） １０　ＨＰ作成８（テーブル）・ニュースの話（４） １１　ＨＰ作成９（アップロード）・ニュースの話（５） １２　基礎演習のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
必要なものは、プリントで配布します。	レポート・発表・出席などで総合評価します。

07 年度	基礎演習	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
大学で何をどう学ぶか、どのようにして充実した大学生活を送るかを考えていく。そのための基盤として、健康管理に気をつけることと、良い生活習慣を身につけることが重要である。 学習・研究の方法論として、テーマの見つけ方、資料情報の検索の仕方、資料情報の整理分析の仕方、結果の発表の仕方を学ぶ。これらを各自が自主的に調べ、レポートし、討論する。並行して、テキスト（医療経済、社会保障に関する入門書）の輪読を行う。担当の箇所を精読した上、分からないところを調べ、レジュメを作り、報告し、討論する。これらを通して学問の方法を身につけることを目標とする。	1　オリエンテーション 2　研究・学習テーマの見つけ方 3　図書館の使い方 4　文献の探し方 5　資料情報の整理分析の仕方 6　自分の考えをまとめ結論を導く 7　レポートの書き方（1） 8　レポートの書き方（2） 9　論文の書き方 10 口頭発表の仕方 11 討論の仕方 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
下記を最初の授業までに購入しておくこと。 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫，1994. 広井良典『日本の社会保障』岩波新書，1999.	出席、プレゼンテーション、討論での発言、レポートで評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

07 年度	基礎演習	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
基礎演習の目標は、経済学部に入学した若い諸君に、まずは経済を学ぶことの面白さ、楽しさを知ってもらうことにある。したがって、あまり型にはまらないトーク形式の授業にしたいので、教材には新聞（さしあたり朝日新聞）を使うことにする。 なお、経済を学ぶには経済辞典が絶対に必要である。必ず購入すること。大学で 4 年間使える金森久雄ほか編『経済辞典（第 4 版)』（有斐閣）を推奨する。経済関係の辞典が入っている電子辞書でもよい。	新聞を教材にした自由なトーク形式の授業としたいので、とくに定型的な授業計画は立てない。毎日、新聞に目を通す癖を身につけ、社会の動きに関心を持つような若者になってもらいたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席状況、教室での積極的な発言、学期末試験などで総合評価。

07 年度	基礎演習	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	春学期と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
	春学期と同じ。

07 年度	基礎演習	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
①これから専門に学んでいく経済学や経済の仕組みについての基礎固めをし、またこれら専門科目の基礎にある社会科学的なものの見方や考え方を学びます。 ②経済入門書の発表・討論を通じて、あわせてレジュメの作成・発表の方法・議論の深め方など効果的なプレゼンテーションと討論を行うための「技」を身につけます。 ③受講者には予め割り当てられたテキストの箇所の内容について順次発表してもらいますが、双方向・多方向型の授業を目標としますので、学生間での積極的な発言・質問を期待します。	1．授業の進め方と本演習のルール 2．レジュメの作成と発表の技法 3．学生による発表と討論 4．以下同じ 5． 6． 7． 8． 9． 10． 11． 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは初回の授業において指定します。	出席、担当箇所の報告、授業への取り組み姿勢等を勘案して評価します。

07 年度	基礎演習	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
①これから専門に学んでいく経済学や経済の仕組みについての基礎固めをし、またこれら専門科目の基礎にある社会科学的なものの見方や考え方を学びます。 ②経済入門書の発表・討論を通じて、あわせてレジュメの作成・発表の方法・議論の深め方など効果的なプレゼンテーションと討論を行うための「技」を身につけます。 ③受講者には予め割り当てられたテキストの箇所の内容について順次発表してもらいますが、双方向・多方向型の授業を目標としますので、学生間での積極的な発言・質問を期待します。	1．授業の進め方と本演習のルール 2．レジュメの作成と発表の技法 3．学生による発表と討論 4．以下同じ 5． 6． 7． 8． 9． 10． 11． 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは初回の授業において指定します。	出席、担当箇所の報告、授業への取り組み姿勢等を勘案して評価します。

07 年度	基礎演習	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。 入学したばかりの１年生は，講義の形式，試験，レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると，高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり，とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では，こうした点を考慮して，初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう，学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに，2 年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて，報告・発表・議論の仕方を，比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。	1　文献・研究レジュメの書き方 2　輪読などを通じた文献の読み方・報告の仕方 3　ディベート（3 回程度予定） 4　レポート・論文作成の礼儀作法 5　関心のある題材についてのレポート作成（グループでの作業による） 注：以上の５つのテーマはそれぞれ２～４回の講義回数にわたって取り組む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義のなかで指示，あるいはコピーの配布を行なう。	出席などの平常点，およびレポートによって評価する。

07 年度	基礎演習	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。 入学したばかりの１年生は，講義の形式，試験，レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると，高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり，とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では，こうした点を考慮して，初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう，学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに，2 年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて，報告・発表・議論の仕方を，比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。	1　文献・研究レジュメの書き方 2　輪読などを通じた文献の読み方・報告の仕方 3　ディベート（3 回程度を予定） 4　レポート・論文作成の礼儀作法 5　関心のある題材についてのレポート作成（グループでの作業による） 注：以上の５つのテーマはそれぞれ２～４回の講義回数にわたって取り組む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義のなかで指示，あるいはコピーの配布を行なう。	出席などの平常点，およびレポートによって評価する。

07 年度	基礎演習	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
大学生としての入門講義と位置づけ、「話す」、「読む」、「書く」のコミュニケーション能力に関する基本的事柄について講義を行います。一連の作業を行うことによって、今後必要となるプレゼンテーションやレポート作成に関する知識や技能について習得してほしいと思います。 できるだけわかりやすく楽しめる題材を使って、受講者の出席を喚起していきたいと思います。また情報検索に関する方法についても、講義に組み込んでいきたいと思います。	1　オリエンテーション 2　話す①（グループ討議） 3　話す②（KJ 法） 4　話す③（KJ 法） 5　話す④（交渉） 6　話す⑤（発表） 7　話す⑥（ディベート） 8　書く①（論旨の要約） 9　書く②（表の活用） 10　書く③（見出しの作成） 11　書く④（絵からストーリーを作る） 12　書く⑤（課題作文）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末レポートと出席。講義での貢献も重視します。

07 年度	基礎演習	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	春学期と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

07 年度	基礎演習	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
演習の目的：大学で必要となる論理性を学ぶ. 演習の概要： 『論理トレーニング』は，日本語における，論理的な読解および表現に必要な基礎知識と，その修得のために必要なトレーニング(練習問題)を提供している．このトレーニングを積むことによって，論文執筆，プレゼンテーション，ディベートのすべてにおいて必要な論理性の素養を身に付けることができる. ゼミでは，答えへの導出過程を重視し，各自の考え方を述べ合うことを重視する. また，勉強のためのコツについても，適宜，教員から紹介をする．(例：コンピュータソフトの便利な利用法．数学の学び方．わからなさとのつきあい方．)	演習の進め方： 毎回、テキストを輪読してゆく．すなわち，ゼミ生の担当者の報告，練習問題の解答をおこってゆく．勉強の仕方のコツの紹介は，輪読の間の一休みという位置づけでおこなう. はじめのうちは，教員がプレゼンテーションの手本を見せる. また，授業の進捗は，ゼミ生の状況に大きく依存し，その予測は不可能である．さしあたりは，テキストを 1 章から，ゆっくりと進めてゆくことにする.
テキスト、参考文献	**評価方法**
論理トレーニング』　野矢茂樹　産業図書　1997 年	ゼミへの貢献度(出席，課題，発言)

07 年度	基礎演習	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ.	春学期と同じ.
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ.	春学期と同じ.

07 年度	基礎演習	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　右記の授業計画に示したテーマを題材にして、学生諸君が以下の事項をマスターすることを目標とする。 ○　テーマに合致した資料の収集・整理 ○　適格なレポートの作成 ○　プレゼンテーション（口頭発表） 　同時に企業（組織）を考察する場合の次のような基本的事項について理解する。 ○　企業は何を目的としてどのように組織化され、各階層の人々は日々どのような意思決定を行ない、活動しているのか。 ○　企業目標の達成度は、資本市場（投資家）から厳しく評価されている。どのような方法により、企業評価がなされるべきか。 ○　企業は、企業目標達成のため、他企業との競争下、日々革新を迫られている。革新の手法には、どのような方法が存在するのか。	各テーマについて概説する。なお、学生諸君には適宜レポート作成を求める。また、口頭発表の演習を行なう。 １．　はじめに。ライブドア事件とは。 ２．　企業とは。株式会社とは。 ３．　企業と資本市場。 ４．　企業の利害関係者とコーポレート・ガバナンス。 ５．　企業の投資意思決定。 ６．　企業の資金調達意思決定。 ７．　企業の財務リスク管理。 ８．　企業の財務報告。 ９．　企業評価（１）。 １０．企業評価（２）。 １１．企業組織再編の手法、事業内容、財務のリストラクチャリング。 １２．日本企業の経営課題。
テキスト、参考文献	**評価方法**
井手正介、高橋文郎「ゼミナール経営財務入門」（日経）。重要な文献については、適宜、コピーを配布する。	出席状況、レポートの内容、口頭発表を総合的に評価する

06 年度	基礎演習	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同一である。	春学期と同一である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同一である。	春学期と同一である。

07 年度	基礎演習	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ「グローバリゼーションを考える」 いま世界はグローバリゼーションという大きな問題に直面しています。世界中を巻き込む巨大なうねりとなっている貿易や資本取引の自由化、労働や文化の変容は、私たちの暮らしや世界の人びとの将来にどのような影響を及ぼすでしょうか。基礎演習では、この問題をめぐる様々な見解を取り上げ、自分たちで調べ、発表する作業をつうじて、経済学を学ぶ基礎的な素養を身につけたいと思います。 この演習で重視したいことは、まず読書の習慣を身につけることです。情報社会といわれますが、情報が氾濫する中で、学生の読書力はますます低下しています。社会に関心を持ち、読んで調べる基礎的な訓練が必要です。 また、自分自身の考え方を形成するためには、できるだけ多くの人と議論し、意見を交換しなければなりません。基礎演習は各自が間違いをおそれず、意見を出し合うことで、多様な見解に触れることができる貴重な場です。	以下の 3 つの主題について、テキスト・資料にもとづいて報告とディスカッションを行う。 1．グローバリゼーションと先進国経済 2．グローバリゼーションと途上国経済 3．日本の近代化と技術 各自学期中に 1 冊、新書・文庫本を読んで書評報告を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席と平常点

07 年度	基礎演習	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ「グローバリゼーションを考える」 いま世界はグローバリゼーションという大きな問題に直面しています。世界中を巻き込む巨大なうねりとなっている貿易や資本取引の自由化、労働や文化の変容は、私たちの暮らしや世界の人びとの将来にどのような影響を及ぼすでしょうか。基礎演習では、この問題をめぐる様々な見解を取り上げ、自分たちで調べ、発表する作業をつうじて、経済学を学ぶ基礎的な素養を身につけたいと思います。 この演習で重視したいことは、まず読書の習慣を身につけることです。情報社会といわれますが、情報が氾濫する中で、学生の読書力はますます低下しています。社会に関心を持ち、読んで調べる基礎的な訓練が必要です。 また、自分自身の考え方を形成するためには、できるだけ多くの人と議論し、意見を交換しなければなりません。基礎演習は各自が間違いをおそれず、意見を出し合うことで、多様な見解に触れることができる貴重な場です。	以下の 3 つの主題について、テキスト・資料にもとづいて報告とディスカッションを行う。 1．グローバリゼーションと先進国経済 2．グローバリゼーションと途上国経済 3．日本の近代化と技術 各自学期中に 1 冊、新書・文庫本を読んで書評報告を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席と平常点

07 年度	基礎演習	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。 参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。	1　入門 2　獨協大学の学習環境 3　レポート作成について 4　発表と議論 5　発表と議論 6　発表と議論 7　発表と議論 8　発表と議論 9　発表と議論 １０　発表と議論 １１　発表と議論 １２　発表と議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席１５％、発表７０％　レポート１５％

07 年度	基礎演習	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。 参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。	1　入門 2　獨協大学の学習環境 3　レポート作成について 4　発表と議論 5　発表と議論 6　発表と議論 7　発表と議論 8　発表と議論 9　発表と議論 １０　発表と議論 １１　発表と議論 １２　発表と議論
テキスト、参考文献	**評価方法**
	出席１５％、発表７０％　レポート１５％

07 年度	基礎演習	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学習・研究の基礎となる、図書館の利用方法、インターネットによる情報検索、新聞・雑誌・著書の読み方、レポートの作成方法などについて説明し、その習得を目標とします。 課題を調べて結果を報告する機会を多く設ける予定です。 （注意） 履修者は必ず第１回の授業に出席してください。 出席は第１回の授業から取ります。 授業のマナーを守り遅刻をしないこと。	1　ガイダンスと序論 2　図書館の利用方法（参考図書の利用法） 3　図書館の利用方法（蔵書の検索方法） 4　インターネットによる情報検索 5　（続） 6　新聞・雑誌の記事や専門書の読み方 7　（続） 8　レポートの作成方法 9　（続） 10　（続） 11　（続） 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
新聞記事のコピーやプリントを使用します。	出席、発表とレポートの提出（数回実施）。 欠席は３回まで。それ以上欠席した場合は単位が認定されません。

年度	基礎演習	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

07 年度	基礎演習	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
この演習の目的は、第一に、これから本格的に経済学を学ぶための準備として、経済学的な考え方とはどういうものであるか、経済学を学んだ者に対してはどのような立場で発言をすることを社会は期待しているかということを、いくつかの身近な例を題材にとって学ぶことにある。第二は、ディベート方式によって、経済的な考え方、議論の進め方、情報収集の仕方、既存の論点の整理（サーベイ）の仕方などを学ぶ。さらには、ディベートによって、議論する仲間を持つことの重要性を認識すること、および、自分の抱いている意見と逆の立場に身をおいて考えることの意義を学ぶ。第三に、平易な経済学のテキストを使用して、初歩的な経済学の理論を学ぶと同時に、レジメの作り方、発表の仕方を学ぶ。	1　経済学で何を学ぶか 2　経済学的な考え方のポイント：実例１ 3　経済学的な考え方のポイント：実例２ 4　経済学的な考え方のポイント：実例３ 5　ディベートのやり方 6　情報収集のやり方 7　ディベートの実施 8　テキスト内容のグループ別発表 9　テキスト内容のグループ別発表 10　テキスト内容のグループ別発表 11　テキスト内容のグループ別発表 12　論文、レポートの形式
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布を基本とする	普段点とレポート

07 年度	基礎演習	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
（春学期に同じ）	（春学期に同じ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
（春学期に同じ）	（春学期に同じ）

07 年度	基礎演習	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
通常の大学の講義のなかでは学べないビジネスマンとして活躍するための技術を学びます。	1．ガイダンス 2．要約の技術 3．発想の技術① 4．発想の技術② 5．ディベートのトレーニング① 6．ディベートのトレーニング② 7．面接のトレーニング① 8．面接のトレーニング② 9．面接のトレーニング③ 10．プレゼンテーションの実践① 11．プレゼンテーションの実践② 12．プレゼンテーションの実践③
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配ります	出席、演習中のパフォーマンス

07 年度	基礎演習	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
通常の大学の講義のなかでは学べないビジネスマンとして活躍するための技術を学びます。	1．ガイダンス 2．要約の技術 3．発想の技術① 4．発想の技術② 5．ディベートのトレーニング① 6．ディベートのトレーニング② 7．面接のトレーニング① 8．面接のトレーニング② 9．面接のトレーニング③ 10．プレゼンテーションの実践① 11．プレゼンテーションの実践② 12．プレゼンテーションの実践③
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じてプリントを配ります	出席、演習中のパフォーマンス

07 年度	基礎演習	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の理論がどのような前提や考え方によって成り立っているのか、またその理論が現実の経済を、またその変化をどの程度捉え、説明しているのか、何が捉えられていないのかを通して、経済学や経済を身近に感ずるとともに、現在の経済における諸問題を共に考え、理解を進めていくことにする。 そのため、講義の最初の頃は、種々の資料やデータを使って、経済学の考え方や理論、経済の大きさや構造について説明していくが途中からは受講生の関心や興味のある問題、疑問に思っていることや理解が不明確な事柄について採り上げて共に議論し学習する方法もとる。なおその対象は限定しない。積極的な取組みを望みたい。	1．経済学とは：家計、企業、産業、地域社会、国の経営、経済学・経済学の対象など、なおこの時学生の関心事を提出してもらう 2．経済と理論：現実の経済、理論図式、統計データ、実証分析についてとそれらの関係を事例を挙げて考える。 3．経済統計データ：統計データとは、分類、時系列とロスセクション 4．統計データの見方、読み方 統計の意味するもの 5．統計学、経済学の文献 基本的文献、古典などについて 6．以後受講生から出された、テーマや課題、質問等により、議論し考察をすすめていく。 7．議論しだいでは、その関連について調べてきてもらうよう要請し、その報告で議論していくこともありうる
テキスト、参考文献	**評価方法**
要望があれば受講生と相談の上決めることもありうるが、基本文献リストおよび資料のコピーは配布する	出席のみならず講義、議論への参加およびその内容ならびにレポート等で評価

07 年度	基礎演習	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

07 年度	基礎演習	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
今後演習形式の講義を受講していくために必要なスキルを習得することを目的とします。具体的には、プレゼンテーションの練習を行います。 いくつかのテーマを設定し、そのテーマについて参加者にプレゼンテーションをしてもらいます。	受講人数にも依存しますが授業一回当り２名程度の人に報告をしてもらいます。テーマは一回目の授業時に決定しますが、例えば以下のようなテーマを予定しています。 １．人と人との相互作用 ２．協力と裏切り ３．林檎の木の値段 ４．男女間格差 ５．正規雇用と非正規雇用 ６．機会の平等と結果の平等
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。参考文献は適宜授業中に紹介する。	出席・報告で評価する。

07 年度	基礎演習	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
今後演習形式の講義を受講していくために必要なスキルを習得することを目的とします。具体的には、プレゼンテーションの練習を行います。 いくつかのテーマを設定し、そのテーマについて参加者にプレゼンテーションをしてもらいます。	受講人数にも依存しますが授業一回当り２名程度の人に報告をしてもらいます。テーマは一回目の授業時に決定しますが、例えば以下のような事柄を考えています。 １．人と人との相互作用 ２．協力と裏切り ３．林檎の木の値段 ４．男女間格差 ５．正規雇用と非正規雇用 ６．機会の平等と結果の平等
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。参考文献は適宜授業中に紹介する。	出席、報告で評価する。

07 年度	基礎演習	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
企業の環境経営について学習します。 ① まず、はじめに、皆さん一人一人の日常生活を振り返ってみましょう。 ② 皆さんの日常生活を精査すると、それらは、エネルギー、水、紙、食料などに分類でき、物量で測定することが可能です。 ③ この物量について、「リデュース」「リユーズ」「リサイクル」を実行すれば、お金をかけない地球環境にやさしい生活が実現します。 ④ 企業も上記の活動をより専門的な視点から環境保全活動に取り組んでいます。 ⑤ 大企業や公営企業で実践されている『環境経営』について、学習しましょう。	1．オリエンテーション 本演習の進め方 2．個別研究テーマの選択 3．資料の入手方法 インターネットの活用他 4．入手資料の確認、不足資料の確認 5．レポート作成方法① 6．レポート作成方法② 7．レポート作成方法③ 8．レポート中間報告会① 9．レポート中間報告会② 10. 質問、修正 11. レポート提出日 12. レポートの講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度指示します。	レポートと出席状況から総合的に評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

07 年度	基礎演習	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　大学でこれから学問を始めるための準備として、主体的な学習姿勢を身に付けること、情報の収集、レジュメやレポートの作成といった、図書館やパソコンを使った知的生産の方法を身に付けること、この 2 つが目的です。 講義概要 　大学での学問の心得や手法について理解してもらった後で、パソコンを使用した知的生産の方法を学びます。また学問領域における研究テーマの探し方、レポートや論文の作成方法などについて学びます。また、受講生には実際にテーマを設定して、レポートを作成してもらいます。 　例えば、貧困問題、環境問題といった、学生の皆さんにこそ問題意識をもってほしいテーマを、共通テーマに設定して、皆で考えてみたいと考えています。 　また大きなテーマが決まったら、基本文献を読んで、基礎知識を身に付けたり、テーマの整理することも大切ですので、何か適切な文献を読むこともできればと思っています。	1. なぜ大学で学ぶのか 2. レジュメの作成方法 3. ゼミ発表の仕方 4. 調査・研究の方法 5. レポート・論文テーマの探し方 6. 先行研究・関連文献の探し方・利用上の注意 7. 経済データ・情報の収集 8. レポート・論文の書き方―論文の目的と構成の方法 9. 図表の作り方・使い方 10. 脚注の付け方と参考文献リストの作成方法 11. プレゼンテーションの技法 12. プレゼンテーションの実習
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定。	出席・参加状況、日常的な学習状況、期末レポートの総得点によって評価します。評価基準は第 1 回目の授業で説明します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01年度以降 00年度以前	経済学a　（経済学科） 経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 皆さんがコンビニでパンを買うところから、政府が不良債権対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身に付けるべきものである。 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 【講義内容】 春学期はミクロ経済学の分野を扱う。 テキストに沿って講義を行うが、進度は受講者の理解度をみながら調整する。	1．ミクロ経済学とは 2．需要と供給 3．需要曲線と消費者行動 4．費用の構造と供給行動 5．市場取引と資源配分 6．独占の理論 7．企業と産業の経済学 8．市場の失敗と補正 9．不完全情報の経済学 10．消費者行動の理論 11．国際貿易と海外直接投資
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：伊藤元重『入門　経済学』第2版（日本評論社）	定期試験による。

01年度以降 00年度以前	経済学b　（経済学科） 経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 皆さんがコンビニでパンを買うところから、政府が不良債権対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身に付けるべきものである。 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくにあたっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身に付けてもらうことを目的とする。 【講義内容】 春学期はマクロ経済学の分野を扱う。 テキストに沿って講義を行うが、進度は受講者の理解度をみながら調整する。	1．マクロ経済学とは 2．マクロ経済における需要と供給 3．有効需要と乗数メカニズム 4．貨幣の機能 5．マクロ経済政策 6．インフレと失業 7．財政政策のマクロ分析 8．経済成長と経済発展 9．財政・金融政策のメカニズム：ＩＳ－ＬＭ分析 10．総需要と総供給：物価の決定 11．国際金融と国際マクロ経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：伊藤元重『入門　経済学』第2版（日本評論社）	定期試験による。

01年度以降 00年度以前	経済学b　（経済学科） 経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、１年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	最初の講義のときにプリント配布 （マクロ経済学を中心にして講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末試験

01年度以降 00年度以前	経済学a　（経済学科） 経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、１年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	最初の講義のときにプリント配布 （ミクロ経済学を中心にして講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　不完全競争の理論 ９．　市場の理論① １０．　市場の理論② １１．　厚生経済学の基本定理 １２．　市場の失敗
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　IS-LM 分析 ９．　インフレとデフレ １０．　財政赤字と日本経済 １１．　開放マクロ経済 １２．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。	原則として定期試験の成績で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，日本経済の仕組みを理解し，様々な経済現象に関して理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学の基礎を習得し，経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。 経済学 a では，まず経済学という学問が考察対象とする課題について解説しつつ，基本的概念の説明を行なう。そのうえで，国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。講義においては，昨今の日本経済を取り巻く様々な出来事を取り上げることで，受講生にとって理論と現実の対応関係が理解しやすいように配慮したい。	1　経済学という学問について 2　マクロ経済学の課題について 3　家計の消費行動 4　家計の貯蓄とその動機 5　企業の投資行動 6　企業の資金調達と家計の資産選択 7　直接金融　－株式市場の理論と実際－ 8　間接金融　－銀行の役割－ 9　貨幣の需要と供給 10　中央銀行の役割と貨幣市場モデル 11　ケインズ経済学　－有効需要の原理－ 12　財市場モデルと乗数効果
テキスト、参考文献	**評価方法**
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
経済学 b では，経済学 a の講義内容を踏まえて，財政政策・金融政策の理論と現実について検討し，マクロ経済政策の効果に関する理解を深める。また，開放マクロ経済の基礎知識を習得し，グローバル化が進展する中で国際的な経済現象が日本にもたらす影響について考える能力を養う。 続いて，ミクロ経済学の基礎理論を取り上げ，需要と供給，および余剰分析について解説する。さらに，ミクロ経済学の分析枠組を用いて，規制緩和や環境政策といった経済政策・公共政策の意義について検討しながら，政府の役割と市場の役割のあり方に関する展望を試みる。 受講を希望する学生は，経済学 a を既習であることが望ましい。	1　IS-LM モデル 2　財政政策・金融政策の効果 3　労働市場モデルと失業 4　開放マクロ経済　－為替レートと経常収支－ 5　ミクロ経済学の課題について 6　需要曲線と供給曲線の意味 7　社会的余剰の考え方 8　競争市場と独占 9　ゲーム理論を用いた経済分析 1 －寡占市場－ 10　ゲーム理論を用いた経済分析 2 －公共財の供給問題－ 11　ゲーム理論を用いた経済分析 3 －コモンズの悲劇－ 12　地球温暖化対策と京都議定書の経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか，ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経済学科） 経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の最も基礎的な理論を実体経済とのつながりを考慮しながら学びます。ここでは、経済学全体の体系とミクロ経済学を中心に講義を行います。	1．ガイダンス 2．経済学とは何か 3．経済学的な考え方 4．無差別曲線と生産可能性曲線 5．貿易と比較優位 6．需要・供給と価格 7．需要・供給分析の応用、余剰 8．弾力性 9．弾力性の応用 10．不完全市場 11．政府の役割 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
スティグリッツ「入門経済学」東洋経済新報社 ネット上で講義資料を公開します	試験

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経済学科） 経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の最も基礎的な理論を実体経済とのつながりを考慮しながら学びます。ここでは、主としてマクロ経済学を踏まえて、現実に起こっている経済事象を経済学的に考えていきます。	1．ガイダンス 2．マクロ経済学とは何か 3．マクロ経済学の５つの法則 4．失われた 15 年はなぜ生まれたのか 5．「ゼロ金利解除」の失敗 6．インフレターゲット政策の是非 7．彗星のごとく現れたブレーン 8．日本経済を襲うアメリカの影 9．小泉構造改革の本質① 10．小泉構造改革の本質② 11．ライブドア問題が残した課題 12．構造改革と日本経済への教訓
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上で講義資料を公開します	試験

01 年度以降 00 年度以前	統計学 a 統計学	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしてきている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要さを十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 （1）データの整理 （2）確率分布	1　統計学とは、評価・受講上の注意など 2　データの整理（1）平均・標準偏差 3　データの整理（2）その他のパラメータ 4　データの整理（3）度数分布表・ヒストグラム 5　データの整理（4）簡便法 6　データの整理（5）相関係数・回帰直線 7　データの整理（6）計算演習とまとめ 8　確率・順列と組合せ・二項定理 9　確率分布（1）二項分布・漸化式 １０　確率分布（2）正規分布・標準化 １１　確率分布（3）その他の確率分布 １２　確率分布の計算演習とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。	定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。

01 年度以降 00 年度以前	統計学 b 統計学	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしてきている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要さを十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。 その内容は、以下のとおりである。 （1）統計的推定 （2）統計的仮説検定	1　春学期の復習、評価・受講上の注意など 2　母集団と標本・標本調査・中心極限定理 3　統計的推定（1）平均 4　統計的推定（2）比率 5　統計的仮説検定（1）概説 6　統計的仮説検定（2）平均 7　統計的仮説検定（3）分散 8　統計的仮説検定（4）比率 9　統計的仮説検定（5）分割表 １０　統計的仮説検定（6）その他検定 １１　統計的仮説検定（7）推定と検定のまとめ １２　統計学のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。	定期試験の結果により評価する。 出席状況・レポートなども考慮する。

01 年度以降 00 年度以前	統計学 a 統計学	担当者	本田　勝

講義目的、講義概要	授業計画
我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。 この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に応用していく方法について述べていく。 講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。 データの整理の方法 確率の概念 確率分布の考え方 特殊な確率分布	1　統計学で何を学ぶか。 2　データの整理のしかた。平均、中央値、最頻値など。 3　ばらつきの尺度によるデータ特性の把握。 4　データ整理の演習。 5　確率導入の準備（集合および事象)。 6　確率の導入。 7　確率変数と確率分布の考え方。 8　確率分布の平均と分散。 9　２項分布の性質。 10　ポアソン分布の性質。問題演習。 11　一様分布、指数分布、正規分布の性質。 12　正規分布の確率の求め方と確率変数の標準化。 問題演習。
テキスト、参考文献	**評価方法**
本田　勝『基本統計学』　産業図書	定期試験および出席調査による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	統計学 b 統計学	担当者	本田　勝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的は統計学 a と同じ 講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。 標本分布の考え方といくつかの例 統計学における推定の問題 統計学における仮説検定の問題 ２変量間の関係のとらえ方	1　標本分布とは。中心極限定理。 2　標本比率の確率分布。２項分布の正規分布近似。 3　カイ２乗分布および t 分布について。標本分散の確率分布。 4　母数の推定について。点推定、区間推定の考え方。 5　母平均の区間推定。問題演習。 6　母集団比率及び母分散の区間推定。 7　仮説検定の考え方。母平均の検定法。 8　２変量間の相関関係について。 9　回帰直線とは（線形回帰、最小２乗法)。 10　カイ２乗検定の考え方。 11　問題演習 12　一年間の総復習。
テキスト、参考文献	**評価方法**
本田　勝『基本統計学』　産業図書	定期試験および出席調査による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	統計学 a 統計学	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。統計学は現実への応用に大きく関わった学問なので、出来るだけ具体的な問題を意識し、適宜計算演習をまじえながら進めてゆく。 内容は記述的な統計から現代統計学の枠組み、データの得られるメカニズム（モデル）などである。 試験問題は講義中の演習問題が中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大切である。	1．統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのか。ほかに授業の進め方、方針。 2．統計的な見方、考え方とは。データを測定する尺度。 3．データを記述するための尺度の意味と特徴、計算など。 4．探索的なデータ解析の方法と考え方。 5．２つの変数間の関連性を説明する尺度について。 6．２つの変数間の "線型" な関係を調べる。回帰直線。 7．確率―統計と確率の接点。確率の基本的な考え方。 8．データの得られるしくみ。データとそのモデル（分布）。 9．現代統計学の枠組み―母集団と標本。 10. 離散型の分布―二項分布，ポアソン分布など。 11. 連続型の分布―正規分布の意味と特徴など。 12. 正規分布とその周辺の事柄について。前期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田、松井、冨田、馬場著『統計学』―データから現実をさぐる、内田老鶴圃。	期末の試験と出席による。

01 年度以降 00 年度以前	統計学 b 統計学	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、統計的応用のための様々な手法の意味や考え方を説明する。データは実験、観察、調査など社会の様々な場から得られるが、データの処理にはその背景にある諸条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択する必要がある。その際に留意すべき点や問題となる点を明確にしながら説明してゆきたい。 取り扱うのは推定、検定、ノンパラメトリック法などで、それぞれの方法が、どのような考え方で組み立てられているかを詳説したい。また、統計的概念の理解は、実際にデータを処理し、計算を行うことで（データ処理によって）深まってゆくので、随時演習を行い、各手法がより十分に理解されるようにしたい。例題や演習問題には積極的に取り組んでいただきたい。	1．データ解析の考え方―母集団と標本の枠組み、統計的推測について。 2．統計的推定―点推定、最尤推定、標本分布など。 3．比率と母平均の推定、推定量の意味、性質、比較。 4．区間推定。サンプルの大きさを決める方法。 5．統計的仮説検定の考え方。 6．比率の検定―考え方と定式化。１標本と２標本。 7．正規分布の母平均の検定など。 8．２×２分割表の考え方と方法。ｒ×ｃ表。 9．適合度検定。 10. ノンパラメトリックな方法。符号検定など。 11. 順位にもとづく検定など。 12. 統計的推測：統計的方法の枠組みと様々な手法の関連を再考する。後期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田、松井、冨田、馬場著『統計学』―データから現実をさぐる、内田老鶴圃。	期末の試験と出席による。

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータ入門 a 情報処理概論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，大学でのレポート作成やゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となるワードプロセッサ，表計算ソフト，プレゼンテーションソフト，データベース作成ソフトの基本的な使い方を，Microsoft Office を使用した実習により身につけることを目的とします. 注） この講義は複数の教員により行われるため，各テーマが取り扱われる順序や時間配分については，担当教員によって異なることがあります.	1. ワードプロセッサ 1－文章の作成，書式の設定 2. ワードプロセッサ 2－図形描画，表の作成，数式の入力 3. 表計算ソフト 1－表の入力，グラフの作成 4. 表計算ソフト 2－表の装飾 5. 表計算ソフト 3－数式，関数を用いた計算 6. プレゼンテーションソフト 1－スライドの作成，プレゼンテーション方法 7. プレゼンテーションソフト 2－アニメーションの設定 8. データベース作成 1－データの入力 9. データベース作成 2－データの抽出 10. データベース作成 3－リレーションシップの設定
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください.	各担当教員の指定する評価方法に従ってください.

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータ入門 b 情報処理概論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータを用いて作業を行う際には，市販のソフトを使用するだけではなく，コンピュータプログラムを作成し，既存のソフトでは出来ないことを実行させることも可能です．プログラムを作成するには，プログラム言語の文法を覚えることに加えて，「アルゴリズム」と呼ばれる，コンピュータに問題を解決させる手順について考えることが必要になります. この講義では，Java，C 言語，Visual Basic などのコンピュータ言語のうち，担当教員の指定する言語を使用して，実習を通じてプログラム作成の基礎を学びます．基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します.	1. コンピュータ言語 1－プログラムの作成方法 2. コンピュータ言語 2－変数，配列，演算式 3. コンピュータ言語 3－条件分岐，繰り返し 4. コンピュータ言語 4－関数，ファイル処理 5. 文法理解のためのプログラム作成 6. アルゴリズムーソート，数値計算法，乱数を用いた計算など 7. 基礎的な問題解決のためのプログラム作成 （各担当教員が指定した問題を，数回の講義に分けて作成します）
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が授業時間内に指定するテキスト，参考文献を使用してください.	各担当教員の指定する評価方法に従ってください.

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降	プレゼンテーション技法	担当者	富澤　儀一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　プレゼンテーションの基本と、新しい時代の最新技術をふまえた「デジタル・プレゼンテーション」の資料作成と発表を実践する。 講義概要 　次の 3 項目を主軸として、プレゼンテーションの基本を学んだ上でスライドを作成、各自が発表を行う。 （1）日本式と欧米式の発表方法を融合し、効果的な標準方法を学習する。 （2）プレゼンテーションの基本技法とパソコン・プロジェクターを組み合わせ、最適なデジタル・プレゼンテーションを提示する。 （3）デジタル・プレゼンテーション計画、デザイン、発表の 3 つを組み合わせ、プレゼンテーションの生産性、効率性の向上を目指す。 学習態度 　プレゼンテーションは「伝えたいこと」が相手に伝わることである。プレゼンテーションには発表のほかに送呈の意味がある。相手にプレゼントするような気持ちで発表することに他ならない。相手の立場で発表するように練度を高めて発表しよう。	1. ガイダンス 2. プレゼンテーションの基本、準備 3. 内容構成、視覚資料の作成、図式化 4. 印象付ける話し方： ・ボディランゲージとジェスチャー ・声と話し方 ・練習、リハーサル 5. 各自発表のためのスライド作成（1） 次の題目から 1 つ選択する。 （1）パン屋の戦略 （2）ローンの返済 （3）工場設置に関する投資効果分析 （4）その他 6. スライド作成（2） 7. スライド作成（3） 8. スライド作成（4） 9. リハーサル 10. 発表（1 回目） 11. 発表（2 回目） 12. 発表（3 回目） 13. 再発表、1～3 回目で不合格者が再度発表する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業の資料は¥¥dainet¥tomizawa に格納しておく。	出席：2/3 以上、授業中の小テスト、発表 発表は各自で 10 分の持ち時間で行う。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経済学科） 経営学	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。 はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさとを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門」である。 春学期では、まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。 次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。 最後に、経営者の職能と役割、経営管理過程、その要素機能としての計画策定、組織編成、コントロールの過程について教授する。	1　春学期授業計画の概要 2　（経営学の対象と方法）経営学の研究対象、 3　経営の職能構造、経営学の方法 4　（現代の企業形態）企業の役割と本質、 5　企業形態の種別、現代株式会社の支配と経営、企業グループ 6　（経営リーダーシップ）専門経営者の出現、取締役会から常任執行委員会へ、 7　最高経営責任者（CEO）の職能と役割 8　（マネジメント論の展開）伝統的組織論と近代的組織論、 9　現代マネジメント論 10　（マネジメント・プロセス）経営計画の策定、 11　経営組織の設計と指導、経営コントロール 12　春学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経済学科） 経営学	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では、まず、企業を取り巻く経営環境の変化のパターンと環境への企業の対応策、企業目的と経営社会責任、経営戦略について考察する。 次に、経営組織の編成、構造、過程を、経営組織の設計と指導に区分して取りあげる。 最後に、わが国企業における人材の育成と活用、日本的経営の特質について考察することで、講義全体として、現代経営学の基礎を提供しようとしている。 使用テキストは、下記の通りであるが、参考文献として、経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編『経営学検定試験　公式テキスト１　　経営学の基本』中央経済社　平成 18 年版、を勧める。	1　秋学期授業計画の概要 2　（経営環境と企業の社会的責任）変動する経営環境への対応、 3　企業の社会的責任 4　（経営戦略と競争優位）経営戦略の策定、 5　競争優位の構築、事業ポートフォリオと戦略的事業単位 6　（経営組織の設計と活性化）経営組織の設計、 7　指導 8　（人材の育成と活用）職務を基軸にしたアメリカの人事管理、 9　職能資格制度を基軸にした日本の人事管理 10　（日本的経営）日本の経営へのマネジメントの導入、 11　日本的経営と集団業績主義 12　秋学期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年以降 00 年以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
黒字だ、赤字だ、と新聞で見たことがあるかも。バイト先の店長も、「アッ―、利益だ損だ」ということもあるでしょう。こうした言葉は、実は『簿記』からできた言葉なのです。 簿記は皆さんの将来にも関係しています。学部を問わず、『資格』は強い味方になります。簿記に関する資格は日本商工会議所の主催する検定試験が定評あります。さらに、公認会計士や税理士など独立開業して活躍できるものもあれば、国税専門官など公務員として、あるいは米国会計士として海外で活躍することもできることになります。 講義はまったくの初心者を対象としていきます。大学でも一つくらいは資格をなぁ―、というきっかけでも結構です。まずは簿記の基礎の基礎から入っていくことにします。 また、外国語学部・法学部などの他学部の方にも無理なく簿記がわかるようになり、資格に結びつくよう講義したいと思っています。	1　講義にあたってのイントロダクション 2　簿記とは何ですか 3　簿記の手続　　仕訳 4　簿記の手続　　仕訳 5　簿記の手続　　転記 6　簿記の手続　　試算表 7　簿記の手続　　貸借対照表 8　簿記の手続　　損益計算書 9　簿記の手続　　精算表 10　個別の処理　現金預金 11　個別の処理　商品売買 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
井出ほか『基本商業簿記演習』創成社	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年以降 00 年以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
日本商工会議所簿記検定 3 級試験をクリアできるような内容を扱っていきます。当然のことながら、簿記原理 a での理解が前提となります。 ということは、講義をすると同時に、問題等をできる限りといていくということになります。	1　講義にあたってのイントロダクション 2　個別の取引　掛取引 3　個別の取引　売買目的有価証券 4　個別の取引　固定資産 5　個別の取引　貸倒れ 6　個別の取引　減価償却 7　個別の取引　手形 8　個別の取引　その他の債権・債務 9　個別の取引　決算整理事項 10　個別の取引　精算表 11　個別の処理　伝票の処理 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
井出ほか『基本商業簿記演習』創成社	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
a の講義をすでに習得された方を対象に講義を進めていきます。 可能な限り平易な解説に努めながら、日本商工会議所簿記検定 3 級試験をクリアできるような内容まで取り扱って生きたいと思っています。 ということは、講義をすると同時に、問題等をできる限りといていくということになります。	1　仕訳の復習 2　個別の取引　掛取引 3　個別の取引　売買目的有価証券 4　個別の取引　固定資産 5　個別の取引　貸倒れ 6　個別の取引　減価償却 7　個別の取引　手形 8　個別の取引　その他の債権・債務 9　個別の取引　決算整理事項 10　個別の取引　精算表 11　個別の処理　伝票の処理 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
小川ほか『簿記会計の基礎・問題集』創成社	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	井出　健二郎

講義目的、講義概要	授業計画
「再チャレンジのための講義」といってもいいでしょうか。簿記について再度挑戦していただくことになります。 ご承知のように、簿記は皆さんの将来にも関係しています。学部を問わず、『資格』は強い味方になります。簿記に関する資格は日本商工会議所の主催する検定試験が定評あります。さらに、公認会計士や税理士など独立開業して活躍できるものもあれば、国税専門官など公務員として、あるいは米国会計士として海外で活躍することもできることになります。 講義は初心者を対象としますが、伝票・帳簿関係も取り扱うことにします。結果としては、資格にチャレンジしてみようというスピリットを喚起できるようにつとめます。	1　講義にあたってのイントロダクション 2　簿記とは何ですか 3　簿記の手続　　仕訳 4　簿記の手続　　仕訳 5　簿記の手続　　転記 6　簿記の手続　　試算表 7　簿記の手続　　貸借対照表 8　簿記の手続　　損益計算書 9　簿記の手続　　精算表 10　伝票 11　帳簿 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
小川ほか『簿記会計の基礎・問題集』創成社	出席 50%、試験等 40%、その他 10%

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
企業会計は、しばしば「事業の言語」であると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という１つの言語にも「文法」に相当するものがある。「簿記原理」という科目は、いわば、その企業会計の「文法」に相当するものの基本的部分を純粋に形式的に解明していく分野であると言うことができよう。 会計という言語は、今日では１つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するものの中身もまた、基本的には共通的なものであろう。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ‘最大公約数’の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。そのうち「簿記原理 a」では、‘決算整理’を含まない、「分記法」を前提とした「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱うこととなる。	1 企業の財政状態と貸借対照表……簿記の目的；資本；貸借対照表の内容 2 企業の経営成績と損益計算書……簿記の第２目的の達成方法；損益計算書等式（損益計算書） 3 取引と取引の分解……期首B/Sと「取引」記録からのB/S・P/L の作成；「取引」記録のルール 4 仕訳帳と総勘定元帳 その１：「仕訳」……設例による説明 5 仕訳帳と総勘定元帳 その２：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール 6 仕訳帳と総勘定元帳 その３：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳；元帳(形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」) 7 試算表と精算表 その１：「試算表」……決算について；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表 8 試算表と精算表 その２：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理 9 「勘定の振替え」という技法について……定義；具体例による説明 10 決算手続 その１：純損益の振替……決算の第１の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正） 11 決算手続 その２：帳簿の締切りと繰越試算表……財務諸表の作成を含む 12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
① 中村泰將 編著、『演習 現代簿記』(中央経済社)。 ② 現代会計教育研究会 編、『簿記練習帳 ３級商業簿記』(多賀出版)。	評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「簿記原理 a」の知識を前提としてこの「簿記原理 b」では、「商品３分法」や各種の「決算整理」といったディテールを内容的に付け加えていき、‘会計言語’の文法の中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくことしたい。	1 現金と預金・有価証券……当座借越･有価証券の評価の問題を含む 2 商品の３分法 その１……設例の提示；“修正された”分記法；３分法 3 商品の３分法 その２……値引・返品の処理；諸経費の処理 4 仕入と売上の記帳 その１……帳簿の種類；仕入帳・売上帳；掛け売買の記帳（貸倒れの問題含む） 5 仕入と売上の記帳 その２：商品有高帳……その必要性･位置付け；移動平均法と先入先出法 6 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定と処理；手形の裏書譲渡；手形記入帳 7 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て 8 有形固定資産……固定資産の記帳；減価償却（意義、毎期の減価償却費、売却時の処理） 9 その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理；個人企業の資本の記帳 10 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し 11 決算整理項目と決算整理仕訳･振替仕訳……８桁精算表の作成を含む 12 帳簿組織と伝票会計…３伝票制；複写式伝票の利用
テキスト、参考文献	**評価方法**
「簿記原理 a」と同じ。	「簿記原理 a」と同様

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
簿記は、実社会に出るすべての人が身に付けておいた方が良い基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学生が履修することが望ましいと思います。そのため経済学部の学生はもちろん、経済学部以外の学部の学生にも理解しやすいように解説したいと思っています。 この講義では日本商工会議所簿記検定 3 級の範囲を網羅します。また、会計学原理、財務会計論、管理会計論、原価計算などの会計関連科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。 簿記は、決して難しいものではありませんが、身に付ける技術ですから、練習が必要です。そのため毎回の講義では、一つずつ項目を説明し、例題を解説、ワークブックやプリントで練習します。練習中に質問を受けていきますし、プリントに意見や質問を書いてください。 とにかく欠席しないで、練習してください。 （皆さんの進度に応じて変更あります）	1. テーマ 1 簿記の基礎 2. 同上 3. テーマ 2　日常の手続き(Ⅰ) 4. 同上 5. テーマ 3　日常の手続き(Ⅱ) 6. テーマ 4　商品売買(Ⅰ) 7. テーマ 5　商品売買(Ⅱ) 8. テーマ 6　現金 9. テーマ 7　当座預金 10. テーマ 8　小口現金 11. テーマ 9　手形(Ⅰ) 12. テーマ 10　手形(Ⅱ)
テキスト、参考文献	**評価方法**
TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級』 『合格トレーニング日商簿記 3 級』	試験 100 点、プリントとプリント、ワークブック 10 点

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
簿記は、実社会に出るすべての人が身に付けておいた方が良い基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学生が履修することが望ましいと思います。そのため経済学部の学生はもちろん、経済学部以外の学部の学生にも理解しやすいように解説したいと思っています。 この講義では日本商工会議所簿記検定 3 級の範囲を網羅します。また、会計学原理、財務会計論、管理会計論、原価計算などの会計関連科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。 簿記は、決して難しいものではありませんが、身に付ける技術ですから、練習が必要です。そのため毎回の講義では、一つずつ項目を説明し、例題を解説、ワークブックやプリントで練習します。練習中に質問を受けていきますし、プリントに意見や質問を書いてください。 とにかく欠席しないで、練習してください。 （皆さんの進度に応じて変更あります）	1. テーマ 11 その他の期中取引(Ⅰ) 2. テーマ 12 その他の期中取引(Ⅱ) 3. テーマ 13 その他の期中取引(Ⅲ) 4. テーマ 14 その他の期中取引(Ⅳ) 5. テーマ 15　試算表の作成(Ⅰ) 6. テーマ 16　試算表の作成(Ⅱ) 7. テーマ 17　決算の手続き(Ⅰ) 8. テーマ 18　決算の手続き(Ⅱ) 9. テーマ 19　決算の手続き(Ⅲ) 10. テーマ 20　決算の手続き(Ⅳ) 11. テーマ 21　決算の手続き(Ⅴ 12. テーマ 22　決算の手続き(Ⅵ) 13. テーマ 23　伝票式会計
テキスト、参考文献	**評価方法**
TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級』 『合格トレーニング日商簿記 3 級』	試験 100 点、プリントとプリント、ワークブック 10 点

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
複式簿記の計算原理を探究することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。 複式簿記の原理および計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。まず、資産、負債、資本、収益および費用という５つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとして捉えて利益を計算する財産法と資本をフローとして捉えて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。さらに、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、決算本手続である帳簿決算の手続を経て、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。	①　簿記の意義と目的 ②　資産・負債・資本の諸概念 ③　収益・費用の諸概念 ④　財産法と損益法 ⑤　取引と勘定記入 ⑥　仕訳と転記 ⑦　試算表と精算表 ⑧　帳簿決算手続 ⑨　現金・預金の会計処理 ⑩　売買目的有価証券の会計処理 ⑪　商品勘定の３分法 ⑫　仕入帳と売上帳
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰將 編著『演習 現代簿記』 中央経済社	定期試験の結果に出席率を加味して、総合的に成績評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、基本的な簿記手続の一巡の理解を前提として、企業の複雑な日常取引の会計処理の理解を目的とするとともに、種々の計算表の作成にも習熟してもらうこととする。 ここでは、財産法(ストック計算)や損益法(フロー計算)とよばれている複式簿記の計算構造を再確認しながら、各勘定科目毎に詳細な検討を加えていくことにする。具体的には、企業の日常の諸取引の仕訳を通して種々の会計処理を概説し、それを総勘定元帳へ転記していく主要簿の流れとともに、各勘定科目の詳細を記録する補助元帳や補助記入帳などの補助簿の流れも検討することにする。また、初級簿記の完全な理解のために、複雑な試算表や精算表の作成に多くの時間を取ることにしたい。 簿記は数多くの練習問題を繰り返し解くという勉学態度が要求されるので、講義の前半では、各項目のポイントを説明し、後半で練習問題を解答するという形式で講義を進めることとする。	①　商品勘定の３分法 ②　仕入帳・売上帳・商品有高帳 ③　得意先元帳と仕入先元帳 ④　手形取引の記帳 ⑤　その他の債権・債務について ⑥　貸倒れと貸倒引当金 ⑦　固定資産と減価償却 ⑧　資本金と引出金 ⑨　収益と費用の見越・繰延 ⑩　試算表の作成と伝票会計 ⑪　８桁精算表の作成 ⑫　財務諸表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰將 編著　『演習現代簿記』　中央経済社	定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う

01 年以降 00 年以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。 講義概要 春学期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。 ・ 複式簿記とは ・ 簿記の仕組み ・ 試算表と精算表 ・ 決算(Ⅰ)	1.1.複式簿記とは(1)　a)簿記の目的と種類 2.1.複式簿記とは(2)　b)複式簿記の計算要素 3.2.簿記の仕組み(1) a)取引と勘定、b)勘定記入法 4.2.簿記の仕組み(2) a)取引と勘定、b)勘定記入法 5.2.簿記の仕組み(3) c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 6.2.簿記の仕組み(4) c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳 7.3.試算表と精算表(1) a)試算表の作成、b)精算表の作成 8.3.試算表と精算表(2) a)試算表の作成、b)精算表の作成. 9.4.決算(Ⅰ)(1)　a)決算の意味と手続 10.4.決算(Ⅰ) (2)　b)大陸式決算法、c)英米式決算法 11.4.決算(Ⅰ) (3)　b)大陸式決算法、c)英米式決算法 12.4.決算(Ⅰ)(4) d)損益計算書と貸借対照表の作成、e)開始記入
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰将（編著）「講座　現代簿記」（中央経済社）	期末試験の結果による。

01 年以降 00 年以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8 桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。 ・ 現金・預金取引の記帳 ・ 商品売買取引の記帳 ・ 手形取引の記帳 ・ その他の取引の記帳 ・ 決算(Ⅱ)決算整理 ・ 損益計算書と貸借対照表の作成	1.5.現金･預金取引の記帳 2.6.商品売買取引の記帳(1)　a)分記法、3 分法 3.6.商品売買取引の記帳(2) b)仕入帳と売上帳、c)商品有高帳 4.6.商品売買取引の記帳(3)　b)仕入帳と売上帳、 c)商品有高帳、d)掛取引の記帳 5.7.手形取引の記帳(1)　a)約束手形と為替手形、 b)受取手形勘定と支払手形勘定、 c)手形の裏書と割引 6.7.手形取引の記帳(2) a)受取手形記入帳と支払手形記入帳 b)不渡手形、f)　手形貸付金と手形借入金 7.8.その他の取引の記帳 a)その他の債権、債務取引、b)有価証券取引 c)固定資産取引、d)営業費等の取引 8.9.決算(Ⅱ)決算整理(1) a)決算整理の意味、b)棚卸減耗損及び商品評価損 9.9.決算(Ⅱ)決算整理(2) c)有価証券評価損、d)固定資産の減価償却 10.9.決算(Ⅱ)決算整理(3) e)費用・収益の繰延と見越、f)８桁精算表の作成 11.9.決算(Ⅱ)決算整理(4) e)費用・収益の繰延と見越、f)８桁精算表の作成 12.損益計算書と貸借対照表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
中村泰将（編著）「講座　現代簿記」（中央経済社）	期末試験の結果による。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
簿記原理では、複式簿記を内包した簿記を取り上げる。この簿記を商業簿記と称する。複式簿記は、取引の借方と貸方による仕訳に基づき勘定に分解し、元帳における勘定へ転記し、このシステムを通じて、事業の資産、負債および資本の増減を測定する。この勘定システムと事業体の組織に関連して、各勘定の意義および機能と、各勘定の具体的な処理について基本的な理解を深める。	1　複式簿記の現代における意義 2　複式簿記の体系および簿記における取引とは何か 3　仕訳の基本的原理および取引勘定への転記 4　補助簿への記入および試算表の作成 5　精算表の作成原理および損益勘定と残高勘定への転記 6　取引パターン別の仕訳例の説明 7　パターン別に仕訳された例の勘定への転記 8　例題による取引の仕訳および勘定への転記 9　例題による精算表の作成および決済に際しての損益勘定および残高勘定の完成 10　練習問題 取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記 11　練習問題 試算表の作成および精算表の作成 12　練習問題 元帳の締め切りによる損益勘定および残高勘定の完成、および試算表および精算表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店	テスト

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
複式簿記の基本的勘定システムを理解した後、各勘定について、勘定とそれに関連する補助簿の記入を具体的に理解する。そして、最終的に決算制度に関連して、試算表および精算表の作成を通じて、損益勘定から損益計算表を、残高勘定（大陸法）から貸借対照表を作成するプロセスを理解する。	1　現金勘定と現金出納帳 2　当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳 3　商品勘定の記入方法 単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割 4　仕入勘定と仕入帳、商品の仕入価格および商品の返品と値引き 5　売上勘定と売上帳 6　繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗損および商品評価損 7　売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳 8　受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳 9　その他の債権・債務の諸勘定、有価証券勘定 10　固定資産の諸勘定 特に減価償却による処理 11　決算前の諸勘定の整理について 12　決算 勘定の締め切り、損益勘定および残高勘定（大陸法）の完成、および８桁精算表の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店	テスト

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	山内　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会計における記録の手段である簿記の基本原理を習得し、日商簿記検定３級程度に合格することを目的としています。 簿記は、トレーニングを重ねることが必要な科目であるため、説明は要点を絞り、できるだけ簡潔にする一方で、特に問題演習に重点をおいて理解の程度を確かめながら講義を進めていきます。 *簿記は積み重ねで勉強していくものであり、途中で欠席をすると授業についていくことが難しくなりますので、よほどの事情がない限り、必ず出席するようにしてください。	1. ガイダンス・計算機の選び方 2. 簿記の意味・目的・種類 3. 簿記の基礎概念 4. 取引 5. 勘定と仕訳 6. 帳簿の記入 7. 決算と財務諸表（その１） 8. 決算と財務諸表（その１） 9. 現金預金取引 10. 現金預金取引 11. 商品売買 12. 売掛金と買掛金
テキスト、参考文献	**評価方法**
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』 中央経済社。 加古・渡部『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 中央経済社。	小テスト・課題・出席・期末試験を総合的に評価します。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	山内　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、簿記原理 a に引き続き、日商簿記検定３級程度に合格することを目的とした講義を行っていきます。 簿記原理 b の後半では、簿記原理 a の内容も含めた総合問題に入っていきますので、簿記原理 a を理解しておくことが重要になります。	1. その他の債権と債務 2. 手形 3. 有価証券 4. 固定資産 5. 資本金と引出金 6. 収益と費用 7. 税金 8. 帳簿と伝票 9. 決算と財務諸表（その２） 10. 決算と財務諸表（その２） 11. 決算と財務諸表（その２） 12. 決算と財務諸表（その２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』 中央経済社。 加古・渡部『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 中央経済社。	小テスト・課題・出席・期末試験を総合的に評価します。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 a 簿記原理	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進歩度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。	1. イントロダクション： 講義概要ならびに授業の進め方 2. 簿記の歴史 3. 第 1 章　簿記の意義と目的； 第 2 章　資産・負債・資本と貸借対照表 4. 第 2 章　東京商会の事例解説； 第 3 章　収益・費用と損益計算書 5. 第 4 章　取引；第 5 章　勘定 6. 第 6 章　仕訳と転記 7. 第 7 章　帳簿 8. 第 8 章　簿記一巡の手続き 9. 第 9 章　現金預金 10. 第 10 章　商品売買 11. 第 10 章　商品売買 12. 第 11 章　有価証券 第 12 章　売掛金と買掛金
テキスト、参考文献	**評価方法**
上田・小川・渋谷・湯田『演習　商業簿記入門』 中央経済社	期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	簿記原理 b 簿記原理	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定 3 級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。 複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進歩度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。	1. 第 13 章　その他の債権・債務 2. 第 14 章　手形 3. 第 15 章　貸倒れと貸倒引当金 4. 第 16 章　固定資産；第 17 章　資本金と引出金 5. 第 18 章　収益・費用の繰延と見越 6. 第 19 章　決算予備手続 7. 第 19 章　決算予備手続 8. 第 20 章　例題解説 9. 第 20 章　決算本手続 10. 第 20 章　決算本手続 11. 総合問題 12. 本講義の結びとして、 「簿記学習の継続」の必要性を指摘。
テキスト、参考文献	**評価方法**
上田・小川・渋谷・湯田『演習　商業簿記入門』 中央経済社	期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。

01 年以降 00 年以前	数学 a 数学	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営学を学ぶ上で，線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある．この講義では，線形代数として主に，行列の計算や行列を用いた連立１次方程式の解法について解説する．さらに，それらを経済・経営学に応用した市場問題や産業連関問題，線形計画法を利用した最適化問題についても簡単に触れる．実践力をつけるため，講義だけでなく問題演習の時間をとり，各自問題を解いてもらう．この講義で得た知識を活用し，実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む．最初の授業時に，講義内容や成績評価方法について述べるので必ず出席すること．また，下記ホームページの「Lectures」ページに授業に関する情報を掲載する予定である．　http://www.edu.waseda.ac.jp/~satoru/ または　http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~kt40433/	１．ガイダンス ２．行列の定義 ３．行列の演算 ４．行列と連立１次方程式 ５．行列の基本変形 ６．簡約な行列 ７．連立１次方程式の解法 ８．行列式の定義 ９．行列式の性質 １０．逆行列 １１．クラーメルの公式 １２．経済・経営学への応用
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記ホームページから授業プリントを各自プリントアウトして持参すること．参考書は授業中に紹介する．	中間と期末の２回のレポートにより評価する．

01 年以降 00 年以前	数学 b 数学	担当者	高木　悟

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営学を学ぶ上で，線形代数（行列など）や解析（微積分など）の知識が必要になることが多々ある．この講義では，解析として主に，関数，微分，偏微分，グラフ描画，極値について解説する．さらに，それらを経済・経営学に応用した損益分岐点問題や最適化問題についても簡単に触れる．実践力をつけるため，講義だけでなく問題演習の時間をとり，各自問題を解いてもらう．この講義で得た知識を活用し，実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む．最初の授業時に，講義内容や成績評価方法について述べるので必ず出席すること．また，下記ホームページの「Lectures」ページに授業に関する情報を掲載する予定である． http://www.edu.waseda.ac.jp/~satoru/ または　http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~kt40433/	１．ガイダンス ２．多項式関数 ３．分数関数 ４．指数関数 ５．対数関数 ６．極限と微分の定義 ７．合成関数の微分 ８．グラフ描画と極値 ９．多変数関数の微分（偏微分） １０．多変数関数の極値 １１．条件付き極値 １２．経済・経営学への応用
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記ホームページから授業プリントを各自プリントアウトして持参すること．参考書は授業中に紹介する．	中間と期末の２回のレポートにより評価する．

01 年度以降 00 年度以前	高齢化社会論 a 高齢化社会論	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 　この講義では、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。 　日本における人口高齢化、高齢化の地域的偏在、平均寿命、健康寿命、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、諸外国との対比をふまえながら講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。	1. 授業の進め方と授業の内容について 2. ジェロントロジィと離脱理論、活動理論 3. 人口高齢化と高齢化社会・エイジング（加齢、Aging）平均余命、長寿社会、エイジズム等について 4. 高齢者と家族、老親子の居住形態を、縦断的、横断的に比較する 5. ライフ・サイクル、家族周期と老年期 6. ライフ・サイクルの過程及び高齢者の生きかたについて、戦前と戦後との比較 7. 高齢者と生計をとりまく経済状況はどのような状況か。 8. 高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準などについて。 9. 高齢者と就業・雇用について、高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用を概説する
テキスト、参考文献	**評価方法**
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』（新版）有斐閣	受講条件：ｂを必ず履修すること 出席、レポート、試験による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	高齢化社会論 b 高齢化社会論	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 　この講義では、老人福祉サービスの居宅サービス及び施設サービス、老後保障の動向などについて学ぶ。 　人口高齢化、寿命、健康寿命、長寿社会、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について学んだことを基礎にして、後半では、老人福祉、老後保障，介護保険などの側面について、福祉先進国であるスウェーデン、デンマーク及び自立自助の米国と比較しながら講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。	1. 在宅福祉及び施設福祉 　ゴールドプラン，新ゴールドプラン、ゴールドプラン 21 とはどのような計画か。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況 2. 高齢者と介護保険制度 　介護保険法の制度と保険料の地域格差、及び利用者がどのような問題をかかえているのか等。 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出 老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。 3. 諸外国の高齢者対策 　福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。
テキスト、参考文献	**評価方法**
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』（新版）有斐閣	受講条件・ａを必ず履修していること 出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	精神衛生論 a 精神衛生論	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
現代の社会では心の健康に関連するできごとが大きな問題となっている。とくに長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間２万人台から３万人台へと激増したままである。精神衛生（=精神保健=メンタルヘルス）の知識は現代を生きる上で不可欠である。本講義では精神保健と精神医学の基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し、自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神保健の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえて、ライフサイクルから見た精神保健すなわち各ライフステージにおける発達課題とその障害について考えていく。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。	1 オリエンテーション 精神衛生（=精神保健）を学ぶ意味 2 精神保健の実践の対象―健常者の精神の健康管理、精神保健不全者への対応、精神障害に対する社会的偏見 3 精神医学の基本的知識（1） 精神障害の概念・成因・分類 4 精神医学の基本的知識（2）心因性精神障害 神経症（不安障害など）、心因反応（PTSD など） 5 精神医学の基本的知識（3）内因性精神障害 うつ病（気分障害）、統合失調症 6 精神医学の基本的知識（4）精神科の治療 薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション 7 ライフサイクルから見た精神保健（1）乳幼児期 基本的信頼感、分離個体化、精神遅滞、広範性発達障害 8 ライフサイクルから見た精神保健（2）児童期 社会化、注意欠陥/多動障害(ADHD) 9 ライフサイクルから見た精神保健（3）思春期・青年期 自我同一性、モラトリアム、不登校、統合失調症 10 ライフサイクルから見た精神保健（4）成人期 職場不適応、ストレス反応、うつ病、自殺 11 ライフサイクルから見た精神保健（5）老年期 老化、喪失体験、うつ病、痴呆（ｱﾙﾂﾊｲﾏｰ病など） 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに指定しない。レジュメを配布する。 参考文献は講義の際に紹介する。	試験の成績による。 再試験・追試験は行わない。

03 年度以降 02 年度以前	精神衛生論 b 精神衛生論	担当者	中野　隆史

講義目的、講義概要	授業計画
精神保健（=メンタルヘルス）や精神障害の問題は一部の特別な人だけのものではない。現代のストレスフルな社会（虐待、いじめ、リストラ‥‥）では誰もが必ず関わることがある問題である。「明日はわが身」である。本講義では健常者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応などの基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し、自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。 精神衛生論 a を踏まえて、それぞれの生活の場から見た精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防と精神の健康管理（精神的健康の保持増進）、わが国の精神科医療の現状について学ぶ。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。	1 生活の場から見た精神保健（1）家族の精神保健 夫婦関係、親子関係、育児不安、育児支援 2 生活の場から見た精神保健（2）学校の精神保健（1） 小中高校―学校精神保健、スクールカウンセラー 3 生活の場から見た精神保健（3）学校の精神保健（2） 大学―保健センター、摂食障害、統合失調症、うつ病 4 生活の場から見た精神保健（4）職場の精神保健（1） 労働安全衛生法、産業精神保健 5 生活の場から見た精神保健（5）職場の精神保健（2） メンタルヘルスケア、産業保健サービスシステム、 6 生活の場から見た精神保健（6）地域の精神保健 地域リハビリテーション、社会復帰のための社会資源 7 わが国の精神科医療の現状 入院治療中心から通院治療中心へ 8 精神障害の予防と健康管理（1） 心の健康づくり、ストレスとその対処法 9 精神障害の予防と健康管理（2） 再発予防、復職システム 10 精神障害の予防と健康管理（3） 医療システム、保健システム、福祉システム 11 医療費の抑制・市場原理の導入・混合診療の解禁の得失 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはとくに指定しない。レジュメを配布する。 参考文献は講義の際に紹介する。	試験の成績による。 再試験・追試験は行わない。

01 年度以降 00 年度以前	医療・福祉概論 a 医療・福祉概論	担当者	藤井　賢一郎

講義目的、講義概要	授業計画
平成 19 年度政府予算案では、社会保障関係費は約 21.1 兆円で、一般会計約 47.0 兆円の 45.0%にのぼっている。少子高齢化が進み、人口減少社会に突入する中で、年金、医療、介護などの社会保障関係費はますますわが国にとって重い負担となりつつある。 春学期の講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の人口学的特性、負担と給付のあり方を探ると共、年金制度を理解し、若い学生諸君に、今後の社会保障制度のあり方、将来の社会のあり方を議論してもらうことである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。 ※毎回、学生同士の簡単な議論や、意見発表を行う型式で授業を進める。	１　ガイダンス ２　少子高齢化・人口減少の人口学的理解（１） ３　少子高齢化・人口減少の人口学的理解（２） ４　社会保障の国際比較（１） ５　社会保障の国際比較（２） ６　社会保障の国際比較（３） ７　税と社会保険料／負担と給付 ８　年金制度（１）制度改革のゆくえ ９　年金制度（１）基礎理解 １０　年金制度（２）制度改正の行方 １１　年金制度（３） １２　厚生行政とレントシーキング（薬害エイズ問題を素材として） ※選択希望者は、第１回に、必ず出席すること。第１回に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。 授業ＨＰ参照のこと http://homepage2.nifty.com/fujiken_0330/dokkyo_uni_h15/
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	期末定期試験による。ただし、授業中の発言回数を勘案する（第１回の授業で説明するので、必ず出席すること）

01 年度以降 00 年度以前	医療・福祉概論 b 医療・福祉概論	担当者	藤井　賢一郎

講義目的、講義概要	授業計画
病院や診療所を使用したことがない人は、まず存在しないが、医療サービスがどのような仕組みで提供され、どのように費用負担されているかを知る人は少ない。また、親の介護や祖父母の介護を気にかける人は多いが、介護保険制度について理解している人は多くない。 高齢化が進む中で、費用負担の面から、医療保険制度も介護保険制度をどのように維持していくかが問われる中で、一般国民が制度の仕組みを理解していないため、国民の側にたった議論が行われていないのが現状である。 秋学期の講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の医療制度、介護保険制度を理解し、若い学生諸君に、今後の社会保障制度のあり方、将来の社会のあり方を議論してもらうことである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。 ※毎回、学生同士の簡単な議論や、意見発表を行う型式で授業を進める。	１　ガイダンス ２　医療保険の仕組み（１）（ＴＶＣＭの民間保険に加入する必要があるの？） ３　医療保険の仕組み（２）（あなたの入っている保険はなに？） ４　医療保険の仕組み（３）（病院にかかるとどのくらい払う必要があるの？） ５　わが国の医療の課題（１） ６　わが国の医療の課題（２） ７　わが国の医療の課題（３） ８　医療制度のまとめ ９　介護保険制度（１）（介護保険制度の概要） １０　介護保険制度（２）（要介護認定とケアマネジメント） １１　介護保険制度（３）（サービスの内容） １２　秋学期のまとめ ※選択希望者は、第１回に、必ず出席すること。第１回に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。 授業ＨＰ参照のこと http://homepage2.nifty.com/fujiken_0330/dokkyo_uni_h15/
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤井賢一郎監修「介護保険制度とは」東京都社会福祉協議会	期末定期試験による。ただし、授業中の発言回数を勘案する（第１回の授業で説明するので、必ず出席すること）

01 年度以降 00 年度以前	現代文化論 a 現代文化論	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
一般に civilization の訳語として「文明」があてられるのに対して、「文化」は culture の訳語とされる。この言葉の語源がもともと「農耕」という意味と深くかかわっていることは現代の文化を考える上でも重要である。 文明がキリスト教を中心とした世界との対比で語られるのに対し、文化は言語、宗教はもとより生活習慣や社会制度や価値観など国家や地域が持つ内面的なアイデンティティーとのかかわりで現代社会のさまざまな局面にたちあらわれる。こうしたグローバルな観点に立って、春学期の授業では冷戦の終焉から 9/11 テロ、そしてイラク戦争という時代の転換のなかの米国の文化とその影響力の変容を、歴史に溯りながら考える。 ２０世紀のグローバリゼーションを導いた米国は世界経済や国際秩序ばかりでなく、民主主義という統治の仕組みやビジネスモデルの構築、消費文化をはじめとする人々のライフスタイルにいたるまで、大きな文化的統合力を世界にもたらした。しかし、9/11 後の多極化する世界はその陰りと新しい世界秩序への道をのぞかせる。 歴史的な比喩として新たな「帝国」とも呼ばれる米国の覇権と文化的影響力の行方を考えたい。	1　はじめに 2　「帝国」と覇権 3　フランクリン型人間像 4　ビジネスと信仰 5　WASP と移民の国家 6　大量生産と大量消費 7　「冷戦」と豊かな時代 8　「信頼」と社会 9　「小さな政府」と市場原理 10　米国標準とソフトパワー 11　ハリウッドシステム 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』（ちくま新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績にくわえて、平時の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	現代文化論 b 現代文化論	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の授業では「日本」というモデルをグローバリズムの流れに置いて、その文化の構造と特質を考える。 歴史的、地理的には中国大陸という大きな文明に接して、その大きな影響を受けてきた日本は、地政学的な位置と言語や民族文化の特殊性のもとでアジアの先頭を切って近代国家に生まれ変わった。欧米列強を追い上げて経済大国として歩むこの国の現代の文化を、その普遍性と特殊性という観点からさまざまな角度で掘り下げる。 近年海外から論評される日本の文化としては、例えばトヨタの生産方式や終身雇用制度などビジネスのシステムやアニメーションなど表現の分野があげられる。これらはいずれも日本の文化の特性を土壌にして生み出され、それが世界的な標準として評価されるに至った。 明治以降の近代化の過程で日本が目指したものは「脱亜入欧」の言葉に象徴される。民主主義や市場経済といった欧米のシステムや文化への統合を通して、社会を普遍的な仕組みに組み替えることが目標とされたが、グローバリゼーションを動かす支配的な価値が、それぞれの固有の文化に根ざしたソフトパワーの力によって生み出されるという逆説をこの授業で学びたい。	1　はじめに 2　脱亜入欧とジャポニスム 3　日本型システムの源流 4　集団主義・天皇制 5　アメリカニズムと日本型経営 6　護送船団と戦後システム 7　MADE　IN　JAPAN 8　高度成長と総中流社会 9　ブランドと国際化 10　Japanese　cool 11　「日本」という表象 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
各回、資料を提供する。夏目漱石『三四郎』（岩波文庫）荒井一博『文化の経済学』（文春新書）などを参考文献とする。	定時試験の成績に平常授業で行うリポートの実績を勘案して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済学の基本的な英文が読めるようになってもらいます。 講義概要 　下記テキストの１章を用い、①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の作成、④訳文の講評、⑤その他を行う翻訳教室です。 　毎回、配布したテキストと中型英和辞書を必ず持参してください。	最初の授業時に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Stiglits,J.E.（1997）“Economics 2nd Edition”,W.W.Norton	翻訳文、出席・遅刻による。欠席４回を超えると単位権を喪失します。（遅刻２回で欠席１回の扱い）

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済学の基本的な英文が読めるようになってもらいます。 講義概要 　下記テキストの１章を用い、①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の作成、④訳文の講評、⑤その他を行う翻訳教室です。 　毎回、配布したテキストと中型英和辞書を必ず持参してください。	最初の授業時に説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Stiglits,J.E.（1997）“Economics 2nd Edition”,W.W.Norton	翻訳文、出席・遅刻による。欠席４回を超えると単位権を喪失します。（遅刻２回で欠席１回の扱い）

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、マーケティング戦略の外国文献の抜粋を輪読する。この分野の読解は、単語の表面的な意味を直訳するだけでは困難であり、その背景となっている経営に関する諸問題を理解する必要がある。英文読解力と経営学に関する基礎知識の両方を体得してもらえれば幸いである。	1. オリエンテーション 2～3. Marketing: An Overview 4～5. Marketing Management 6～7. Selecting and Evaluating Target Markets 8～9. Marketing Research and Information Systems 10～11. Analyzing Buyer Behavior 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	マーケティング論を受講済みもしくは受講予定の学生のみに限る。予習状況と期末試験により評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、マーケティング戦略の外国文献の抜粋を輪読する。この分野の読解は、単語の表面的な意味を直訳するだけでは困難であり、その背景となっている経営に関する諸問題を理解する必要がある。英文読解力と経営学に関する基礎知識の両方を体得してもらえれば幸いである。	1～2. Product and Price Decisions 3～4. Pricing 5～6. Promotion: An Overview 7～8. Advertising and Publicity 9～11. International Marketing 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	マーケティング論を受講済みまたは受講予定の学生に限る。予習状況と期末試験により評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にプリントを配布します。	平常点と期末試験の成績を加味して評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にプリントを配布します。	平常点と期末試験の成績を加味して評価します。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa 経済外国語・経営外国語	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営系の英語に慣れることを目的とする。副次的に、経済経営系のボキャブラリーの増加、アングロ・アメリカン的論理の運び方を学ぶ。題材として Daily Yomiuri や Asahi Weekly 或いは各自が自分で用意した教材を使う予定である。各自が調べた題材の日本語訳と自分の感想を発表し、それを評価する。その合計が成績評価となる。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回資料を配布する。	平常点の合計による。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb 経済外国語・経営外国語	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営系の英語に慣れることを目的とする。副次的に、経済経営系のボキャブラリーの増加、アングロ・アメリカン的論理の運び方を学ぶ。題材として Daily Yomiuri や Asahi Weekly 或いは各自が自分で用意した教材を使う予定である。各自が調べた題材の日本語訳と自分の感想を発表し、それを評価する。その合計が成績評価となる。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回資料を配布する。	平常点の合計による。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
２１世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健･医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。	日本における高齢化の状況と基本的な社会経済的な動向と関連させながら学ぶ。 １．人口高齢化の側面 人口高齢化の要因及び状況 世帯･家族の変化と人口 ２．高齢化の側面と社会経済的な状況 労働力、世代間扶養 ３．社会保障、高齢者への保健福祉、
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業のはじめに指示する	出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。 （受講条件：Ｉｂを受講すること）

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	奥山　正司

講義目的、講義概要	授業計画
２１世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健･医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。	日本における高齢化の状況と基本的な保健福祉について、学ぶ。 高齢者福祉の歴史 明治時代から昭和の20年代までの 高齢者福祉について 老人福祉法制定以降の高齢者福祉について 在宅福祉サービス 施設福祉サービス 介護保険サービスなどについて
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業のはじめに指示する	出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。 （受講条件：Ｉａを必ず履修すること）

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
管理会計は Management(経営) Accounting(会計)といいます。これは、経営と会計の両方の接点という意味です。会計の数値を経営に生かすことは大切です。授業の内容は決して難しくはありません。すこしでも英文会計の基本を理解してほしいと思います。 授業では管理会計の基礎的なテキストを解説したうえで、読んでいこうと思います。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料は配布します。	出席 50 点、試験 50 点

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
管理会計は Management(経営) Accounting(会計)といいます。これは、経営と会計の両方の接点という意味です。会計の数値を経営に生かすことは大切です。授業の内容は決して難しくはありません。すこしでも英文会計の基本を理解してほしいと思います。 授業では管理会計の基礎的なテキストを解説したうえで、読んでいこうと思います。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
資料は配布します。	出席 50 点、試験 50 点

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
経済社会の変動にともなって企業を取り巻く環境は大きく変化し、会計はさまざまな問題を抱えるようになった。これらの問題の一つとして、企業活動の国際化・グローバル化を背景とした会計処理や国際会計基準の設定が問題となっている。会計基準は、それぞれの国において独自の経済・法律および文化などを背景に形成されており、各国の企業が公表する財務諸表はそれぞれの国の会計基準に基づいて作成される。したがって、それらの財務諸表を単純に比較することはできない。そこに会計基準の国際的調和化の必要性が生まれてくるわけである。 この科目では、国際会計に関するテキストを中心に精読し、会計の国際的側面を多面的に検討することにする。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にコピーを配布する。	定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	金井　繁雅

講義目的、講義概要	授業計画
「経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ」と同一内容です。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時にコピーを配布する。	試験の成績に出席率を加味して、総合的に成績評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
ベンチャー企業や企業金融に関する英語文献の読解を行う。春学期は欧米のビジネススクール教員の手になる企業の資金調達に関するテキストを取り上げる。またそれと並行して、適宜最近のビジネス雑誌の記事なども使う。 ベンチャー企業や企業金融の基本的な単語や概念になじんで、外国の経営関連の文献を読むことに慣れることを主眼にする。そして英語文献を通してベンチャー企業の成長に関する問題点を学んでいく。当然のことだがこのテーマ自体に関心が持てない学生には向いていない。ベンチャービジネス論を並行して受講するとより理解が高まる。 語学の上達はかけた時間に比例するといわれる。勤勉に取り組むことが重要であり、テキストや辞書を忘れて出席することがないようにすること。 第１回ガイダンスが重要なので必ず出席すること。	受講者のレベルに応じて授業計画の調整を行う
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料を配布する予定。詳細は授業開始時に指示する	出席、発表と小テスト(ないしは課題レポート)による総合評価。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済外国語Ｉａ･経営外国語Ｉａと同一のテキストを継続して使用するので、経済外国語Ｉａ･経営外国語Ｉａの履修を前提とする。	受講者のレベルに応じて授業計画の調整を行う
テキスト、参考文献	**評価方法**
関連資料を配布する予定。詳細は授業開始時に指示する	出席、発表と小テスト(ないしは課題レポート)による総合評価。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この講義では、日本経済をオンタイムで扱ったテキストを題材に、経済英語独特の言い回し及び日本語の経済用語に慣れることを目的とする。 　なお、テキストを通じて日本経済の現状についての理解が深まる点でも効果があろう。 【講義概要】 　テキストを分担して、英文を音読し和訳する。 　各自が分担する範囲は前の講義の際に指定する。	各月の“Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”を読む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に配布（内閣府の”Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”）	出席（一回４点）及び定期試験による。なお、分担しているにもかかわらず欠席した場合は５点減点する。ただし、病気等理由のある場合は出席扱いとする。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この講義では、日本経済をオンタイムで扱ったテキストを題材に、経済英語独特の言い回し及び日本語の経済用語に慣れることを目的とする。 　なお、テキストを通じて日本経済の現状についての理解が深まる点でも効果があろう。 【講義概要】 　テキストを分担して、英文を音読し和訳する。 　各自が分担する範囲は前の講義の際に指定する	各月の“Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”を読む。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に配布（内閣府の”Monthly Economic Report”及び”Economy Watchers Survey”）	出席（一回４点）及び定期試験による。なお、分担しているにもかかわらず欠席した場合は５点減点する。ただし、病気等理由のある場合は出席扱いとする。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。丁寧に翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。 講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。 受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨んでください。	講義概要の通り下記の章を読み進めていく。 Introduction Chapter 1　The Power of Markets
テキスト、参考文献	**評価方法**
Charles Wheelan *Naked Economics*, W. W. Norton, 2002.	出席状態、予習の程度、報告（翻訳）の内容、小テスト、期末テスト。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。丁寧に翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。 講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。 受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書（単語の使われ方や例文が数多く紹介されているもの）を持参して授業に臨んでください。	講義概要の通り下記の章を読み進めていく。 Chapter 2　Incentives Matter
テキスト、参考文献	**評価方法**
Charles Wheelan *Naked Economics*, W. W. Norton, 2002.	出席状態、予習の程度、報告（翻訳）の内容、小テスト、期末テスト。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお再履修者及び英語の基礎力の不十分な人には、英語の基礎力をつけるために数回のレポート提出を求めるので十分注意して履修登録を行ってほしい。	受講者のレベルを考えながら講義中に述べる
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（プリント配布の予定）	平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。なお再履修者及び英語の基礎力の不十分な人には、英語の基礎力をつけるために数回のレポート提出を求めるので十分注意して履修登録を行ってほしい。	受講者のレベルを考えながら講義中に述べる
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定（プリント配布の予定）	平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
経済関係のニュースを、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。 ニュースの中には、国内（日本語）での報道と、海外のメディアによる報道とで大きな視点の違いがあることが多い。また紛争地域に関する報道、あるいはグローバリゼーションや経済格差をめぐる報道などでは、発信するメディアの立場によっても、同一の事件が全く異なった「ニュース」になることもしばしばである。 日本経済に生じている変化や世界の流れを読むうえでも、複数の視点による「ニュース」を理解することが是非とも必要である。とはいえ、基本は日本語の新聞記事をきちんと理解すること、基礎的な英語力をつけることからはじめなければならない。 本講義では、英字新聞や雑誌の読解力をつけることをめざすが、同時に単語力やリスニング力などの基本的な英語力も養成する。そのために毎時間の小テストとテキストの予習が課せられる。基本的に通年の履修が前提である。	１．　英語のニュース・日本語のニュース ２．　サバイバル英語のすすめ ３．　News in the world business ４．　News in the world business ５．　News in the world business ６．　News in the world business ７．　News in the world business ８．　News in the world business ９．　News in the world business １０．News in the world business １１．News in the world business １２．News in the world business
テキスト、参考文献	**評価方法**
VOA　Special English のサイト http://www.voanews.com/specialenglish/index.cfm	平常点＋定期試験

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
経済関係のニュースを、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。 秋学期は、英語で読む・調べる・書くをテーマに、プレゼンテーション演習を取り入れる。参加者は、各自テーマを設定し、英語の資料やソースにあたり、英語で発表することが課せられる。	１．　英語で読む・書く・調べる ２．　英語で読む　　新聞・雑誌 ３．　英語で読む　　インターネット ４．　英語で聞く　　ニュース番組 ５．　英語で聞く　　インターネット・ラジオ ６．　英語で調べる　辞書・資料の調べ方 ７．　英語で調べる　検索エンジンの使い方 ８．　英語で書く　　身近な文章 ９．　英語で書く　　専門用語 １０．英語で発表する　　プレゼンとは １１．英語で発表する　　演習１ １２．英語で発表する　　演習２
テキスト、参考文献	**評価方法**
西村肇『サバイバル英語のすすめ』ちくま新書	平常点＋発表レポート

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。	皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。 講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。 内容については、現実に行われている経営や実際に動いている経済に関する記事が中心となります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示します。	試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはあくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。	皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。 講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。 内容については、現実に行われている経営や実際に動いている経済に関する記事が中心となります。
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示します。	試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
あらゆる分野についていえることだが、経済学･経営学についても基礎的知識の習得が重要である。基礎がしっかりしていないと、その後の発展が望めないからである。その意味で本講義では、特に経済学の基礎を外国語（英語）で習得することに目標をおく。下記の教科書は経済学の基礎を平明な英語で解説しており、本講義の目的にかなっていると思われる。学生諸君の輪読を中心に授業を進めていきたい。当たり前のことだが、予習を必ずやることを義務づける。	1．Chap.1　A　Matter　of　Choice 2． 3． 4． 5． 6． 7．Chap.2　Meaning　of　Micro 8． 9． 10. 11. 12.
テキスト、参考文献	**評価方法**
John Tilmant 著（新井恵理注解）『Economics in Our Life』成美堂	定期試験に平常授業中の熱意（出席状況、発表状況）を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的およびその概要は春学期と同様。春学期授業を受けていなければ理解できないというわけではないが、春学期授業を受けておくほうが望ましい。	1．Chap.3　Meaning　of　Macro 2． 3． 4． 5．Chap.4　Politics　&　Policy 6． 7． 8． 9．Chap.5　At　Least　in　Theory 10. 11. 12.
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。継続使用。	春学期と同じ。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
経済英語を通じて，様々な英語の側面に慣れることを目的とする．より具体的には下記の通りである． 1. **経済・経済学の単語力をつける**： 経済英単語を 6 つ覚える．形式は，英文の説明を読み，その定義を記す．課題の単語と定義は事前に配付する． 2. **リスニング力をつける**： 原則として，ネットや適当な教材から，現在実際に使われている英語を聞く． 3. **リーディング力をつける**：毎回，経済学のテキストもしくは経済・社会の時事英語に関する資料を配付して，音読・和訳・要約をする．1 と 4 が受講生の負担となるので，なるべく授業中にできる課題をと考えている． 4. **ライティング力をつける**：毎回 2 つの経済英単語について，定義を記す．課題の単語と定義は事前に配付． 追記： 担当教員は 2007 年 4 月に，1 年間の米国で在外研修を終えたばかりです．研修中は，学会や大学院での授業など，何回か英語でのプレゼンテーションもおこないました．日常生活も含めて，その時の経験をふまえた英語の学習方法も，適宜紹介したいと思います．	単語の確認テスト （8 分） ライティングの確認テスト （7 分） リスニング （15 分） リーディング （50 分） プレゼンテーション(10 分） 教員が英語で経済学の基礎概念を解説する． 念頭に置いている教材： ・ 経済学の英文のテキスト （ミクロ経済学, マクロ経済学など．英語が非常に簡単なので読みやすい） ・ 平易な英文の経済社会の記事 （なるべく，Listening が可能で，全文も文字として得られるものを考えている． NHK-online， Voice of America ， NPR などのインターネットサイト，茅ヶ崎式・時事英語の教材） ・ “The U.S.A: Customs and Institutions” (Pearson ESL) 米国の経済・社会・文化を広く簡単に紹介している本 ・ “Skills for Success” (Cambridge University Press) 米国のビジネススキルを広く簡単に紹介している本
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜，配付する．	出席および確認テスト(単語およびライティング)

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
基本的な方針は春学期と同じである．ただし，春学期の経験をふまえ，春学期からの受講生の要望も聞いて，内容のバランスを変更する可能性がある．	原則として，春学期と同じである．
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜，配付する．	出席および確認テスト(単語およびライティング)

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
英文をただ読むだけでなく、理解するのに必要な基本的読解力を身につけることを目的とする。 コンピュータやデータベースなど情報科学に関する基本書を読む。 毎回しっかり予習をし，辞書を持参して授業に臨むこと。	前もって担当者を決め、担当者の発表後、議論を行う。 一回の授業に 2～3 人を担当者として指名する予定である。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指定する。	発表、授業態度、出席状況で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
a と同じ	a と同じ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指定する。	発表、授業態度、出席状況で評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
英語に限らず、外国語の力は人生を支える大きな武器です。自分なりの目的をみいだし、楽しみながら勉強する方法を身につけることができれば、生涯をつうじて外国語に親しみ、それだけ精神的にゆたかな生活をおくることができると思います。 この授業では、文法の復習とリスニングに重点をおいて勉強します。文法はＴＯＥＩＣ対策になりますし、リスニングは、英語が苦手な人でも、見ちがえるほど耳ができてくるはずです。	授業は３つのパートに別れる。 １．文法小テスト（20 分） ２．リスニング（50 分） ３．リーディング、ボキャブラリーその他（20 分） 学期の最後に、各自、英語に関する任意のテーマで短いプレゼンテーションを行ってもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回資料を配付	出席、小テスト結果、その他

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
英語に限らず、外国語の力は人生を支える大きな武器です。自分なりの目的をみいだし、楽しみながら勉強する方法を身につけることができれば、生涯をつうじて外国語に親しみ、それだけ精神的にゆたかな生活をおくることができると思います。 この授業では、文法の復習とリスニングに重点をおいて勉強します。文法はＴＯＥＩＣ対策になりますし、リスニングは、英語が苦手な人でも、見ちがえるほど耳ができてくるはずです。	授業は３つのパートに別れる。 １．文法小テスト（20 分） ２．リスニング（50 分） ３．リーディング、ボキャブラリーその他（20 分） 学期の最後に、各自、英語に関する任意のテーマで短いプレゼンテーションを行ってもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回資料を配付	出席、小テスト結果、その他

01年以降 00年以前	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa 経済外国語・経営外国語	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
テキサスインスツルメント社製の関数電卓BAII plusの英文マニュアルに挑戦する。受講生は電卓を購入し、電卓とマニュアルのセットで受講することとなる。電卓操作をマスターしたのちに、さまざまな経済計算に移る。教材の電卓は高価なので、一年間、落ち着いてじっくり学習することのできる受講生を希望する。	1　基本操作 2　基本操作 3　基本操作 4　基本操作 5　基本操作 6　基本操作 8　複利と単利 9　割引現在価値 １０　割引現在価値 １１　投資 １２　投資
テキスト、参考文献	**評価方法**
TI社製関数電卓　BAII Plus	出席５０％、試験５０％

01年以降 00年以前	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb 経済外国語・経営外国語	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き電卓操作の習得を目標とする。	1　償還 2　償還 3　償還 4　基本操作 5　基本操作 6　基本操作 7　基本操作 8　対数と指数 9　対数と指数 １０　三角関数 １１　三角関数 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
TI社製関数電卓　BAII Plus	出席５０％、試験５０％

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa 経済外国語・経営外国語	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
経済地理または環境経済関係の外国書（英文）または論文をテキストに、学術的英文の読解力を高める。とくに、単なる直訳に終わらせるのではなく、図や表を含めた内容のイメージを的確に把握する能力を養う。	毎回、無差別にできるだけ多数の人を指名し、訳出・内容の説明を担当してもらう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布する。	出席状況、授業中の発表の成績、および定期試験により総合的に評価する。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb 経済外国語・経営外国語	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
aと同じ。	aと同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布する。	出席状況、授業中の発表の成績、および定期試験により総合的に評価する。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
経済英語に慣れると同時に、読解力の向上を目指す。 毎回ランダムに当て、できるだけ多くの人に訳出してもらう。 定期試験を実施するとともに、簡単な小テストを頻繁に実施する予定。 （注意） 第１回の授業でテキストのプリントを配布するので、履修者（予定者も含む）は必ず出席すること。 毎回しっかり予習して出席する。 辞書を毎回必ず持参する。 授業のマナーを守り遅刻しない。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを使用する予定。辞書などについては第１回の授業で説明する。	出席、試験成績、訳出内容、予習内容で評価する。欠席は３回まで。それ以上欠席した場合は単位が認定されない。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
ヨーロッパ経済共同体が、1993 年より形成され、現在では欧州連合（EU）として拡大している。この形成のために種々の制度が統一されてきた。そのうちの付加価値税を通じて、統一過程を理解する。 ヨーロッパで発展した付加価値税が日本において消費税として導入された。その意味では、付加価値税について知識を得ておくことは意義があろう。	1　The European Economic Community 2　The Aims of the European Community 3　The White Paper 4　The Community's Institutions The European Parliament 5　The Community's Institutions The Council of Ministers 6　The Community's Institutions The Court of Justice 7　The Financial Means of The Community 8　The Value Added Tax 9　VAT in The Community
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ernst & Young：VAT in Europe	テスト

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
付加価値税が、ヨーロッパ経済共同体の共通の税となり、かつその財源になって以来、非常に大きな役割を果たすようになってきた。付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について理解する。この付加価値税の考え方は、日本の消費税の基礎となっている。	1　Harmonization of VAT in The European Community General 2　Harmonization of VAT in The European EC Council Directive 3　The Proposals for Future Harmonization 4　Commission's Proposals for a Single Market 5　The 1987 Proposals for The Commission Removal of　Fiscal Barriers 6　The 1987 Proposals for The Commission The Clearing System 7　The 1987 Proposals for The Commission The Approximation of VAT Rates 8　The 1987 Proposals for The Commission Services
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ernst & Young：VAT in Europe	テスト

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
先ず、辞書なしでも英語文献に立ち向かう訓練をする。新聞やテレビでも取り上げられているような経済トピックス（特に日本経済やアジア経済）について書かれた英文の経済社会記事（論文を含む）を用意するので、初めは、辞書を使わず、自分の持っている知識を総動員して大意を推量する努力をする。そのトピックスに関する知識があれば、知らない単語が多い英文もかなり正しく推量することが可能であることに気付いて欲しい。換言すれば、（日本語での）知識がないものは理解不能であることも知ってもらう。日頃から日本語で書かれた記事、論文、テレビでの経済問題解説に触れておけば、日常的な経済英語文献は恐れることはない。この授業を通じて、英文に対する抵抗感をなくして欲しい。	特記するような計画は持たないが、教材には、日本経済の国際化、アジア太平洋諸国の経済に関する課題を取り上げ、随時、理論的な解説を加えることにしたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。	一定の出席率と宿題（内容は簡単）の提出状況が評価の前提。その上で、期末試験の結果を併せ評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
（春学期に同じ）	（春学期に同じ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
（春学期に同じ）	(春学期に同じ)

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa 経済外国語・経営外国語	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済記事を読むためには英語の知識と経済の知識の双方が必要です。この講義では、その時どきの新聞記事を読むなかで、その背景となる経済現象を学びます。記事の英語は平易なものを用います。	毎週、講義後に課題の記事を配布し、発表者を決めて、翌週その記事を訳し、その内容を議論します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配ります	出席、試験

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb 経済外国語・経営外国語	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経済記事を読むためには英語の知識と経済の知識の双方が必要です。この講義では、その時どきの新聞記事を読むなかで、その背景となる経済現象を学びます。記事の英語は平易なものを用います。	毎週、講義後に課題の記事を配布し、発表者を決めて、翌週その記事を訳し、その内容を議論します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配ります	出席、試験

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	山内　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「英文会計の基本的なテキスト」を読みながら「企業の英文アニュアルレポート」を読む練習をすることにより、基本的な英文会計の知識を身につけるのと同時に、企業の英語による会計情報とそれに関連する経営などの情報を実際に読み取ることができるようになることを目的としています。 *英文アニュアルレポートは、講義内で随時指定します。	１．ガイダンス ２．Basic Concepts. ３．Basic Concepts. ４．Balance Sheet Changes; Income Measurement. ５．Balance Sheet Changes; Income Measurement. ６．Accounting Records and Systems. ７．Accounting Records and Systems. ８．Revenues and Monetary Assets. ９．Revenues and Monetary Assets. １０．Expense Measurement; The Income Statement. １１．Expense Measurement; The Income Statement. １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert N. Anthony, Leslie Pearlman Breitner *Essentials of Accounting* Prentice Hall College Div; 9th 版（2006/3/15）	出席・講義への参加度・期末試験を総合的に評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	山内　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「英文会計の基本的なテキスト」を読みながら「企業の英文アニュアルレポート」を読む練習をすることにより、基本的な英文会計の知識を身につけるのと同時に、企業の英語による会計情報とそれに関連する経営などの情報を実際に読み取ることができるようになることを目的としています。 *英文アニュアルレポートは、講義内で随時指定します。	１．Inventories and Cost of Sales. ２．Inventories and Cost of Sales. ３．Noncurrent Assets and Depreciation. ４．Noncurrent Assets and Depreciation. ５．Liabilities and Equity. ６．Liabilities and Equity. ７．Statement of Cash Flows. ８．Statement of Cash Flows. ９．Analysis of Financial Statements. １０．Analysis of Financial Statements. １１．Financial Statements of Nonprofit Organizations. １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert N. Anthony, Leslie Pearlman Breitner *Essentials of Accounting* Prentice Hall College Div; 9th 版（2006/3/15）	出席・講義への参加度・期末試験を総合的に評価します。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は、外国語（英語）を通して、経済の新しい動きや姿について触れると同時に、専門用語についての知識を増して、国際化の進行に少しでも順応できるようにすることを意図している。そこで本講では、ニュービジネス、新商品、技術変化、グロバリゼーション、産業集積、地域活性化、雇用問題などの中から、いくつかのペーパーを選び出し、それを読み、議論し、理解を進めていくことにする。そのためより多くの課題に触れるよう、多くのペーパーに取り組みたい。	なるべく多くの論文を読み進めるため、１回につき４～５頁は読み進めていきたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
順次、ペーパーのコピーを授業で配布	課題ペーパー（講義中に配布）を訳し、レポートを提出したものと、期末テストの結果および出席と授業の受け答えによる。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
Ｉａの課題のペーパーを更に読み進めていく。したがってＩａを受け継いで履修するのが望ましい。	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同上	同上

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa 経済外国語・経営外国語	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営分野の入門的書籍から適当な題材を選択し、それを輪読していく形で進めます。 内容を理解し、正確に日本語訳することを目標とします。 あらゆる分野でいえることですが、専門書を読む場合、その分野以外ではほとんど使わないような単語が出てきたり、あるいは、通常とは少し意味の違う特殊な意味で用いたりします。同時に、これらの単語は専門用語として対応する日本語があり、日本語としても専門用語の意味を正しく理解する必要があります。	受講者にはあらかじめ担当個所を指定し日本語訳してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第1回の授業で英文テキストを配布します。	期末試験を基本としながら、出席・報告も合わせて総合評価する。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb 経済外国語・経営外国語	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
経済・経営分野の入門的書籍から適当な題材を選択し、それを輪読していく形で進めます。 内容を理解し、正確に日本語訳することを目標とします。 あらゆる分野でいえることですが、専門書を読む場合、その分野以外ではほとんど使わないような単語が出てきたり、あるいは、通常とは少し意味の違う特殊な意味で用いたりします。同時に、これらの単語は専門用語として対応する日本語があり、日本語としても専門用語の意味を正しく理解する必要があります。	受講者にはあらかじめ担当個所を指定し日本語訳してもらいます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
第1回の授業で英文テキストを配布します。	期末試験を基本としながら、出席・報告も合わせて総合評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞、英語の雑誌の記事を通して、日常の経済がどのようになっているかの見識を深めることを目標とする。記事はエコノミスト、日経ウイークリー、朝日イブニングニュース等から取り上げ、できるだけ新しい記事、特に国際経済、金融について取り上げた記事を読んでいきたい。 経済外国語の授業は演習形式で進められる。演習形式なので、出席が重視されることは言うまでもないことであり、また学生の予習も必須のこととなる。必ず講義 1 時間当たり 1 回はあたる事になる。講義開始時に最低限出席しなければならない回数、および、予習についての決まりごとについての話をするので、必ず守ること。	1 回目　イントロダクションとプリント配布 2 回目　以降は前回配布したプリントを輪読する。 ・ ・ ・ ・ ・ 最終回

テキスト、参考文献	評価方法
特になし。毎回、プリントを配布する。	出席、予習の実績、試験の成績

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ 経済外国語・経営外国語	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
環境領域の文献をテキストに選定する。テキストの内容を理解し、併せて、専門用語が身につくよう、授業を進める。	１．オリエンテーション（テキストの概要） ２．～１３．テキストの輪読、内容の解説
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定（基本書を選定） 参考文献：その都度指定	定期試験、授業への積極的参加度、出席回数を勘案して、総合評価する

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ 経済外国語・経営外国語	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
環境領域の文献をテキストに選定する。テキストの内容を理解し、併せて、専門用語が身につくよう、授業を進める。	１．～１３．テキストの輪読、内容の解説
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：未定（基本書を選定） 参考文献：その都度指定	定期試験、授業への積極的参加度、出席回数を勘案して、総合評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英字新聞'The Japan Times'の経済記事のを読んで、ボキャブラリーの増強と読解力の強化を目指します。記事のリスニング教材も用いることで聴解力も磨くことも考えています。 授業の進め方は、まずテキストを用いてトピックごとに過去の記事のヒアリングとリーディングを行い、そのトピックの読解に必要な単語、経済用語・時事用語やニュースの背景を学びます。次に、そこで学んだ語彙や専門用語や経済事情に関する知識をもとに、同じトピックの最新の記事を'The Japan Times Online'からダウンロードして読みます。 毎週、トピックを代えて経済記事を読んでいくだけでなく、ひとつのトピックについての理解を深めるために、そのトピックについて関連記事を集中的に読むこともします。ときには新聞以外の関連文献も読みたいと思います。 毎週授業で読む記事は、事前にプリントを配布するか、各自で授業支援システムにアップしますので、それらの教材を予習した上で授業に臨んでください。また授業で学習した内容については、翌週の授業で単語テスト・読解力テストを行いますので、復習することで知識の定着を図ります。	取り上げるトピックは、「貿易」「国際経済」「マクロ経済」を中心として、できるだけホット・イシューを取り上げていきたいと思います。 各トピックについて、[予習]辞書引き・読解→[授業中]読解のチェック、ニュースの解説→[復習]単語・専門用語の暗記→[翌週の授業]テストという流れで進めていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ジャパンタイムズ+コミュニケーション英語研究所編『The Japan Times オフィシャル版　英字新聞が読める！聞ける！[経済・ビジネス編]』ジャパンタイムズ、2006 年。	出席状況、日常的な学習状況、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第 1 回目の授業で説明します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英字新聞'The Japan Times'の経済記事のを読んで、ボキャブラリーの増強と読解力の強化を目指します。記事のリスニング教材も用いることで聴解力も磨くことも考えています。 授業の進め方は、まずテキストを用いてトピックごとに過去の記事のヒアリングとリーディングを行い、そのトピックの読解に必要な単語、経済用語・時事用語やニュースの背景を学びます。次に、そこで学んだ語彙や専門用語や経済事情に関する知識をもとに、同じトピックの最新の記事を'The Japan Times Online'からダウンロードして読みます。 毎週、トピックを代えて経済記事を読んでいくだけでなく、ひとつのトピックについての理解を深めるために、そのトピックについて関連記事を集中的に読むこともします。ときには新聞以外の関連文献も読みたいと思います。 毎週授業で読む記事は、事前にプリントを配布するか、各自で授業支援システムにアップしますので、それらの教材を予習した上で授業に臨んでください。また授業で学習した内容については、翌週の授業で単語テスト・読解力テストを行いますので、復習することで知識の定着を図ります。	各トピックについて、[予習]辞書引き・読解→[授業中]読解のチェック、ニュースの解説→[復習]単語・専門用語の暗記→[翌週の授業]テストという流れで進めていきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ジャパンタイムズ+コミュニケーション英語研究所編『The Japan Times オフィシャル版　英字新聞が読める！聞ける！[経済・ビジネス編]』ジャパンタイムズ、2006 年。	出席状況、日常的な学習状況、定期試験の総得点によって評価します。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰa・経営外国語Ⅰa（フランス語） 経済外国語・経営外国語	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 比較的やさしいフランス語の経済・社会時事文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする経済・社会の現状を理解する。 講義概要 フランス経済・社会の現状に関する易しいテキストを講読する。 授業内容の難易度は、受講者の経済学・フランス語などの修得レベルに合わせて調整する。	第１回 （１）授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 （２）最近のフランスの政治・経済・社会情勢の基礎知識の解説 （３）受講者のフランス語修得度の調査 第２回目以降はテキストを使用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Ｃ．ボームルー、長谷川公昭著『時事フランス語（2007年版）』朝日出版社 参考文献：小林　茂「新聞のフランス語」（白水社、1984）	期末試験（またはレポート）ならびに出欠、授業への熱意・積極的参加度などを総合的に評価する。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅰb・経営外国語Ⅰb（フランス語） 経済外国語・経営外国語	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 比較的やさしいフランス語の経済・社会時事文献の講読を通じて、フランス・ヨーロッパ等を中心とする経済・社会の現状を理解する。 講義概要 新聞、雑誌等に掲載されたやさしい経済・社会関連記事を講読する。	第１回 （１）授業の進め方、テキスト・参考文献、成績評価方法などについての説明 （２）最近のフランスの政治・経済・社会情勢の基礎知識の解説 （３）受講者のフランス語修得度の調査 第２回目以降はテキストを使用する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
新聞、雑誌等の記事のコピーを随時配布する。	期末試験（またはレポート）ならびに出欠、授業への熱意・積極的参加度などを総合的に評価する。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ（中国語） 経済外国語・経営外国語Ｉ	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。ただし授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。最初は、中国語の基礎的な文法から勉強するが、授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。必要に応じて中国経済について講義もする 中国語を履修しなくても中国経済に強い関心を持ち、これから中国語を学ぼうとする学生の履修も歓迎する。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ（中国語） 経済外国語・経営外国語Ｉ	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
中国語や中国経済をもっと深く勉強する。 中国経済が抱えているいろいろな問題を、理解できるように授業を進めていきたい。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉａ・経営外国語Ｉａ（留学生） 経済外国語・経営外国語	担当者	J. ブローガン

講義目的、講義概要	授業計画
Students joining this class will have had varied English learning experiences. The main aim of the course is to develop the ability to converse in simple, non-specialized English. The main vocabulary and grammatical structures to be used the following week will be given out at the end of each class and students will be expected to translate and add to the vocabulary list before the class. Techniques to improve the ability to keep a conversation going will be shown and emphasis will be on improving these techniques rather than just developing a large vocabulary. In this first semester we will cover the main areas of grammar by talking about things we do, have done and will do in our everyday life. The emphasis will be on spoken conversational English.	Week1:Describing people: physical appearances and personalities *Personal information, family and friends* Week2:Describing things: physical appearances and functions Week3:Daily routines (i): the things you do regularly *Using 5W/1H questions to keep a conversation going* Week4:Daily routines (ii): the things you do regularly How often you do things in your regular routines, when and for how long each time Week5:Daily routines (iii): the things you do regularly *Talking about the past and future* Week6:Complaints, offers and requests Week7:Likes and Dislikes (i): *How you feel about the things and activities* Week8:Likes and Dislikes (ii): *How much you like or dislike a thing or activity* Week9:Abilities (i)*Talking about things you can do* Week10:Abilities (ii) *Talking about how good you, and other people, are at doing things* Week11:Giving directions How to give and understand directions Week12:Plans for the summer *Talking about future definite, and not so definite, plans*
テキスト、参考文献	**評価方法**
Students should have an A4 folder to hold the printouts that will be provided for each class. They must also bring a dictionary to class. An electronic dictionary is highly recommended.	Class participation and individual improvement will be the most important factors in grading. Final grades will be based on class work and assigned work, so good attendance is essential. Two times late will equal one time absent and more than three times absent per semester will mean a failing grade.

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ｉｂ・経営外国語Ｉｂ（留学生） 経済外国語・経営外国語	担当者	J. ブローガン

講義目的、講義概要	授業計画
In this second semester we will look at some techniques for maintaining and building vocabulary and on summarising what we read and hear. In the second half of the semester students will be given short stories, which they will summarise and present to the rest of the class the following week. The emphasis will be on written English.	Week1:Past experiences (i) *Talking about what we did this summer and planning an essay* Week2:Past experiences (ii) *Going over the 'What I did this summer' essay with classmates* Week3:Mixing up languages *A look at some of the reasons behind common mistakes* Week4:Suffixes and Prefixes How to guess the meaning of new words Week5:How to keep and build on what we know *Some techniques for reviewing and building vocabulary* Week6:Retelling a story (i) *Creating and summarising stories* Week7:Retelling a story (ii) *Creating and summarising stories* Week8:Retelling a story (iii) *Creating and summarising stories* Week9:Retelling a story (iv) *Creating and summarising stories* Week10:Retelling a story (v) *Creating and summarising stories* Week11:Retelling a story (vi)*Creating and summarising stories* Week12:Review *A look at some of the things we have learned and a plan for where to go from here*
テキスト、参考文献	**評価方法**
Students should have an A4 folder to hold the printouts that will be provided for each class. They must also bring a dictionary to class. An electronic dictionary is highly recommended.	Class participation and individual improvement will be the most important factors in grading. Final grades will be based on class work and assigned work, so good attendance is essential. Two times late will equal one time absent and more than three times absent per semester will mean a failing grade.

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa 外国書講読	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英国の福祉制度や社会保障のアウトラインを知ることにあります。できるだけ平易な文章を選びますが、福祉をめぐる一般用語は普段あまり見ない単語、あるいは知っている単語でも決まった専門訳がある単語が出てきますので、注意が必要です。ここを乗り切れば、内容的には我が国も制度とあまり変わりませんので、比較的とり組みやすいと思います。その理由は、日本の制度が英国の制度を模範としている点が多いからです。 なお、適宜トピックスなどを取り入れていきますので、関連書物（邦文）を図書館などで探して予習・復習することをお薦めします。	①参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。 ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。 ②テキストは英国 DWP（労働年金省）の Estimating economic and social welfare impacts of pension reform. First Published 2006. ISBN 1 84712 118 7 を予定しています。 を予定しています。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。	出席を重視し、講義中の発表回数や小テスト等で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb 外国書講読	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も基本的には春学期と同様の方法で講義を進めます。 ここでは特に年金問題を中心に考えていきますが、福祉全般について興味がある履修者については相談の上、プレゼンテーションを導入することも考えています。 なお、受講生の希望があれば、秋学期はＣＤを使って実践的な短文のリスニングの練習を随時行うことも計画しています。	①参考書などは随時紹介します。 翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。 ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。 ②テキストは、履修者の状況によって春学期の継続（Ⅱa, b 履修）か新規のもの（Ⅱｂのみ履修）を予定しています。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。	出席を重視し、講義中の発表回数や小テスト等で評価します。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa 外国書講読	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的　私たちの生活に身近な存在である税制に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。 **講義概要**　あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席状況・発表の出来・小テストの結果を勘案して評価する。

01年度以降 00年度以前	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb 外国書講読	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的　私たちの生活に身近な存在である税制に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。 **講義概要**　あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	出席状況・発表の出来・小テストの結果を勘案して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱａ・経営外国語Ⅱａ（中国語） 外国書講読	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修し、さらに中国経済に関心のある学生を対象にする。 ただし経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修しなくてもこの授業が履修できる中国語の能力があれば対象にする。授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。 中国政治・経済に関する新聞記事を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義もする。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01 年度以降 00 年度以前	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb（中国語） 外国書講読	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
最近の中国経済の動向や日中経済関係などの経済関連記事を選び、それに沿って授業を進める。 講読資料の選択には学生諸君の提案も可能である。	
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて資料を配布する。	出席状況と筆記試験によって評価する

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 a マクロ経済学	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、以下に引用する教科書「はしがき」の文章の通りである（したがって、文末の「本書」の部分を、「本講義」に読み替えていただきたい)。 「ほとんど全ての人は、自分自身の経験に基づく『等身大の経済像』をもっている。／ しかしマクロ経済学の対象である一国経済全体の動きについては、われわれが直接に何かを経験した時にえるような『実感』をもって眺めることは不可能である。それどころかこれから学ぶように、経済全体すなわちマクロ経済の動きは、個々の経済主体のミクロ的な動きについてわれわれがもつ直観とは矛盾したものになることも少なくない。…… そこにマクロ経済学の難しさと面白さがある。くり返しになるが、われわれは、マクロ経済を直接『みる』ことはできない。マクロ経済を『みる』ためには必ず『眼鏡』（理論）が必要になる。この『眼鏡』について学ぶことが本書の目的である。」	教科書の第 1 章から第 4 章（可能であれば第 5 章）までの内容を紹介・解説していく。 なお、各章のタイトルは次の通りである。 第1章　国民所得統計 第2章　GDP の決定 第3章　資産市場 第4章　IS／LM モデル 第5章　オープン・エコノミーのマクロ経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉川洋『現代経済学入門 マクロ経済学 第 2 版』岩波書店	レポート、期末試験。

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 b マクロ経済学	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、以下に引用する教科書「はしがき」の文章の通りである（したがって、文末の「本書」の部分を、「本講義」に読み替えていただきたい)。 「ほとんど全ての人は、自分自身の経験に基づく『等身大の経済像』をもっている。／ しかしマクロ経済学の対象である一国経済全体の動きについては、われわれが直接に何かを経験した時にえるような『実感』をもって眺めることは不可能である。それどころかこれから学ぶように、経済全体すなわちマクロ経済の動きは、個々の経済主体のミクロ的な動きについてわれわれがもつ直観とは矛盾したものになることも少なくない。…… そこにマクロ経済学の難しさと面白さがある。くり返しになるが、われわれは、マクロ経済を直接『みる』ことはできない。マクロ経済を『みる』ためには必ず『眼鏡』（理論）が必要になる。この『眼鏡』について学ぶことが本書の目的である。」	教科書の第 5 章から第 10 章までの内容を紹介・解説していく。 なお、各章のタイトルは次の通りである。 第5章　オープン・エコノミーのマクロ経済学 第6章　失業とインフレーション／デフレーション 第7章　新古典派マクロ経済学 第8章　消費・貯蓄と投資 第9章　景気循環 第10章　経済成長
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉川洋『現代経済学入門 マクロ経済学 第 2 版』岩波書店	レポート、期末試験。

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 a マクロ経済学	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済学は、国内総生産（GDP)、利子率、失業率、貨幣供給量といった変数を通じて一国の経済活動全体を考察する学問である。特に GDP がどのような水準に決定されるかのメカニズムを考察することが主要な目的である。この講義では、ケインズ経済学と古典派経済学の対応関係を１つの視点としながら、マクロ経済学の初歩を学ぶ。 また、秋学期のマクロ経済学ｂでは、この講義で学んだことを基礎として、マクロ経済モデルを学習するので、秋学期のマクロ経済学ｂも引き続き受講することが望ましい。	１．マクロ経済学とは？ ２．完全雇用と不完全雇用 ３．セイ法則と有効需要原理 ４．消費 ５．45 度線モデル ６．投資 ７．貨幣
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書として以下を推薦する。初級『マクロ経済学・入門、第３版、福田・照山著、有斐閣アルマ』、中級『新経済学ライブラリ３・マクロ経済学、新世社、浅子・加納・倉澤著』	学期末テストにより評価する。但し、講義中に２回程度のレポート提出を課し、この点数は学期末テストに加算される。

01 年度以降 00 年度以前	マクロ経済学 b マクロ経済学	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
マクロ経済を一般均衡論的立場から考察することを目的とする。最も標準的なケインズ経済学のモデルである IS－LM モデルを初めとして、AD－AS モデル、古典派モデルを学ぶ。また、財政・金融政策の基本事項を概観する。また、各モデル間の類似点・相違点を理解することが主要な目的となる。 なお、このマクロ経済学ｂのみを受講することも可能であるが、春学期のマクロ経済 a と合わせて受講することが望ましい。	１．IS－LM モデル ２．財政政策 ３．金融政策 ４．AD-AS モデル ５．古典派モデル ６．インフレーション ７．期待形成 ８．マネタリズムと LSW 命題
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書として以下を推薦する。初級：『マクロ経済学・入門』、第３版、福田・照山著、有斐閣アルマ、中級：『新経済学ライブラリ３・マクロ経済学』、浅子・加納・倉澤著、新世社	学期末テストにより評価する。但し、講義中に２回程度のレポート提出を課し、この点数は学期末テストに加算される。

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 a ミクロ経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。	最初の講義のときにプリント配布 （完全競争を中心にして講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義中に指示する。	学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 b ミクロ経済学	担当者	小林　進

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。	最初の講義のときにプリント配布 （不完全競争を中心にして講義）
テキスト、参考文献	**評価方法**
使用しない。参考文献は講義中に指示する。	学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 a ミクロ経済学	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ ミクロ経済学とは、最適な意思決定の仕方とその帰結を考察する学問といえる。とくに、経済活動においては、相手との駆け引きが非常に重要な要素となってくる。1980 年代以降，これらの点に関する分析が急速に深まった．春学期では，経済活動における駆け引きの帰結を中心に講義する。 ＜講義の目的＞　ミクロ経済学の基礎を習得する．より具体的には、第 1 に諸概念の直感的な理解を得る．第 2 に諸概念の抽象的な記号表現をマスターする．以上は、3 年生、4 年生となり、更なる勉強をするときに必要不可欠となる． ＜講義の方針＞　できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行う．	1. イントロダクションおよび最大化の計算の仕方. 2. 独占市場：利潤を最大にする価格設定 3. ナッシュ均衡：駆け引きのとらえ方 4. ゲーム理論 1（戦略形）：ジャンケン型のゲーム 5. ゲーム理論 2（展開形）：時間をともなうゲーム 6. 他のゲーム理論の応用例 7. 寡占市場 1：生産量での競争 8. 寡占市場 2：価格での競争 9. 不確実性について 10. 時間が余れば補足的なトピックスを説明する. 11. 時間が余れば補足的なトピックスを説明する. 12. 時間が余れば補足的なトピックスを説明する.
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書：『新しい教養のすすめ　経済学』大西・三土編　昭和堂	試験で評価する.

01 年度以降 00 年度以前	ミクロ経済学 b ミクロ経済学	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の概要＞ 経済活動において、財やサービスが取引される市場の持つ意味は非常に重要である。この市場を通じた取引は社会的に望ましい状態を導くのか．また、導くとすると、どのような意味で望ましいのか．さらには、そこから、どのような政策的な含意が導かれるのか．これらの点を、講義では解説してゆく。 講義の目的・方針ともに，前期と同じであるが，秋期は完全競争市場についての講義をする．	1. イントロダクション 2. 市場における需要と供給の作用 3. 弾力性とその応用 4. 需要，供給，および政府の政策 5. 消費者，生産者，市場の効率性 6. 応用：課税の費用 7. 応用：国際貿易 8. 外部性 9. 公共財と共有資源 10. 時間が余れば補足的なトピックスを説明する. 11. 時間が余れば補足的なトピックスを説明する. 12. 時間が余れば補足的なトピックスを説明する.
テキスト、参考文献	**評価方法**
『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』N.グレゴリー・マンキュー　東洋経済新報社	試験で評価する.

01 年度以降 00 年度以前	経済学史 a 経済学史	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。 講義の概要 近代自由主義社会の確立を基礎づけた 17 世紀の経済思想から 19 世紀末の経済思想までを通覧する。	1　ガイダンス 　経済学史とはどのような学問か 2　ロックとヒューム 　市場社会の成立を支えた思想 3　フランソワ・ケネー 　人類最初のエコノミスト 4-5　アダム・スミス 　市場社会の仕組みを解明した経済学の父 6　ジェレミー・ベンサム 　「最大多数の最大幸福」を夢想した功利主義者 7　トーマス・ロバート・マルサス 　市場社会における貧困と「人口の原理」 8　デイビッド・リカードウ 　古典派経済学の体系化 9　ジョン・スチュアート・ミル 　功利主義思想と古典派経済学の批判的統合 10-11　カール・マルクス 　資本主義社会と古典派経済学への根源的批判 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会	レポート、期末試験。

01 年度以降 00 年度以前	経済学史 b 経済学史	担当者	黒木　亮

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。 講義の概要 19 世紀末の経済思想から、われわれの社会を支え、その将来を基礎づけるであろう今日の経済思想までを通覧する。	1　ガイダンス 　春季から秋季への橋渡し 2　グスタフ・シュモラー 　新歴史学派の社会政策思想 3　カール・メンガー 　主観主義のミクロ経済学 4　ジェヴォンズとワルラス 　経済学の数理科学化 5-6　アルフレッド・マーシャル 　「冷静な頭脳と暖かい心」の経済学 7-8　ソースティン・ヴェブレン 　大量生産・大量消費社会の制度分析 9　ヨゼフ・シュンペーター 　企業者の創造的破壊が生み出すダイナミクス 10-11　ジョン・メイナード・ケインズ 　貨幣経済のマクロ分析 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会	レポート、期末試験。

01 年度以降 00 年度以前	経済変動論 a 経済変動論	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
現実の経済においては、あらゆる経済変数が変動している。GDP、失業率、貨幣供給量、経済成長率などが例である。 ところで、こういった経済変動を考察する場合、必然的に「時間」という概念が関係してくる。これは、入門的なマクロ経済学では扱われなかった概念である。この講義では、まず「時間」を経済学がどのように考察しているかを見ていく。その上で、経済変動を経済成長論の観点から考察する。	1．経済変動とは？ 2．経済の主役 3．均衡と不均衡 4．「時間」の導入 5．経済成長論の概説 6．ソローモデル 7．ハロッド・ドーマーモデル 8．人的資本
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は適宜授業中に紹介する。	学期末テストにより評価する。但し、講義中に２回程度のレポート提出を課し、この点数は学期末テストに加算される。

01 年度以降 00 年度以前	経済変動論 b 経済変動論	担当者	山下　裕歩

講義目的、講義概要	授業計画
現実の経済においては、あらゆる経済変数が変動している。GDP、失業率、貨幣供給量、経済成長率などが例である。 ところで、こういった経済変動を考察する場合、必然的に「時間」という概念が関係してくる。これは、入門的なマクロ経済学では扱われなかった概念である。この講義では、まず「時間」を経済学がどのように考察しているかを見ていく。その上で、経済変動を経済成長論・景気循環論の観点から考察する。なお、この経済変動論 b のみを受講することも可能であるが、春学期の経済変動論 a と合わせて受講することが望ましい。	1．　「時間」の導入 2．　内生的経済成長モデル 3．　景気循環論の概説 4．　日本の景気循環 5．　乗数加速度モデル 6．　実物的景気循環論
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義でレジュメを配布し教科書は特に指定しない。参考書は適宜授業中に紹介する。	学期末テストにより評価する。但し、講義中に２回程度のレポート提出を課し、この点数は学期末テストに加算される。

01 年度以降 00 年度以前	計量経済学 a 計量経済学	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
自学自習ではなかなか理解できない，理論的な側面を重視して，統計学の基礎から計量経済学を解説してゆく． 春学期の目標は，計量経済学で最も基本的な考え方である，最小 2 乗法についてしっかり理解することと，秋学期で頻出する複数の確率変数の扱いに慣れることである． 数学的な予備知識は前提としない．強いていえば，足し算と引き算と掛け算と割り算ぐらいである．もちいる，数学的な概念も全て解説してゆく．したがって，進度はなるべくゆっくりとし，理解することの楽しさを求めてゆく． この授業で，計量経済学を学ぶ上での，基礎的な素養をつけ，その後は自らの力で伸びてゆけるようになること，これが，大きな意味での講義目標となる．	以下のトピックスを順次解説してゆく． 平均と分散 確率変数・期待値 データと確率変数の関係 確率変数の変換 平均・分散・確率変数の行列表現 行列を用いての確率変数の変換 最小 2 乗法　(ぴったりと線を引く方法) 残差平方和の最小の仕方 行列の計算規則 行列の微分 逆行列 決定係数　(モデルの当てはまりの良さについて) 2 変数における例
テキスト、参考文献	**評価方法**
昭和堂から，5 月中旬以降にテキストが出版されるので，原則として，それを使用する．出版されるまではノートで講義をする．	定期テスト

01 年度以降 00 年度以前	計量経済学 b 計量経済学	担当者	藤山　英樹

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の目標は，第 1 に，確率モデルにおける最小 2 乗法の望ましい性質を確認することである．言い換えると，推定における望ましさを確認することとなる．第 2 に，検定の考え方を理解し，その具体的な方法をマスターする． 前期に引き続き，新たにもちいる数学的な概念も全て解説してゆく．したがって，進度はなるべくゆっくりとし，理解することの楽しさを求めてゆく． この授業で，計量経済学を学ぶ上での，基礎的な素養をつけ，その後は自らの力で伸びてゆけるようになること，これが，大きな意味での講義目標となる．	確率モデルについて　(計量経済学で用いられるモデル) 最小 2 乗法と推定量　(モデルをデータから明らかにする) 最小 2 乗法と不偏性　(望ましい性質 1) 最小 2 乗法と BLUE　(望ましい性質 2) 最小 2 乗法と正規分布　(望ましい性質 3) F 検定について t 検定について その他のいろいろな推定の際の工夫.
テキスト、参考文献	**評価方法**
昭和堂から，5 月中旬以降にテキストが出版されるので，原則として，それを使用する．出版されるまではノートで講義をする．	定期テスト

01 年度以降 00 年度以前	経済政策論 a 経済政策論	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、法と経済に関する様々なトピックスについて講義をします。 日々様々な経済問題が司法の場で解決されています。たとえば、マンション景観問題や知的財産所有権の問題などですが、これらには法学と経済学の狭間に重要な問題をはらんでいると考えられています。この授業では、法と経済、および関連する諸政策を分析するための基礎的枠組みを講義します。 なお、この授業を履修する前提として、ミクロ経済学を既修していることが望ましい。	１．はじめに ２．情報の経済学 I ３．情報の経済学 II ４．モラルハザード I ５．モラルハザード II ６．予備日 ７．アドバースセレクション I ８．アドバースセレクション II ９．アドバースセレクション III １０．インセンティブ契約 I １１．インセンティブ契約 II １２．インセンティブ契約 III
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する。	レポートおよび期末テスト

01 年度以降 00 年度以前	経済政策論 b 経済政策論	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
経済政策論 a を参照のこと。 なお、経済政策論 a を履修していることが望ましい。	１．法と経済学入門 ２．コミットメントと完備契約 I ３．コミットメントと完備契約 II ４．情報開示 I ５．情報開示 II ６．予備日 ７．契約法の経済学 I ８．契約法の経済学 II ９．契約法の経済学 III １０．不完備契約とコーポレート・ガバナンス I １１．不完備契約とコーポレート・ガバナンス II １２．不完備契約とコーポレート・ガバナンス III
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示する。	レポートおよび期末テスト

01 年度以降 00 年度以前	経済開発論 a 経済開発論	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状・定義・分類ならびに経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。講義の大部分はパワーポイントを使って行う。ほぼ毎回、講義内容に関連するビデオを上映して、途上国の現状を教室で実感してもらう。	1. 経済開発論をなぜ学ぶか／授業の進め方／参考文献・統計資料の紹介 2. 経済開発論の学問的位置づけ／理論・政策・戦略 3. 成長と発展／経済開発論と価値観・世界観／経済成長は望ましいか？ 4. 発展途上国の定義と分類 5. 人間開発指標（HDI）とセンの思想 6. 国連ミレニアム開発目標（MDGs）と達成目標 7. 経済発展のモデル 8. 人口の増加と人口都市化の問題 9. 社会・文化的諸条件の重要性 10. 教育と発展 11. ガバナンス／女性と参加型開発 12. 持続的成長と地球環境問題
テキスト、参考文献	評価方法
参考文献：足立文彦『人間開発報告書を読む』（古今書院、2006）、マイケル.P.トダロ『M・トダロの開発経済学』（国際協力出版会、1997）	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

01 年度以降 00 年度以前	経済開発論b 経済開発論	担当者	千代浦　昌道

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。 講義概要 発展途上国の貧困の原因を明らかにして、それらの原因に対してどのような解決策があるかを検討する。また、途上国の貧困問題に対して先進国はなにをしなければならないかを考える。講義の大部分はパワーポイントを使って行う。ほぼ毎回、講義内容に関連するビデオを上映して、途上国の現状を教室で実感してもらう。	1. 貧困の悪循環 2. 経済発展と所得分配 3. 絶対的貧困と相対的貧困 4. 経済発展と産業構造の変化 5. 農村の不完全就業と都市のインフォーマル部門 6. 工業化と開発戦略 7. 対外債務問題と国際収支構造の変化 8. 雁行形態論とプロダクトサイクル論 9. 輸入代替工業化と輸出促進工業化 10. WTO（世界貿易機関）と発展途上国 11. 多国籍企業と途上国経済 12. 国際援助論の変遷と途上国開発
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：高木保興『開発経済学』（有斐閣、1992）、西垣昭、下村恭民『開発援助の経済学（新版）』（有斐閣、1993）、スーザン・ジョージ『WTO徹底批判！』（作品社、2002）	期末の定期試験による。随時に出欠をとり評価の参考資料とする。

01 年度以降 00 年度以前	環境政策論 a 環境政策論	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
地球温暖化問題のしくみと政策現場での議論について概観し，環境問題の自発的解決の困難さと公的機関による政策の必要性について経済学的に解説します． まず代表的な環境問題の一つである地球温暖化を取り上げ，環境問題についての具体的なイメージを深めます．特に，現在の温暖化対策の基盤である京都議定書に焦点を当てる予定です． その後，多くの環境問題に共通する構造を抽象化し，非協力ゲーム理論を使って分析します．「われわれ一人ひとりにとって望ましい行動が社会にとって望ましい行動と一致しないため，自発的解決が期待できず，政策を講じる必要がある」という環境問題の特徴が，よく理解できると思います． 本学で開講されている「ミクロ経済学」，「公共経済学」，「環境経済学」などの科目を合わせて履修すると，相互に理解が深まると思います．強制ではありませんが，履修選択の際の参考にしてください． なお，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1 授業のねらいと方針 2 地球温暖化のメカニズム 3 気候変動枠組条約 4 京都議定書 5 京都メカニズム 6 日本の対応 7 環境問題のモデル化 8 個人の最適性と社会的最適性 9 『共有地の悲劇』 10 ｎ人モデルへの一般化 11 自発的協力の可能性 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
気候ネットワーク編（2002） 『よくわかる地球温暖化問題 (改訂版) 』 中央法規	定期試験で評価します．なお，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

01 年度以降 00 年度以前	環境政策論 b 環境政策論	担当者	塩田　尚樹

講義目的、講義概要	授業計画
環境政策の手段の有効性について，ミクロ経済学の立場から考察します．環境問題の具体的なトピックとしては，主として地球温暖化問題を取り上げます． 環境税や排出量取引制度のような「経済的」手段が，固定的排出量割当などの「非経済的」手段と比べてどう優れているのかが主要論点です．ミクロ経済学で学ぶ「資源配分の効率性」という概念が基礎になります． まず，経済学で環境問題を取り扱う際に必ず登場する「ピグー税」と呼ばれる課税ルールのしくみとその限界について解説します．その後，実際の環境政策の現場で「経済的」な政策手段が支持される最大の根拠の一つとなっている汚染削減費用の最小化特性について検討します． 本学で開講されている「ミクロ経済学」，「公共経済学」，「環境経済学」などの科目を合わせて履修すると，相互に理解が深まると思います．強制ではありませんが，履修選択の際の参考にしてください． なお，「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので，授業態度のよくない人は退出してもらいます．	1 授業のねらいと方針 2 環境問題の経済学的把握 3 利潤とその平均変化率 4 企業行動：利潤最大化 5 環境汚染の社会的費用とその平均変化率 6 市場均衡と社会的最適汚染量 7 単位税の企業行動への影響 8 ピグー税による社会的最適性の回復 9 ピグー税の難点 10 汚染削減費用とその最小化 11 ボーモル・オーツ税 12 まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
塩田尚樹「環境税の経済学的基礎」（講義支援システムにより配布予定）	定期試験で評価します．なお，講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります．

01 年度以降 00 年度以前	日本経済史 a 日本経済史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、戦前（第二次大戦前）日本における独特の資本主義成立・発展過程を述べながら、とくに財閥などの大企業システムはどのように成立し、どのような特徴をもっていたのかを明らかにする。 国際環境との関連に留意しながら、日本資本主義の形成・確立及び独占資本確立過程を概観した上で、1920 年代を中心に「戦前日本型大企業システム」の特徴を明らかにし（全体構造及び財閥・紡績独占・国家資本の類型別）、さらに鉄鋼独占についてやや詳述する。 ［注意］毎週の講義前日までに、講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。	1　はじめに：国際環境と日本の資本主義化 2　幕末維新期の経済社会（発展段階と構造） 3　日本資本主義の形成（1870～90 年代） 4　同（その２） 5　産業資本の確立と帝国主義（1900 年代） 6　同（その２） 7　独占資本の確立過程（1907 年頃～1920 年代） 8　同（その２） 9　戦前日本型大企業システム （財閥・紡績独占・国家資本） 10　同（その２） 11　同（その３） 12　鉄鋼独占 （項目・順序は一部変更することがあり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：独自に作成する講義資料（上記参照）。 参考文献：石井寛治『日本経済史』東京大学出版会、大石嘉一郎『日本資本主義の歩み』同会、その他適宜指示する。	筆記試験

01 年度以降 00 年度以前	日本経済史 b 日本経済史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、昭和恐慌・準戦時経済及び戦時経済から「戦後改革」を経て「高度成長」に至る日本資本主義の構造変化・発展過程を述べながら、とりわけ日本独特の大企業システムがいかなる歴史過程のもとで、どのような特徴をもって形成されてきたのかを明らかにする。 「日本経済史 a」の受講をしていることが講義内容理解の上で望ましい。 ［注意］毎週の講義前日までに、講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。	1　はじめに：第二次大戦前後の国際環境と日本 2　金解禁と昭和恐慌 3　準戦時経済（1931～36） 4　旧財閥の転換と新興コンツェルン 5　戦時統制経済（1937～45）の特徴 6　戦時「重化学工業化」と独占資本 7　戦後改革と財閥解体（戦前・戦後の連続と断絶） 8　日本資本主義の復興・再建 9　企業集団の形成 10　日本経済の「高度成長」とそのメカニズム 11　産業構造高度化と鉄鋼独占 12　企業集団の発展・定着・変容 （項目・順序は一部変更することがあり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：独自に作成する講義資料（上記参照）。 参考文献：山本・寺谷・奈倉『近代日本経済史』有斐閣、その他適宜指示する。	筆記試験

01 年度以降 00 年度以前	日本社会史 a 日本社会史	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
全長 40 メートルの戦艦、炸裂する火薬兵器、降りそそぐ毒矢、異形の巨大軍隊モンゴル軍に打ちのめされた日本の武者達は、かつてないストレスに悩まされ、蔓延する恐怖の念は、全土を神仏頼りの祈祷列島に変えていく。幕府は直面する危機にどう対処したのか。そして、九州の武士は…。合戦死傷者のその後までを追う。 わが国の中世社会はモンゴル戦争を画期にして大きく変わる。この変化が歴史の発展であるのか、それとも単なる民族史的に日本人の性質が変わったにすぎないのか、日本の歴史学の中では大きな問題である。本講義ではこのことを念頭において、まずはモンゴル戦争（蒙古襲来）の実相に迫っていきたい。	①　授業の説明 ②　モンゴル帝国の「世界」 ③　「世界」の吸引力 ④　「世界」に身構える日本 ⑤　文永合戦・異なる戦争の作法 ⑥　戦力の質的違い ⑦　外征計画の挫折 ⑧　日本の船は外征に耐えたか ⑨　モンゴル帝国の海上軍事力 ⑩　イスラム商人が造った船 ⑪　異国警固と石築地 ⑫　有無を言わせぬ戦時統制
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『蒙古襲来』吉川弘文館（07 年 4 月刊行予定）	出席数とテスト成績

01 年度以降 00 年度以前	日本社会史 b 日本社会史	担当者	新井　孝重

講義目的、講義概要	授業計画
風濤に砕けるモンゴル艦船、合戦恩賞を要求する武士の訴訟、権力中枢に勃発するクーデタ、中世の日本は確実に不安と流動の時代へ入る。 春学期の講義をうけて秋学期では弘安合戦とそれ以降の、特に日本国内の社会様相を観察する。	①　授業の説明 ②　クビライ、第二次遠征を命ずる ③　艦船、激浪に覆没する ④　三度目の外征計画、悪党を兵力に転用 ⑤　武士の家、討ち死にによる相続争い ⑥　刀創・矢傷の治療法 ⑦　幕府はどのように武士の手柄を認めたか ⑧　農村領主に「国家」はあったか ⑨　弘安徳政の挫折、クーデタと粛清 ⑩　祈祷の防衛体制、敵を図にして祈り倒す ⑪　「軍事」と「神事」の関係 ⑫　時代の変わり目
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井孝重『蒙古襲来』吉川弘文館（2007 年 4 月刊）	出席数とテスト成績

01 年度以降 00 年度以前	西洋経済史 a 西洋経済史	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
現代経済の起点となる産業革命について、そのモデル的な事例であるイギリス産業革命を対象とし、特徴と問題点を新しい視点を加えつつ多面的に考える。 （注意） 最新のシラバスは第 1 回の授業で配布するので履修者は必ず出席すること。 授業のマナーを守り遅刻しないこと。 試験は持ち込み無し、論述問題で行う。 このシラバスの予定は変更される場合がある。 教職課程の科目として履修する場合は 3 年生で履修すること。4 年生で履修すると教育実習などで出席が不足するので注意すること。	1　ガイダンスと序論 2～3　イギリス産業革命の前提条件 4～11　イギリス産業革命の展開 資本、労働力、技術革新、企業家、 貿易構造 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回の授業で説明する。	単位認定の条件は、8 回以上の授業出席と試験成績 60 点以上の両方を満たすこと。

01 年度以降 00 年度以前	西洋経済史 b 西洋経済史	担当者	御園生　眞

講義目的、講義概要	授業計画
後発諸国は、イギリス産業革命をモデルとしつつ独自の産業革命を展開する。この後発諸国の産業革命の特徴と問題点について、ヨーロッパ大陸諸国の事例を対象にして考察する。 （注意） 最新のシラバスは第 1 回の授業で配布するので履修者は必ず出席すること。 授業のマナーを守り遅刻しないこと。 試験は持ち込み無し、論述問題で行う。 このシラバスの予定は変更される場合がある。 教職課程の科目として履修する場合は 3 年生で履修すること。4 年生で履修すると教育実習などで出席が不足するので注意すること。	1　ガイダンスと序論 2～4　後発国の産業革命の前提条件 5～8　後発国の産業革命の展開過程とその特徴 9～11　後発国の産業革命の問題点 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 1 回の授業で説明する。	単位認定の条件は、8 回以上の授業出席と試験成績 60 点以上の両方を満たすこと。

01 年度以降 00 年度以前	国際経済論 a 国際経済論	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的事項を講義します。講義の中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の事項なので厳密な展開を心がけたい。	１　入門 ２　リカード的比較優位説 ３　ヘクシャー・オリーン定理 ４　ヘクシャー・オリーン定理 ５　国際貿易の一般均衡 ６　国際貿易の一般均衡 ７　経済成長と貿易 ８　国際生産要素移動 ９　国際生産要素移動 １０　関税・輸入数量制限 １１　関税・輸入数量制限 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
大山道広・伊藤元重『国際貿易』　岩波書店	定期試験８０％、出席２０％

01 年度以降 00 年度以前	国際経済論 b 国際経済論	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。 国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。	１　国際収支と国民所得勘定 ２　国際収支と国民所得勘定 ３　外国為替市場 ４　外国為替市場 ５　外国為替市場 ６　固定相場制下の所得決定 ７　固定相場制下の所得決定 ８　変動相場制下の所得決定 ９　変動相場制下の所得決定 １０　国際収支と財政・金融政策 １１　国際資本移動と財政・金融政策 １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定	定期試験８０％、出席２０％

01 年度以降 00 年度以前	国際金融論 a 国際金融論	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
現実の国際金融的現象を理解する上で基本となる事項についての説明をしていく。 最低限の理論的な分析も含まれるが、あくまでも現実の経済現象を理解することを目標とする。 前半 12 コマは国際金融論の基本的な事項についての講義を進める。 講義はパワーポイントを使ってする。講義概略は学の講義支援システムを使い講義前に公開するので、必要な学生は各自プリントアウトすること。 なお、平成 19 年度は春学期には「東アジアの共同体構想と共通通貨の実現性」のテーマで、短期学外研修に出ることが決まっているため、国際金融論は秋学期集中になります。国際金融論を受講する学生は a,b ともに受講すること。講義は前半 12 コマでシラバスに記載されている国際金融論 a の部分を、後半 12 コマで b の部分を講義することになります。	１回目　１章　イントロダクション ２回目　２章　国際収支の構造 １、国際収支表 ３回目　２、経常収支が黒字であることの意味 ４回目　３、経常収支の金融的側面 ５回目　４、J カーブ効果 ６回目　３章　外国為替市場と為替レート １、外国為替相場 ７回目　２、リスクヘッジ ８回目　３、投機　（１） ９回目　投機　（２） １０回目　４、介入 １１回目　４章　外国為替決定の理論 １、購買力平価説 １２回目　２、フローアプローチ

テキスト、参考文献	評価方法
未定 講義時に参考書を提示	前半部分については試験をせず、レポートの予定。 出席状況調査を兼ねての平常試験を行うことがある。

01 年度以降 00 年度以前	国際金融論 b 国際金融論	担当者	山本　美樹子

講義目的、講義概要	授業計画
前半部分に学んだことを基礎として、国際金融論にとって応用的なことを中心に講義する。 21 世紀にますます進展するだろう、リージョナリズムについては、春学期に私が研修で得た最新の知識で、東アジア経済、特に金融についての講義を進めたいと思っている。	１回目　５章　固定相場制 １、金本位制 ２回目　２、IMF のブレトンウッズ制度 ３回目　６章　開放マクロ経済政策 １、外国貿易乗数 ４回目　２、固定相場制の開放マクロ経済政策 ５回目　３、マンデルフレミングモデル ６回目　４、変動相場制の開放マクロ経済政策 ７回目　５、国際政策協調 ８回目　７章　国際資本移動 １、国際資本取引の拡大 ２、金融デリバティブ取引　（１） ９回目　（２） １０回目　８章　リージョナリズムと国際通貨体制 １、欧州通貨統合 １１回目　２、東アジアの通貨統合の可能性 １２回目　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
未定 参考書は講義時に指示	出席状況調査を兼ねた小テストと 学期末試験

01 年度以降 00 年度以前	日本経済論 a 日本経済論	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。 なお、本講義は内容上、春・秋学期を通して聴講するのが望ましい。	1．はじめに 2．戦後民主化政策と経済改革 3．戦後経済復興対策 4．ドッジ・ラインとシャウプ勧告 5．朝鮮戦争と日本経済 6．高度成長時代の到来 7．高度成長の構造 8．高度成長の精神的土台 9．高度成長の時代背景 10．高度成長の終焉(1)　ドル・ショック 11．高度成長の終焉(2)　オイル・ショック 12．日本経済の構造転換
テキスト、参考文献	**評価方法**
主に統計表などのプリントを配布。	学期末試験の結果（通年講義は春学期・秋学期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。

01 年度以降 00 年度以前	日本経済論 b 日本経済論	担当者	波形　昭一

講義目的、講義概要	授業計画
1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえつつ、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで近年たたかわされた日本経済再建論議の当否と小泉内閣の構造改革の位置づけを試みたい。 なお、本講義は内容上、春・秋学期を通して聴講するのが望ましい。	1．スタグフレーションとその原因 2．レーガノミクスとアメリカ経済 3．プラザ合意後の経済変化 4．バブル経済の発生とその原因 5．バブル経済の崩壊 6．平成不況の特徴　―複合不況― 7．「失われた 10 年」とその意味 8．景気対策か構造改革か(1) 9．景気対策か構造改革か(2) 10．小泉内閣の構造改革を問う(1) 11．小泉内閣の構造改革を問う(2) 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

01年度以降 00年度以前	アメリカ経済論a 北アメリカ経済論	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ　アメリカ型システムの形成 アメリカ経済の面白さはそのダイナミズムにあり、その変化はアメリカのみならず世界の人びとの生活と考え方に大きな影響を及ぼします。しかし、その影響があまりに複雑なのでその理解も千差万別です。私たちはそのプロセスを自分の頭で理解しなければなりません。 春学期は、アメリカ経済の諸側面を取り上げて、その形成の歴史的経緯を考えます。春・秋学期両方併せて履修することを奨めます。	１．はじめに ２．戦前のアメリカ経済 ３．戦後の経済成長 ４．経済政策Ⅰ ５．経済政策Ⅱ ６．経済政策Ⅲ ７．金融制度 ８．財政制度 ９．労働市場 １０．貧困と福祉制度 １１．日米関係 １２．貿易と資本
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　萩原伸次郎・中本悟編『現代アメリカ経済』日本評論社	定期試験、出席その他

01年度以降 00年度以前	アメリカ経済論b 北アメリカ経済論	担当者	本田　浩邦

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ　国際比較 秋学期は、国際比較の視点からアメリカ経済の特徴を捉えます。春・秋学期両方併せて履修することを奨めます。	１．はじめに ２．資本主義の諸類型 ３．アメリカⅠ（労使関係） ４．アメリカⅡ（金融市場） ５．アメリカⅢ（技術と生産性） ６．ヨーロッパⅠ（ドイツとイギリス） ７．ヨーロッパⅡ（オランダと北欧） ８．日本Ⅰ（労使関係と金融市場） ９．日本Ⅱ（政府の役割） １０．農業構造 １１．国民所得の構成比較 １２．世界システム
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献　萩原伸次郎・中本悟編『現代アメリカ経済』日本評論社	定期試験、出席その他

01 年度以降 00 年度以前	ラテンアメリカ経済論 a ラテンアメリカ経済論	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、ラテンアメリカ全域の経済の特性について多面的に考察する。 ラテンアメリカ経済の特徴に関係する自然的基盤と歴史的背景などについて概観したうえで、ラテンアメリカ経済の発展過程を通覧する。さらに、変革期にある現代のラテンアメリカ経済の状況、およびこの地域の社会・経済が抱える諸問題とその将来展望について考察する。	1　ラテンアメリカにおける最近の経済トピック 2　ラテンアメリカ（LA）という地域 3　LAの住民・社会・政治の特徴 4　LA 経済の自然的基盤(1)土地条件と地下資源 5　LA 経済の自然的基盤(2)農牧林業環境 6　LA 経済の歴史的背景 7　LA 経済の発展過程(1)植民地期の経済 8　LA 経済の発展過程(2)輸出経済期の経済 9　LA 経済の発展過程(3)輸入代替工業化期の経済 10　現代の LA 経済(1)債務危機と「失われた 10 年」 11　現代の LA 経済(2)新自由主義経済とラテンアメリカ 12　LA 経済と日本
テキスト、参考文献	**評価方法**
国本伊代・中川文雄『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版）』新評論、2005 年.	定期試験の成績と出席状況を総合して行う

01 年度以降 00 年度以前	ラテンアメリカ経済論 b ラテンアメリカ経済論	担当者	松本　栄次

講義目的、講義概要	授業計画
自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、多面的に、国および地方レベルの地域経済について考察する。 おもに、ラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特色のある産業経済の発展過程および諸地域における経済活動の特質を考察し、同国の経済発展の現状と問題点を指摘する。また、アマゾン川流域地域（アマゾニア）を事例として、その自然環境・住民と社会・地域経済の特性、および国際的関心の高い経済開発と環境保全の調和の問題について考察する。	1　現代ラテンアメリカ社会経済の諸問題 2　ラテンアメリカ主要国のマクロ経済 3　現代のブラジル経済と社会 4　ブラジルの諸地域と地域格差 5　ブラジル産業史の特質:ブーム&バーストのサイクル 6　ブーム&バースト地域の現在と将来 7　アマゾニアの自然生態的基盤 8　アマゾニアの居住と開発の歴史 9　現代アマゾニアの経済(1)：農牧林業の盛衰 10　現代アマゾニアの経済(2)：アマゾニア総合開発 11　アマゾニアの開発と環境問題 12　アマゾニアにおける経済開発と生態系保全調和の道
テキスト、参考文献	**評価方法**
小池洋一他編『現代ブラジル事典』新評論、2005 年. グールディング他著（山本・松本訳）『恵みの洪水－アマゾン沿岸の生態と経済』　同時代社、2001 年.	定期試験の成績と出席状況を総合して行う

01 年度以降 00 年度以前	西ヨーロッパ経済論 a 西ヨーロッパ経済論	担当者	大西　健夫

講義目的、講義概要	授業計画
EU は、ヨーロッパ全域に拡大を続けるとともに、ユーロは国際通貨としてその地位を確立した。EU は、西ヨーロッパのみならず東欧･中欧に広がる世界最大の地域経済共同体を形成している。この意味で、「西」ヨーロッパ経済という用語は意味を失っている。 この授業では、先ず、地域経済統合の意味を理解するため、世界経済秩序を概説し、そこにおける地域経済統合の位置付けをＮＡＦＴＡ，ＡＦＴＡ，ＥＵなどを例として解説する。 その上で、世界経済における EU 経済の位置付け、その発展と構造を分析し、EU および加盟国経済が抱える諸問題を説明する。 授業レジメは下記参照のこと。 ¥¥dainet¥dohnishi ここから“Europe A”	1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. 国際貿易秩序、WTO における EU 4. 国際決済秩序、IMF における EU 5. 世界の地域経済統合における EU 6. 貿易取引と地域経済統合 7. 国際収支表にみるヨーロッパ経済 8. ヨーロッパの産業構造 9. ヨーロッパの主要企業 10. ヨーロッパの雇用問題 11. ヨーロッパの金融市場 12. EU における経済統合
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	期末に論文形式での試験を行い、評価する

01 年度以降 00 年度以前	西ヨーロッパ経済論 b 西ヨーロッパ経済論	担当者	大西　健夫

講義目的、講義概要	授業計画
自由貿易協定 FTA の段階にある NAFTA や AFTA と較べ、EU は、共同市場であり、西ヨーロッパのみならず東欧･中欧に広がる世界最大の地域経済共同体である。この授業は、ヨーロッパの経済安全保障体制として発足した石炭鉄鋼共同体が地域経済共同体へと発展していく過程を概観し、単一通貨ユーロ導入により超国家的金融政策の一元化にまで進展した EU の構造と機能を解説する。 先ず、EC から EU までの統合過程を概説し、さらに、共同市場の拡大と深化がヨーロッパ経済を活性化してゆくメカニズムを分析する。 そして、単一通貨ユーロの導入と通貨同盟のメカニズムと今後の課題、拡大 EU 経済の可能性とその問題点を分析する。 授業レジメは下記参照のこと。 ¥¥dainet¥dohnishi ここから“Europe B”	1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. ヨーロッパ統合の理念 4. 石炭鉄鋼共同体 5. 関税同盟と共通政策 6. 域内貿易の進展 7. 単一欧州議定書と共同市場の完成 8. マーストリヒト条約による EU 9. 経済･通貨同盟 10. EU の組織機構 11. EU の法的地位 12. EU の拡大と深化
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する	期末に論文形式での試験を行い、評価する

01 年度以降 00 年度以前	東アジア・中国経済論 a 東アジア・中国経済論	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
近年東アジアは世界経済を牽引する存在になっていると言われている。なかでも中国経済の動向は 21 世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に論ずる。 日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。 この授業では、中国経済の歴史、発展可能性について、1970 年代末から始まった改革･開放を中心に講義を進めていきたい。	1．中国経済の全般的な動向（1） 2．中国経済の全般的な動向（2） 3．世界の工場か、世界の市場か？（1） 4．世界の工場か、世界の市場化？（2） 5．社会主義市場経済とは何か？（1） 6．社会主義市場経済とは何か？（2） 7．メイド･イン･チャイナは世界市場を席巻するか？（1） 8．メイド･イン･チャイナは世界市場を席巻するか？（2） 9．国有企業改革はどこまで進んだか？（1） 10．国有企業改革はどこまで進んだか？（2） 11．農村はいかに変化したか？（1） 12．農村はいかに変化したか？（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門（第 2 版）』日本評論社、2005 年。 その他必要に応じて資料を配布する。	出席状況と学期末の試験の結果による。

01 年度以降 00 年度以前	東アジア・中国経済論 b 東アジア・中国経済論	担当者	全　載旭

講義目的、講義概要	授業計画
中国経済の発展をめぐる内的課題と、対外貿易発展、外資導入などの経済成長への役割、中国の台頭による東アジア経済の再編について論じていく。 また貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。新たな地域協力「東アジア共同体」構築にも関心を向けてもらいたい。 東アジア・中国経済論 a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。	1．失業率は本当に低いか？ 2．金融は中国経済のアキレス腱か？ 3．輸出は成長のエンジンか？（1） 4．輸出は成長のエンジンか？（2） 5．外資は何をもたらしたか？（1） 6．外資は何をもたらしたか？（2） 7．中国は国際社会にとって脅威か？ 8．日中関係はいかにあるべきか？ 9．持続的な成長は可能か？（1） 10．持続的な成長は可能か？（2） 11．成長の果実は誰の手に？ 12．21 世紀における東アジア経済と中国経済
テキスト、参考文献	**評価方法**
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門（第 2 版）』日本評論社、2005 年。 その他必要に応じて資料を配布する。	出席状況と学期末の試験の結果による。

01年度以降 00年度以前	オセアニア経済論a 東南アジア・オセアニア経済論	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、オーストラリアを中心に取り上げる。但し、オーストラリアとの関連で、他のアジア太平洋諸国についても言及する。近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国、さらに、自国の多文化社会化に努め、世界で最も人気の高い移住先および留学先として知られている。しかし、この国は７０年代中期から８０年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては、名だたる保護貿易主義国、アジア人を含む有色人種移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような影響をオーストラリアに及ぼしているのか。この講義では、このような課題について、春・秋学期を通じて、分野別に解明する。	1　講義の目的、地域研究の意義、中高生用ビデオ教材によるオーストラリア社会概観 2　総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（1） 3　総論：オーストラリア社会構造変化の流れ（2） 4　歴史：流刑労働と羊毛産業 5　歴史：金発見とその影響（1） 6　歴史：金発見とその影響（2） 7　歴史：平等主義、仲間主義の起源 8　歴史：１８９０年代の恐慌とその影響 9　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（1） 10　歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（2） 11　文化：エトス、アイデンティティ 12　文化：アボリジニ
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
竹田いさみ・森健・永野隆行編『新版オーストラリア入門』東京大学出版会、２００７年3月（予定)。および、プリント。	受講条件：bも受講すること。 評価方法：定期試験および感想文

01年度以降 00年度以前	オセアニア経済論b 東南アジア・オセアニア経済論	担当者	森　健

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的と概要については春学期の欄を参照。秋期は、多文化社会化、政治体制、対外経済政策、産業構造変化、日豪関係などを切り口としてオーストラリアを分析する。）	1　春学期の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観 2　移民政策の変化 3　女性進出と家族 4　多文化主義社会化政策導入の経緯 5　反多文化主義政策の流れ 6　政治体制 7　１９７０年代以前の主要政策体系 8　ホーク・キーティング労働党政権の政策（1） 9　ホーク・キーティング労働党政権の政策（2） 10　ハワード保守連立政権の政策（1） 11　ハワード保守連立政権の政策（2） 12　日豪関係
テキスト、参考文献	**評価方法**
（春学期と同じ）	（春学期に準ずる）

01 年度以降 00 年度以前	アフリカ経済論 a 中東・アフリカ経済論	担当者	原口　武彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　日本との歴史的関係も薄くもっともなじみのないアフリカ地域（特にサハラ以南アフリカ)を対象に、狭義の「経済」よりも「アフリカ」の多様な現実の総合的理解に力点をおく。そのためにまずアフリカの政治、経済のみならず社会、文化の歴史と現状についての正確な基礎知識の修得を目指す。その上でアフリカが今日、直面している諸問題について考察する。そしてそれらの諸問題が世界の国ぐに、とくに日本で生活しているわたくしたちにどのような関わりをもっているのか考えてみる。 講義概要 　アフリカ大陸、特にサハラ以南アフリカに焦点をあて、その歴史的背景―奴隷貿易、植民地化、政治的独立、構造調整と政治的民主化―と、政治・経済・社会・文化の特質を紹介する。 　講義では合計 6 年間にわたる「担当者」の現地滞在中に撮りためたスライドやビデオ映像を援用して、よりなじみやすい、臨場感をかもしだせる内容のものにすることを心がける。なお「アフリカ経済論」の「a」、「b」は一応独立しているが「a」「b」の順に両方を受講することが望ましい。	1．オリエンテーション（講師の自己紹介、授業の進め方） 2．日本とアフリカ 3．日本のアフリカ研究 4．奴隷貿易（ビデオ「アミスタッド」の上映」 5．スライドによるアフリカ概観 I (世界史の中のアフリカ) 6．スライドによるアフリカ概観 II（アフリカの食糧生産） 7．スライドによるアフリカ概観 III（アフリカの輸出作物） 8．スライドによるアフリカ概観 IV（アフリカの宗教） 9．スライドによるアフリカ概観 V（アフリカの服飾文化） 10．ビデオ上映（アフリカの結婚式） 11．アフリカの部族と国家 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 原口武彦著『部族と国家』アジア経済研究所、1996 年。 原口武彦著『アビジャン日誌』アジア経済研究所、1992 年。	毎回提出するコメント・カードと期末試験

01 年度以降 00 年度以前	アフリカ経済論 b 中東・アフリカ経済論	担当者	原口　武彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アフリカ経済論 a に同じ。 講義概要 　今日のアフリカ諸国が直面している諸問題―通貨、エイズ、食糧生産、国内紛争、言語など―についてその現実を正確に具体的に把握する。またアフリカ理解のために提示されている方法論―経済学、地域研究、Ethnicity 論など―を批判的に検討する。	1．オリエンテーション 2．アフリカと経済学 3．アフリカと地域研究 4．アフリカと通貨 5．国内紛争と民主化 6．紛争の事例―ルワンダの大虐殺 7．アフリカの食糧問題 8．コートジボワールの食糧問題 9．アフリカの言語問題 10．コートジボワールの言語問題 11．アフリカと Ethnicity 論 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 北川勝彦・高橋基樹編著『アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004 年。 平野克己編『アフリカ経済学宣言』アジア経済研究所、2003 年。	毎回提出するコメント・カードと期末試験

01 年度以降 00 年度以前	中東経済論 a 中東・アフリカ経済論	担当者	平井　文子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　中東は、アジア、アフリカ、ヨーロッパの結節点に位置するという地理的条件に加え、大量の石油埋蔵・生産地であるという条件のため、西欧列強およびアメリカの軍事的、政治経済的干渉と文化的影響を受け続けてきた。さらに加えて第２次世界大戦後にユダヤ人国家イスラエルが誕生したことが、中東を戦争と紛争の絶えない地域にさせてきた基本的理由である。本講では伝統と近代化のせめぎあうポストコロニアル（植民地以後）時代から今日の新自由主義グローバリゼーション時代の中東の政治経済文化的状況を、大国の中東政策、パレスチナ問題、中東原油と経済発展等を軸に見ていきたい。 講義概要 　講義開始までに作成する予定の手作りテキスト『中東経済論資料ファイル』に沿って、１、中東政治経済の基礎　２、中東社会の特徴　３、パレスチナ問題についての講義を通して、学生諸君にできる限り正確な中東認識を持ってもらうことを狙いとする。ビデオや体験談を織り交ぜるようにする。途中でレポート提出もある。出席は毎回とる。	１、授業の進め方、参考文献の紹介 ２、中東についての基礎知識　①領域、国名 ３、同上　②地理、文化 ４、中東の政治経済略史　①前近代のイスラム世界 ５、同上　②植民地時代から独立へ ６、同上　③ナショナリズムの時代 ７、同上　④オイルブームと市場経済 ８、中東社会の特徴　①伝統と近代 ９、同上　②イスラムの復興 10、パレスチナ問題　①その起源 同上　②イスラエル誕生 11、同上　③アラブ・イスラエル紛争の経緯 12、同上　④中東和への展望

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：平井文子『中東経済論資料ファイル』 参考文献：、広河隆一『パレスチナ』（岩波新書）、2002	期末試験、その他による

01 年度以降 00 年度以前	中東経済論 b 中東・アフリカ経済論	担当者	平井　文子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　中東経済論 a と同じ 講義概要 手作りテキスト『中東経済論資料ファイル』に従い、中東石油をめぐる支配権および石油収入と各国経済・社会の変化との関係を約一世紀間にわたってみていくとともに、中東各国経済開発の特徴を、産油、非産油、工業化、農業開発といった点からいくつかのパターンに分けて捉える。さらに、新自由主義グローバリゼーション時代における中東経済・社会の新たな変容を知る。途中でレポート提出もある。出席は毎回とる。	１、授業の進め方と参考文献の紹介 ２、中東石油ストーリー　①石油発見と当時の中東 ３、同上　②オイル・メジャーによる中東石油支配 ４、同上　③ＯＰＥＣ結成と石油の支配権をめぐる戦いの開始 ５、同上　④第４次中東戦争とオイルショック ６、同上　⑤オイルブームと中東経済 ７、同上　⑥石油価格をめぐる主導権争い ８、同上　⑦ニューヨーク先物市場開設と石油の国際市場時代到来 ９、中東各国の経済開発　①石油がもたらした中東経済再編成 10、同上　②各国経済成長の展望１ 11、同上　③各国経済成長の展望２ 12、石油から見た中東の地政学：戦争・紛争の真の原因

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：平井文子『中東経済論資料ファイル』 参考文献：『中東』（自由国民社）、2002 Richards/Waterbury, *A Political Economy of the Middle East* (Westview)、1996	期末試験、その他による

01 年度以降 00 年度以前	金融経済論 a 金融経済論	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 金融の基礎を理解し、金融に関連した新聞記事が読め、議論ができるようになることを目的とする。 （概要） 講義は、まずマネーと銀行業とのかかわり、すなわちマクロ的に貨幣供給はどのように行われているかの解説からはじめる。そして銀行業による貨幣供給と決済システムとの関わりについても解説する。その後に金融におけるフローとストック、金融取引における金利の役割等について解説する。	1. マネー（貨幣）と銀行業（1） ＊現代のマネーと決済システム 2. マネー（貨幣）と銀行業（2） ＊銀行の信用創造機能 3. マネー（貨幣）と銀行業（3） ＊マネーの価値とインフレーション 4. マネー（貨幣）と銀行業 ＊マネーの変遷 5. 金融のフローとストック（1） 6. 金融のフローとストック（2） ＊金融業の役割 7. 金融のフローとストック（3） 8. 金融のフローとストック（4） ＊金融取引・金融資産の全体図 9. 金利・資産価格・利回り（1） ＊シグナルとしての金利 10. 金利・資産価格・利回り（2） ＊資産市場における金利 11. 金利・資産価格・利回り（3） 12. 金利・資産価格・利回り（4）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として辻信二『新版 金融と銀行』学文社、1995 年と斉藤美彦『金融自由化と金融政策・銀行行動』日本経済評論社、2006 年を中心とし、その他必要に応じて適宜指示。	期末試験、レポートなどによる

01 年度以降 00 年度以前	金融経済論 b 金融経済論	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 金融政策、国際金融、現下の金融問題等についての議論を理解でき、自分なりの見解をもつことができるようになることを目的とする。 （概要） 金融政策の基本から、日本銀行による「量的緩和」政策の実際および問題点についてまでの解説を行う。その後に国際金融の基本、禁煙の金融に関わる諸問題等を幅広く解説する。	1. 中央銀行の役割（1） ＊内生的貨幣供給説と外生的貨幣供給説 2. 中央銀行の役割（2） ＊金融政策の目的と波及経路 3. 中央銀行の役割（3） ＊金融政策の手段と準備預金制度 4. 中央銀行の役割（4） ＊「量的緩和」政策採用後の金融政策 5. 金融の国際的側面（1） 6. 金融の国際的側面（2） ＊国際通貨制度の変遷 7. 金融の国際的側面（3） ＊銀行の国際業務 8. 近年の金融状況・銀行経営（1） ＊金融自由化の進展 9. 近年の金融状況・銀行経営（2） ＊金融の「証券化」 10. 近年の金融状況・銀行経営（3） 11. 近年の金融状況・銀行経営（4） 12. 近年の金融状況・銀行経営（5）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献として辻信二『新版 金融と銀行』学文社、1995 年と斉藤美彦『金融自由化と金融政策・銀行行動』日本経済評論社、2006 年を中心とし、その他必要に応じて適宜指示。	期末試験、レポートなどによる

01 年度以降 00 年度以前	金融システム論 a 金融システム論	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
日本では、金融制度改革により、銀行、証券会社、保険会社の業務の垣根がどんどん低くなっている。このことは、日本の金融システム、さらにはその中における金融機関の役割を理解する上で、考察の視点を市場に向ける方が現実的であることを示唆している。 この講座は、日本における市場機能を理解するために必要な金融システムの概論を理解することを目的とする。具体的には金融システムの現状とその形成プロセスを解説し、最後に、金融システム・金融機能の根幹となる短期金融市場の機能について説明する。なお、講義では、単なる概念や制度の説明にとどまらずに、金融システムの理論的側面にも言及する。	1.金融制度と金融機関： (1)金融と金融システム (2)日本の金融機関 (3)日本の資金循環 2.金融システムの形成とその変遷： (1)近代金融システムの形成（その 1） (2)近代金融システムの形成（その 2） (3)第二次大戦以降の変遷（その 1） (4)第二次大戦以降の変遷（その 2） 3.短期金融市場の機能： (1)短期金融市場とは (2)金利の決定メカニズム（その 1） (3)金利の決定メカニズム（その 2） (4)金融政策と短期金融市場（その 1） (5)金融政策と短期金融市場（その 2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する	期末試験、レポートなどによる

01 年度以降 00 年度以前	金融システム論 b 金融システム論	担当者	須藤　時仁

講義目的、講義概要	授業計画
日本では、金融制度改革により、銀行、証券会社、保険会社の業務の垣根がどんどん低くなっている。このことは、日本の金融システム、さらにはその中における金融機関の役割を理解する上で、考察の視点を市場に向ける方が現実的であることを示唆している。 この講座は、金融・証券市場の機能に焦点を当てることによって、日本における金融システム並びにその中での金融機関の役割を解明することを目的とする。なお、講義では、単なる概念や制度の説明にとどまらずに、各市場と実態経済との関係や株価の決定メカニズムなど理論的側面も取り上げるほか、最近の金融制度改革の進展状況など時事的な動向にも言及する予定である。	1.債券市場： (1)債券の概念 (2)債券の発行市場 (3)債券の流通市場、 (4)赤字財政と国債残高の展望 2.株式市場： (1)株式市場の概要 (2)株価の決定メカニズム (3)株式市場と実体経済 3.派生市場： (1)派生市場の意義 (2)先物市場 (3)オプション市場 4.外国為替市場： (1)外国為替市場の概要 (2)為替レート決定のメカニズム (3)国際収支と為替レート 5.金融制度改革の展望
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する	期末試験、レポートなどによる

01 年度以降 00 年度以前	財政学 a 財政学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。本講の受講を通じて、財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけてほしい。 **講義概要** 前期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。後期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論（租税理論、制度、税制改革論等）に焦点を絞って授業を進める。 **受講者への要望** 受講生は新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めてほしい。なお、受講のためにはミクロ経済学の基礎的知識を習得していることが望ましい。	1．財政とは何か 2．財政学とその変遷 3．資源配分の調整機能 4．財政と所得再分配 5．財政政策の理論① 6．財政政策の理論② 7．公共財の理論① 8．公共財の理論② 9．わが国財政の現状 10．公債の制度と理論 11．公的老齢年金① 12．公的老齢年金②
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト 里中恆志･八巻節夫『新財政学』文眞堂 参考書　『図説日本の財政』、『図説日本の税制』	定期試験の成績で評価する。 出席は考慮しない。

01 年度以降 00 年度以前	財政学 b 財政学	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
（財政学 a 参照）	1．租税の意義と根拠 2．租税の基礎的概念 3．課税の公平性 4．課税の中立性 5．租税の転嫁と帰着 6．包括的所得税論 7．支出税と最適課税の考え方 8．二元的所得税の考え方 9．個人所得課税 10．法人所得課税 11．間接消費課税 12．資産課税
テキスト、参考文献	**評価方法**
（財政学 a 参照）	（財政学 a 参照）

01 年度以降 00 年度以前	公共経済学 a 公共経済学	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。 こうした公共サービスは国民が支払った税金によって支えられています。受益と負担についてもっと関心を寄せることを求められています。 公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。 経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史的変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。	はじめに　生活と公共サービス 生産と公共サービス 消費と公共サービス 公共部門と市場の関係 市場の失敗をめぐる議論 公共部門とは。 公共部門の失敗をめぐる議論 公共部門存在の理由 公共部門の活動領域の拡大 生産と生活の社会化の進展 公共政策の展開 公共政策の多様化と総合性 主体の多様化 中央政府と地方政府 分権の推進力 公共部門の新しい課題 グローバル化 守備範囲の再検討
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。	期末テストおよび小テストの成績により評価します。

01 年度以降 00 年度以前	公共経済学 b 公共経済学	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。 こうした公共サービスは国民が支払った税金によって支えられています。受益と負担についてもっと関心を寄せることを求められています。 公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。 経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史的変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。	はじめに　財政の現状と課題 文献紹介 租税国家の危機 公債の累増 公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か 公平な租税とは 租税原則と租税配分 わが国の租税構造の変遷とその特徴 所得に課せられる税 消費に課せられる税 資産に課せられる税 少子高齢化社会の到来と財政 少子化対策と年金 地方財政の発展 地域の経済的自立と発展 経済再生と財政改革
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。	期末テストおよび小テストの成績により評価します。

01 年度以降 00 年度以前	地方財政論 a 地方財政論	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを供給しています。 こうした公共サービスは市民が働いて得た所得から支払われた税金で賄われていますから「受益と負担」について納税者はもっと関心を寄せることが求められています。 地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。 自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等が多様な自治体がそれぞれの資源を有効に活用して、自立して生きていくことができるように知恵と工夫を凝らすことをもとめられています。	はじめに　文献紹介 地方財政の現状 地方政府と中央政府 経済の発展と地方財政の機能の拡大 地方財政の国際比較 地方財政の多様性 地方分権の推進・町村合併 機関委任事務の廃止 地方税・財源の改革をめぐる議論 地方財政の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中で紹介します	期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します

01 年度以降 00 年度以前	地方財政論 b 地方財政論	担当者	伊藤　爲一郎

講義目的、講義概要	授業計画
地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを供給しています。 こうした公共サービスは市民が働いて得た所得から支払われた税金で賄われていますから「受益と負担」について納税者はもっと関心を寄せることが求められています。 地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。 自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等が多様な自治体がそれぞれの資源を有効に活用して、地域が活力を持って自立して生きていくことができるように知恵と工夫を凝らすことをもとめられています。	はじめに 地方財政の状況 地方政府サービスと財源 財源配分をめぐる対立の歴史 地方税 地方財政調整制度 地方交付税制度 国庫支出金制度 地方債制度 地方分権の推進 地方におけるまちづくり 地方自治と行財政改革
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中で紹介します	期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します

01 年度以降 00 年度以前	環境経済学 a 環境経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
近年の環境問題の深刻化とともに，環境保全と経済活動の調和を求めて，新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では，経済学の立場から，環境破壊が進行する要因を検討し，環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。 「環境経済学 a」では，環境経済学の理論的基礎，環境資源の貨幣的評価とその手法，および環境問題の解決において司法や行政が果たす役割について講義を行なう。	1　イントロダクション･･･環境経済学がいかなる分析視点から環境問題を考察するのかについて解説する。 2　費用便益分析･･･環境と開発をめぐる問題における費用便益分析の意義・限界について考察する。 3　環境評価手法･･･経済理論に則った環境価値の評価手法の意義と限界について考察する。 4　環境問題の調整のあり方と環境政策･･･環境問題の調整において司法や行政が果たす役割について理論的に検討する。 注：以上の４つのテーマはそれぞれ２～４回の講義にわたって解説が行なわれる。また，参考文献については講義中に適宜指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社，および講義中に配布するプリント	定期試験による。

01 年度以降 00 年度以前	環境経済学 b 環境経済学	担当者	浜本　光紹

講義目的、講義概要	授業計画
「環境経済学 b」では，日本や米国，欧州における現実の環境政策の諸事例を検討しながら，地球温暖化に代表されるような地球環境問題に対処するための環境政策の設計はいかにあるべきかということに関する政策的含意を導き出していく。 この講義は，環境経済学 a の講義内容を前提として行なわれるので，これを既習のうえで受講することが望ましい。	1　環境政策の基礎理論･･･直接規制，環境税，排出権取引といった環境政策手段の機能について，ミクロ経済学の観点から考察する。 2　米国の環境政策･･･米国の酸性雨対策において導入されている二酸化硫黄排出許可証取引制度について検討する。 3　地球温暖化･･･地球温暖化をめぐる国際的取り組みの経緯を解説し，京都議定書の構造および京都メカニズムの課題について検討する。 4　環境税制改革･･･欧州における環境税導入の事例を検討しながら環境保全型社会経済システムの構築に向けた税体系のあり方を考察する。 5　廃棄物とリサイクルの経済分析･･･近年法制化が進むリサイクル関連法を題材に，循環型社会のあり方を検討する。 注：以上の４つのテーマはそれぞれ２～４回の講義にわたって解説が行なわれる。また，参考文献については講義中に適宜指示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義中に配布するプリント，および バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社	定期試験による。

01年度以降 00年度以前	都市経済学a 都市経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　個人がアパートを借りたり住宅を買ったりする、企業が自分の会社のオフィスを証券化する、地方公共団体が寂れた中心市街地の活性化を図るなど都市に係る話題は我々の周りにあふれている。この講義は、こうした都市をめぐる諸問題の最新の状況を述べるとともに、ミクロ経済学を応用し分析することを目的とする。 【講義概要】 　春学期は身近なところで交通問題（主に交通渋滞）、土地、住宅、都市環境問題について述べる。	１．交通問題（道路の混雑料金） ２．交通問題（道路建設のメリットと費用） ３．交通問題（新駅建設による地価上昇の恩恵はだれが受けるべきか） ４．土地市場（地代の決まり方） ５．土地市場（地価の決まり方、その１） ６．土地市場（地価の決まり方、その２） ７．不動産の証券化とJ－REIT ８．不動産金融工学（その１） ９．不動産金融工学（その２） １０．住宅ローンの現状 １１．住宅ローンの証券化 １２．都市環境問題（都市環境の価値をどう図るか、よりよい環境をどう実現するのか）
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第２版（日本評論社）、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。また講義中に追加する。	定期試験による。

01年度以降 00年度以前	都市経済学b 都市経済学	担当者	倉橋　透

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　個人がアパートを借りたり住宅を買ったりする、企業が自分の会社のオフィスを証券化する、地方公共団体が寂れた中心市街地の活性化を図るなど都市に係る話題は我々の周りにあふれている。この講義は、こうした都市をめぐる諸問題の最新の状況を述べるとともに、ミクロ経済学を応用し分析することを目的とする。 【講義概要】 　秋学期は都市全体を対象に、その発生、発展、経営方策を述べる。	１．都市と都市問題（都市の定義） ２．都市と都市問題（都市の成立要因） ３．都市と都市問題（市場の失敗と都市問題の発生原因） ４．都市の発展段階（都市の発展段階） ５．都市の発展段階（シャッター商店街の現状） ６．都市の発展段階（シャッター商店街対策） ７．都市と土地利用（オフィスや住宅の立地決定メカニズム） ８．都市と土地利用（土地利用規制とその経済的影響） ９．都市と財政（都市の財政状況） １０．都市と財政（まちづくり交付金） １１．草加のまちづくり １２．最適都市規模と道州制
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第２版（日本評論社）、金本良嗣『都市経済学』（東洋経済新報社）とする。また講義中に追加する	定期試験による。

01 年度以降 00 年度以前	経済地理学 a 経済地理学	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。 **講義概要** 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は与えられた課題に関する小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。	1. 本講義の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定。 2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。 3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。 4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。 5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。 6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。 7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。 8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。 9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。 10・11. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。 12. 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会	試験、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。

01 年度以降 00 年度以前	経済地理学 b 経済地理学	担当者	犬井　正

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。 **講義概要** 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、VTR やスライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実の姿がたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに課題テーマの小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。	1. 日本の農業の特色と農業地域の概観。 2. 首都圏の農業地域の構造と特色。 3. 輸送園芸農業地域の構造と特色。 4. 米作地域の農業経営の特色と問題点。〈小論提出〉 5. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。 6. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。 7. イギリスの LFA 地域と集約農業地域の特色を考察する。 8. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。 9. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。 10. 同上 11. パネルディスカッションの実施。 12. 後期の講義のまとめと評価。パネルディスカッションのレポート提出。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997 年、農林統計協会	試験、およびレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る

01 年度以降 00 年度以前	産業組織論 a 産業組織論	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
経済学の一分野である産業組織論（Industrial Organization）の基本的考え方と手法、応用分野について学びます。産業組織論は、財貨・サービスの各市場における供給者（売手ともいう。経済主体としては企業または生産者のケースが多く、政府企業も含まれる）と需要者（買手ともいう。経済主体としては消費者、利用者、使用者、家計のケースが多い。また、企業、一般政府も含まれる）の行動を研究します。それらに影響を与える市場の構造、政府の介入（規制など）、需要と供給の基礎条件を明らかにします。そして、それらが市場の成果（資源の配分や利用効率）に与える影響を評価し、その成果を経済政策に応用します。なお、労働市場および資本市場における研究は進んでいませんので、ここでは対象外とします。 産業組織論の基礎となっているのはミクロ経済学ですので、産業組織論を応用する経済政策はミクロ経済政策です。その中心は競争促進政策または独占禁止政策ですが、近年その他の分野にも拡大しています。 企業の機能と構造、独占企業の行動、垂直的制限、競争の形態、市場参入の効果、カルテルなどについて学びます。	1．オリエンテーション 2．産業組織分析の基礎概念 3．企業① 4．企業② 5．独占企業の行動① 6．独占企業の行動② 7．垂直的制限① 8．垂直的制限② 9．競争の形態 10．市場参入① 11．市場参入② 12．カルテル①

テキスト、参考文献	評価方法
・長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社　1998 年 ・企業家伝記㊟（コピーを配布）	定刻出席の状況および企業家伝記㊟・テキスト・講義内容に関連したテーマのレポート作成によって評価します。 欠席４回超で単位修得不能（遅刻２回＝欠席１回）

01 年度以降 00 年度以前	産業組織論 b 産業組織論	担当者	青木　雅明

講義目的、講義概要	授業計画
産業組織論 a に引き続いて情報の非対称性と企業行動、企業の戦略的行動、技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発、貿易と直接投資、規制と規制改革などについて学びます。 ㊟理論の背景となっている現実的な事象をより良く認識するとともに、比較的長文の読解力と作文力を増進するため、この教材を使ったレポート作成をホームワークとします。過去に利用した伝記の企業家は次の通りです。 03 年秋　松下幸之助　松下電器産業創業者 04 年春　岡田卓也　　イオン創業者（名誉会長） 04 年秋　小倉昌男　　宅急便創業者 05 年春　伊藤雅俊　　イトーヨーカ堂創業者 05 年秋　飯田　亮　　セコム創業者 06 年春　江頭匡一　　ロイヤル創業者 06 年秋　島野喜三　　シマノ会長	1．カルテル② 2．情報の非対称性と企業行動① 3．情報の非対称性と企業行動② 4．企業の戦略的行動 5．技術進歩と研究開発競争① 6．技術進歩と研究開発競争② 7．マクロ経済における技術進歩とイノベーション 8．知的財産権 9．共同研究開発とネットワーク外部性 10．貿易と直接投資 11．規制と規制改革 12．まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
・長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社　1998 年 ・企業家伝記㊟（コピーを配布）	定刻出席の状況および企業家伝記㊟・テキスト・講義内容に関連したテーマのレポート作成によって評価します。 欠席４回超で単位修得不能（遅刻２回＝欠席１回）

01 年度以降 00 年度以前	産業構造論 a 産業構造論	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展、成長を促す。本講義ではそれらの構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そのため、その姿を捉える有力な分析道具の１つである産業連関表についても解説、それを用いた日本経済の分析についてもデータを用いて見ていくことにする。	1. 経済成長、経済発展：経済成長とは、Ｓ．クズネッツの指標、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化 2. 近代的経済発展：１人当り国民所得、ＧＮＰ，労働生産性、産業規模、産業社会、産業革命 3. 産業の概念：産業の経済学、生産構造、生産技術、産業分類、分業、産業統計、商品ベースと企業ベース 4. 経済成長と産業構造Ⅰ：経済進歩の歴史過程、エネルギー集約化、基本三部門分類、ペティの法則、ＡＭＳ分類 5. 経済成長と産業構造Ⅱ：労働力構成と所得構成，成長の弾性、所得弾性、時系列データとクロスセクションデータ 6. 経済成長と産業構造Ⅲ：発展段階説、製造業内部の構造と発展、消費財と投資財、最終財と中間財、輸入と国産化、輸入代替、生産規模 7. 経済成長と産業構造Ⅳ：輸入指向型工業化、先進工業国とＮＩＥＳ、雁行形態、重化学工業化、ローマクラブ、石油危機 8. 産業連関表とはⅠ：新ＳＮＡ、投入係数、産出係数、逆行列，中間投入，中間需要，最終需要，付加価値部門、直接および間接の生産波及、相互依存関係 9. 産業連関表とはⅡ：産業特性、感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、貿易構造、スカイライン分析 10. 産業連関表による分析Ⅰ：構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、部門の独立性 11. 産業連関表による分析Ⅱ：素原材料系統の転換、工業原材料と生産規模、ユニットストラクチャー、構造転換、規模別Ｉ－Ｏ表 12. 産業連関表による分析Ⅲ：資本マトリックス、産職マトリックス、地域Ｉ－０表、国際Ｉ－０表、国際分業、公害Ｉ－０表
テキスト、参考文献	**評価方法**
宮沢健一『産業の経済学』第２版(東洋経済新報社) 米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書) 鶴田俊正、伊藤元重『日本産業構造論』(NTT 出版)	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。

01 年度以降 00 年度以前	産業構造論 b 産業構造論	担当者	山越　徳

講義目的、講義概要	授業計画
産業構造論 a の講義内容を踏まえて、石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の事例の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわるべき新しい指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。	1. 産業構造の新しい方向Ⅰ：サービス化、ソフト化、情報化、多様化、高度化、複合化、国際化、構造変化の指標 2. 産業構造の新しい指標Ⅱ：財とサービス、サービスの生産物と生産性、有形財と無形財、間接労働と直接労働、労働投入と評価、構造変化の流れ 3. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅠ：３つのオートメーション、高度経済成長期の生産技術と 80 年代、90 年代の生産技術、技術波及 4. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅡ：鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行、小売などの事例 5. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅢ：ロボットとコンピューター、労働への影響分析 6. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅣ：ME 革命と IT 化、何がおきているか 7. 構造変化と就業構造Ⅰ：労働力の需要と供給、人口構造、産業構造と職業構造、基幹労働力と縁辺労働力、性別労働力 8. 構造変化と就業構造Ⅱ：日本の労働市場、新規学卒労働力、大企業と中小企業、雇用制度、雇用慣行、雇用調整、労働の属性 9. 構造変化と就業構造Ⅲ：ソフト化、知識集約化と職業構造および女子労働 10. 産業と地域Ⅰ：地域活性化と産業、国際化と地域、大企業と中小企業、地場産業 11. 産業と地域Ⅱ：大都市産業、産業集積、地域の取組みの事例 12. 経済政策、産業政策、労働政策の結びつき、地域活力、インキュベータ、自治体の役割
テキスト、参考文献	**評価方法**
関満博『フルセット型産業構造を越えて』(中公新書) 清成忠男、橋本寿朗『日本型産業集積の未来像』(日本経済新聞社)他	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。

05 年度以降 01～04 年度 00 年度以前	社会保障論 a 社会政策 a 社会政策	担当者	酒井　正

講義目的、講義概要	授業計画
新聞をはじめとするマスコミで、日々、社会保障制度に関わる問題が取り上げられており、また実際にも生活に密着した問題でありながら、社会保障ほど若い時に関心を持ちにくい分野も少ないかもしれません。しかし、まさにそれが社会保障の特質とも言えます。この授業では、働いてゆくことと社会保障制度の関わりを中心に講義を進めたいと思います。尚、トピックスについては、やむを得ない事情から取捨選択することがあります。	1. イントロダクション 2. 日本における就業と格差の実態 3. 日本の社会保障制度の概況 4. 社会保障制度の役割 －経済学の視点から－ 5. 社会保障の財源 6. 〔各論〕医療保険 7. 〔各論〕公的年金① 概要 8. 〔各論〕公的年金② 公的年金とパート就業／退職 9. 〔各論〕労働保険（雇用保険と労災保険） 10. 〔各論〕介護保険 －介護と家族の就業－ 11. 社会保険料の帰着問題 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書： 小塩隆士(2005)『社会保障の経済学[第 3 版]』日本評論社	レポート及び期末試験

05 年度以降 01～04 年度 00 年度以前	社会保障論 b 社会政策 b 社会政策	担当者	酒井　正

講義目的、講義概要	授業計画
少子高齢化や格差の拡大といった事態に直面している我が国の現状と社会保障制度との関わりについて考察します。人びとの働きかたの変容が社会保障制度の在り方に影響を及ぼすと同時に、社会保障制度の在り方もまた人びとの就業選択に影響しているという相互関係に念頭におきながら、講義を進めたいと思います。履修者には、多様な角度から政策を議論する姿勢が求められます。尚、トピックスについては、やむを得ない事情から取捨選択することがあります。 （講義は、社会保障論 a で講義した内容を前提とします。）	1. 少子高齢化と社会保障制度 2. 拡がる所得格差と所得再分配 3. 就業形態の多様化 4. 社会保険の未加入・未納問題 5. 所得再分配の政治経済学 6. 企業の福利厚生 7. 育児支援策 8. 公的扶助 9. 社会福祉 10. 国際比較から見た日本の社会保障 11. 雇用政策／その他 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しませんが、関連する文献については授業内で紹介します。	レポート及び期末試験

01 年度以降 00 年度以前	労働経済学 a 労働経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで解明する学問です。 この講義では、労働経済学の基礎理論を学びます。経済学の知識はあったほうが望ましいですが、知識がなくても理解できるように講義を進めます。	1. ガイダンス 2. 労働経済学とは何か 3. 無差別曲線と就業選択 4. 労働需要 5. 失業 6. 雇用調整 7. 情報の役割 8. 雇用をとりまく構造変化 9. 賃金と労働時間 10. 高齢者の就業促進 11. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
清家篤「労働経済」東洋経済新報社 ネット上で講義資料を公開します	試験

01 年度以降 00 年度以前	労働経済学 b 労働経済学	担当者	森永　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
労働経済学は、労働分野の諸問題を経済学の枠組みで解明する学問です。 この講義では、労働経済学の理論を現実の経済・社会に適用して、現代の雇用システムの問題点を探ります。	1. ガイダンス 2. ジニ係数と所得格差の現状 3. 非婚化の進展と少子化 4. 男女雇用均等法と税制 5. 公平な税制とは何か 6. 日本的雇用慣行とは何か 7. 知的創造性を育む雇用制度とは 8. ＵＦＪ総合研究所の評価システム 9. 自由と自己責任の評価がもたらすもの 10. ビジョナリーカンパニーと労働 11. イタリアはなぜ強いのか 12. 人はなぜ働くのか～自由と自己責任の雇用制度
テキスト、参考文献	**評価方法**
ネット上で講義資料を公開します	試験

01 年度以降 00 年度以前	会計学 a 会計学	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
企業会計もまた１つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粋形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、「簿記原理」という構文論の知識を前提に(それゆえ、少なくとも「簿記原理ａ」を修得していることが望ましい)、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものである。その後に展開される会計学における「語用論」（＝「経営分析論」等の応用・専門学科目）への１つの橋渡しとなるものだ、とも言える。 なお授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学ａ」では、会社の決算書の作成にかかわる諸ルールの概要説明をしていきたい。	1 本講義の目的等 2 テキスト第１章 決算書から見える世界[≒会計学の２つの領域] 3 テキスト第２章 会計と決算 その１：複式簿記の基本概念 4 テキスト第２章 会計と決算 その２：取引の仕訳 5 テキスト第２章 会計と決算 その３：勘定口座への転記 6 テキスト第２章 会計と決算 その４：貸借対照表, 損益計算書 の実際 7 テキスト第２章 会計と決算 その５：間接法によるキャッシュフロー計算書 8 テキスト第２章 会計と決算 その６：直接法によるキャッシュフロー計算書 9 テキスト第２章 会計と決算 その７：連結財務諸表の作成 10 テキスト第２章 会計と決算 その８：資産, 負債 定義とリース取引 11 テキスト第３章 第１, ２節：損益計算の基礎 12 テキスト第３章 第３節：資産評価の基礎

テキスト、参考文献	評価方法
山浦久司･廣本敏郎 編著、『ガイダンス企業会計入門[第２版]』(白桃書房)	評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。

01 年度以降 00 年度以前	会計学 b 会計学	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「会計学ａ」の知識を前提として「会計学ｂ」では、‘会計監査論’, ‘管理会計論’, ‘経営分析論’, ‘税務会計論’といった領域の諸問題を、教科書に沿った形で講義していきたい。	1 テキスト第３章 決算書のルール 剰余金の額, 剰余金の配当 2 テキスト第３章 決算書のルール 会計基準の登場,会計基準の国際的調和 3 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第１節 4 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第２節 その１：総合原価計算 その１ 5 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第２節 その２：総合原価計算 その２ 6 テキスト第４章 :製造会社の決算書[≒原価計算論] 第４節 標準原価計算 7 テキスト第５章 決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論] 8 テキスト第６章 決算書の内部利用[≒管理会計論] 第２節 ＣＶＰ分析 9 テキスト第６章 決算書の内部利用[≒管理会計論] 第４節機会原価概念, 差額原価収益分析 10 テキスト第７章 決算書を読んでみよう[≒経営分析論] 11 テキスト第８章 決算書と税金[≒税務会計論] 12 特論

テキスト、参考文献	評価方法
「会計学ａ」と同じ。	「会計学ａ」と同様。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。今後学ぶ様々な専門科目への理解･興味の橋渡しとなれば幸いである。	1. オリエンテーション 2. ～11. グループワークによるビジネスプラン作成 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ケーススタディと参考資料を配布する	グループワークへの参加状況と期末レポートにより評価する

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社の経営がどのように行なわれているものなのかについて、大まかに理解してもらうことを目的としている。ある会社設立のケースを想定し、グループに分かれて、ビジネスプランを立ててもらう。今後学ぶ様々な専門科目への理解・興味の橋渡しとなれば幸いである。	1. オリエンテーション 2. ～11. グループワークによるビジネスプラン作成 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ケーススタディと参考資料を配布する	グループワークへの参加状況と期末レポートにより評価する

01 年度以降 00 年度以前	経営学ａ　（経営学科） 経営学	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講座はこれらの領域の中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はＰＰＴを使いなるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。	１．モチベーション ２．グループの性質 ３．リーダーシップ ４．コミュニケーション ５．紛争と対立 ６．意思決定 ７．パワーとポリティクス ８．紛争・対立 ９．組織変革 １０．企業文化 １１．組織構造 １２．復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席と試験による。

01 年度以降 00 年度以前	経営学ｂ　（経営学科） 経営学	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
経営学は、かなり幅広い学問領域を含んでいる。主たるものでも、戦略論、組織論、組織行動論、人的資源論、国際経営論等がある。本講座はこれらの領域の中で組織行動論に焦点を当てる。組織行動論とは、企業などの組織環境の中で人はなぜその行動を取るのかを理解することに主眼を置く。講義方法前半はＰＰＴを使いなるべくわかり易く企業の実例をあげて理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。	１．モチベーション ２．グループの性質 ３．リーダーシップ ４．コミュニケーション ５．紛争と対立 ６．意思決定 ７．パワーとポリティクス ８．紛争・対立 ９．組織変革 １０．企業文化 １１．組織構造 １２．復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし。毎回講義資料を配布する。	出席と試験による。

01 年度以降 00 年度以前	経営学ａ　（経営学科） 経営学	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は経営学科の学生として学科専門の学習を進める上で、また将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業」や「経営」に関する基礎的知識の習得をめざす。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機や導入になるような講義を意図している。講義は基本的にテキストを利用して進める。なお講義と並行して日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つことをこころがけてください。 １学年の必修科目なので必ず出席をし、単位を取得することが重要となる。 なお同一教員の経営学ｂの既履修者は履修できないので注意すること。	1　なぜ経営学を勉強するのか 2　会社の設立 3　会社の仕組みと企業経営 4　企業価値評価（１） 5　企業価値評価（２） 6　経営戦略（１） 7　経営戦略（２） 8　経営組織、中間小テスト 9　企業間組織 10　ヒトの活用・・・人的資源戦略 11　モノの活用・・・投資戦略 12　カネの活用・・・財務戦略、期末小テスト ※　進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
高橋宏幸ほか著『現代経営・入門』有斐閣、2007 年。古い版を買わないように。また参考資料を適宜配布する	中間小テスト・期末小テストが主体なので必ず受験すること。また出席も勘案する可能性がある。

01 年度以降 00 年度以前	経営学ｂ　（経営学科） 経営学	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
経営学ａと同一。従って同一教員の経営学ａの既履修者は履修できないので注意すること。	経営学ａと同一
テキスト、参考文献	**評価方法**
経営学ａと同様	経営学ａと同様

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
入門講座として、経営学の基本的な概念を説明します。《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしています。 講義の前半（1～6）は経営学の基本的な概念を説明します。後半（7～11）は、現在、経営の重要な課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察します。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介します。 講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介します。	1　企業と外部環境 2　経営資源とマネジメント 3　経営戦略 4　環境経営 5　経営と情報 6　コーポレート・ガバナンス 7　イノベーション:プロダクト・イノベーション 8　イノベーション：テクノイノベーション 9　イノベーション：マーケティング・イノベーション 10 研究開発（R＆D）組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学の接点を求めて： 経営学を学ぶ皆さんへ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：高村寿一：「ベーシック経営入門」日本経済新聞社、参考文献は開講時に紹介。	期末試験を中心に、出席状況を加味して評価。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
入門講座として、経営学の基本的な概念を説明します。《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしています。 講義の前半（1～6）は経営学の基本的な概念を説明します。後半（7～11）は、現在、経営の重要な課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察します。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介します。 講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介します。	1　企業と外部環境 2　経営資源とマネジメント 3　経営戦略 4　環境経営 5　経営と情報 6　コーポレート・ガバナンス 7　イノベーション:プロダクト・イノベーション 8　イノベーション：テクノイノベーション 9　イノベーション：マーケティング・イノベーション 10 研究開発（R＆D）組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学の接点を求めて： 経営学を学ぶ皆さんへ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：高村寿一：「ベーシック経営入門」日本経済新聞社、参考文献は開講時に紹介。	期末試験を中心に、出席状況を加味して評価。

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
現代企業をめぐる情報化と国際化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。情報技術革命が、企業の組織や戦略に大きな変化をもたらすようになってきた。またアジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしている。いわゆる日本的経営も、システムとして再検討されるようになってきた。 本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識とともに、現代企業の直面する新しい課題について議論していく。	1．　経済学と経営学 　　勉強の進め方・ノートの取り方 2．　情報技術革命のインパクト 3．　「失われた 10 年」と日米企業 4．　現代における技術革新と競争優位 5．　日本的生産システムの確立と進化 6．　情報化とネットワーク 7．　---経済・経営情報検索術--- 8．　世界の多国籍企業 9．　技術革新と新しい国際分業 10.　日本企業の海外進出 11.　グローバリゼーション 12.　日本的経営の行方
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に定めないが参考書として、三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社を勧めておく。	小レポートおよび定期試験

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
現代企業をめぐる情報化と国際化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。 現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。情報技術革命が、企業の組織や戦略に大きな変化をもたらすようになってきた。またアジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしている。いわゆる日本的経営も、システムとして再検討されるようになってきた。 本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識とともに、現代企業の直面する新しい課題について議論していく。	1．　経済学と経営学 　　勉強の進め方・ノートの取り方 2．　情報技術革命のインパクト 3．　「失われた 10 年」と日米企業 4．　現代における技術革新と競争優位 5．　日本的生産システムの確立と進化 6．　情報化とネットワーク 7．　---経済・経営情報検索術--- 8．　世界の多国籍企業 9．　技術革新と新しい国際分業 10.　日本企業の海外進出 11.　グローバリゼーション 12.　日本的経営の行方
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に定めないが参考書として、三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社を勧めておく。	小レポートおよび定期試験

01 年度以降 00 年度以前	経営学 a　（経営学科） 経営学	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
経営とは、複数の人々が集まり、特定の目的を達成するために協働するもので、その場合、いい知恵を出して効率的と思われる最善の方法を講じることです。 そこには、①組織の形成、②人を動かす仕組み、③成功の確率を高めるための戦略立案などが必要です。 この講義では、経営学全般の事柄について、できるだけわかりやすい事例を使って、基礎的な知識の習得を図ります。	1　オリエンテーション 2　分業と協業 3　組織 4　モチベーション 5　リーダーシップ 6　競争と協調 7　売れている商品、成長している企業の要因 8　マーケティング 9　情報活用 10　戦略論① 11　戦略論② 12　事業評価
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	期末試験の結果と講義での貢献

01 年度以降 00 年度以前	経営学 b　（経営学科） 経営学	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	春学期と同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 a　（経営学科） 経済学	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、家計・企業・政府といった個々の経済主体の決定について考察しその相互作用を研究する、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。ビジネスの事例もできるだけ取り上げたいと思います。	1. 経済学とは何か 2. 完全競争 3. 市場メカニズム 4. 需給の変化 5. 消費者余剰 6. 生産者余剰 7. 競争市場均衡 8. 弾力性 9. 市場介入の効果 10. 生産者行動の理論 11. 消費者行動の理論 12. 不完全競争
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは未定ですが、事前に教科書を読んで講義に臨むことがきわめて有益ですので、指定します。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第 1 回目の授業で説明します。

01 年度以降 00 年度以前	経済学 b　（経営学科） 経済学	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。 この講義の目的は、初めて経済学を学ぶ学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この 2 つです。経済学の基礎学力をつけることが、遠回りのようでじつは経済学的思考のセンスを磨くことにつながるのです。そのためには公務員試験問題のトレーニングも有益でしょう。 この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としています。経済学を学ぶ初心者としては経済学部の学生も他学部の学生も同じです。新聞記事や経済データを提示して、経済学的な考え方になれてもらうようにしたいと考えています。 秋学期は、GDP、物価指数、失業率といった経済全体を捉える変数の決定を考察し、労働市場・生産物市場・資本市場の相互作用について研究する、マクロ経済学の分野を中心に講義します。景気指標、金融・財政政策、財政赤字、経済成長などのニュース・トピックもできるだけ取り上げたいと思います。	1. マクロ経済学とは何か 2. GDP、所得循環、景気循環 3. 物価指数、インフレーション 4. 経済成長 5. 金融システム 6. 資本市場 7. 労働市場と失業 8. 生産物市場 9. 短期の経済分析 10. 所得・支出分析 11. 財政赤字 12. 開放マクロ経済学
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは未定ですが、事前に教科書を読んで講義に臨むことがきわめて有益ですので、指定します。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第 1 回目の授業で説明します。

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 a 経営学原理	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
経営学原理では、現代社会の基礎的な構成要素である組織を対象とし、その行動や構造、変化のメカニズムを解明する学問です。現代に生きる私たちの周りには、様々な組織が存在しています。例えば、大学、サークル、企業、病院、政府……等々、これらの組織と関わらずに生活していくことはほとんど不可能なくらい周りに遍在し、私たちに大きな影響を与えています。 本講義では、組織構成員のその活動を通じて効率的に目標を達成するために、どのような仕組みを持っているのかを、現実の事例を用いながら考えていきます。受講者が、自らの目標達成のために組織を活用するなど、主体的な組織の参加者としての素養を身につけることが、本講義の目標です。なお、体系的理解のためには、関連科目を合わせて履修して下さい。	1. ガイダンス－授業の受け方、小テストの答案の書き方 2. なぜ経営学原理を学ぶのか 3. 経営学の学問的な位置づけと定義（1） 4. 経営学の学問的な位置づけと定義（2） 5. 経営学が仮定する人間像―意思決定と影響過程（1） 6. 経営学が仮定する人間像―意思決定と影響過程（2） 7. 参加の意思決定―組織均衡（1） 8. 参加の意思決定―組織均衡（2） 9. 経営における分業と調整（1） 10. 経営における分業と調整（2） 11. 動機づけ 12. コミュニケーション 13. まとめ

テキスト、参考文献	受講条件・評価方法
その都度指示します。 高松和幸著『経営組織論講義（増補版）』創成社，2003.	評価方法：小テスト（20%），筆記試験（80%）の合計点によって評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 b 経営学原理	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
経営学原理では、現代社会の基礎的な構成要素である組織を対象とし、その行動や構造、変化のメカニズムを解明する学問です。現代に生きる私たちの周りには、様々な組織が存在しています。例えば、大学、サークル、企業、病院、政府……等々、これらの組織と関わらずに生活していくことはほとんど不可能なくらい周りに遍在し、私たちに大きな影響を与えています。 本講義では、組織構成員のその活動を通じて効率的に目標を達成するために、どのような仕組みを持っているのかを、現実の事例を用いながら考えていきます。受講者が、自らの目標達成のために組織を活用するなど、主体的な組織の参加者としての素養を身につけることが、本講義の目標です。なお、体系的理解のためには、関連科目を合わせて履修して下さい。	1. ガイダンス－授業の受け方、小テストの答案の書き方 2. 組織とマネジメント 3. 競争戦略(1) 4. 競争戦略(2) 5. 組織構造(1) 6. 組織構造(2) 7. インセンティブ・システム(1) 8. インセンティブ・システム(2) 9. 会社の制度(1) 10. 会社の制度(2) 11. 組織と IT 12. 組織文化 13. まとめ

テキスト、参考文献	受講条件・評価方法
その都度指示します。 高松和幸著『経営組織論講義（増補版）』創成社，2003.	評価方法：小テスト（20%），筆記試験（80%）の合計点によって評価します。

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 a 経営学原理	担当者	西本　直人

講義目的、講義概要	授業計画
経営学はＦ．Ｗ．テイラーによってはじめて学問として構築されて以来、ゆうに１００年の歴史を持つ。経営学は当初、複雑な企業経営という現象の中に絶対的な法則性を見出すことをその目的としていた。しかしながら、経営学の歴史はそうした法則性が存在しないことを証明付けてきたともいえる。そもそも経営の世界において何らかの法則性が存在するということは市場における競争原理と背理するものである。 本講義ではまず、そうした経営学の根本的性格を歴史的に検討することから始める。その際、社会科学における法則性の問題、予測の可否といった問題を扱う。そして、次に経済全体においてマネジメントが果たす役割について考える。 また、講義は“経営学の神様”とまで呼ばれた経営理論家、Ｐ．Ｆ．ドラッカーの『マネジメント』を中心に行われる。その際、根本的な方針は、「経営に法則はないが基本はある」である。ドラッカーの最も代表的な著作を丹念に読み抜いていくなかで、マネジメントの“基本”について熟考していただきたいと考えている。	1 イントロダクション（講義全体の概説） 2 経営と法則性 3 経済とマネジメント 4 マネジメントの役割 5 企業とは何か　ードラッカーによる定義 6 顧客の創造 7 マーケティング（１） 8 マーケティング（２） 9 イノベーション（１） 10 イノベーション（２） 11 公的機関とマネジメント（１） 12 公的機関とマネジメント（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Ｐ．Ｆ．ドラッカー著『【エッセンシャル版】マネジメント　基本と原則』ダイヤモンド社 また、参考文献は適宜講義中にお配りします。	基本的には期末試験（論述形式）で合否を決めます。 ただ、自由レポートを一回募りますので、そのレポート分を試験の点数に加点した上で評価いたします。

01 年度以降 00 年度以前	経営学原理 b 経営学原理	担当者	西本　直人

講義目的、講義概要	授業計画
経営学原理 a では、Ｐ．Ｆ．ドラッカーの著作を中心に学習を進めていくが、経営学原理 b でも引き続きドラッカーの『マネジメント』に書かれている“基本”について理解を深めていきたい。 とりわけ経営学原理 b においては、企業という組織体や、その組織を動かすマネジメントという働きないし機能についてではなく、そのマネジメントという機能を担当するマネジャーのあり方について詳しく論じていきたい。マネジャーに求められる能力、資質、そして倫理といったトピックが取り上げられる。 また、ドラッカーがはじめて提唱したといわれる目標管理について、その原理、現状、問題点などについて触れられる。 さらに、１９５０年代からずっとマネジメントの在り様を観察・考察してきたドラッカーの、５０年を越えるマネジメント観察の結果得られたマネジメントのパラダイム・シフトについて詳しく考えていく。 最後に、マネジメントにおける“信頼”の重要性について触れた上で本講義を締めくくりたい。	1 仕事と人間 2 社会的責任 3 プロフェッショナルの倫理 4 マネジャーの仕事 5 自己管理による目標管理（１） 6 自己管理による目標管理（２） 7 ミドルマネジメントの役割 8 トップマネジメントの役割 9 マネジメントの組織 10 マネジメントの戦略 11 マネジメントのパラダイム・シフト 12 マネジメントにおける信頼の重要性
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Ｐ．Ｆ．ドラッカー著『【エッセンシャル版】マネジメント　基本と原則』ダイヤモンド社 また、参考文献は適宜講義中にお配りします。	基本的には期末試験（論述形式）で合否を決めます。 ただ、自由レポートを一回募りますので、そのレポート分を試験の点数に加点した上で評価いたします。

01 年度以降 00 年度以前	経営戦略論 a 経営戦略論	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。 春期では、まず、企業経営に及ぼす環境の影響を取り上げて、経営戦略の意義を明確にする。 次に、経営戦略の策定に重要な要因として、経営目標、経営環境、経営資源について考察する。 さらに、現実の企業では多種多様な戦略が利用されているので、秋期に行う個別戦略の分析に備えて、これらを類型化して、経営戦略の全体像を把握する。 最後に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。	1　春期授業計画の概要 2　（経営戦略の基礎）経営環境と経営戦略、 3　環境に含まれる機会と脅威 4　（経営戦略の構造）戦略策定の関連変数、 5　経営目標、経営環境、経営資源 6　効果的な経営戦略の要件、 7　（経営戦略の類型）類型化の方法、 8　全社戦略、事業戦略 9　競争戦略 10　（経営戦略の策定過程）問題解決思考 11　戦略策定過程の一般化 12　春期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営戦略論 b 経営戦略論	担当者	冨田　忠義

講義目的、講義概要	授業計画
秋期では、春期に準備した「基礎」を自明として、いくつかの個別戦略について概説する。 経営戦略は、全社戦略と事業戦略に区分できるが、まず、全社戦略の中核をなす成長戦略を取り上げて、その拡大化戦略と多角化戦略の策定について検討する。 以下順次、製品と事業のライフサイクルの段階ごとの対応戦略としての、製品ライフサイクル戦略、経営戦略と動的環境との間に生じる不適合を解消するための事業構造の再構築、いわゆるリストラ戦略、企業または企業グループにおける事業の最適組合せに取り組む事業選択戦略など、主要な経営戦略を取り上げる。 最後に、ポーターの競争戦略論について論じる。	1　秋期授業計画の概要 2　（成長戦略の策定）事業拡大化戦略 3　事業多角化戦略 4　（製品ライフサイクル戦略） 製品寿命とライフサイクル戦略 5　成熟期に移行する業界の経営戦略 6　（リストラ戦略）リストラの必要性 7　リストラ戦略の策定 8　（事業ポートフォリオ・マネジメント） 9　多産業型企業の事業選択戦略 10　（ポーターの競争戦略論）競争戦略の基本型 11　競争優位の構築、価値連鎖 12　秋期授業のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版	期末試験の結果と、授業出席状況による

01 年度以降 00 年度以前	経営管理論 a 経営管理論	担当者	西本　直人

講義目的、講義概要	授業計画
20 世紀初頭、アメリカで第二次産業革命が生じたとき、それまでは最大でも数百人レベルであった事業体や工場の従業員数が急拡大して数千人レベルへと増大した。そのとき、数千人レベルの人間をいったいどう管理していけば企業は一体性を保てるのかという経営者にとって最も深刻で根本的な難問がたち現れる。経営学はこの「人が人をいかに効率よく管理するか」という問題へのひとつの解答を提供するために生み出された実践の学である。そして、その最初の解答者はフレデリック・ウィンスロウ・テイラーであり、後に“経営学の父”と呼ばれるようになる。 本講義では、まずこのテイラーが案出・普及させた“科学的管理法”の本質部分と実践部分とを徹底的に学習することからスタートし、その管理手法がいまだに現代の外食産業においていかに実践されているかを説明する。そして後にテイラーの科学的管理法を完成させたヘンリ・フォードのフォード・システムへと講義を進める。 最後に、アメリカにおける科学的管理法の発展とは別に、同時代にフランス、ドイツで発生した管理手法、すなわちファヨールの管理法およびウェーバーの官僚制論について検討することで講義を終わらせたい。	1 イントロダクション（講義全体の概説） 2 経営管理の必要性（その歴史的必然性） 3 Ｆ．Ｗ．テイラーの科学的管理法（1） 4 Ｆ．Ｗ．テイラーの科学的管理法（2） 5 Ｆ．Ｗ．テイラーの科学的管理法（3） 6 現代外食産業にみる科学的管理法（1） 7 現代外食産業にみる科学的管理法（2） 8 フォード・システム（1） 9 フォード・システム（2） 10 ファヨールの管理法 11 ウェーバーの官僚制論（1） 12 ウェーバーの官僚制論（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：スチュアート・クレイナー著『マネジメントの世紀』東洋経済新報社 参考文献は適宜講義中にお配りします。	基本的には期末試験（論述形式）で合否を決めます。 ただ、自由レポートを一回募りますので、そのレポート分を試験の点数に加点した上で評価いたします。

01 年度以降 00 年度以前	経営管理論 b 経営管理論	担当者	西本　直人

講義目的、講義概要	授業計画
経営管理論 a では、テイラーの科学的管理法を中心にその発展と普及、そして現代における展開などを中心に学習を進める。経営管理論 b では、そのもっとも有効な人間の管理手法と思われていた科学的管理法に潜む欠点と、その欠点を克服するために生まれた近代的管理手法について学習を進めたい。 具体的には、まず企業において労働者のモティベーションをいかに高めるかという問題を扱ったメーヨーおよびレスリスバーガーの人間の関係論をまず取り上げる。そして、その研究成果として注目されたインフォーマル組織の発見について議論を進める。そして、１９６０年代にひとつのムーヴメントともなったマズローの欲求階層説に経営学的な知見を加味して提示されたマグレガーの X 理論・Y 理論についても解説する。 さらに、ノーベル経済学賞を受賞したH．A．サイモン博士の意思決定理論について詳しくみていきたい。彼の提唱した“計画に関するグレシャムの法則”がいかに現代企業にとって脅威となりうるかを解説し、企業経営におけるイノベーションの重要性について考察を進めたい。 最後には、経営学界で最新の知見であるノウイング・ドゥイング・ギャップやゴミ箱モデルといったユニークではあるが、非常に実践的な知見を紹介する。	1 人間関係論 2 インフォーマル組織 3 ハーズバーグの動機づけ―衛生理論 4 マズローの欲求階層説 5 マグレガーの X 理論・Y 理論 6 サイモンの意思決定論（1） 7 サイモンの意思決定論（2） 8 ドラッカーのイノベーション論（1） 9 ドラッカーのイノベーション論（2） 10 ノウイング・ドゥイング・ギャップ 11 意思決定のゴミ箱モデル（1） 12 意思決定のゴミ箱モデル（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：スチュアート・クレイナー著『マネジメントの世紀』東洋経済新報社 参考文献は適宜講義中にお配りします。	基本的には期末試験（論述形式）で合否を決めます。 ただ、自由レポートを一回募りますので、そのレポート分を試験の点数に加点した上で評価いたします。

01 年以降 00 年以前	経営財務論 a 経営財務論	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 　各週別の講義予定を見られたい。	1.1.企業の目的と財務政策 　a)市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 　b)企業による市場を通じる価値創造 2.1.企業の目的と財務政策 　c)資本市場の役割 　d)企業の財務的意思決定のフレームワーク 3.2.資産の価値をどう評価するか 　a)現在価値の評価 4.2.資産の価値をどう評価するか 　b)債権の評価 5.3.株式の価値はどう決まる 　a)配当割引モデルの考え方 　b)一定成長配当割引モデルと株価収益率 6.3.株式の価値はどう決まる 　c)配当割引モデルの応用、d)日本の株価水準と期待収益率 7.4.リスクをどう測るか　a)投資リスクの尺度 8.4.リスクをどう測るか　b)ポートフォリオのリスク. 9.4.リスクをどう測るか　c)ベータ値と資本資産評価モデル 10.5.資本コストとは何か 　a)資本コストとは、b)投資のキャッシュ･フロー 11.5.資本コストとは何か　c)資本コストの推計方法 12.5.資本コストとは何か 　d)日本企業の資本コストの計算例 　e)資本コストと資金コスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール　経営財務入門」（日本経済新聞社）	期末試験の結果による。

01 年以降 00 年以前	経営財務論 b 経営財務論	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。 講義概要 　各週別の講義予定を見られたい。	1.6.望ましい資本構成とは 　a)完全資本市場における資本構成と企業価値 2.6.望ましい資本構成とは 　b)法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響 3.6.望ましい資本構成とは 　c)企業価値の最大化と株価の最大化 　d)資本構成決定の現実的な考慮点 　e)日本企業の資本構成の動向 4.7.配当政策の考え方 　a)配当政策の理論、b)配当政策をめぐる問題点 5.7.配当政策の考え方 　c)株式配当と株式分割、d)日米企業の配当政策 6.8.自社株取得 　a)自社株取得の本質、b)自社株取得の利用動機 7.8.自社株取得 　c)自社株取得と株価評価 　d)自社株取得をめぐる我が国の現状 8.9.リスク管理とディリバティブの利用 　a)ディリバティブとは何か 9.9.リスク管理とディリバティブの利用 　b)ディリバティブを利用した金利リスク管理 　c)企業財務とリスク管理 10.10.企業の合併・買収 11.11.日本の伝統的な金融システムの特色と問題点 12.12.日本企業の財務政策の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール　経営財務入門」（日本経済新聞社）	期末試験の結果による。

01 年度以降 00 年度以前	人的資源管理論 a 経営労務論	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
今日企業を取り巻く経営環境は刻々と変化する。国境を越えた競争の激化、マイノリティー、女性等の新たな労働者の労働市場への参入、労働者の価値観の変化、消費者の嗜好の多様化、政府の規制緩和あるいは規制の強化等である。企業は生き残るためにはこのような市場の変化に敏感に対応しないといけない。 このような要請に充分に答えることができなかった従来の人事管理論（Personnel Management）と異なり、人的資源管理（ＨＲＭ）は企業の経営戦略と結びつき戦略を履行するため能動的に人材育成などの人事政策・慣行を総合的に考えるものである。企業のミッションや経営戦略は、どんなに立派でも実行できないと意味がない。結局、企業の経営は人の問題に帰着する。ＨＲＭは企業を人の面から分析する。講義前半はＰＰＴを使い理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。	１．HRM とはなにか。 ２．戦略的 HRM 環境 ３．法律的環境 ４．グローバル環境 ５．人材計画と職務分析 ６．募集 ７．選別と配置 ８．評価管理 ９．教育訓練 １０．キャリア計画と開発 １１．復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回講義資料を配布する。DeNish & Griffin (2002) *Human Resource Management*. Houghton Mifflin Company	出席と試験による。

01 年度以降 00 年度以前	人的資源管理論 b 経営労務論	担当者	岡部　康弘

講義目的、講義概要	授業計画
今日企業を取り巻く経営環境は刻々と変化する。国境を越えた競争の激化、マイノリティー、女性等の新たな労働者の労働市場への参入、労働者の価値観の変化、消費者の嗜好の多様化、政府の規制緩和あるいは規制の強化等である。企業は生き残るためにはこのような市場の変化に敏感に対応しないといけない。 このような要請に充分に答えるため、人的資源管理（ＨＲＭ）は企業の経営戦略と結びつき戦略を履行するため能動的に人材育成などの人事政策・慣行を総合的に考えるものである。企業のミッションや経営戦略は、どんなに立派でも実行できないと意味がない。結局、企業の経営は人の問題に帰着する。ＨＲＭは企業を人の面から分析する。講義前半はＰＰＴを使い理論の説明をする。後半はグループでのケース分析と討論と発表を行う。	１．基本的な報酬 ２．インセンテイブ ３．福利厚生 ４．労務管理 ５．労働環境の管理 ６．多様性の管理 ７．新しい労働関係の管理 ８．今後の課題 ９．ビデオ鑑賞 １０．ゲストスピーカー １１．復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回講義資料を配布する。DeNish & Griffin (2002) *Human Resource Management*. Houghton Mifflin Company	出席と試験による。

01 年度以降 00 年度以前	国際経営論 a 国際経営論	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションの原動力の一つは、多国籍企業である。現代企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めている。生産・流通・広告・金融など各分野での技術革新により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。 本講義では、企業の国際化に伴う諸問題を包括的に議論し、グローバリゼーションを理解するための理論的枠組みを提供することを目的とする。 通年受講が望ましい。春学期では、グローバリゼーションと情報化の流れの中で、新しい競争の時代を迎えている現代企業像の概要を解説する。	１．グローバリゼーションの時代 ２．現代経済における多国籍企業 国民経済の枠組みと多国籍企業 ２．現代企業の理論 巨大企業と「豊かな」社会 ３．現代企業の理論 コーポレートガバナンスの変貌 ４．現代企業の理論 フォード主義から日本的生産システムへ ５．現代企業の理論 情報技術革命と企業組織 ６．現代企業の理論 多国籍企業と直接投資 ７．多国籍企業と新しい国際分業 技術革新と国際分業の再編成 ８．情報技術革命と日米企業 IT 革命のインパクト ９．情報技術革命と日米企業 企業組織と経営戦略の変貌 １０．情報技術革命と日米企業 生産性と競争優位をめぐって １１．情報技術革命と日米企業 IT と新しい「ビジネス・モデル」 １２．情報技術革命と日米企業 情報化社会と日本的経営論の再審
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書：　伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日経	定期試験

01 年度以降 00 年度以前	国際経営論 b 国際経営論	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では、多国籍企業の活動にかかわるケーススタディを中心として、グローバリゼーションの現状を分析していく。	１．日本企業の国際化 システムとしての日本企業 ２．日本企業の海外進出 戦後復興から 1990 年代まで ３．日本企業の海外進出 「摩擦」の政治経済学 ４．日本企業の海外進出 アメリカの日系企業 ５．日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業 ６．日本企業の海外進出 アジアへの進出と撤退 ７．日本企業の海外進出 「チャイナ・ショック」以降の国際分業 ８．情報技術革命と世界的な産業の再編成 ハイテク産業の覇権をめぐって ９．情報技術革命と世界的な産業の再編成 自動車産業を中心として １０．情報技術革命と世界的な産業の再編成 知的財産権をめぐって １１．情報技術革命と世界的な産業の再編成 日本企業の課題 １２．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に、適宜指示	定期試験

01 年度以降 00 年度以前	経営史 a 経営史	担当者	柳　敦

講義目的、講義概要	授業計画
欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 近代工業化以前の企業活動を概観し、次いで、英国における産業革命の特徴と企業経営の問題を検討する。	1　経営史の課題と問題 2　ヨーロッパ前近代における企業と経営（1） 3　ヨーロッパ前近代における企業と経営（2） 4　ヨーロッパ前近代における企業と経営（3） 5　重商主義とアダム・スミス 6　資本主義とその精神 7　英国産業革命とその特徴（1） 8　英国産業革命とその特徴（2） 9　英国産業革命期の企業経営（1） 10　英国産業革命期の企業経営（2） 11　工場制の導入と規律の変化 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	期末試験の成績によって評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	経営史 b 経営史	担当者	柳　敦

講義目的、講義概要	授業計画
欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約、文化的側面をも含めて考える。 後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら 19 世紀における企業経営のありかたを考察し、次いで、20 世紀型企業経営の問題を考える。	1　19 世紀フランスにおける工業化とその特徴 2　19 世紀フランス企業経営の特徴 3　19 世紀ドイツにおける工業化とその特徴 4　19 世紀ドイツ企業経営の特徴 5　19 世紀における小売業界での変化と特徴 6　19 世紀米国における工業化とその特徴 7　19 世紀米国企業経営の特徴 8　ビッグビジネスの展開と独占禁止法 9　科学的管理法の展開 10　企業組織の問題 11　フォードとＧＭ 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて紹介する。	期末試験の成績によって評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	日本経営史 a 日本経営史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では日本の大企業経営の形成発展について個別企業や経営者など具体的事例をあげながら明らかにする。 まず、資本主義成立発展過程に即して、大企業システム形成上の様々な事例と問題点を国家と企業及びその国際的諸関係に留意しながら明らかにする。財閥・国有企業・外資系企業についてはやや立ち入った検討を加え、当時のコーポレート・ガヴァナンスについても考察する。 具体的イメージを持てるようにＶＴＲも活用する予定。講義内容を理解する上で「日本経済史 a」をも受講することが望ましい。 ［注意］毎週の講義前日までに、講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。	1　はじめに 2　幕末維新と政商（小野組・島田組と三井） 3　外商の活動と外資規制（グラバーと高島炭坑） 4　「近代化」・「工業化」の担い手（渋沢と岩崎） 5　会社制度の導入・発展（紡績・鉄道・銀行） 6　官業払い下げ、「政商から財閥へ」 7　「番頭経営」と専門経営者 8　国有国営企業と軍事関連企業 9　外資系企業の進出（英米系企業中心） 10　日本企業の中国進出（満鉄と在華紡） 11　財閥コンツェルンと持株会社 （財閥のコーポレート・ガヴァナンス） 12　外資系会社とコーポレート・ガヴァナンス （日本製鋼所を中心に） （項目・順序は一部変更あり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）、その他適宜指示する	筆記試験

01 年度以降 00 年度以前	日本経営史 b 日本経営史	担当者	奈倉　文二

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、戦前から戦後にかけての大企業経営の変遷について具体的事例をあげながら明らかにする。 まず、大企業経営のあり方が 1930 年代に変化したことを官民関係の変容、新興コンツェルンの蓄積様式（旧財閥との比較）、外資系企業の展開と規制、軍需産業の展開などについて明らかにする。さらに、戦後大企業システムの形成発展について、財閥解体、企業集団の形成、「日本型企業システム」「日本的経営」「日本的経営者支配」の内容、重化学大企業（鉄鋼・家電・自動車）の発展様式、企業集団とコーポレート・ガヴァナンスなどについて述べる。 ＶＴＲも活用する予定。講義内容を理解する上で「日本経営史 a」「日本経済史 ab」をも受講することが望ましい。 ［注意］毎週の講義前日までに、講義資料を講義支援システムに入力しておくので、履修者は必ず事前に講義資料を入手して講義に臨むこと。	1　はじめに 2　日本製鉄の設立と官民関係 3　新興コンツェルン（日産など）と旧財閥 4　外資系企業の展開と規制（石油・自動車） 5　軍需産業の展開（三菱重工と中島飛行機） 6　財閥解体（集排法・独禁法含む）の経営史的意義 7　企業集団形成（株式持合・社長会・系列融資） 8　「日本型企業システム」・「日本的経営」・「日本的経営者支配」 9　耐久消費財（家電・自動車）大企業の発展 10　鉄鋼寡占資本間の競争と協調（新日鉄） 11　企業集団・系列とコーポレート・ガヴァナンス 12　持株会社解禁・「経営統合」・メガバンクと企業集団の変容 （項目・順序は一部変更あり得る。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献：宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）、その他適宜指示する。	筆記試験

01 年度以降 00 年度以前	マーケティング論 a マーケティング論	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための、経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。	1. マーケティングとは何か？ 2. 企業戦略･事業戦略とマーケティング戦略の関係 3. 企業理念の重要性とその設定･変更 4. 企業目標の選定 5. 外部環境要因の分析① 6. 外部環境要因の分析② 7. 内部環境要因の分析① 8. 内部環境要因の分析② 9. 企業戦略の策定①～プロダクト･ライフサイクルの分析 10. 企業戦略の策定②～アンゾフの成長戦略 11. 企業戦略の策定③～競争上の地位と企業戦略 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
有吉秀樹『企業価値向上のマーケティング戦略』中央経済社。必要があれば補足プリントを配布する	授業中の発言と期末試験により評価する

01 年度以降 00 年度以前	マーケティング論 b マーケティング論	担当者	有吉　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
マーケティングは、消費者のニーズを企業の目標である利益獲得に結びつけるための、経営上の重要なツールである。ただ単に「作れば売れる」という大量生産・大量消費の時代が終わりを告げた現在、消費者の嗜好はますます個別化してきている。どのような消費者をターゲットとするのか、そのような消費者の手元に確実に自社商品・サービスを届けるためには、どのような手段を用いたらよいのかといった問題について、マーケティングは答えを与えてくれる。講義では、マーケティング戦略と企業全体の戦略との関係を常に意識しながら、論理的かつ事例を交えて具体的に解説したいと思う。 教員による一方的な講義ではなく、双方向性やディスカッションを重視するので、教科書の該当箇所を事前に読んできていることが望ましい。	1. 目標売上高と目標利益の算定 2. 市場細分化と標的市場の選定 3. ポジショニング 4. マーケティング目標の設定①～販売予測 5. マーケティング目標の設定②～販売分析 6. マーケティング目標の設定③～販売高計画と販売割当 7. 製品戦略 8. 価格戦略 9. 流通経路戦略 10. プロモーション戦略 11. マーケティング戦略の実行と監査 12. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
有吉秀樹『企業価値向上のマーケティング戦略』中央経済社。必要があれば補足プリントを配布する	授業中の発言と期末試験により評価する

01 年度以降 00 年度以前	広告論 a 広告論	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 1　現代広告の潮流について考えます。 2　広告の機能について考えます。 3　広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 4　マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 5　CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	1　現代広告の潮流と課題 2　広告の定義と機能 3　広告の目的と広告の種類 4　マーケティング戦略と広告 5　ブランド戦略と広告 6　広告のターゲットと広告の種類 7　広告ビジネスの全体像 8　広告主の役割 9　広告会社の機能 10　広告メディアの動向（マスメディア） 11　広告メディアの動向（Web、SP） 12　事例研究①
テキスト、参考文献	**評価方法**
■　梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■　足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、試験による。

01 年度以降 00 年度以前	広告論 b 広告論	担当者	市川　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】 現代社会における広告の機能を明らかにします。 また、企業の広告について、マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略の視点から解説し、実際の広告計画の立案の過程を明らかにします。 【講義の概要】 1　現代広告の潮流について考えます。 2　広告の機能について考えます。 3　広告主、メディア、広告業界の仕組みと、その動向について取り上げます。 4　マーケティング戦略やブランド戦略、コミュニケーション戦略のプランニングのプロセスを明らかにします。 5　CM を通じて、企業やマーケティング戦略の背景を明らかにします。	1　広告計画の全体フロー 2　広告目標の設定 3　マーケティング戦略の立案①（ターゲット・インサイト） 4　マーケティング戦略の立案②（ポジショニング戦略） 5　アカウント・プラニング 6　ブランド戦略の立案 7　クリエーティブ戦略の立案 8　広告制作 9　メディア戦略の立案 10　広告効果の測定 11　事例研究② 12　事例研究③
テキスト、参考文献	**評価方法**
■　梶山皓『広告入門＜新版＞』日経文庫、2002 年 11 月 ■　足立勝彦・市川嘉彦『ブランド・インサイト』晃洋書房、2005 年 10 月	出席、試験による。

01 年度以降 00 年度以前	保険論 a 保険論	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業をめぐる環境変化を分析する能力を収得することにあります。 春学期の目標は保険理論の理解であり、主として保険の技術や原則を講義します。保険の本質的機能を十分理解すれば、近接他業との相互関係や環境変化・市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知ることができるはずです。 例えば、大手生保会社が保険業法に基づいて設立された相互会社（非営利中間法人）であることは、意外と知られていないと思います。 なるべく丁寧に講義を進めるために、進度により左記の授業計画の一部を割愛することがあります。	1　講義の進め方、保険学の学問的位置づけなど。 2　リスクの一般理論について。 3　保険の歴史について。 4　期待効用に基づく保険モデルの解説。 5　保険の構造（1）：保険の理論的構造の概観。 6　保険の構造（2）：主として損害保険の主要概念 7　保険の構造（3）：「危険負担の一般原則」および「損害填補の一般原則」とその例外について。 8　保険の構造（4）：因果関係論、保険契約者が守るべき各種の義務について。 9　保険各論（1）：生命保険の仕組みや機能について。 10 保険各論（2）：自動車保険、火災保険について。 11 保険各論（3）：傷害保険、責任保険について。 12 春学期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
パワーポイントによる授業を行います。UP する予定はありませんので注意してください。参考文献などは適宜しじします。	定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。

01 年度以降 00 年度以前	保険論 b 保険論	担当者	岡村　国和

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は保険会社の経営についての講義を中心に講義を進めます。具体的には保険業の収益構造や保険市場の構造的変化について日米を比較検討します。 収益面では、バブル期までの生保業の中心的な収益の源泉が、保険販売収益ではなく金融収益であったことを知っているでしょうか。金融収益が保険収益を上回るという本業と副業の収益面での「ねじれ現象」が発生しています。 このような金融・経済の環境変化に対応できない会社は自然淘汰（ダーウィニズム）されるのですが、自然淘汰とは弱肉強食を意味するのではなく、「自然環境の変化に順応できない種（会社）は滅びる」と言うことを意味しており、現代経営学に通じるものです。保険業はどのような生き残りを演じるのでしょうか？考えてみて下さい。	1　秋学期の講義目的や内容について 2　保険経営の特徴 3　保険市場の概要と主要な問題 4　保険企業の形態 5　保険経営の特殊性（1）：価値循環の転倒性、保険技術的危険などについて。 6　保険経営の特殊性（2）：保険料の算定、アンダーライティングについて。 7　保険の限界とその拡張。 8　損害保険の収益構造。 9　生命保険の収益構造。 10 保険規制をめぐる問題。 11 保険における消費者保護の現状。 12 秋学期のまとめ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
パワーポイントによる授業を行います。UP する予定はありませんので注意してください。参考文献などは適宜しじします。	定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。

01 年度以降 00 年度以前	貿易論 a 貿易論	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野です。 この講義の目的は、国際貿易や貿易政策の基礎理論を学んで、現実の国際貿易のテーマを考察するための経済学的な思考方法を手に入れることです。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの貿易理論の有用性を理解してもらいたいと思います。あわせて実際のデータを提示して国際貿易の実態についての理解も深めていくことを考えています。 春学期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義します。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位をはじめ、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを取り上げます。 ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけていねいに説明していきますので、貿易理論を学ぶことで、経済学的な思考方法で貿易を捉えることができるようになってもらいたいと思います。	1. リカードの比較生産費説(1) 2. リカードの比較生産費説(2) 3. 補論: 最適消費点の決定―無差別曲線分析― 4. リカードの比較生産費説(3) 5. ヘクシャー＝オリーン理論―固定投入係数のケース(1) 6. ヘクシャー＝オリーン理論―固定投入係数のケース(2) 7. ヘクシャー＝オリーン理論―固定投入係数のケース(3) 8. 国際貿易の基礎理論(1) 9. 国際貿易の基礎理論(2) 10. 国際貿易の基礎理論(3) 11. 貿易と経済成長(1) 12. 貿易と経済成長(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
事前に教科書を読んで講義に臨むことがきわめて有益ですので、できれば指定したいと考えています。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第１回目の授業で説明します。

01 年度以降 00 年度以前	貿易論 b 貿易論	担当者	米山　昌幸

講義目的、講義概要	授業計画
貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野です。 この講義の目的は、国際貿易や貿易政策の基礎理論を学んで、現実の国際貿易のテーマを考察するための経済学的な思考方法を手に入れることです。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの貿易理論の有用性を理解してもらいたいと思います。あわせて実際のデータを提示して国際貿易の実態についての理解も深めていくことを考えています。 秋学期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義します。コメの輸入自由化、環境と貿易、WTO(世界貿易機関)とFTA(自由貿易協定)、緊急輸入制限措置(セーフガード)やアンチ･ダンピング措置など、個別テーマを取り上げたいと思います。 ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけていねいに説明していきますので、貿易理論を学ぶことで、経済学的な思考方法で貿易を捉えることができるようになってもらいたいと思います。	1. 貿易政策の目的 2. 貿易政策の手段 3. 補論: 市場メカニズムと厚生分析 4. 部分均衡分析による貿易利益 5. 貿易政策の効果―部分均衡･小国モデル(1) 6. 貿易政策の効果―部分均衡･小国モデル(2) 7. 輸出国の貿易政策―部分均衡･小国モデル 8. 貿易政策の効果―部分均衡･大国モデル 9. コメの輸入自由化―関税化と生産補助金を伴う段階的関税引き下げの厚生分析 10. 環境と貿易 11. WTO(世界貿易機関)と FTA(自由貿易協定) 12. 自由貿易と保護貿易―グローバリゼーションと貿易紛争
テキスト、参考文献	**評価方法**
事前に教科書を読んで講義に臨むことがきわめて有益ですので、できれば指定したいと考えています。	出席状況、練習問題、定期試験の総得点によって評価します。評価基準は第１回目の授業で説明します。

01 年度以降 00 年度以前	証券市場論 a 証券市場論	担当者	髙橋　元

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションや自由化の進展は、わが国の経済構造を大きく変革せしめている。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化することにより、個人と証券・証券市場との距離は急速に接近しつつある。このことはまた、個人が自己責任原則の下に多様なリスクに晒される時代の到来を意味している。 本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにする事を目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めるよう試みたい。これらを通じて、直接金融主導の経済環境において、個人としてリスクを制御する上で最低限必要な知識の涵養も目指していく。 証券市場 a では、証券の定義や証券市場のメカニズムなど、基本的な領域について幅広く学習する。講義は口述と板書を中心に、必要に応じてプリント類を配布する。授業は、原則として計画に沿って進行するが、金融資本市場の変化などに応じて、流動的に対応していく。	1．講義の概要――進め方、評価方法等のガイダンス 2．戦後の経済発展と証券市場 3．証券の意義と種類（その１） 4．　〃　（その２） 5．証券市場の機能と沿革 6．証券業務と証券会社 7．証券市場の構成者 8．機関投資家と個人投資家 9．証券化の仕組み 10．新しい金融商品の基礎 11．証券市場の現状と課題 12．総括――まとめと期末試験へのアナウンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場（第２版）』佐藤昇、木村由紀雄、高橋元、相沢幸悦／著、東洋経済／刊（2003 年）	出席状況、授業中に実施するレポートの提出状況と内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。

01 年度以降 00 年度以前	証券市場論 b 証券市場論	担当者	髙橋　元

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションや自由化の進展は、わが国の経済構造を大きく変革せしめている。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化することにより、個人と証券・証券市場との距離は急速に接近しつつある。このことはまた、個人が自己責任原則の下に多様なリスクに晒される時代の到来を意味している。 本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶことにより、その国民経済的な意義を明らかにする事を目的とする。また、日々の出来事などについて実践的な解説を適宜施すことで、より理解を深めるよう試みたい。これらを通じて、直接金融主導の経済環境において、個人としてリスクを制御する上で最低限必要な知識の涵養も目指していく。 証券市場論 b では、株式を中心に証券価格の評価などに関わる理論的な考察を行い、専門的且つ高度な知識の習得を図る。講義は口述と板書を中心に、必要に応じてプリント類を配布する。授業は、原則として計画に沿って進行するが、金融資本市場の変化などに応じて、流動的に対応していく。	1．講義の概要――進め方、評価方法等のガイダンス 2．証券の価格形成 3．証券投資理論の基礎 4．株式と株式会社 5．債券投資理論 6．株式投資尺度（その１） 7．　〃　（その２） 8．ポートフォリオ理論の基礎 9．ポートフォリオ理論の発展形態 10．デリバティブズ 11．新しい投資理論の展開 12．総括――まとめと期末試験へのアナウンス
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場（第２版）』佐藤昇、木村由紀雄、高橋元、相沢幸悦／著、東洋経済／刊（2003 年）	出席状況、授業中に実施するレポートの提出状況と内容、試験結果などを総合的に勘案し評価する。

01 年度以降 00 年度以前	企業論 a 企業論	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
大学卒業後の進路として、就労の場である企業の存在は無視できないものがあります。しかし、学生の企業に対する問題意識は総じて希薄であり、企業に関する情報や知識も断片的・表層的なものでしかないものと考えられます。 本講義では、企業における諸制度や仕組みの概要説明を通じて、日本企業の多面的な性格・特徴を論じていきたいと思います。特に昨今、日本型経営システムは大きな転換期を迎えていると言われています。今後の方向性についても、最新の企業情報を織りまぜながら、ともに考えていきたいと思います。 春学期は企業内部の諸制度や仕組みに、秋学期は企業外部との関係にそれぞれ焦点を当てます。	1　オリエンテーション 2　終身雇用 3　雇用のフロー化 4　年功賃金 5　人事異動 6　昇進 7　採用 8　教育・研修、人事評価 9　労働組合 10　高齢者雇用・女性雇用 11　福利厚生 12　労働時間、休暇
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は特に指定しない。	期末試験の結果と講義での貢献

01 年度以降 00 年度以前	企業論 b 企業論	担当者	平井　岳哉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	1　トップマネジメント 2　家族経営者と専門経営者 3　家族企業 4　横の企業グループ 5　縦の企業グループ 6　コーポレートガバナンス 7　系列取引 8　中小企業 9　企業の創業、ベンチャー企業 10　社会貢献 11　企業リスク 12　業界再編
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

01 年度以降 00 年度以前	ベンチャービジネス論 a ベンチャー・ビジネス論	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
ベンチャー企業も一つの企業であるという基本認識に立って、企業の役割や機能をトータルに把握できるようにする。その理解の上に、ベンチャー企業特有の問題や政策支援の内容などを理解していく。今年度はテキストに準拠してすすめる。 この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし将来起業したり、独立する際に知っておくべき基礎的な知識を習得する。また起業に関心はなくとも、意識の高い企業人や社会人になろうとする人は受講してほしい。他学部の学生も歓迎する。 本科目では原則として出席はとらない予定だが、経験則として単位取得と講義の受講は強い正の相関関係にある。各自判断のうえ受講すること。	1　会社とはなにか 2　会社の誕生（1） 3　会社の誕生（2） 4　会社の設立 5　会社の成長と組織 6　会社の資金調達 7　ベンチャー企業支援政策 8　ベンチャー企業と知財（特許）戦略 9　資本市場の仕組み １０　ベンチャー企業と上場市場の活用 １１　外部講師講演（1）起業家 １２　まとめと課題 ※進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：上坂卓郎『ベンチャー企業入門』中央経済社（2006）。毎回関連資料を配布する	定期試験を行う。なお追試、レポートはないので注意すること（特に４年生）。

01 年度以降 00 年度以前	ベンチャービジネス論 b ベンチャー・ビジネス論	担当者	上坂　卓郎

講義目的、講義概要	授業計画
ベンチャービジネス論 a と同様だが、より専門的な話題を盛り込んだ内容とする。また最近の盛んになっている企業買収、MBO などの、ベンチャー企業の成長政策の一つとして触れる。 秋学期はビジネススクールで取り扱うベンチャー企業の話題を平易に解説していく。 今年度はテキストに準拠してすすめる。	1　ベンチャー企業と資金繰り 2　ベンチャーキャピタルの役割（1） 3　ベンチャーキャピタルの役割（2） 4　ベンチャー企業評価 5　起業家にとっての資本政策 6　ベンチャー企業とビジネスリスク 7　プライベートエクィティとM&A、MBO 8　ベンチャー企業の成長戦略 9　産業動向とベンチャー企業戦略立案 １０　ビジネスエンジェルの役割 １１　外部講師講演（2）ベンチャーキャピタリスト １２　経営再起とベンチャー企業、まとめと課題 ※進捗にあわせて内容を変更する可能性がある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：上坂卓郎『ベンチャー企業入門』中央経済社（2006）。毎回関連資料を配布する	定期試験を行う。なお追試、レポートはないので注意すること（特に４年生）。また秋のビジネスコンテスト本選出場者は成績に加味する予定

01 年度以降 00 年度以前	非営利組織マネジメント論 a 協同組合論	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 : 非営利組織（ＮＰＯ）マネジメント論では、NPO の事業・活動に関する、その運営の多様性について講義する。春学期では、授業計画のように、基礎的な知識習得に努める。 NPO で活躍が期待される事業や組織運営に関する基礎を理解すると同時に、事例を取り上げる。ＮＰＯは地域・企業・行政によって支えられているが、その活動も多岐にわたるため、本講義の内容も多岐に亘るため、年間を通じて授業を受けることが望ましい。 講義目標：この講義の目的は、ＮＰＯ活動を、マネジメントの視点から取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。	1. ＮＰＯとは何か : ボランタリー組織・フィランソロピー・ＮＧＯ・市民セクター 2. ＮＰＯの成立：ランティア活動・ＮＰＯの萌芽 3. ＮＰＯの発展：ボランティア革命 4. ＮＰＯの規模：構造・分類・公益法人制度 5. ＮＰＯの形態：人制度・市民活動団体 6. ＮＰＯの成立基盤：制度化・活動資金 7. ＮＰＯの経営環境：外部環境・政府との関係 8. ＮＰＯの経営管理：管理機構・意思決定 9. ＮＰＯの管理手法：経営戦略・業績管理 10. ＮＰＯの会計制度：会計書類・会計基準 11. ＮＰＯの予算管理：予算制度・収支計算書 12. まとめ
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸著『ＮＰＯマネジメント』五絃舎、2002 年.	受講条件：b も履修すること 評価方法：小テスト（20%），筆記試験（80%）の合計点によって評価します。

01 年度以降 00 年度以前	非営利組織マネジメント論 b 協同組合論	担当者	高松　和幸

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要：非営利組織（ＮＰＯ）マネジメント論では、非営利組織の事業・活動、評価に関して取り上げる。 秋学期では、NPO で活躍が期待される事業や組織運営での事例に基づく学習と共に、ＮＰＯが地域・企業・行政によって支えられていること、その活動もフィランソロピーやボランティアと共に注目されていることを通じて、地域や社会を変えようと、ボランティアの基礎を理解するためにも、地域や社会を理解するためにも、現在の NPO 活動を理解することが大切であることは言うまでもない。 講義目的は、春学期と同じ。	1. ＮＰＯの業績評価：ＮＰＯの経営分析・ 2. ＮＰＯの業績評価方法：財務と非財務情報 3. ＮＰＯの国際比較：世界のＮＰＯ 4. アメリカのＮＰＯ 5. イギリスのＮＰＯ 6. ドイツのＮＰＯ 7. フランスのＮＰＯ 8. 中国のＮＰＯ 9. その他の国のＮＰＯ：ハンガリー・トルコ 10. ＮＰＯのＩＴ化：ＮＰＯの変化・組織の価値 11. ＮＰＯの今後 12. まとめ
テキスト、参考文献	**受講条件・評価方法**
高松和幸著『ＮＰＯマネジメント』五絃舎、2002 年.	受講条件：a を履修していること 評価方法：小テスト（20%），筆記試験（80%）の合計点によって評価します。

01 年度以降	企業文化論 a	担当者	齊藤　善久

講義目的、講義概要	授業計画
1、企業文化を学ぶことは、企業は誰のために 何のために存在するのかを考えることです。 2、優良企業、エクセレント・カンパニー、オンリーワン企業、いい会社について考えます。 自分にとって何がいい企業かを見る目を養います。 3、優れた企業文化を創りあげた創業者の発想を学びます。 4、自分の発想力を鍛えるためにブレーンストーミングを体で覚え、発想のヒントをつかみます。	1、オリエンテーション 2、いい企業とは 3、演習 4、ＥＳ（雇用者満足）とＣＳ（顧客満足） 5、演習 6、優れた創業者・経営者 7、演習 8、ＣＳＲ（企業の社会的責任），メセナ活動 9、演習 １０、演習 １１、演習　まとめ １２、発表と審査、表彰と講評、
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジュメを配布します	出席と数回のレポートによる

01 年度以降	企業文化論 b	担当者	齊藤　善久

講義目的、講義概要	授業計画
1、企業文化を学ぶために秋期は企業の不祥事について考えます。 犯罪や事故を起こす企業について何が問題なのか考えます。 2、そのため企業体質、企業風土、組織心理などについて考察します。 3、春期と秋期をつうじて、自分と企業の関係についてキャリアイメージを考えます。 さらに自分のキャリア戦略を立案するためのヒントを考えます。 また自分のキャリアを経済面からだけでなく、文化面からも考えてみましょう。	1、オリエンテーション 2、よくない企業とは 3、演習 4、企業犯罪と企業事故の原因 5、演習 6、コンプライアンス（法令順守)、と コーポレート・ガバナンス（企業統治） 7、演習 8、ラブストーリーのある企業 9、演習 １０、演習 １１、演習　まとめ １２、発表と審査、表彰と講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
レジュメを配布します	出席と数回のレポートによる

01 年度以降	研究・開発マネジメント a	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
情報技術、バイオテクノロジー、新素材、ナノテクノロジー等の技術革新は、社会・経済、産業、経営、個人に大きな影響を与えつつあります。企業の発展はこうした技術革新の原動力となる企業の研究開発（Ｒ＆Ｄ）によって支えられており、いかに競争優位の研究開発マネジメント・システムを構築するかは、企業経営の重大な関心事となっています。 本講義では、技術革新の動向、技術革新をはじめとするイノベーションを引き起こすための研究開発マネジメントの基本的な諸視点について事例をまじえながら学習します。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介します。 将来、社会人として、新商品、新サービス、新事業の開発に関わりたいと考えている人は、技術に関わる経営の戦略的マネジメント（技術経営：Management of Technology）の理解は必須となるでしょう。文科系の皆さんがこの新しい領域に積極的に挑戦されることを期待しています。	1 ガイダンス、企業の未来と研究開発 2 環境変化と研究開発マネジメント１：日本企業の研究開発とその課題 3 環境変化と研究開発マネジメン 2:技術革新モデルと研究開発マネジメント 4 技術革新の潮流 1：技術の未来ロードマップ 5 技術革新の潮流 2:技術のライフサイクルとマネジメント 6 経営戦略と技術戦略 1:経営戦略の枠組み 7 経営戦略と技術戦略 2:技術戦略の視点、事例にみるイノベーション 8 事業創造：事業のライフサイクルと技術･商品開発 9 商品開発 1:新しいパラダイム、プロダクト・イノベーションの諸概念と分析技法 10 商品開発 2:革新的な商品開発とコンセプト創造 11 研究開発とマーケティング 12 企業における商品開発の取り組み（講演予定）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山之内昭夫：「新･技術経営論」、日本経済新聞社。 参考文献：開講時に紹介。	期末試験、出席により評価。

01 年度以降	研究・開発マネジメント b	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的は春学期に同じ。 秋期は、**研究開発に関わる重要なトピックス**について、その現状と課題を事例をまじえながら紹介します。 講義は春学期講義 a での基礎概念の履修を前提に進めます。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介します。	1 研究開発と環境マネジメント 2 自動車産業の環境経営に向けた研究・技術開発 3 研究開発と産学協同 4 研究開発と地域産業 5 研究開発と知財管理 6 研究開発とグローバル化 7 研究開発と情報システム 8 研究開発とアライアンス 9 商品開発における取り組みの視点―産学行コラボレーションに向けて―講演録から 10 研究開発と人材育成 11 研究開発の評価と意思決定：経営システム工学の視点から 12 企業における技術経営の取り組み（講演予定）
テキスト、参考文献	**評価方法**
山之内昭夫：「新･技術経営論」、日本経済新聞社。 参考文献：開講時に紹介。	期末試験、出席により評価。

01 年度以降 00 年度以前	会計学原理 a 会計学原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、‘制度としての会計’の解明を目的とする。その目的のため、我が国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。 講義計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学原理 a」では、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していく予定である。 なお、複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させるため、「簿記原理 a，b」を修得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とする。	1 本講義の目的等 2 テキスト第１章 会計と会計理論 3 テキスト第２章 企業会計と関係法規 4 テキスト第３章 企業会計原則 5 テキスト第４章 貸借対照表 6 テキスト第５章 損益計算書 7 テキスト第 6 章 その１：間接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 8 テキスト第 6 章 その２：直接法によるキャッシュ・フロー計算書の作成 9 テキスト第 8 章 有価証券 10 テキスト第 9 章 固定資産 11 テキスト第 10 章 固定資産の減損と時価評価 12 テキスト第 11 章 繰延資産
テキスト、参考文献	**評価方法**
平井克彦・石津寿惠、『損益計算と情報開示』(白桃書房)	評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。

01 年度以降 00 年度以前	会計学原理 b 会計学原理	担当者	内倉　滋

講義目的、講義概要	授業計画
「会計学原理 a」の伝統的な会計学領域に関する知識を前提として、この「会計学原理 b」では、‘連結財務諸表’，‘税効果会計’，‘外貨換算’，‘デリバティブ’といった比較的新しい問題(ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域)を講義の対象としたい。会社法が施行されて２年目をむかえる本年の場合は、それに加えて、会社法の計算規定の解説にも、ウェイトを置きたいと考えている。	1 テキスト第 12 章 負債 2 テキスト第 13 章 引当金 3 テキスト第 14 章 資本 その 1：株主持分額の中身について 4 テキスト第 14 章 資本 その 2：株式報酬, ストック・オプション 5 テキスト第 14 章 資本 その 3：吸収型組織再編行為について 6 テキスト第 14 章 資本 その 4：剰余金の配当 7 テキスト第 14 章 資本 その 5：「純資産の部」の表示, 株主資本等変動計算書 8 テキスト第 17 章 連結会計 その 1：‘基本の基’ 9 テキスト第 17 章 連結会計 その 2：会社法のもとでの 連結精算表, 連結株主資本等変動計算書 の作成 10 テキスト第 18 章 税務会計, テキスト第 19 章 税効果会計 11 テキスト第 20 章 外貨換算会計 12 テキスト第 21 章 デリバティブ会計
テキスト、参考文献	**評価方法**
「会計学原理 a」と同じ。	「会計学原理 a」と同様。

01 年度以降 00 年度以前	財務会計論 a 財務会計論	担当者	高松　正昭

講義目的、講義概要	授業計画
財務会計は会計学研究の基礎である。それは、資本の受託者としての経営者が、受託した資本の運用の結果を、株主・債権者のみならず従業員・税務当局・一般大衆などの外部利害関係者に報告することによって、自らの責任を果たす営為である。この報告責任を会計責任といい、経営者は一般に財務諸表（主として、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）と呼ばれる会計報告書を作成し開示することよって、その責任を果たす。 財務諸表は正確に作成されなければならず、虚偽表示（粉飾）されてはならず、また株主などの外部利害関者によって理解可能ものでなければならない。このため、財務諸表の作成はある種のルールに基づいて行われ、正しく作成されたか否かが公認会計士のような監査人によってチェックされる。このように、財務会計は財務諸表の作成者（経営者）、利用者（外部利害関係者）、検証者（監査人）がかかわる社会的営為であることに注意しなければならない。 この講義は、単に財務会計手続の詳細を述べるばかりでなく、その背後に潜む社会性をも明らかにする。	財務会計の基礎にあるさまざまな観念や概念を理解させることによって、まず財務会計の全体像を的確に把握させ、次いで損益計算書に焦点を当て、利益計算の意義を探る。おおむね次のような順序で講義する。 1．会計の本質 2．会計の諸領域 3．財務会計の特徴 4．財務会計の構造 5．複式簿記の原理 6．複式簿記の手続 7．会計公準と会計原則 8．収益の認識と測定 9．費用の認識と測定(1)―棚卸資産費用 10．費用の認識と測定(2)―固定資産費用 11．費用の認識と測定(3)―繰延費用と引当費用 12．損益計算書の作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井清光著『現代会計学』（第 8 版）中央経済社	定期試験

01 年度以降 00 年度以前	財務会計論 b 財務会計論	担当者	高松　正昭

講義目的、講義概要	授業計画
「財務会計 a 」に引き続いて、財務諸表の特性と意義を検討していく。 最初に、貸借対照表について考察する。資産・負債・資本の本質・評価・分類を中心に解明していくが、その背後に存在する費用・収益アプローチから資産・負債アプローチへの会計思考の変化の意味を考える必要がある。もちろん、新会社法や各種の会計基準の変化を反映した新しい観点もおろそかにできない。 続いて、主要な財務諸表のひとつであるキャッシュ・フロー計算書について検討し、連結財務諸表やその他の財務諸表の作成方法も概観する。 さらに、財務諸表を用いた経営分析にも触れて、利用者が財務諸表から何を読み取るべきかを示唆するとともに、会計の国際的調和の方向性も吟味してみたい。 この講義では、概念的な問題以外に、具体的な会計処理方法にも言及する。	貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表、その他の財務諸表の意味と作成方法を中心に、おおむね次のような順序で講義する。 1．資産会計(1)―本質・評価・分類 2．資産会計(2)―会計処理と報告 3．負債会計(1)―本質・評価・分類 4．負債会計(2)―会計処理と報告 5．資本会計(1)―本質・評価・分類 6．資本会計(2)―会計処理と報告 7．貸借対照表の作成 8．キャッシュ・フロー計算書 9．その他の財務諸表と財務報告 10．連結財務諸表 11．財務諸表分析 12．会計の国際的調和の方向性
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井清光著『現代会計学』（第 8 版）中央経済社	定期試験

01 年度以降 00 年度以前	管理会計論 a 管理会計論	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
黒字製品をたくさん作ったら、利益が減った? 在庫がたまるほど利益が増える? 不良在庫はいくらで処分するか? 原価は変化するって本当ですか?　などなどコストを減らせばいつでも利益が増えるとは限りません。わかっているようでわからない問題や複雑な現実の問題まで、企業は、さまざまな問題にいつも直面しています。このようなコスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動を進めていくためには、キャッシュフローに基づく会計情報を利用しなければなりません。 管理会計論 a では、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準などの短期的利益計画・管理の問題について計算練習をして身に着けていきます。 履修に当たっては、できれば簿記原理を受講しているか、日商 3 級程度の簿記の知識があった方がいいと思います。	1. 管理会計とは。財務会計との違い。 2. 意思決定とキャッシュフロー。木村さんの場合 3. 関連原価・無関連原価を区別しよう(1) 4. 関連原価・無関連原価を区別しよう(2) 5. 貢献利益とは。小金井工業の場合 6. 赤字製品・黒字製品 7. 減価償却費はキャッシュフロー 8. Constraints の話。市場と需要 9. KAIZEN の効果 10. 意思決定の問題タイプ(1)独立案 11. 意思決定の問題タイプ(2)排反案 12. 意思決定の問題タイプ(3)混合案 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『キャッシュフロー管理会計』伊藤・香取著、中央経済社	試験 50 点、課題の提出 50 点

01 年度以降 00 年度以前	管理会計論 b 管理会計論	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
管理会計論 b では､フリーキャッシュフローと企業価値、設備投資計画や事業計画の評価や選択基準など長期の利益計画問題を検討します。Excel を使ってキャッシュフローのシミュレーション・モデルを作ってみましょう。 履修に当たっては、できれば簿記原理を受講しているか、日商 3 級程度の簿記の知識があった方がいいと思います。Excel がうまくできない人でも、大丈夫です。	1. 管理会計の最近のトピックス 2. キャッシュフローと資金の時間価値(1) 3. キャッシュフローと資金の時間価値(2) 4. キャッシュフローと企業価値 5. 連結キャッシュフロー計算書 6. キャッシュフロー計算書の作成(1) 7. キャッシュフロー計算書の作成(2) 8. 投資の経済性:FCF の最大化 9. Excel による実習 1 10. Excel による実習 2 11. 投資案の評価基準 12. 投資の業績評価 EVA 13. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『キャッシュフロー管理会計』伊藤・香取著、中央経済社	試験 50 点、課題の提出 50 点

01 年度以降 00 年度以前	社会会計論 a 社会会計論	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
大企業、公営企業で普及している環境経営、環境会計を社会会計の視点から講義します。 環境経営、環境会計は、21 世紀の企業経営において必要不可欠のものです。環境経営と環境会計の内容を出来るだけわかりやすく、講義していきます。 皆さんも、新聞や雑誌で取り上げている環境問題に関する記事を出来るだけ読むように心がけてください。 **「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。**	1　オリエンテーション 社会会計、環境会計、環境会計の学び方、 研究対象 2　環境経営、環境会計の研究方法と関連領域 3　人類の歴史と環境問題 4　地球環境問題ならびに国際的取組み 5　国連の環境への取り組み① 6　国連の環境への取り組み② 7　循環型経済社会構築と諸課題 8　持続可能性と企業活動の 3 つの領域 9　環境会計の体系 3 つのアプローチ 10　環境会計アプローチの事例 11　環境会計アプローチに対する批判的考察 12　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫『講義ノート』 参考文献はその都度指示します。	期末試験により評価します。

01 年度以降 00 年度以前	社会会計論 b 社会会計論	担当者	湯田　雅夫

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、環境経営、環境会計の具体的内容を講義します。 物量計算としての環境負荷計算と貨幣計算としての環境原価計算、そしてその組み合わせから環境効率を明らかにすることが出来ます。地球の環境容量との関連で、この環境効率を高めることは、大変重要です。 皆さん一人一人は、この講義で得た知識と技術を、是非、社会で実践してください。 **「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。**	1　秋学期オリエンテーション 2　環境負荷計算 物量計算 3　環境原価計算 貨幣計算 4　環境原価と環境負荷を統合する環境経営 5　国際標準 ISO と EMAS の内容と課題 6　環境監査 内部監査と外部監査 環境審査員の役割 7　環境効率 環境効率革命に向けて 8　環境効率 企業の事例 9　環境報告書の基本構造ならびに入手方法 10　環境報告書の評価方法 11　秋学期のまとめ 12　授業のまとめと講評
テキスト、参考文献	**評価方法**
湯田雅夫『講義ノート』 参考文献はその都度指示します。	期末試験により評価します。

01 年度以降 00 年度以前	原価計算論 a 原価計算論	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という２つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この２つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。 講義概要 　「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。	1. 原価計算総説 2. 原価とは何か 3. 原価計算の基礎手続き 4. 原価の費目別計算（１） 5. 原価の費目別計算（２） 6. 原価の費目別計算（３） 7. 原価の部門別計算（１） 8. 原価の部門別計算（２） 9. 原価の部門別計算（３） 10. 個別原価計算（１） 11. 個別原価計算（２） 12. 個別原価計算（３）
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示します。	出席 10%，定期試験の結果 90%で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	原価計算論 b 原価計算論	担当者	齋藤　正章

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的 　原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という２つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この２つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。 講義概要 　「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。	1. 総合原価計算（１） 2. 総合原価計算（２） 3. 総合原価計算（３） 4. 総合原価計算（４） 5. 総合原価計算（５） 6. 総合原価計算（６） 7. 総合原価計算（７） 8. 標準原価計算（１） 9. 標準原価計算（２） 10. 直接原価計算（１） 11. 直接原価計算（２） 12. 原価計算の新展開
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示します。	出席 10%，定期試験の結果 90%で評価します。

01 年度以降 00 年度以前	会計監査論 a 会計監査論	担当者	赤岩　茂

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） わが国経済も 20 世紀末のバブル経済崩壊を受け、会計制度の変革（会計ビッグバン）が推進された。また、それと合わせて監査制度の変革もすすめられ、新たな制度で実務が推進されるようになった。 公認会計士・監査法人による財務諸表監査制度は、財務諸表の適正表示についての意見を表明することを通じて投資家保護を目的としているが、それを通じて証券市場の信頼性の確立という重大な目的を有している。 本講義では、理論的な背景を説明するが、実際の監査実務の事例をもとに、監査基準及び監査手続の理解を深めることを目的とする。 （講義概要） 本講義は、基本的にはテキストを使用する。このため、予習を確実に行うことが望まれる。	1　財務諸表監査の意義と目的 2　監査基準 3　財務諸表監査の生成と発展 4　日本における監査制度の発展 5　監査の目的と二重責任 6　監査人の適格性 7　監査の実施～リスク・アプローチ 8　監査の実施～監査計画と内部統制 9　監査の実施～監査手続と監査調書 10　監査の実施～監査判断と監査証拠 11　監査の実施～監査判断と合理的保証概念 12　監査の実施～実務上の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：八田進二編著『新訂版　監査論を学ぶ』同文舘 但し、改訂される場合があるので注意されたい。	出席（３０点）と試験（７０点）による。

01 年度以降 00 年度以前	会計監査論 b 会計監査論	担当者	赤岩　茂

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的） わが国経済も 20 世紀末のバブル経済崩壊を受け、会計制度の変革（会計ビッグバン）が推進された。また、それと合わせて監査制度の変革もすすめられ、新たな制度で実務が推進されるようになった。 公認会計士・監査法人による財務諸表監査制度は、財務諸表の適正表示についての意見を表明することを通じて投資家保護を目的としているが、それを通じて証券市場の信頼性の確立という重大な目的を有している。 本講義では、春学期に習得した知識をもとに監査報告の内容を理解する。また、現在では、企業だけでなく、被監査組織体や監査対象も拡大している。そこで、非営利法人等の監査等関連問題も幅広く紹介することとする。 （講義概要） 本講義は、基本的にはテキストを使用する。ただし７回目以降は別途参考文献を指定する場合がある。春学期に引き続き予習を確実に行うことが望まれる。	1　監査報告～監査報告書の内容 2　監査報告～監査意見 3　監査関連問題～中間監査 4　監査関連問題～連結財務諸表監査 5　監査関連問題～内部監査と監査役監査 6　監査関連問題～システム監査 7　監査関連問題～監査委員監査と外部監査人監査 8　監査関連問題～非営利法人等に対する監査 9　監査関連問題～会社法と会計参与 10　監査関連問題～監査の国際的動向 11　監査関連問題～監査及び監査周辺の職業 12　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：八田進二編著『新訂版　監査論を学ぶ』同文舘 但し、改訂される場合があるので注意されたい。	出席（３０点）と試験（７０点）による。

01年度以降 00年度以前	税務会計論ａ 税務会計論	担当者	平　仁

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は公認会計士試験の租税法の試験範囲を対象とする。 「税務会計論ａ」においては、租税法の総則・手続、および法人税法以外の税法を講義する。 税務会計論は経理実務に近い学問領域のため、実務的なテーマが中心となるが、本講座では、できる限り理論的側面に焦点を当てていきたい。また、裁判例や新聞等から題材を取り上げることもある。 なお、本講座を受講される方は、会計学の基本である「簿記原理ａ、ｂ」を受講済みであることを希望する。また、公認会計士や税理士、国税専門官等を目指して学習される方の積極的な受講、及び積極的な質問を期待する。	１．イントロダクション、租税法序説 ２．租税法律主義 ３．租税公平主義・自主財政主義 ４．租税法の解釈総論・租税法の適用 ５．租税回避 ６．課税要件総論 ７．所得税法 ８．消費税法その他 ９．相続税法 １０．確定手続 １１．徴収手続 １２．租税争訟法・租税処罰法
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤正勝著 租税法 同文館出版 平成１７年	試験（テキストの練習問題より２問出題、持込不可）。出席点１回２点加算。レポート有（最大３０点加算）。

01年度以降 00年度以前	税務会計論ｂ 税務会計論	担当者	平　仁

講義目的、講義概要	授業計画
「税務会計論ｂ」においては、法人税法について講義する。「税務会計論ａ」とあわせて受講することを希望する。 経理実務においては、会計理論を差し置いて税法の規定が優先される逆基準性が当たり前のように行われています。強行法である税法が何ゆえに会計理論を越えて優先されるのかを、この講義を通じて理解してもらいたい。	１．イントロダクション、租税法の学び方 ２．法人税の課税要件 ３．法人税の枠組み ４．益金の額の計算（１） ５．益金の額の計算（２） ６．棚卸資産・減価償却費他 ７．役員報酬 ８．寄附金・交際費等 ９．租税公課、圧縮記帳他 １０．有価証券 １１．繰越欠損金・税額の計算・申告
テキスト、参考文献	**評価方法**
白須信弘著 ＣＰＡ「租税法」入門 中央経済社 平成18年	最終講義時に４問発表し、内２問出題（持込不可）。出席点１回２点加算。レポート有（最大３０点加算）。

01 年度以降 00 年度以前	経営分析論 a 経営分析論	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
経営分析は、財務諸表分析として発展してきた。そして、このためには、統一した財務諸表の作成方法を促進させてきた。財務諸表の分析の始まりは、金融機関が貸付金の返済能力を診断したところにある。その後、証券市場では、収益性の分析を発展させてきた。現在では、特定の実体（例えば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展している。歴史的発展過程をふまえる形で、経済環境と分析技法の二面により考察し、全体像の理解を深めることにする。	1　経営分析の現代における意義 2　米国の経済環境における手形市場の形成過程 3　手形市場、特に手形の割引に際しての銀行から見た信用分析の形成過程。 4　信用分析の側面から見た財務諸表 特に貸借対照表を中心に 5　信用分析における 2 対 1 の原則から体系的な分析への過程 6　信用分析のケーススタディ ウォール、ブリス 7　信用分析のケーススタディ ギルマン、ウォール、シュマルツ 8　収益性の分析および、その他の分析への発展 9　経営分析の意義とその限界 10　経営分析の主体とその目的 11　経営分析の種類
テキスト、参考文献	**評価方法**
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店	テスト

01 年度以降 00 年度以前	経営分析論 b 経営分析論	担当者	百瀬　房徳

講義目的、講義概要	授業計画
代表的企業の有価証券報告書総覧に記載されている財務諸表を資料として、体系的な分析をする。特に、安全性、収益性、生産性について、解説しながら分析数値を算出する。そして、この分析数値が何を意味するかを考察する。この分析をテーマごとにレポートを完成させ、提出してもらう。	1　安全性の分析(1)　比率分析 （レポート提出） 2　安全性の分析(2)　資金移動表の解説 3　安全性の分析(3)　資金移動表の作成 （レポート提出） 4　収益性の分析(1)　各種資本利益率 5　収益性の分析(2)　売上高利益率と資本回転率 （レポート提出） 6　収益性の分析(3)　利益増減の原因分析 （レポート提出） 7　生産性の分析(1)　付加価値の意義 8　生産性の分析(2)　付加価値の計算と数値の意味 9　生産性の分析(3)　付加価値表の作成 （レポート提出） 10　損益分岐点分析(1)　損益分岐点と意義 11　損益分岐点分析(2)　損益分岐点の計算と数値の意味 12　損益分岐点分析(3)　損益分岐点の計算 （レポポート提出）
テキスト、参考文献	**評価方法**
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店	前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店

01 年度以降 00 年度以前	上級簿記（商業）a 上級簿記（商業）	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目標 「簿記原理」履修者あるいは「日商簿記検定」３級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得すること。また、近年続々と公表されている新会計基準の内容について理解を深めることを目標とする。 講義概要 春学期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○銀行勘定調整表の作成 ○手形取引の記帳 ○特殊商品売買取引に関する記帳 ○株式会社会計	1.1.銀行勘定調整表の作成 2.2.手形取引の記帳(1) a)手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 3.　手形取引の記帳(2) a)手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 b)荷為替手形 4.3.特殊商品売買取引(1) a)未着品売買、b)委託販売、c)受託販売 5.　特殊商品売買取引(2) a)未着品売買、b)委託販売、c)受託販売 6.　特殊商品売買取引(3)　d)割賦販売 7.　特殊商品売買取引(4)　d)割賦販売 8.4.株式会社会計(1) a)株式会社の資本金、b)資本剰余金、c)利益剰余金 9.　株式会社会計(2)　d)剰余金の配当など 10. 株式会社会計(3)　e)社債の発行、利払、償還 11. 株式会社会計(4)　f)繰延資産、g)引当金、h)法人税等 12. 株式会社会計(5)　i)会社の合併
テキスト、参考文献	**評価方法**
新井清光、渡辺裕亘（共著）「検定簿記講義　２級　商業簿記」（中央経済社）	期末試験の結果による。

01 年度以降 00 年度以前	上級簿記（商業）b 上級簿記（商業）	担当者	細田　哲

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○本支店会計 ○帳簿組織 ○連結会計 ○リース会計 ○金融商品の会計 ○退職給付会計	1.5.本支店会計(1) a)本店集中会計制度と支店独立会計制度、 b)支店分散会計制度と本店集中計算制度 2.　本支店会計(2) c)未達事項の整理、d)内部利益の控除と合併財務諸表 3.　本支店会計(3) c)未達事項の整理、d)内部利益の控除と合併財務諸表 4.6.帳簿組織(1)　a)普通仕訳帳と特殊仕訳帳 5.　帳簿組織(2)　b)伝票式会計 6.7.連結会計(1) a)連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結決算日等 7.　連結会計(2)　b)連結貸借対照表の作成 8.　連結会計(3)　c)連結損益計算書の作成 9.8.リース会計(1) 10. リース会計(2) 11.9.金融商品の会計 12.10.退職給付会計
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	期末試験の結果による。

01年度以降 00年度以前	上級簿記（工業）a 上級簿記（工業）	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
上級簿記論(工業)は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間をかけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことです。原価計算や管理会計の基礎として重要な技術ですので、ぜひ理解習得してほしいと思います。 簿記はけっして難しいものではありませんが、技術ですから、これを身につけるためには練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題を解説し、講義に合わせてワークブックや配布するプリントを練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきます。また、プリントに質問や意見を書いてください。 （皆さんの進度に応じて変更あります）	1. テーマ1　工業簿記の基礎 2. テーマ2　工業簿記の勘定連結 3. テーマ3　材料費(Ⅰ) 4. テーマ4　材料費(Ⅱ) 5. 同上 6. テーマ5　労務費(Ⅰ) 7. テーマ6　労務費(Ⅱ) 8. テーマ7　経費(Ⅰ) 9. テーマ8　経費(Ⅱ) 10. テーマ9　個別原価計算(Ⅰ) 11. テーマ10　個別原価計算(Ⅱ) 12. テーマ11　部門別個別原価計算(Ⅰ) 13. テーマ11　部門別個別原価計算(Ⅱ)
テキスト、参考文献	評価方法
TAC出版『合格テキスト日商簿記2級工業簿記』 『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記』	試験100点、プリントとプリント、ワークブック10点

01年度以降 00年度以前	上級簿記（工業）b 上級簿記（工業）	担当者	香取　徹

講義目的、講義概要	授業計画
上級簿記論(工業)は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間をかけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことです。原価計算や管理会計の基礎として重要な技術ですので、ぜひ理解習得してほしいと思います。 簿記はけっして難しいものではありませんが、技術ですから、これを身につけるためには練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題を解説し、講義に合わせてワークブックや配布するプリントを練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきます。また、プリントに質問や意見を書いてください。 この上級簿記(工業)b は、上級簿記(工業)a で残された個別原価計算以降を練習します。（皆さんの進度に応じて変更あります）	1. 総合原価計算(Ⅰ) 2. 総合原価計算(Ⅱ) 3. 総合原価計算(Ⅲ) 4. 総合原価計算(Ⅳ) 5. 総合原価計算(Ⅴ) 6. 財務諸表 7. 本社工場会計 8. 標準原価計算(Ⅰ) 9. 標準原価計算(Ⅱ) 10. 標準原価計算(Ⅲ) 11. 標準原価計算(Ⅳ) 12. 直接原価計算(Ⅰ) 13. 直接原価計算(Ⅱ)
テキスト、参考文献	評価方法
TAC出版『合格テキスト日商簿記2級工業簿記』 『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記』	試験100点、プリントとプリント、ワークブック10点

01 年度以降	国際会計論 a	担当者	小林　公司

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義目的 　わが国及び世界の企業は、多国において事業活動を行い、まさに、多国籍企業としてグローバルな企業活動を展開している。近年、国際会計基準（IAS／ IFRS）への関心が急速に高まっている。近年、わが国の会計基準も、国際会計基準や米国会計基準など国際的な会計基準を基礎にして改訂／作成されている。 海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に EU(欧州連合)諸国は、IFRS 導入に熱心であり、２００５年度より EU 域内の公開企業は、原則として IFRS に準拠した連結財務諸表の作成が義務付けられた。国際会計基準委員会（IASB）は、会計基準の世界統一化（Convergence）を目指して活動している。アメリカの FASB（財務会計基準委員会）も IASB と会計基準の調和化・統一化の話し合いに入っている。このような動きに対応して、日本の会計基準も IAS／IFRS との同等性の義務ずけの時期が２００９年度となった。この講義では国際会計基準（IAS／IFRS）を理解することにある。 ２．講義の概要 　国際会計基準の主要なテーマについて、解説すると共に日本の会計基準、米国の会計基準との比較考察をする。	１．国際会計基準の概要―国際会計基準委員会の組織、基準設定手続き、IAS／IFRS の歴史、IOSCO 承認など ２．財務諸表の体系、IAS のフレームワークーIAS の財務諸表の範囲、作成・開示・表示に関する基本概念、IAS／IFRS のフレームワークなどの理解 ３．キャッシュ・フロー計算書―基準の内容の理解、経営者・株主にとっての重要性の理解など ４．連結財務諸表―基準の内容の理解 ５．関係会社／投資の会計基準―基準の内容の理解 ６．ジョイント・ベンチャー等の会計基準―ジョイント・ベンチャー／特別目的会社に関する会計基準の解説 ７．法人所得税の会計処理―税効果会計に関する会計基準の解説／日本・米国の会計基準との違いなどの理解 ８．金融商品／時価会計／外貨会計(1) –金融商品会計／時価会計／外貨会計基準の内容の理解 ９．金融商品／時価会計／外貨会計（２）－第８回の続き １０．収益認識基準／工事収益認識基準―基準の理解 １１．関連当事者取引の皆生基準―基準の理解 １２．IAS／IFRS 最近の動きー最新情報の理解
テキスト、参考文献	**評価方法**
「国際財務報告基準ハンドブック」中央青山監査法人編 中央経済社 講義時レジメを用意する予定。	本講座は、「国際会計論 a」と「国際会計論 b」から構成されており、「国際会計論 a」は,本講座の前半部分である。 評価方法は、授業への出席率と成績で総合評価する。

01 年度以降	国際会計論 b	担当者	小林　公司

講義目的、講義概要	授業計画
１．講義目的 　わが国及び世界の企業は、多国において事業活動を行い、まさに、多国籍企業としてグローバルな企業活動を展開している。近年、国際会計基準（IAS／IFRS）への関心が急速に高まっている。近年、わが国の会計基準も、国際会計基準や米国会計基準など国際的な会計基準を基礎にして改訂／作成されている。 また、海外においては、会計ルールの統一化を図ろうとする動きが活発である。特に EU（欧州連合）諸国は、IFRS 導入に熱心であり、２００５年度より EU 域内の公開企業は、原則として IFRS に準拠した連結財務諸表の作成が義務付けられた。国際会計基準委員会（IASB）は、会計基準の世界統一化（Convergence）を目指して活動している。アメリカの FASB（財務会計基準委員会）も IASB と会計基準の調和化・統一化の作業に入っている。このような動きの中で、日本の会計基準も IAS／IFRS との同等性の義務付けの時期が２００９年度となっている。このこうぎでは、国際会計基準（IAS／IFRS）を理解することにある。 ２．講義の概要 　国際会計基準の主要なテーマについて、解説すると共に日本の会計基準、米国の会計基準との比較考察をする。	１．棚卸資産会計基準―基準の内容の理解 ２．有形固定資産／借入費用／減損会計（１）－有形固定資産会計、借入費用会計、減損会計についての基準の内容の理解 ３．有形固定資産／借入費用／減損会計（２）－第２回の講義の続き ４．リース会計（１）―リース取引に係る基準の内容の理解及び会計処理などの理解 ５．リース会計（２）－第４回の講義の続き ６．退職給付／年金／ストック・オプション会計（１）－基準の内容の理解、日本の会計・米国の会計との違いの理解 ７．退職給付／年金／ストック・オプション会計（２）－第６回の講義の続き ８．企業結合会計－基準の内容の理解 ９．一株当たり利益－基準の内容の理解 １０．セグメント情報－基準の内容の理解 １１．財務諸表の表示・開示・その他 １２．財務諸表の国際比較
テキスト、参考文献	**評価方法**
「国際財務報告基準ハンドブック」中央青山監査法人編 中央経済社 講義時にレジメを用意する予定	本講座は、「国際会計論 a」と「国際会計論 b」から構成されており、「国際会計論 b」は本講座の後半部分である。 評価方法は、授業への出席率と成績により総合評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営数学 a 経営数学	担当者	本田　勝

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は「経営数学」という名前になってはいるが、経済学や経営学とその周辺の学問を学ぶにあたって必要な数学の基本的な部分を習得することを目的とする。 回帰分析の手法や目的関数の最適化などを行うには微分や行列の概念が必要であるし、産業構造の把握に欠かせない産業連関分析にも行列論の概念が使われる。また広い意味の情報科学の中では、コンピュータでの情報の表現の概念も必要である。 講義ではテキストは使用しないが、プリントを配布することもある。参考書については講義の際に紹介する。 また理解を深めてもらうために、受講者自身の演習を取り入れたり、コンピュータによる考え方の提示も取り入れたい。	1　講義を始めるにあたって 2　集合とその演算 3　２進数などの数の体系 4　コンピュータでの数の表現 5　ベクトルとベクトルの演算 6　行列の定義と演算 7　行列の基本変形について 8　連立方程式を解く 9　行列式の定義と演算 10　行列式を用いて連立方程式を解く 11　固有値と固有ベクトル 12　まとめと演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書を講義時に紹介	演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	経営数学 b 経営数学	担当者	本田　勝

講義目的、講義概要	授業計画
経営数学 a と同じ	1　行列の応用 1 2　行列の応用 2 3　産業連関表 4　産業連関の分析例 5　関数、数列の極限 6　微分の意味 7　微分の計算 8　微分の応用（極大極小） 9　関数の最適化と偏微分 10　差分と差分方程式 11　微分方程式とその応用 12　まとめと演習
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書を講義時に紹介	演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	応用統計学 a 応用統計学	担当者	本田　勝

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では「統計学」で学んだ１変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。 多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でも EXCEL、R 言語およびＳＡＳなどのプログラムパッケージを使用する。 したがって、受講者は**統計学の既習者**に限るし、**コンピュータの操作はもちろんのこと EXCEL についても熟達している**必要があるので、受講の際は注意すること。**安易な気持ちで履修しないで欲しい。**	1　多変量解析とは何か。データの入力。 2　グラフおよび散布図 3　度数分布表の作成。 4　行列および行列式の扱い方。 5　行列および行列式についての復習をする。 6　回帰分析をおこなう。 7　回帰係数の評価方法。 8　実例データを各自用意し、演習を行う。 9　重回帰分析を行なう。 10　分析結果の回帰係数の検討。 11　回帰分析演習(結果の解釈) 12　実例データを各自用意し、演習を行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定　講義時に指示	定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	応用統計学 b 応用統計学	担当者	本田　勝

講義目的、講義概要	授業計画
応用統計学 a と同じ	1 主成分分析とは。 2　多変量データの主成分分析の考え方。 3　実例データを用いた例題と主成分の解釈。 4　実例データを各自用意し、演習を行う。 5　主成分分析結果の解釈および検討。 6　判別分析とは。 7　多変量データの判別分析の考え方。 8　実例データによる多変量判別分析の演習。 9　実例データを各自用意し、演習を行なう。 10　時系列データの分析-1。 11　時系列データの分析-2。 12　系列データを各自用意し、演習を行なう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
未定　講義時に指示	定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価

01 年度以降 00 年度以前	標本調査論 a 標本調査論	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
新聞、ＴＶなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われているが、調査の実態は何であろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査の問題点を整理してみる。 （注） ・数値計算用の数式はかなり多く、演習も面倒な内容のものが多い。それらを厭わない学生の受講を望む。 ・受講希望者は必ず第１回の講義から出席のこと。 ・できるだけ現実性を高めるため、理論内容を演習で補完している。そのため、出席と演習への貢献を大きく評価する。受講を考える学生はその点に十分留意していただきたい。	１．標本調査とは何か、その意味や方法、問題点など。講義の進め方―方針と受講生への要請。 ２．良いサンプルとは何か、そのための歴史的な試み。 ３．母集団と標本の枠組み。無作為抽出法の意味。 ４．単純無作為抽出法と標本のつくり方。乱数。 ５．推定量と標本分布。推定量の性質。 ６．母平均と母集団総計の推定量。誤差の評価。 ７．標準誤差、推定量の精度、推定量の相互比較。 ８．標本の大きさを決める際の考え方。 ９．層化無作為抽出法。構造模型。抽出の方法。 10．同上。比例配分と最適配分。誤差評価と比較。 11．層化抽出法における層の作り方、層の数。 12．層化抽出法で、調査項目が複数個の場合の取り扱い。サンプルの大きさの決定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。インターネット上にもテキスト、資料をのせている。松井敬『標本調査論』、内田老鶴圃。	講義中の演習と出席。期末のレポート。

01 年度以降 00 年度以前	標本調査論 b 標本調査論	担当者	松井　敬

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、「標本調査論 a」で述べたことと同じである。本講義でも、現在実際に行われている幾つかの抽出法を取り上げ、その方法や特徴を説明する。 基本的な概念や用語などの説明はすでに「標本調査論 a」で済んでいるので、「標本調査論ｂ」のみの受講は「a」の基本的な内容について十分に理解しておく必要がある。そのためにはインターネット上にテキストや用語集、Q&A を含めた諸情報が展開されているので、それらを参考にされたい。 なお、右の授業計画に加え、視聴率、RDD、インターネット調査などのトピックを挿入している。 受講希望者は必ず第１回の講義から出席のこと。また、演習も多く、出席と演習への貢献を大きく評価するので受講を考える学生はその点に十分留意すること。	１．系統抽出法。意味と方法。推定量とその分散。 ２．系統抽出法が有効な事例など。他の抽出法との関連。 ３．比推定の考え方と推定量。抽出法の実際。 ４．回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。 ５．抽出確率が一定でない抽出法。究極の抽出法は？ ６．１段クラスターサンプリング。等確率抽出の場合。 ７．同上．確率比例抽出の場合。 ８．２段クラスターサンプリング。考え方、構造模型。 ９．同上、１段目が等確率抽出の場合。 10．同上、１段目が確率比例抽出の場合。 11．抽出法再考―様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。実際の標本調査における問題。 12．標本調査関連のＱ＆Ａ。まとめ。課題。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布。インターネット上にもテキスト、資料をのせている。松井敬『標本調査論』、内田老鶴圃。	講義中の演習と出席。期末のレポート。

01 年度以降 00 年度以前	データベース論 a データベース論	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
はじめに、データベースの歴史を概観し、データベースの仕組みを学習する。 その後、現在使用されている関係データベースのもっとも単純な例として、表計算ソフト(MS-Excel)のデータベース機能を利用し、実習しながらデータベースおよびその検索の基礎を学ぶ。 実際のデータとして国勢調査の結果の人口情報と、百人一首を利用し、それらの取り扱いを通じて数値中心のデータベースと文字列中心のデータベースの扱いの基礎を学ぶ。	1 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(1)：ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ概観、歴史 2 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(2)：ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽﾓﾃﾞﾙ 3 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(3)： ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの三層ｽｷｰﾏ 4 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽとは(4) ：ﾃﾞﾞｰﾀﾍﾞｰｽ管理ｼｽﾃﾑ 5 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(1)：ﾃﾞｰﾀの準備、ﾚｺｰﾄﾞ、項目、ﾌｨｰﾙﾄﾞ 6 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(2)：ﾚｺｰﾄﾞの分類と集計 7 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(3)：ﾚｺｰﾄﾞの抽出 8 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(4)：条件検索(1) 文字列ﾃﾞｰﾀの条件設定 9 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(5)：条件検索(2) 数値ﾃﾞｰﾀの条件設定 10 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(6)：条件検索演習 11 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(7)：ｸﾛｽ集計 2 項目の集計 3 項目の集計 12 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(8)：問題とまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：前田、松山、和高、高柳、石田共『Windows による情報活用』共立出版、2002　参考書：鈴木健司『データベースがわかる本』ｵｰﾑ社、1998	定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	データベース論 b データベース論	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
現在最も普及している関係データベースに焦点をあて、データベースの理論と実践を学習する。 理論としては、関係データベースの特徴からはじめ、順に、関係代数やデータ構造、問い合わせ言語 SQL について学習する。 実践としては､MS-Access を使用し､「データベース論 a」で MS-Excel 上に作成したデータを用い、データベース作成や問い合わせなどの実際の操作を学ぶ。 なお、この講義は「データベース論 a」の既習が前提となる。	1 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1)：関係ﾓﾃﾞﾙとSQL、ﾀﾌﾟﾙ、ｱﾄﾘﾋﾞｭｰﾄ 2 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2)：ｷｰ、関数従属、正規形と正規化 3 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(3)：候補ｷｰ、主ｷｰ、外部ｷｰ、参照整合性 4 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(1)：Excel 上の表の正規化と Access へのｲﾝﾎﾟｰﾄ 5 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(2)：関係の確認、主ｷｰの設定、関係間の関連付 6 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(3)：ｸｴﾘｰの表現 QBE による検索 7 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(4)：関係代数の演算 8 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(5)：関係代数の演算とSQL 9 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(6)：SQL の構文と演算子 10 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(4)：QBE とSQL 11 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(5)：SQL による検索 12 関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの実際(6)：SQL のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ定義、更新処理、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windows による情報活用』共立出版、2002　参考書：芝野耕司『SQL がわかる本』ｵｰﾑ社、1998	定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータシミュレーション論 a コンピュータシミュレーション論	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した Excel をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した Visual Basic などのプログラミング言語も利用する。 さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。 また、パソコンのより高度な利用法について学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。 必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。	1　必要な基礎知識・評価・受講上の注意など 2　シミュレーションを必要とする経営科学と利用例 3　時系列データと経済変動 4　時系列分析と需要予測とシミュレーション 5　在庫の種類と費用 6　在庫管理とＡＢＣ分析 7　在庫管理シミュレーション 8　日程管理とＰＥＲＴ 9　日程管理シミュレーション １０　待ち行列問題 １１　待ち行列シミュレーション １２　経営科学とシミュレーションのまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義については、プリントを配布する。	数回のレポート、各自の作成したデータ処理の内容、出席状況などを考慮して総合評価する。

01 年度以降 00 年度以前	コンピュータシミュレーション論 b コンピュータシミュレーション論	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した Excel をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した Visual Basic などのプログラミング言語も利用する。 さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。 また、パソコンのより高度な利用法について学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。 必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること	1　必要な基礎知識・評価・受講上の注意など 2　一様乱数列とその発生法・検定 3　その他の乱数とモンテカルロシミュレーション 4　経営シミュレーション概説 5　シミュレーションモデルの作成手順 6　各経営部門などの要因関連構造 7　価格戦略シミュレーション 8　生産戦略シミュレーション 9　販売戦略シミュレーション １０　シミュレーションゲームと競争力決定構造 １１　部門管理ゲームの例 １２　コンピュータシミュレーションのまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義については、プリントを配布する。	各自の作成したシミュレーションゲームの内容・レポートなどを考慮して総合評価する。

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 a マルチメディア論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、マルチメディア作成のソフトウェアを利用して図形・画像処理、静止画、アニメーションに関する講義と実習を行う。ここでは、マルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、画像編集などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word や Power Point で利用し、プレゼンテーションを行う。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて講義し、画像取り込みや合成方法について実習する。また、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、最終リポートとしてマルチメディア作品を制作する。	1　マルチメディアの基礎：講義 2　情報のデジタル表現：講義 3　静止画像の作成：講義と実習 4　画像ソフトとファイル形式：講義 5　静止画の作成：講義と実習 6　スキャナーの利用：講義と実習 7　デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習 8　マルチメディアの処理：実習 9　アニメーション作成：講義と実習 10　プレゼンテーションツールの利用（1）：実習 11　プレゼンテーションツールの利用（2）：実習 音声、アニメーションの処理 12　マルチメディア作品作成：実習 マルチメディア作品を作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版	出席 20%、試験 40%、リポート 40%

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 b マルチメディア論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいくつかのソフトウェアを用いて実習を行なう。また、先輩たちの作成したマルチメディア作品を紹介する。ここでは、音声の取り込みおよび編集について講義と実習を行なう。またアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて、アニメーション作成および音声入力を行なう。３D に関しては、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデリングを行い、レンダリングを行なって作品を作成する。また、ビデオの取り込みのために必要なハードウェアとソフトウェアと、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法について講義とデモンストレーションを行い、ビデオクリップを用いて動画編集を行なう。最後リポートとして、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。	1　インターネットとマルチメディア：講義 2　音声取り込みと処理：実習 3　音楽作成と編集：講義と実習 4　音楽作成と編集：講義と実習 5　ホームページ作成（1）：講義と実習 6　ホームページ作成（2）：講義と実習 7　ホームページ作成（3）：講義と実習 8　アニメーション作成：講義と実習 9　アニメーション作成：講義と実習 10　３Ｄ画像作成：講義と実習 11　ビデオ画像編集：講義と実習 ビデオ画像の合成と文字挿入 12　マルチメディア作品作成：実習 インターネット上に作品発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版	席 20%、試験 40%、リポート 40%

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 a マルチメディア論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：現在，インターネット上で利用されているマルチメディア表現及び，その技術を知り，それらの構造を理解する。そのために、デジタルカメラ，スキャナ，ビデオカメラ等のマルチメディア機器を利用する。また，PhotoShop，PowerPoint，VideoStudio等いくつかのソフトウェアを通して，図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。さらに、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディア技術がどのように利用されているか，最新の図形・画像処理・静止画・動画・音声の表現を紹介し，マルチメディアの動向を探る。 　それらを通して，マルチメディアの利用と技術を習得し，マルチメディアとは何かを考えるものである。 **講義概要：**前期は，マルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROM などで実例を挙げながら実習する。また，PhotoShop等，図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトレタッチなどの機能を学ぶ。さらに，サウンド編集や，アニメーション作成を通して，音声及び，動画に関する構造や技術を理解する。これらで作成したファイルを、Word やPowerPoint を用いてまとめる。また、静止画画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーションを通して実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。	1. マルチメディアの基礎:年間予定、授業方法についての説明。 マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて 2. 情報のデジタル表現: アナログとデジタル、デジタル化のメリット、2進文字の表現 3. 静止画:ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式 4. 画像ソフトとファイル形式:マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト解説。解像度、画像圧縮について解説。 5. 静止画の作成:大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。 6. スキャナー取り込みと画像処理:スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケールの解説。スキャナーからの画像を取り込み、加工。 7. デジカメ取り込みと画像処理: デジカメによる画像取り込みと処理、画像の合成、効果の処理 8. ワープロによる画像処理: ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。 9. アニメーション作成（1）:静止画像とアニメーション、GIF アニメーション、ソフトウェアの解説と実習 10. アニメーションの作成（2）:バナー作成、写真の効果、トランジション 11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う:プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。 12. マルチメディア作品作成:マルチメディア作品を作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。	後期:定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。

01 年度以降 00 年度以前	マルチメディア論 b マルチメディア論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：現在，インターネット上で利用されているマルチメディア表現及び，その技術を知り，それらの構造を理解する。そのために、デジタルカメラ，スキャナ，ビデオカメラ等のマルチメディア機器を利用する。また，PhotoShop，PowerPoint，VideoStudio等いくつかのソフトウェアを通して，図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。さらに、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディア技術がどのように利用されているか，最新の図形・画像処理・静止画・動画・音声の表現を紹介し，マルチメディアの動向を探る。 　それらを通して，マルチメディアの利用と技術を習得し，マルチメディアとは何かを考えるものである。 **講義概要：**後期は，インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するために、いくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。 　具体的には、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに、ワイヤフレームモデル及びサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても，講義とデモンストレーションを行う。これらの技術を総合させ，受講生が独自の作品を制作し、インターネット上に発表する。	1. インターネットとマルチメディア: インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。 2. 音声取り込みと処理:オーディオファイル作成、ワープロで音声出力 3. 音楽作成と編集:音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類。 4. オーサリングソフトウェア(1) :プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。 5. オーサリングソフトウェア(2) :大学にあるオーサリングソフトウェアを使って、簡単なマルチメディア作品を作成する。 6. ネットワーク:ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出来ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。 7. 3D の概要:3D ソフトウェアの解説。インターネット上で3Dを用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いたWeb ページの紹介。 8. 3D ソフトウェアの利用: 3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。 9. 動画取り込みと編集: ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。 10. 動画処理:動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成 11. 作品作成:静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。 12. 作品発表:受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。	後期:定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にリポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。

01 年度以降 00 年度以前	情報検索論 a 情報検索論	担当者	小畑　信夫

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的・概要 　情報化社会といわれる今日、資源である情報を効果的に活用することが不可欠である。コンピュータを使った情報探索は、オフライン（CD-ROM に搭載された情報源）、オンライン（例えばインターネットを利用するデータベース検索やウェブ情報）ともに日常的な情報入手手段となっている。しかし、データベースは誰でも検索できるとはいうものの、情報検索のための基礎的知識に裏付けられた能力を持たなければ、満足な検索は行えない。 　本講義では、データベース検索の演習を通して、実践的な能力の養成を図ることを目的とする。 　本講義では情報検索理論と検索戦略のたて方を学び、実際に検索演習をおこなう。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　情報検索、一次資料、情報の管理と二次資料 第 3 回　検索の概念（絞り込みと複合検索、論理式） 第 4 回　情報加工（主題分析、抄録作業） 第 5 回　情報加工（フリーキーワード、統制語） 第 6 回　データベース種類と特徴の説明 第 7 回　検索演習（人物略歴情報、雑誌記事情報） 第 8 回　検索演習（図書内容情報） 第 9 回　検索演習（新聞記事、その他情報） 第 10 回　検索演習（総合演習問題、その他のオンライン DB） 第 11 回　関連事項（ホームページ検索） 第 12 回　定期試験

テキスト、参考文献	評価方法
参考書:『三訂　情報検索演習』原田智子ほか編　樹村房 平成 18. 10　¥1,995。　教科書 講義資料は，プリントとして授業時に適宜配布する。またその他の参考書および関連文献は，講義の中で紹介する	出席，レポートおよび定期試験により，総合的に評価する。またレポート内容についての発表を課すことがある

01 年度以降 00 年度以前	情報検索論 b 情報検索論	担当者	福田　求

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。 【概要】情報検索論 a での知識を踏まえた上で，実際の情報検索技術に慣れ，習熟するために，CD-ROM データベースや WWW の検索エンジン，商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり，受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　CD-ROM 検索(1) 第 3 回　CD-ROM 検索(2) 第 4 回　WWW の検索エンジン(1)：インターネット／WWW の基礎 第 5 回　WWW の検索エンジン(2)：種類 第 6 回　前半部分のまとめ。質問受付。 第 7 回　WWW の検索エンジン(3)：ロボット 第 8 回　WWW の検索エンジン(4)：インデックス 第 9 回　WWW の検索エンジン(5)：検索結果の表示 第 10 回　商用オンラインデータベースの検索(1) 第 11 回　商用オンラインデータベースの検索(2) 第 12 回　授業全体のまとめ。質問受付。

テキスト、参考文献	評価方法
適宜指示する。	期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。

01 年度以降 00 年度以降	情報システム論 a 情報システム論	担当者	今福　啓

講義目的，講義概要	授業計画
大量のデータや情報を処理することで進めていく必要のある業務では，コンピュータによる効率的な処理・分析を行うシステムを構築することが不可欠です．また，必要となるデータや情報を適した形で利用して問題解決を行うには，コンピュータのハードウェアやソフトウェア，ネットワーク，解決する問題に応じたモデル化手法やシミュレーション手法といった幅広い知識が必要となります．情報システム論 a では，コンピュータに関連したシステムに関連する基礎的な技術についての理解を深めることを目的とします．	1. コンピュータによる問題解決について 2. コンピュータのハードウェア 3. ソフトウェアとコンピュータ言語 4. ネットワークとネットワーク機器 5. 解決する問題のモデル化について 6. モデル化方法 1－事象の数値化 7. モデル化方法 2－事象の数式による表現 8. モデル化の具体例 9. コンピュータシミュレーションとは 10. シミュレーションに使用するソフトウェアの設計 11. シミュレーション結果の解析方法
テキスト，参考文献	**評価方法**
指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

01 年度以降 00 年度以降	情報システム論 b 情報システム論	担当者	今福　啓

講義目的，講義概要	授業計画
コンピュータを用いたシステムによりさまざまな問題を解決する際には，問題に適した解法をシステムに実装する必要があります．しかし，問題を解くにつれて状況が変化し，状況に応じた手順をあらかじめ用意することが出来ない場合には，その時々の状況に応じて解法を変化させる必要があります．情報システム論 b では，変化する状況に適応するように進化的に計算する手法や，過去に起こった状況をもとに学習して問題を解決する手法について学びます．また，それらの手法を用いたシミュレーション技法について学ぶことで，各手法が実際にどのように使われているのかを理解することを目標とします．	1. 知的ソフトウェアーエージェントとは 2. 協調，競合する環境におけるエージェントのはたらき 3. マルチエージェントシステム 4. 進化的計算手法とは 5. 進化的計算手法－遺伝的アルゴリズムについて 6. 遺伝的アルゴリズムによる問題解決 7. 機械学習とは－教師あり学習，教師なし学習 8. 機械学習手法 1－ニューラルネットワーク 9. 機械学習手法 2－TD 学習，Q 学習 10. ニューラルネットワークによる問題解決 11. Q 学習による問題解決
テキスト，参考文献	**評価方法**
指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどうのようにすればよいかを理解することを目的とする。 基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic.NET でプログラミングの演習を行う。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説：ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2. Visual Basic.NET の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、文字の入出力 4. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算 5. 簡単なプログラム作成（3）：キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理 8. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10. 繰り返しのあるプログラム作成（1）: If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成（2）: Case 文、While 文 12. 総合問題作成：いろいろなコントロールを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	加藤　尚吾

講義目的、講義概要	授業計画
プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。 本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic.NET をプログラミング言語としてとりあげる。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。	1. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 2. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 3. 図形の処理（3）：Windows の画像処理、タイマーの利用、 4. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップの利用 5. 音声、動画の処理：音声を録音する、音声を再生する 6. 配列とコントロール配列：一元配列、コントロール配列の利用 7. プルダウンメニュー：コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8. ファイルの利用（1）：テキストファイルの読み込み 9. ファイルの利用（2）：画像ファイルの読み込み 10. ファイルの利用（3）：シーケンスファイルの作成 11. ファイルの利用（4）：シーケンスファイルの読み込みと利用 12. インターネットの利用：Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習－Visual Basic.NET、サイエンス社	出席、演習課題、レポート、試験で、総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できくるオブジェクト記述型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プロブラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。 基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの１つ１つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題ネットワークファイル上に提出する。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。	1　授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 2　Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3　文字の表示：講義と実習 4　簡単な計算：講義と実習 5　関数の利用：講義と実習 6　飛び越し命令：講義と実習 7　条件判断による分岐：実習 8　コントロールによる分岐：実習 9　選択用コントロールによる分岐：実習 リストボックス、チェックボックスの利用 10　回数指定による繰り返し：講義と実習 If と Go To、 For Next を用いた繰り返し 11　条件指定による繰り返し：講義と実習 Case 文、While 文、Loop 文 12　総合問題作成：実習 いろいろなオブジェクトを用いて問題を作成する
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習—Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	立田　ルミ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のリポートとする。	1　プログラムの分割：講義と実習 2　プログラムの構造化：講義と実習 3　配列の処理：講義と実習 4　配列の入出力：講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5　文字列の処理：講義と実習 6　図形の描画：講義と実習 7　画像の取り扱い：実習 8　ファイル処理と記憶装置：講義と実習 9　シーケンシャルファイルの処理：講義と実習 10　ランダムファイルの処理：講義と実習 11　ファイルダイアログコントロール：講義と実習 12　インターネットの利用：講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク
テキスト、参考文献	**評価方法**
林　直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著：実習—Visual Basic.NET、サイエンス社	出席 20%、リポート 40%、試験 40%

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
コンピューターログラミングの基礎を学びます。プログラミング言語としては Java 言語を用います。 コンピュータの仕組・操作や、プログラムを作る際の考え方を学習するところからはじめ、簡単な問題であれば、独力で Java のプログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。	1：ガイダンス：コンピュータの仕組・操作法 Visual J#と Java 言語の関係 2：情報表現 3：プログラムとは、考え方 4：データ型・変数・出力 5：入力、演算、配列 6：式、条件判断・分岐 7：繰り返し(1) 8：繰り返し(2) 9：文字と文字列 10：メソッド(1) 11：メソッド(2) 12：総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、必要な資料を提示する。	定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	堀江　郁美

講義目的、講義概要	授業計画
「プログラミング論 a」で学習したことをベースにして、Java の特徴であるオブジェクト指向に焦点をあてて、オブジェクト指向を用いたプログラムの作成方法を学習します。最終的には、やや難しい問題やオブジェクト指向を用いた問題でも、独力で Java プログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。	1：ガイダンス、オブジェクト指向とは 2：クラスの概要 3：クラスとインスタンス 4：フィールドとローカル変数 5：コンストラクタ 6：継承 (1) 7：継承 (2) 8：メソッドのオーバーライド 9：リスト 10：例外処理とファイル入出力 11：GUI ツールキット 12：総合問題、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜、必要な資料を提示する。	定期試験、レポートおよび出席を加味して評価する。

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 a プログラミング論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが，どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して，その根本となる論理的な思考，即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。 **講義概要**:コンピュータの構造を概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic .Net を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについても、デモンストレーションを行うと共に、それらのプログラミングについても、自分でテーマを決めて製作する。	1. 授業のガイダンスとコンピュータシステムの概説: ハードウェア及び，システムの構成と概略 2. ソフトウェアの歴史と概略: ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略 3. プログラム開発手順: PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ 4. Visual Basic の概略: イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略 5. 簡単なプログラム作成(1): アプリケーション開発手順、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成(2): 四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成(1): アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成(2): 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成(3): オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成(4): リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成: If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 総合問題作成:いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社	**前期**：リポート：70%　ネットワーク上に提出 **定期試験**：30%

01 年度以降 00 年度以前	プログラミング論 b プログラミング論	担当者	森　園子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本講座では、それらのソフトウェアが，どのように開発されているかを理解し、実際にプログラムを組むことを通して，その根本となる論理的な思考，即ちアルゴリズムについて習得する。使用言語は、Visual Basic.Net である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムの作成方法等についても理解する。 **講義概要**:コンピュータが現在どのように使われているかを概説し、最新のソフトウェア開発についてネットワークを用いて紹介する。 さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミングについて、イベントドリブン型の言語の1つであるVisual Basic.Net を用いて解説し、演習を行う。また，インターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行い、それらを踏まえたプログラミングについて講義と演習を行う。 最後に，自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。	1. 図形の処理(1):講義と実習 コンピュータグラフィックスの基礎 2. 図形の処理(2):講義と実習 点・直線・円を描く、色を塗る 3. 図形の処理(3):講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用 4. 図形の処理(4):講義と実習 マウスイベント及び、ドラッグアンドドロップ操作 5. 音声・動画の処理:講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション 6. 配列とコントロール配列:講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列 7. プルダウンメニュー:実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8. メニューエディタの利用:実習 メニューエディタの編集と利用、ポップアップメニューの取り扱い 9. ファイルの利用(1):講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用 10. ファイルの利用(2):講義と実習 ランダムファイルの利用とアクセスファイルの利用: 11. インターネットの利用:講義と自習 Visual Basic.Net とホームページとのリンク 12. まとめ:講義と実習 課題の説明と作成
テキスト、参考文献	**評価方法**
林直治嗣 “実習 VisualBasic.Net” サイエンス社	**後期**：リポート：60%　ネットワーク上に提出 **定期試験**：40%

01 年度以降	情報社会論 a	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要

石化エネルギーの広がりによって産業革命以降の社会は素材や労働力を大量に使って、同一規格の商品やサービスを大量に供給する仕組みを確立した。土地や資本、マンパワーなどに依存した「ものつくり」中心の原理は企業価値や生産システムばかりでなく、雇用や組織のかたちからカネの流れに消費や教育のありかたまでを動かす、資本主義の仕組み全体を貫く基調となった。

コンピューターを核にした情報技術の登場はこうした産業社会の眺めを根底から揺るがすことになった。『第三の波』のなかでアルウィン・トフラーはこれを、経済社会のシステムばかりでなく人々の価値観までを大きく変えた産業革命に匹敵する文明の転換と予測した。

前期の授業では情報技術の進展に伴い、社会を動かす主役として登場した、情報という「差異」で動く経済のありようを、さまざまな局面に見る。情報が新たな産業のフロンティアを切り開く一方、既存の産業の陳腐化がすすみ、企業価値や組織のありかたはもちろん、経済社会を巡る規制やルールといった社会的な枠組みも変容する。

グローバルな社会変動として情報社会を見直すなかで企業や社会が直面する課題を考えたい。

授業計画

1　はじめに
2　「第三の波」
3　対面取引から電子商取引へ
4　ニューエコノミーとは何か
5　ＩＴバブルとその崩壊
6　企業ピラミッドの崩壊
7　知的財産が動かす経済
8　著作権と特許権
9　情報化と規制緩和
10　エンロン破綻と情報化
11　メディアとコンテンツ
12　まとめ

テキスト、参考文献

各回、資料を提供する。吉川元忠『情報エコノミー』（文春新書）を参考文献とする。

評価方法

定期試験の成績に平常の授業で課すリポートの実績を勘案して評価する。

01 年度以降	情報社会論 b	担当者	柴崎　信三

講義目的、講義概要

情報社会の進展は産業社会に対応して形成された個人と国家や社会とのかかわりを揺るがし、私的領域と公共領域の調和的な関係を揺るがせるとともに、摩擦や対立を通して新しい秩序への模索を促している。

個人と個人、個人と組織を自在に結び、国境を越えた情報のやりとりが瞬時に可能な環境は、「サイバーテロ」などによるこれまでにない社会的リスクをもたらす一方、個人情報やプライバシーの拡散など個人の暮らしも日常的な危機にさらされている。

「表現の自由」や「通信の秘密」といった個人にまつわる近代社会の法的基盤が問われる一方、高まる知的財産の価値を巡ってビジネスや企業価値を巡る物差しも大きく変容している。電子政府やセキュリティー化がすすむ社会では、「監視される個人」が市民的自由を脅かすのでは、という懸念も広がる。

秋学期の授業では、情報化が広げる社会空間が同時に抱える個人や社会の新たなリスクへの対応とともに、情報化に伴うビジネスや行政などの新たな展開をとらえ、その「公」と「私」を巡る秩序のあり方を探る。情報のネットワークが生み出す新たな権益とそれを支える新たな公共性とはどうあるべきなのか。

授業計画

1　はじめに
2　個人情報と電子政府
3　「表現の自由」とプライバシー
4　ネット犯罪と社会リスク
5　情報化と社会規範
6　電子マネーと認証
7　政治と情報
8　デジタルデバイド（情報格差）
9　NGO とボランティアの経済
10　安全保障と情報
11　監視社会と自由
12　まとめ

テキスト、参考文献

各回、資料を提供する。名和小太郎『情報の私有・共有・公有』（NTT 出版）などを参考文献とする。

評価方法

定期試験の成績に、平時の授業で課すリポートの実績をくわえて評価する。

01 年度以降 00 年度以前	情報通信ネットワーク b 特殊講義 A（情報通信ネットワーク）	担当者	三宅　真

講義目的、講義概要	授業計画
携帯電話，インターネット，衛星通信など，種々の情報通信ネットワークが社会のインフラストラクチャとして定着しつつ，更に発達を続けている。情報通信ネットワークの発達によって，時間と空間の制約を越えて，自由にコミュニケーションができる時代が訪れた訳であるが，このことは人類の歴史において画期的なことがらであると言える。産業革命に匹敵する大きな変革という意味において，情報通信革命の時代と言われるゆえんでもある。 この講義では，無線（ワイヤレス）通信ネットワークを中心に，情報通信ネットワークのシステムとテクノロジー関する基本的なことがらを，実例に則してわかりやすく，例題演習を交えながら解説する。通信（コミュニケーション）の人間的・社会的な側面にも言及しながら，情報通信ネットワークの全貌をわかりやすく概説する。同時に，受講生諸君が，いろいろな視点から課題を発見し，考えてゆけるようにするためのキーワードおよびヒントを随所で指摘しながら，講義を進める。 この講義を通じて，受講生諸君が情報通信ネットワークについての正しい知識を身につけると共に，21 世紀の社会における情報通信ネットワークの展望と活用についての考え方を確立することを期待する。	1．情報通信基礎（1）：ネットワークの発展動向 2．情報通信基礎（2）：電気信号，周波数，標準化 3．移動通信（1）：移動通信システムの実際 4．移動通信（2）：移動通信ネットワークの発展動向 5．移動通信（3）：移動通信の信号伝送とプロトコル 6．衛星通信（1）：衛星通信システムの実際 7．衛星通信（2）：衛星通信ネットワークの発展動向 8．衛星通信（3）：通信衛星の軌道 9．情報伝送（1）：シャノンの通信系モデル 10．情報伝送（2）：情報のディジタル化と情報量 11．情報伝送（3）：情報伝送と誤り訂正，暗号 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講義中に配布する。参考文献は， ・奥村，他『移動通信の基礎』電子情報通信学会 ・有本『現代情報理論』電子情報通信学会	出席とレポートによって評価する。

01 年度以降 00 年度以前	情報通信ネットワーク a 特殊講義 A（情報通信ネットワーク）	担当者	今福　啓

講義目的、講義概要	授業計画
インターネットを利用し，複数のコンピュータを接続してネットワークを構成することは容易に実現できます。しかし，コンピュータを設置して使用する環境に応じて，どのようなネットワークを構築すればよいのかは異なります． この授業では，環境にあわせてネットワークを構築するために必要となる知識を，基礎から身につけることを目的とします．	1．ネットワークとは 2．ネットワークの構成とインターネット 3．OSI 基本参照モデルと TCP/IP 4．TCP/IP による通信の詳細 5．ネットワーク上で使用されるアドレス－IP アドレス，MAC アドレス 6．グローバル IP アドレス，プライベート IP アドレス 7．IP アドレスの変換－NAT と NAPT 8．DNS の役割と構成 9．パケットのルーティングについて 10．ルーティングのプロトコルについて 11．ネットワークのセキュリティーファイアーウォール，電子署名，SSL
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

01 年度以降	コンピュータネットワーク	担当者	富澤　儀一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　インターネットで使われている TCP/IP を講義と演習をまじえて学習する。これからネットワーク技術を学習しようと思っている学生が必ず身につけておかなければならない TCP/IP の基本である。 　本講義の目標とするところは、「日経 NETWORK」が読める程度のベースを固めることである。 講義概要 　ネットワークに必要な数表現を学習し、次に標準プロトコルである TCP/IP の成り立ちを学んだ上で、TCP/IP がデータを目的地に届けるために、プロトコルや OS がどのような処理をしているかを学ぶ。 受講上の注意 　本科目は、毎時間の学習の積み重ねである。したがって、理解できないときは、その場で質問をし、疑問を後々まで残さないようにしてもらいたい。欠席されたときは友達に授業内容をよく聞いて次の授業に備える。欠席が重なると理解不能となるので、連続した欠席が予想される場合は、次年度に受講を繰り延べることを勧める。	1. ガイダンス、数表現・基数変換 2. 数表現・基数変換の演習 3. ネットワークアーキテクチャとプロトコル 4. IP プロトコル（1） 　IP ヘッダー構造 5. IP プロトコル（2） 　IP の動作 6. TCP プロトコル（1） 　TCP ヘッダー構造 7. TCP プロトコル（2） 　TCP の動作 8. UDP プロトコル 9. IP アドレス 　（1）ネットワークアドレス、ホストアドレス 　（2）グローバルアドレス、プライベートアドレス 10. パケット解析（1） 　コネクションの確立、データ転送 11. ネットワークコマンド実習（1）ping コマンド 12. ネットワークコマンド実習（2）ipconfig, arp, nslookup コマンドなど 13. テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは印刷・製本して、第 2 回目の授業時に販売いたします。また、購入を希望されない方は、原稿を ¥¥dainet¥tomizawa に格納するので印刷してください。	出席（授業数の 2/3 以上の出席が必要）、授業中の演習、期末テストで評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降	コンピュータアーキテクチャ	担当者	今福　啓

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，コンピュータのハードウェアの基本構造と，その動作原理を理解することを目的とします．身の回りにあるコンピュータがどのような要素により構成されているのか，また個々の構成要素がどのようにして動作しているのかを理解することで，コンピュータを利用する際の手助けとなる知識が得られることを目指します．	1. コンピュータの基本構造－5 つの装置（入力装置，出力装置，演算装置，制御装置，記憶装置） 2. コンピュータ内部での情報の表現 3. コンピュータの命令実行手順 4. 演算装置の構造と動作 5. 演算 1－算術演算 6. 演算 2－論理演算，シフト演算 7. 制御装置の構造と動作 8. 記憶装置の構造と動作 9. 機械語の命令について 10. 命令とプログラム 11. 効率良い処理のための構造
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しません．	期末試験と課題などの結果を総合して判断します．

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降	情報と職業 a	担当者	冨田　幸弘

講義目的、講義概要	授業計画
情報化社会の急激な進展と、その社会の中で働くことについて考え、学習する。情報の獲得・利用する職業についての関わり方を学習し、情報に関わる職業人としての勤労観・倫理観などについても考える。 （1）報化社会での各種情報の開示と、個人情報の保護や危機管理について学習する。 （2）情報産業で関心の高い業界・業種・職種と変動する生活・ビジネスについて学習する。 （3）数人のグループを編成し、「情報と職業」について各種のテーマを設定し、研究成果を発表し、討論する。 高等学校の「情報科」の教員の免許取得に必要な法定科目であるので、必ず、第一回の講義に出席し、履修可能であるかどうかを判断すること。	1　情報について 2　情報化社会の情報システム・情報化社会の信頼性 3　基盤技術・開発技術・生産技術・新利便 4　インターネット・通信・衛生放送・災害と情報 5　情報開示の実態と責任・リスク管理 6　情報の収集と発信・個人情報の保護と責任 7　新時代の社会と職業・情報産業の職種 8　インターネットで変わる生活・ビジネス 9　情報社会の現象収集とその情報の分析 １０　情報の収集と発信にかかわる職業人の勤労と倫理 １１　教育現場での情報教育・教育方法の新規試み １２　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義概要については、プリントを配布する。	研究発表の内容、期末試験の結果、レポートの内容、出席状況などを考慮して総合評価する。

01 年度以降	情報と職業 b	担当者	小林　哲也

講義目的、講義概要	授業計画
情報社会の歴史的意義を解説した上で、インターネットをはじめとする情報技術が、社会に与えた影響について、議論してゆく。 ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的側面から、情報倫理や知的財産権などの、法や制度に関わる知識についても解説する。 本講義は、高等学校「情報科」教員の免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持った学生の受講が望ましい。	1．序論：情報と職業について 情報技術革命のインパクト 2．インターネットの「爆発」 3．インターネットの分権性と公開性 4．IT 革命と企業組織 オープン化・モジュール化 5．IT 革命後のビジネス環境 電子商取引市場とネットワーク 8．国境を越える IT 空間 ヒト・モノ・カネ---市場の国際化 9．IT 革命と知的財産権 知財をめぐる戦略 １０．パブリック・ドメイン 知的財産権の行方 １１．デジタル・ディバイド 情報をめぐる諸格差 １２．情報化社会の諸問題 情報倫理
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降	アルゴリズム論 a	担当者	木村　昌史

講義目的、講義概要	授業計画
アルゴリズムとは、狭い意味ではコンピュータを用いた問題解決のための処理方法のことであり、プログラミングを行う際の前段階のものとなる。コンピュータによる処理は、必ずしも人間の思考による処理のプロセスとは同一ではなく、コンピュータ特有のものも多い。ここではコンピュータ科学の基礎をなす、処理方法が確立されているような、決定的アルゴリズムについて学ぶ。 春学期 a では、「問題解決とは何か」の考え方から、結果が予測できる問題について、処理の視覚化、図示化を行いつつその方法を理解する。基本的アルゴリズムは、大きな問題を扱う上での要素的手法でもあり、多くの分野に適用される。授業では可能ならば PC の実習も取り入れて進める。プログラミングの知識は前提としないが、Excel の基本的操作（関数やグラフの活用）程度は必要としたい。数やグラフの利用）ができることが望ましい。	1 アルゴリズムとは何か コンピュータによる問題解決の方法 2 条件判断・分岐・繰り返し Excel の関数の例 3 アルゴリズムの図示化 フローチャート、PERT、UML 4 データ構造とアルゴリズム スタックやキュー、データの表現 5 整列のアルゴリズム ソートの各種手法、クイックソート 6 探索のアルゴリズム 線形探索法、二分探索法 7 アルゴリズムと計算量 アルゴリズムの効率の評価 8 ハッシュ法 効率的な探索法、暗号化 9 木構造・索引付け 二分木、B 木 10 文字列の探索 KMP 法、BM 法 11 グラフの表現とアルゴリズム 最短経路問題、ダイクストラアルゴリズム 12 前期のまとめと補足 実習のまとめ、補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。	試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。

01 年度以降	アルゴリズム論 b	担当者	木村　昌史

講義目的、講義概要	授業計画
春学期 a では狭い意味での決定的アルゴリズムを扱ったが、秋学期 b ではより広い意味のコンピュータによる問題解決方法としての非決定的アルゴリズムを採り上げる。 解決方法が確立していない問題に対しては、コンピュータによる処理を適用する以前に、問題に対する正しい分析や洞察が必要でなる。例としてゲームの必勝法や現象の将来予測などが挙げるが、適用ルールや条件などを深く分析することが必要である。解決へのアプローチには、分析的手法に加えて、コンピュータ特有の発見法的手法やシミュレーションの手法も加わる。これらの方法は実用的価値は十分あるものの、あくまで近似的な手法であることを理解する。また経済・経営分野に関連させたアルゴリズムの例題も取り入れる。春学期と同様に Excel を応用したアルゴリズム(簡単な VBA 含む)の実習も取り入れたい。	1 ゲームの理論 囚人のジレンマ、ゲームの必勝法 2 最適配置問題 ８クイーン問題、枝刈り探索法 3 シミュレーションの方法 乱数とモンテカルロ法 4 在庫管理の問題 在庫数と発注のタイミング 5 待ち行列の問題 サービス窓口の効率、通信量の問題 6 動的計画法 フィボナッチ数列、ナップザック問題 7 巡回セールスマン問題 複数都市を最短コスト訪問ルート 8 困難な問題と NP 完全問題 P 問題、NP 問題、指数問題の類別 9 現代暗号の問題 暗号のしくみ、公開鍵暗号 10 株価変動の問題 株価変動とブラウン運動 11 複雑な問題とカオス カオスとフラクタル構造 12 後期のまとめと補足
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。	試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	オペレーションズ・リサーチ a オペレーションズ・リサーチ	担当者	正道寺　勉

講義目的、講義概要	授業計画
オペレーションズ・リサーチ(Operations Research：一般には、略して OR と呼ばれる)は、軍事目的を達成させるために研究され始めたが、現在では限られた制約条件のもとで効率よく目的を達成するための手段として、広く利用されている。OR の範疇に入る手法はたくさんあるが、現実の問題を解くにあたっては、その問題をいかにしてモデル化するかが大変重要である（OR 手法の出番は、モデル化の後である）。本講義では、OR の基本となる考え方（モデル化の重要性を含む）とその応用について分かりやすく講義する。特に、経済学部の学生に興味のある話題を提供する積りである。 **受講者への要望**:本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。	1. **OR の概要**：OR の歴史、OR の発展、OR の定義 2. **OR の考え方とモデル化の概念** モデル化の例、OR 手法の紹介 3. **ランチェスターの法則** 第二次世界大戦とランチェスター 4.-5. アルゴリズム アルゴリズムの重要性、再帰式と逐次近似、フィボナッチ数列と黄金分割 6. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(1) AHP の概要（曖昧な状況下での意思決定） 7. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(2) AHP の整合性、応用例 8. AHP【**ゲーム感覚意思決定法**】(3)　演習 9.-10. **マルコフ過程** マルコフ過程の概要、マルコフ連鎖、推移確率、例題、演習 11. **線形計画法** (1) 線形計画法(LP)の概要、図による解法 12. **線形計画法** (2) 主問題と双対問題の関係、LP の一般形
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト／小田中敏男、正道寺勉：『初等オペレーションズ・リサーチ』、槇書店（1993） **参考文献**／開講時に随時紹介する。	出席とレポートも考慮して評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	オペレーションズ・リサーチ b オペレーションズ・リサーチ	担当者	正道寺　勉

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の講義科目である「オペレーションズ・リサーチ a」に引き続き、経済学部の学生にとって有用な手法を選び、分かり易く講義する。また、講義の中では効率よく目的を達成するために必要な「最適化の考え方」や最新の OR (Operations Research) の研究動向についても触れる。 右の授業計画欄に示したトピックス以外にも OR の手法はたくさんあるが、時間の許す限りそれらの手法についても紹介する積りである。 **受講者への要望**:本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。また、「オペレーションズ・リサーチ a」を履修していることが望ましいが、秋学期から受講しても理解できる講義を心掛けるので心配は不要である。	1. **線形計画法** (1) 線形計画問題の復習及び一般形 2. **線形計画法** (2) シンプレックスス法 3. **線形計画法** (3) 線形計画問題と輸送問題、輸送問題の解法 4. **線形計画法** (4) シンプレックス法の演習 5.-7. **最短経路問題** (1)、(2) 最短経路問題の概要、グラフによる表現、最適性の原理、作図による解法及び演習 8. **ゲームの理論** (1) ゲームの理論の概要、利得行列の戦略 9. **ゲームの理論** (2)：混合戦略の考え方及び演習 10. **ゲームの理論** (3) 囚人のジレンマ、チキンゲームほか 11. PERT、CPM (1) PERT、CPM の概要、アローダイアグラム 12. PERT、CPM (2) クリティカルパスの求め方、完全 PERT
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト／小田中敏男、正道寺勉：『初等オペレーションズ・リサーチ』、槇書店（1993） **参考文献**／開講時に随時紹介する。	出席とレポートも考慮して評価を行う。

01 年度以降 00 年度以前	システムズエンジニアリング a システムズ・エンジニアリング	担当者	天笠　美知夫

講義目的、講義概要	授業計画
経営・経済ｼｽﾃﾑや社会ｼｽﾃﾑなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつｼｽﾃﾑの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの役割と具体的な方法論、ならびに情報ｼｽﾃﾑとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す 2 つの部分から構成される。 ①ｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの基本概念 ②ｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの方法論 尚、理論を実証する意味で、実際問題を通じての演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するための前提となる必修科目はない。	1　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ：年間予定、授業方法等の注意事項についての説明 2　ｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの基本概念(1)： ｼｽﾃﾑの定義と特徴　ｼｽﾃﾑｱﾅﾘｼｽとｼﾝｾｼｽ　ｼｽﾃﾑ思考 3　基本概念(2)：ｼｽﾃﾑ環境、ｻﾌﾞｼｽﾃﾑ、自然ｼｽﾃﾑと人工ｼｽﾃﾑ 4　ｼｽﾃﾑｽﾞｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの問題とその解決法 Ill-defined problem と well-defined problem 5　ｼｽﾃﾑ開発の手順と組織 6　ｼｽﾃﾑｽﾞｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの方法論 7　問題の発見とｼｽﾃﾑの構造化 8　構造モデルとグラフ理論(1) 9　構造モデルとグラフ理論(2) 10　構造グラフとグラフ理論(3) 11　構造モデル事例演習(1) 12　構造モデル事例演習(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
天笠美知夫『ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ』ﾃｷｽﾄ予定 寺野寿郎『ｼｽﾃﾑ工学入門』共立出版 1985	事例演習およびそのﾚﾎﾟｰﾄと、出席ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	システムズエンジニアリング b システムズ・エンジニアリング	担当者	天笠　美知夫

講義目的、講義概要	授業計画
経営・経済ｼｽﾃﾑや社会ｼｽﾃﾑなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつｼｽﾃﾑの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの役割と具体的な方法論、ならびに情報ｼｽﾃﾑとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す 2 つの部分から構成される。 ①ｼｽﾃﾑの価値評価、意思決定と予測 ②統計的な手法によるｼｽﾃﾑ認識 尚、理論を実証する意味で、適宜、情報ｼｽﾃﾑを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するためにはｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ a を履修しておくことが望ましい。	1　ｼｽﾃﾑｽﾞｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞの方法論： 予測：デルファイ法とファジィデルファイ法(1) 2　予測：デルファイ法とファジィデルファイ法(2) 3　予測演習 4　価値工学によるｼｽﾃﾑ評価(1) 5　価値工学によるｼｽﾃﾑ評価(2) 6　価値と評価演習 7　ｼｽﾃﾑの評価と意思決定、効用理論 8　ｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ：PERT,CPM 9　統計的手法によるｼｽﾃﾑ構造分析(1):主成因分析法 10　統計的手法によるｼｽﾃﾑ構造分析(2) 11　ｼｽﾃﾑ構造分析演習(1)：Questionnaire の作成と調査 12　ｼｽﾃﾑ構造分析演習(2):ﾃﾞｰﾀの整理と分析、SPSS の活用
テキスト、参考文献	**評価方法**
天笠美知夫『ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｼｽﾃﾑｽﾞ・ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ』ﾃｷｽﾄ予定 寺野寿郎『ｼｽﾃﾑ工学入門』共立出版 1985	事例演習およびそのﾚﾎﾟｰﾄと、出席ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。

01 年度以降 00 年度以前	経営システム工学 a 管理工学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
工学というと何だか難しそうな感じですが、本当は、**社会に出て役立つ 問題解決・意思決定の考え方・方法 を学ぶ極めて実践的な学問**です。この講義では、文系の人を対象に、企業経営をはじめとして実社会で遭遇する諸問題を実践的に解決する基本的な考え方と方法を分かりやすく解説することを目的としています。「汲めども尽きぬ問題解決の泉」を開発してみませんか！ 変化の時代には、新たに出現した問題を発見したり、新たな問題を創造する必要性に迫られるでしょう。ここでは、時代の潮流を洞察し、重要な問題を発見・創造し、これらの諸問題の解決策を出来るだけ科学的・合理的・客観的な方法で具体的に提案する能力、いわゆる、**「問題解決能力・意思決定能力」**が重要になります。卒業した諸先輩から寄せられた言葉（卒業後にその重要性に気づく場合が多いのですが！）を借りれば、この能力は「社会・人生を生きていく際の強力な拠り所」になっているようです。 春学期は、外部環境変化と経営システムの課題、意思決定の要点、経営システム工学の概念と役割、密接な関係を持つ経営学、経済学との違いなどの基本的な考え方、経営システム工学で使用される典型的な問題解決技法等を学びます（**基本的な考え方を理解することが本講義の主な目的です**ので、技法の紹介は必要最小限にとどめます)。 講義の終わりには、最新の経営トッピックスも出来るだけ紹介します。	1　変化の時代における問題解決・意思決定とは 2　変化の時代の経営 1：環境経営 3　変化の時代の経営 2：サプライチェーンマネジメント（ＳＣＭ） 4　企業活動の諸側面と管理の考え方 –生産過程、管理過程、管理特性、経営資源の諸側面– 5　問題解決の中心的課題–意思決定–を理解する 6　経営システム工学とは：科学・技術・工学、システムと経営システム、経営システム工学と経営学　との違い 7　問題解決を支援する技法：技法の役割、モデルの概念、最適化とシミュレーション 8　品質管理（ＱＣ）７つ道具による「問題解決能力」の分析–グループ実習– 9　在庫管理の考え方と技法：在庫管理システム、ＰＯＳシステムの本質、シミュレーション 10 資源配分の技法–線形計画法（ＬＰ）–：資源配分とは？ ＬＰ問題例、ＬＰの問題構造、問題の定式化 11 線形計画法の解法：単体法（逐次改良法）の考え方、単体表による解法、アルゴリズム 12 線形計画法　グラフによる解法、エクセル・ソフトによる解法のデモストレーション
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　日下泰夫：「経営工学概論」中央経済社（適宜、資料を配布）	春学期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価。

01 年度以降 00 年度以前	経営システム工学 b 管理工学	担当者	日下　泰夫

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的は春学期と同じです。 後期は、資源配分のもう１つの有力な技法として知られる動的計画法（ＤＰ）、経済的な意思決定局面で広く応用されている投資の経済計算技法（経済性工学）と、定性的･多目標的・ソフトな意思決定技法として実社会で広く利用されている階層分析法（ＡＨＰ）を学び、簡単な演習を行います。 次いで、春学期・秋学期の諸概念と諸技法の理解を前提に、本講義の中心的な課題である**「問題解決法の基本的な考え方」**を体系的に説明し、経営システム工学の役割を考察します。 最後に、２１世紀における経営システム工学の役割についての見解を述べ、将来、社会人として問題解決・意思決定の諸局面に遭遇する皆さんへ、問題解決能力を向上させるための重要なメッセージを送ります。 最新の経営トピックスも出来るだけ紹介します。講義は 春学期講義 a の履修が前提になります。	1 資源配分の技法-動的計画法（ＤＰ）-：ＤＰとは、多段階決定問題、最適性の原理、 2　動的計画法　定式化と解法 3　経済的な意思決定について 4　投資分析の基礎手法 5　多価値基準による意思決定–階層分析法（ＡＨＰ）–：階層分析法とは、理論的根拠、一対比較法、分析事例 6　階層分析法演習–自動車の購買行動の分析–、エクセルによる分析 7　変化の時代の問題解決：問題解決法と問題解決技法の違い、外部環境変化とパラダイム、従来の問題解決法 8　問題解決法の基本的なフレームを理解する 9~10　経営システム工学を理解する 11 21 世紀の経営システム工学像：意思決定に向けた新たな挑戦 12 問題解決能力の向上を目指す人達へのメッセージ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　日下泰夫：「経営工学概論」中央経済社（適宜、資料を配布）	秋学期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価。

03 年度以降 01～02 年度 00 年度以前	法学 a 法学 法学（日本国憲法２単位を含む）	担当者	内山　良雄

講義目的、講義概要	授業計画
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論、および社会のさまざまな場面と法の関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。	１．ガイダンス ２．法とは何か ３．法学とは何か ４．法の学び方 ５．法体系の枠組みと法の分類 ６．憲法の基本原理（１）－国民主権－ ７．憲法の基本原理（２）－平和主義、基本的人権尊重主義－ ８．国の統治機構 ９．平等権 10．自由権（１）－精神的自由・経済的自由－ 11．自由権（２）－人身の自由－ 12．社会権 ＊　受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
大谷實編著『エッセンシャル法学［第４版］』成文堂	定期試験の答案に基づいて評価します。

03 年度以降 01～02 年度 00 年度以前	法学 b 法学 法学（日本国憲法２単位を含む）	担当者	内山　良雄

講義目的、講義概要	授業計画
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法学a」で取り扱いますので、「法学a」を受講してから本講義を受講することを強く推奨します。	１．裁判の仕組み（１） ２．裁判の仕組み（２） ３．財産関係と法（１） ４．財産関係と法（２） ５．経済取引と法（１） ６．経済取引と法（２） ７．家族と法（１） ８．家族と法（２） ９．犯罪・刑罰と法（１） 10．犯罪・刑罰と法（２） 11．医療と法（１）－医療提供の理念－ 12．医療と法（２）－医療過誤－ ＊　受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
大谷實編著『エッセンシャル法学［第４版］』成文堂	定期試験の答案に基づいて評価します。

03 年度以降 02 年度以前	政治学総論 a 政治学総論	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治社会の構成主体である市民の教養としての政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の理論的修得を意識した構成である。 現代国家の統治の正統性にかかわる諸原理と国際政治の諸原則と国際制度について講義する。 テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。	1　政治とは何か 2　権力の諸相 3　構造としての権力 4　古典的リベラリスム 5　人格発展のリベラリズム 6　社会有機体論 7　福祉国家とその批判 8　自由と自律 9　平等と正義 10　リバタリアニズムとコミュニタリアニズム 11　古典的デモクラシー論と大衆デモクラシー 12　参加とデモクラシー
テキスト、参考文献	**評価方法**
川崎修・杉田敦[編]『現代政治理論』（有斐閣アルマ）有斐閣、2006, ISBN 4-641-12269-5 1,900 円	学期末試験に拠る

03 年度以降 02 年度以前	政治学総論 b 政治学総論	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治社会の構成主体である市民の教養としての政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の理論的修得を意識した構成である。 現代国家の統治の正統性にかかわる諸原理と国際政治の諸原則と国際制度について講義する。 テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。	1　ネーションとナショナリズム 2　多文化主義 3　政治とジェンダー 4　ジェンダー論の政治理論への寄与 5　公と私 6　公共性 7　現代市民社会論 8　討議的デモクラシーとラディカル・デモクラシー 9　主権国家と国民国家 10　グローバル化と主権国家の揺らぎ 11　国際秩序と国際組織 12　国境を越えるデモクラシー論
テキスト、参考文献	**評価方法**
川崎修・杉田敦[編]『現代政治理論』（有斐閣アルマ）有斐閣、2006, ISBN 4-641-12269-5 1,900 円	学期末試験に拠る。

03 年度以降 02 年度以前	民法 a・民法 b 民法（春学期週 2 回授業）	担当者	常岡　史子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、民法第一編「総則」を扱う。民法典はパンデクテン方式と呼ばれる編成方法をとっており、「総則」編はそれ以下の編に共通の事項を集めてまとめて規定したものと位置づけられるが、その内容は単なる概念の定義・集成ではなく、民法のエッセンスを含むものといえる。すなわち、「総則編」中、人の能力や法律行為は、意思表示を基礎とする権利義務の体系としての民法の根幹に関する規定であり、また、時効は、意思表示によらない権利変動の代表的なものとして重要である。本講義では、法律行為の中心的存在である契約をモデルに、受講者が今後民法を学習していく上で欠かすことのできないこれら総則の知識を習得させ、民法的思考力を涵養することを目的とする。 全学共通授業科目の民法 a、民法 b のいずれかを既に修得しているということを受講の前提とする。	1　民法典の構造と基本理念 2　法律行為：契約とは何か 3　契約の有効要件 4　無効と取消し 5　意思表示(1)：心理留保と虚偽表示 6　意思表示(2)：錯誤 7　意思表示(3)：詐欺・強迫 8　自然人：権利能力・意思能力・行為能力 9　法人(1)：法人の能力 10　法人(2)：法人の不法行為 11　権利能力なき社団 12　小テスト 13　代理(1)：代理権 14　代理(2)：代理行為 15　代理(3)：無権代理 16　代理(4)：表見代理 17　時効(1)：消滅時効 18　時効(2)：取得時効 19　時効(3)：占有 20　時効(4)：時効の中断・停止 21　時効(5)：時効の効果 22　条件・期限(1) 23　条件・期限(2) 24　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
内田貴『民法Ⅰ』〔第 3 版〕東京大学出版会	学期の中間に行う小テストと学期末に行う定期試験の成績によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	民法 a・b 民法（春学期週 2 回授業）	担当者	藤田　貴宏

講義目的、講義概要	授業計画
【春学期週 2 回開講】 　法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。 　全学共通授業科目の民法 a、民法 b のいずれかを既に修得しているということを受講の前提とします。	1・ 2：ガイダンス、民法の全体像と基本概念 3・ 4：意思表示の瑕疵と法律行為の有効性 5・ 6：物権と債権 7・ 8：物権変動(1) 9･10：物権変動(2) 11･12：法律行為の無効・取消と第三者保護 13･14：時効 15･16：代理(1) 17･18：代理(2) 19･20：行為能力と法定代理 21･22：物権的請求権、相隣関係 23･24：共同所有、法人
テキスト、参考文献	**評価方法**
大村敦志『基本民法 I 』（有斐閣）	学期末試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	商法 a 商法	担当者	潘　阿憲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。	第１週　企業形態と会社 第２週　会社の設立(1) 第３週　会社の設立(2) 第４週　株式(1) 第５週　株式(2) 第６週　株式(3) 第７週　株主総会(1) 第８週　株主総会(2) 第９週　株主総会(3) 第10週　取締役と取締役会(1) 第11週　取締役と取締役会(2) 第12週　取締役と取締役会(3) 第13週　監査役と監査役会(1) 第14週　監査役と監査役会(2) 第15週　委員会設置会社
テキスト、参考文献	**評価方法**
平出慶道＝山本忠弘＝田澤元章編『新会社法概論』（青林書院）	筆記試験の成績による

03 年度以降 02 年度以前	商法 b 商法	担当者	潘　阿憲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度 をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。	第16週　株式会社の計算(1) 第17週　株式会社の計算(2) 第18週　株式会社の計算(3) 第19週　募集株式発行(1) 第20週　募集株式発行(2) 第21週　定款の変更 第22週　資本の減少 第23週　社債 第24週　事業譲渡等 第25週　会社の合併 第26週　会社の分割 第27週　株式交換・株式移転 第28週　会社の解散 第29週　会社の清算 第30週　持分会社
テキスト、参考文献	**評価方法**
平出慶道＝山本忠弘＝田澤元章編『新会社法概論』（青林書院）	筆記試験の成績による

03 年度以降 01～02 年度	著作権法 a 著作権法	担当者	長塚　真琴

講義目的、講義概要	授業計画
本や CD やパッケージソフトなどの「中身」は、文章や音楽やコンピュータ・プログラムである。これらの「中身」を他人が勝手にコピーしたり、真似したりしたら、著作権法の出番である。 この講義は、著作権法の条文を踏まえて、著作権に関する基礎知識を身につけることを目的とする。法学部以外の学生を想定した講義である。 レジュメ集と新書を用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメ集は、講義開始後数週間以内に販売する。著作権法の条文はレジュメ集に収録してある。 担当教員の講義の情報を掲載するサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/ ○履修上の注意：**情報教員免許取得のためには、「初めて」と「諸問題」の両方を履修する必要がある。** ○著作権法の概要を簡略にまとめた参考文献として、常岡・小柳編『基本民事法』（成文堂）第 13 章「知的財産権法」（長塚執筆）がある。	1　ガイダンスと導入 2　著作物１ 3　著作物２ 4　著作者と著作権者 5　著作者人格権 6　著作権１ 7　著作権２ 8　著作権の制限１ 9　著作権の制限２ 10 著作権の譲渡とライセンス 11 著作隣接権 12 著作権の侵害

テキスト、参考文献	評価方法
教科書：長塚真琴『初めての著作権法レジュメ集』 教科書：福井健策『著作権とは何か』（集英社新書） 参考書：大渕哲也他『知的財産法判例集』（有斐閣）	定期試験と、講義期間の半ばに１度おこなう小テストによる。

03 年度以降 01～02 年度	著作権法 b 著作権法	担当者	長塚　真琴

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、著作権法に関する基礎知識を踏まえて、著作物の主要な分野ごとに、実際に起こった紛争を詳しく解説する。受講者として、法学部生３年生以上と、情報教員免許取得を目指す経済学部生を想定している。毎回、次週の予習のための文献が指定され、講義はそれを読んできたことを前提におこなわれる。 レジュメ集の他に新書と判例集を用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。 レジュメ集は、講義開始後数週間以内に販売する。予習文献はレジュメ集に収録されている。 担当教員の講義の情報を掲載するサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/ ○履修上の注意：この講義は応用編である。著作権法の理論と実務の最先端で生じている問題を、ややマニアックに解説する。 最低でも前期の「初めての著作権法」は履修済みで、著作権法に関する基礎知識があることを前提とする。**基礎知識なしでこの講義をいきなり履修しても、単位を取得できない可能性がきわめて高い。**	1　ガイダンス 2　インターネット１（放送等との異同） 3　インターネット２（ファイル共有等） 4　インターネット３（掲示板への投稿等） 5　映画 6　ゲームソフト 7　音楽と放送 8　キャラクター 9　デザイン・応用美術 10 編集著作物 11 肖像権・パブリシティ権 12 高校教育と著作権

テキスト、参考文献	評価方法
教科書：長塚真琴『著作権法の諸問題レジュメ集』 教科書：福井健策『著作権とは何か』（集英社新書） 参考書：大渕哲也他『知的財産法判例集』（有斐閣）	定期試験と、講義期間の半ばに１度おこなう小テストによる。記述式問題の答案は、法律論としての完成度を重視して採点する。

03 年度以降 01 年度～02 年度 00 年度以前	総合講座 a 総合講座（1）a 総合講座（1）	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
「日本の未来」というタイトルの下で、学外から著名な方々を招き、講義をしてもらう。今後の日本は少子高齢化、グローバル化など、経済・社会を取り巻く環境が激しく変動していくと考えられます。これからの日本経済や社会がどのように変化していくのか、そして政府や民間企業はそうした環境変化にどう対応しようとしているのか。 総合タイトルの性質上、社会・政治・文化などあらゆるテーマが取り上げられる。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識や最新情報のエッセンスを聞けることは得難いチャンスである。 **学外から講師をお招きするので、時間厳守で出席すること。また、講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。**	第 1 回の講義で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講師により参考文献を指示することがある。	出席およびレポート、授業態度による。遅刻は認めない。 詳細は第 1 回の授業で説明する。

03 年度以降 01 年度～02 年度 00 年度以前	総合講座 b 総合講座（1）b 総合講座（1）	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	第 1 回の講義で説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講師により参考文献を指示することがある。	出席およびレポート、授業態度による。遅刻は認めない。 詳細は第 1 回の授業で説明する。

03 年度以降 02 年度以前	特殊講義 a（経済学入門） 特殊講義 B（経済学入門）	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、現実の経済社会を概観しながら、ツールとしての経済学を学習します。 経済学は社会学の女王とよばれています。経済学を用いた議論は論理的厳密性が要求されます。その一方で、経済学は実社会の問題を解決しようとしてきました。この講義では経済学の基本的な考え方と、その応用について考えていきます。	1. ガイダンス（授業の進め方についてお話しします） 2. 経済ってなに 3. マーケットの仕組み 4. 働くということ 5. 消費の仕組み 6. 企業の仕組み
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示します。	レポートと期末テスト

03 年度以降 02 年度以前	特殊講義 b（経済学入門） 特殊講義 B（経済学入門）	担当者	阿部　正浩

講義目的、講義概要	授業計画
特殊講義 a（経済学入門）を参照してください。 なお、特殊講義 a（経済学入門）を既修していることが望ましいですが、既習していなくとも履修することはできます。	1. ガイダンス（授業の進め方についてお話しします） 2. 三つのマーケット 3. 経済の大きさ 4. 経済はどう成長するのか 5. 経済が変動する理由 6. 経済をどうコントロールするのか
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示します。	レポートおよび期末テスト

03 年度以降 02 年度以前	特殊講義 a（経営学科で何が学べるか） 特殊講義 B（経営学科で何が学べるか）	担当者	経営学科

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、経営学科の新入生に対して、本学で学ぶ学問領域の全体像を眺めてもらうことを目的としています。したがって、全員の受講が望ましい科目です。 皆さんは受験から解放され、一息ついているところでしょうが、就職活動開始までの時間は残念ながら多くありません。 経営学科生として何を主に学ぶのか、その学問は将来どのように役に立つのかを考えながら、効率的な履修を考えていかなければなりません。そのためにコース制度が設けられています。この講義では、科目およびコースの担当教員が、各科目の紹介を各回完結型の授業で行います。各専門分野での最新の話題や、履修の進め方などを、一度に学ぶことが出来ます。皆さんのゼミ選択の上でも、大いに参考になるはずです。 将来の専門分野での見通しを得るためにも、科目履修やゼミ選択での情報を得るためにも、積極的に参加されることを望みます。	１．　ガイダンス ２．　ビジネスコース(1) ３．　ビジネスコース(2) ４．　情報コース(1) ５．　情報コース(2) ６．　情報コース(3) ７．　マネジメントコース(1) ８．　マネジメントコース(2) ９．　会計コース(1) １０．　会計コース(2) １１．　会計コース(3) １２．　まとめ 科目選択、ゼミ登録など教務関連事項
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜　講義中に指示する	平常点および定期試験

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（新聞の読み方テレビの見方） 特殊講義 B（新聞の読み方テレビの見方）	担当者	江川　紹子

講義目的、講義概要	授業計画
様々な情報があふれる今の時代。情報に振り回されず、かつ情報を有効に活用していくため、情報の送り手の特徴や問題点を知っておくことが必要です。様々な報道を通して、新聞、テレビ、雑誌、さらにはインターネットにどう接していくかを学ぶとともに、今の社会に起きている様々な事象について、共に考えていきます。 大切なのは、一人ひとりが自分で考える力をつけていくことです。そのため、新聞記事などを配布して読んでいただいたり、一方通行の講義ではなく受講者にも発言を求めていきます。	その時々のトピックも取り上げていくつもりですので、各回に何を話題とするかは未だ決めておりません。 ただし、次のようなテーマを折り込みながら進めていくつもりです。 ＊メディアごとの特徴 ＊ジャーナリズムとコマーシャリズム ＊やらせと演出 ＊報道の客観・中立・公正性について ＊記者クラブ制度の功罪 ＊言論の自由について ＊報道と人権 ＊権力・権威とメディア ＊集中豪雨型報道と報道過疎 ＊メディアとタブー ＊事実と真実 ＊何がニュースか ＊読者・視聴者とメディア
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介します。とりあえず次の３冊をお勧めします。『メディア・コントロール』（ノーム・チョムスキー、集英社新書）、『戦争プロパガンダ』（アンヌ・モレリ、草思社）、『戦争広告代理店』（高木徹、講談社）	出席とレポート

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 b（新聞の読み方テレビの見方） 特殊講義 B（新聞の読み方テレビの見方）	担当者	江川　紹子

講義目的、講義概要	授業計画
様々な情報があふれる今の時代。情報に振り回されず、かつ情報を有効に活用していくため、情報の送り手の特徴や問題点を知っておくことが必要です。様々な報道を通して、新聞、テレビ、雑誌、さらにはインターネットにどう接していくかを学ぶとともに、今の社会に起きている様々な事象について、共に考えていきます。 大切なのは、一人ひとりが自分で考える力をつけていくことです。そのため、新聞記事などを配布して読んでいただいたり、一方通行の講義ではなく受講者にも発言を求めていきます。	その時々のトピックも取り上げていくつもりですので、各回に何を話題とするかは未だ決めておりません。 ただし、次のようなテーマを折り込みながら進めていくつもりです。 ＊メディアごとの特徴 ＊ジャーナリズムとコマーシャリズム ＊やらせと演出 ＊報道の客観・中立・公正性について ＊記者クラブ制度の功罪 ＊言論の自由について ＊報道と人権 ＊権力・権威とメディア ＊集中豪雨型報道と報道過疎 ＊メディアとタブー ＊事実と真実 ＊何がニュースか ＊読者・視聴者とメディア
テキスト、参考文献	**評価方法**
その都度紹介します。とりあえず次の３冊をお勧めします。『メディア・コントロール』（ノーム・チョムスキー、集英社新書）、『戦争プロパガンダ』（アンヌ・モレリ、草思社）、『戦争広告代理店』（高木徹、講談社）	出席とレポート

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（インタビュー入門） 特殊講義 B（インタビュー入門）	担当者	江川　紹子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の目的＞ 　入学、就職、調査や様々な報道など、社会の様々な場面で、インタビューが行われている。一度もインタビューをする側にもされる側にも立たずに一生を終えることは、まずないだろう。多くの場合、よい聞き手はよい話し手でもある。口頭でのコミュニケーション力は、いろいろな局面で人を助け、人生を豊かにする。よりよい聞き手話し手になるにはどうしたらいいか、インタビューの実践を通じて考えていく。 ＜講義概要＞ 　一方的な講義ではなく、実践とレポート、ディスカッションを通じて、一人ひとりが考えるスタイルを取る。そのため、定員は３０人とする。	1　インタビューの種類と目的 2　実践１：まずは聞いてみよう 3　いいインタビュー・悪いインタビュー 4　実践２：人間性に迫る 5　インタビューの準備 6　インタビューの作法 7　実践３：教室の外で聞いてみよう 8　人間性に迫るインタビューとは 9　インタビューで何が可能か 10　実践４：街に出て聞いてみよう 11　トラブルの対処と最終レポートの作成にむけて 12　よい聞き手、話し手になるには （順番や実践の回数、テーマは変更する場合があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし（授業の中で参考文献を紹介することはあります）	出席、インタビュー実践への参加状況、レポートを総合して決める

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 b（インタビュー入門） 特殊講義 B（インタビュー入門）	担当者	江川　紹子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義の目的＞ 　入学、就職、調査や様々な報道など、社会の様々な場面で、インタビューが行われている。一度もインタビューをする側にもされる側にも立たずに一生を終えることは、まずないだろう。多くの場合、よい聞き手はよい話し手でもある。口頭でのコミュニケーション力は、いろいろな局面で人を助け、人生を豊かにする。よりよい聞き手話し手になるにはどうしたらいいか、インタビューの実践を通じて考えていく。 ＜講義概要＞ 　一方的な講義ではなく、実践とレポート、ディスカッションを通じて、一人ひとりが考えるスタイルを取る。そのため、定員は３０人とする。	1　インタビューの種類と目的 2　実践１：まずは聞いてみよう 3　いいインタビュー・悪いインタビュー 4　実践２：人間性に迫る 5　インタビューの準備 6　インタビューの作法 7　実践３：教室の外で聞いてみよう 8　人間性に迫るインタビューとは 9　インタビューで何が可能か 10　実践４：街に出て聞いてみよう 11　トラブルの対処と最終レポートの作成にむけて 12　よい聞き手、話し手になるには （順番や実践の回数、テーマは変更する場合があります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし（授業の中で参考文献を紹介することはあります）	出席、インタビュー実践への参加状況、レポートを総合して決める

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ） 特殊講義 B（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	担当者	松下　信武

講義目的、講義概要	授業計画
心理学で偉大な業績をあげた研究者達の思想を紹介しながら、自分達のキャリアを考える。 人生を幸せに生きることがキャリアマネジメントの目的であり、その目的を達成するために私達はどう考え、どう行動すれば良いのか、を講義を通して考えてもらう。	フロイト、ユング、アドラーなどの考えや業績を順次紹介し、それを通して自分達の生き方についての考え方を深めてもらう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
順次授業の中で紹介していく。	出席 30 点、研究協力 20 点、 レポート 20 点、試験 30 点

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ） 特殊講義 B（心理学史から考えるｷｬﾘｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）	担当者	松下　信武

講義目的、講義概要	授業計画
心理学で偉大な業績をあげた研究者達の思想を紹介しながら、自分達のキャリアを考える。 人生を幸せに生きることがキャリアマネジメントの目的であり、その目的を達成するために私達はどう考え、どう行動すれば良いのか、を講義を通して考えてもらう。	フロイト、ユング、アドラーなどの考えや業績を順次紹介し、それを通して自分達の生き方についての考え方を深めてもらう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
順次授業の中で紹介していく。	出席 30 点、研究協力 20 点、 レポート 20 点、試験 30 点

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（幸福に生きるための対話） 特殊講義 B（幸福に生きるための対話）	担当者	松下　信武

講義目的、講義概要	授業計画
幸福に生きるために、心理学のさまざまな視点から生き方を考えてもらう。	1 回の講義に 1 つの課題を与え、そのテーマについて対話を通して考えてもらう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
順次授業の中で紹介していく。	出席 50 点、研究協力 20 点、試験 30 点

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（幸福に生きるための対話） 特殊講義 B（幸福に生きるための対話）	担当者	松下　信武

講義目的、講義概要	授業計画
幸福に生きるために、心理学のさまざまな視点から生き方を考えてもらう。	1 回の講義に 1 つの課題を与え、そのテーマについて対話を通して考えてもらう。
テキスト、参考文献	**評価方法**
順次授業の中で紹介していく。	出席 50 点、研究協力 20 点、試験 30 点

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

01 年度以降 00 年度以前	特殊講義 a（資本市場の役割と証券投資） 特殊講義Ｂ（資本市場の役割と証券投資）	担当者	経済学部

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、毎回「野村證券グループ」の講師陣がリレー方式により、今日の資本市場に求められる役割と証券投資に関する基礎的な事項や考え方について、理論と実務の両面からわかりやすく解説する。証券･金融業界の第一線で活躍する「プロ」の生の声を聞けることは、単なる金融リテラシーの習得にとどまらず、今後の社会人としてのキャリア形成に向けて、自らの職業意識を醸成するうえでもきわめて有用な機会であると考える。	未定
テキスト、参考文献	**評価方法**
本講義での資料は、毎回受講者自身の手により事前に本学サーバー上の dainet 共有フォルダからダウンロード･印刷のうえ持参すること。アクセス方法は初回に説明する。	定期試験の成績により評価する。

01 年度以降 00 年度以前	日本事情 a 日本事情 I	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
◎　前近代史を中心に、日本の歴史を概観する。とくに東アジア近隣諸国との関係に注目する。また、近年の日本の歴史学界のなかで、前近代史のどのような点が注目されているのか、講義の中で適宜触れていきたい。主なテーマは以下の通りである。 ・　古代東アジアと日本列島 ・　古代国家のアジア的性格 ・　アジア諸国と日本の封建制 ・　日本の中世社会の独自性 ・　前近代史をめぐる近年の日本史学界の動向	1　日本列島の形成　東アジアの自然環境 2　稲作　邪馬台国　中国国家魏 3　古墳文化　大和政権と朝鮮半島 4　列島渡来文化　漢字　技術　仏教の伝来と神道 5　隋・唐の政治制度と日本の律令制　古代律令国家の構造 6　日本の中世国家　日宋・日元貿易　貿易都市博多 7　元寇　幕府・朝廷の外交 8　室町幕府　日明勘合貿易　倭寇 9　豊臣政権と朝鮮侵略 10　江戸幕府の構造　キリスト教禁圧　鎖国江戸時代の対朝鮮政策 11　日本の封建制と東アジア 12　世界資本主義の波　開国　欧米への意識
テキスト	**評価方法**
適宜指摘	出席状態　試験成績

01 年度以降 00 年度以前	日本事情 b 日本事情 I	担当者	守田　逸人

講義目的、講義概要	授業計画
◎　近代史を中心に、アジアの中の日本の歴史を概観する。また、明治時代以来の日本の歴史学界の軌跡についても講義の中で簡単に触れていきたい。主なテーマは以下の通りである。 ・　明治維新と富国強兵 ・　近代の学術・思想・文化 ・　自由民権論と国権論 ・　産業革命と資本主義の発展 ・　帝国主義と戦争 ・　戦後改革の本質 ・　日本歴史学界の軌跡	1　徳川政権の崩壊　大政奉還　明治新政府樹立 2　新政府の国政改革と権力構造 3　明治新政府の財政構造　産業育成政策 近代化を支えるヨーロッパの学術　ドイツ学協会 4　松方財政　農村崩壊　都市労働者の創出　資本蓄積 5　高まる政府批判　ブルジョア民主主義の国民要求 6　帝国議会の開設　明治憲法の性格 7　近代化とナショナリズム　対清戦争と対ロ戦争 8　国家主義教育　関東大震災時の民族迫害 9　植民地支配と戦争の拡大　太平洋戦争 10　非戦・反戦の思想と運動　天野貞祐の「道理の感覚」 明治・大正期の歴史学界 11　敗戦　戦後改革　日本国憲法 平和・民主主義 戦後改革の不徹底　アメリカ対日政策の変更 加害責任の曖昧化　戦前勢力の復活 戦後の歴史学界と思想
テキスト	**評価方法**
適宜指摘	出席状態　試験成績

03年度以降 02年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
［1］教材　公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。 ［2］授業のねらい　外国人留学生のうち、日本語Ⅰを履修したもののためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。 ［3］教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。 ［4］その他　この科目は日本語Ⅰを履修した者が履修するために設置される。	1　文書と文章1　文章を書くとはどういうことか 2　文書と文章2　文章の種類 3　文書と文章3　文書の形式 4　文書と文章4　文書の役割と目標 5　文書と文章5　主題と与えられた課題 6　文書と文章6　材料　参考書　メモ　カード　チャート 7　表記の技術1　現代仮名遣い　常用漢字　送りがな 8　表記の技術2　地名　人名　数字　記号 9　表記の技術3　図表　写真 10　表記の技術4　原稿用紙　レポート用紙　ワープロ 11　表記の技術5　訂正　校正 12　文章の構造1　文章の構成法
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時間中に指示する。	文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。 前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。

03年度以降 02年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	斎藤　明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ	13　文章の構造2　記述の順序 14　文章の構造3　序論　本論　結論 15　表現と論理1　表現の方法 16　表現と論理2　論理の展開 17　表現と論理3　題目　要約　キーワード 18　表現と論理4　文章の流れ 19　表現と論理5　ディスコース　パラグラフ　段落 20　事実と意見1　事実とはなにか 21　事実と意見2　意見とはなにか 22　わかりやすさ1　明確な主張 23　わかりやすさ2　簡潔な表現 24　わかりやすさ3　句や節の接続 25　わかりやすさ4　破格文　ねじれ文
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	春学期に同じ

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	岩沢　正子

講義目的、講義概要	授業計画
一般の日本人に読まれている著作、新聞記事、録画ビデオ等により、正しい日本語の習得とともに、日本事情に関する知識を増やすことを目標とする。テーマごとに、各自の意見を口頭で発表、討論し、その後、文章で表現できるように練習する。 各回のテーマに関して、初回は教師が指示、次の段階では、順次学生各自がテーマを選ぶ。	1.授業についてのガイダンス等 2.課題 1 提示(読解等内容把握) 3.　討論 4.　レポート課題提示、レポート作成の手順説明 5.課題 2 提示(読解等内容把握) 6.　討論 7.課題 3 提示(読解等内容把握) 8.　討論 9.課題 4 提示(読解等内容把握) 10.　討論 11.課題 5 提示(読解等内容把握) 12.　討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
ﾌﾟﾘﾝﾄ配布等	・　課題提出、授業での発表 ・　出席状況、授業への参加度、取り組み姿勢

03 年度以降 02 年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	岩沢　正子

講義目的、講義概要	授業計画
理論的な文章を書くための基本的な「型」を学ぶ。読み手は書き手の文章を読んで、書き手の構成力、分析力等の知的活動能力を評価する。書き手は自分の文章表現で、より高い評価を得なければならない。 この講義では、読み手に自分の能力を認めさせるために「型」を習得し、さまざまなジャンルのそれぞれの「型」を上手に応用できる技術に習熟することを目的とする。	1. テーマを絞る技術 2.「型」を作る技術 3.「型」を守って書く技術 4.「型」を応用する技術 5. 小論文を序論に変える技術 6. 流れを作る技術 1 7. 流れを作る技術 2 8. 流れを作る技術 3 9. 事実と意見の区別 10. 結論を導く技術 1 11. 結論を導く技術 2 12.「型」の履歴書・エントリーシートへの転用
テキスト、参考文献	**評価方法**
ﾌﾟﾘﾝﾄ配布等	・　課題提出、授業での発表 ・　出席状況、授業への参加度、取り組み姿勢

03年度以降 02年度以前	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ	担当者	生田　守

講義目的、講義概要	授業計画
民俗学・社会学・文学・批評などさまざまな分野から、日本人論・日本文化論に関する文章を読み、深層レベルにおける当該分野の理解を目的とするが、読解の授業ではない。資料に基づき、読み解く目を涵養し、意見を述べ、調べ、発表し、エッセイにまとめると言う、総合的なスキルアップをめざす授業である。 おおよその授業計画は、右記の通りであり、詳細については初日に説明する。 授業前の予習（読むこと）、授業中の発言（質問、意見、議論）、トピックごとの課題シート（Ａ４一枚程度）、エッセイ･テスト（最終日に教室で実施）が課される。	1. オリエンテーション 2. ～4. 日本人のコミュニケーションスタイルー「寄り合い」 輪読・ディスカッション①～③ 課題シート提出 5. ～8. 日本人の美意識－「陰翳」をめぐって 輪読・ディスカッション①～④ 課題シート提出 9. ～11. 日本人の神意識－カミとオニ 輪読・ディスカッション①～③ 課題シート提出 12. エッセイ・テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
ﾌﾟﾘﾝﾄ配布等	・ 課題提出（30%） ・ 発言・発表（20%）、出席（10%） ・ エッセイ･テスト（40%）

03年度以降 02年度以前	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ	担当者	生田　守

講義目的、講義概要	授業計画
本講義はモジュール形式なので、日本語Ⅱa から続く内容ではあるが、当学期からでも、先学期からの継続でも、受講上差し支えない。 目的・概要は日本語Ⅱa に準ずる。 凡その授業計画は右記のごとくであるが、詳細は初日のオリエンテーションで説明される。	1. オリエンテーション 2. ～4. 日本の社会－タテ社会再考 輪読・ディスカッション①～③ 課題シート提出 5. ～8. 江戸の美意識－「いき」と「通」 輪読・ディスカッション①～④ 課題シート提出 9. ～11.「甘え」とは何か？ 輪読・ディスカッション①～④ 課題シート提出 12. エッセイ・テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
ﾌﾟﾘﾝﾄ配布等	日本語Ⅱa に準ずる

シラバス 経済学部

2007年４月１日発行

獨協大学教務部

〒340－0042 埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048－946－1657

※この冊子は、再生紙を使用しています。

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	